広島県立文書館資料集 1

吹寄青枯集

広島県立文書館

「吹奇青枯集」表紙

本文の一部（64頁参照）

序

広島県立文書館は、昭和六十三年十月の開館以来、既に「広島県立文書館複製資料目録」を三冊刊行し、広く皆様に利用していただいています。

この度「広島県立文書館資料集」の第一集を刊行する運びとなりました。歴史の研究は、資料の解読とその理解から始まります。資料集は、皆様方に歴史資料を正確に理解していただくために刊行するものです。

広島県の歴史資料の発行は、昭和四十三年から十六年間にわたって編さんが続けられた広島県史全二十七巻（資料編はそのうちの十八巻）の完結で一応終了しましたが、資料所蔵者や市町村教育委員会、郷土史家の方々の御協力で、その間に集められた複製資料や筆写資料の数量は膨大なものに及びます。県史の資料編に掲載できたのはそのごく一部でしかありません。県立文書館では、県史とはまた異なった視点から資料集を発行し、皆様方の研究の一助にしていただければと考えております。

今回発刊する「吹寄青枯集」は、賀茂郡黒瀬町の平賀家文書の中の一点ですが、近世広島藩の郡方支配を知る上で欠せない資料といえましょう。これも県史の資料編では、ごく一部しか紹介し得なかったものです。

今後とも、歴史資料の収集整理を進めていくとともに、本県の歴史に関する基本的な資料を資料集として逐次刊行する予定です。資料集の刊行が着実に回を重ね、利用者の利便を計り、地域文化の発展に寄与することを念願してやみません。

平成三年一月

広島県立文書館長

熊田重邦

凡　例

一　本書の底本は、賀茂郡黒瀬町平賀陸雄氏から広島県立文書館に寄託された「吹寄青枯集」（平賀家本）を用いた。校訂に当たって、まず三原市立図書館桜山文庫所蔵の「青枯集」（桜山文庫本）と対校を行い、訂正すべきところを右傍または左傍に（　）で示した。両者とも誤りと考えられる場合は、「温故郡務録」（『広島県史』近世資料編Ⅱ）及び『広島県史』近世資料編Ⅲ（藩法集1）等を参考に、正文を〔　〕で同様に注記した。

〔例〕（○○）・〔○脱〕等と注記したもののうち、「有（之脱）候」とある場合は、有と候の間に「之」が脱落していることを示す。

一　桜山文庫本に見えて、底本に長文の脱落がある場合は、該当箇所に※①等と示し、これを巻末にまとめて補った。

一　本文の表記法は、原文の形に沿うようにしたが、読解の便宜のため、次のような措置をした。

1　漢字は、原則として新字体を用いた。新字体のないもの、および異字・あて字・俗字・略字・古字等は、通用の正字体に統一することにした。

2　明らかな誤字・脱字は訂正し、また、〔ママ〕等と右傍に注記した。ただし、江戸時代に一般に慣用されていた誤字は、かならずしも改めなかった。

3　変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞に用いられている而（て）・江（え）・者（は）茂（も）・与（と）と而已（のみ）は、小活字で示した。

4　読みやすくするため、適宜段落をたて、行を改めた。

5　読点および並列点を付した。

6　平出・闕字は省略した。

7　必要に応じて［　］で校注を付した。

一　本書は、「広島県立文書館資料集　1」として、校注・校訂・解題は研究員西村　晃が担当した。

目次

序
凡例
解題

吹寄青枯集

地方役人心得の事……一
土免考の事……一
荒起の事……一
農業時節出郡用捨の事……一
田畑植付けの事……一
麦蒔の事……二
検地の節縄引の事……二
田の畝引の事……二
田畑上中下位付けの事……三
検地の節役人出張の事……三
毛見の事……三
見付取計いの事……三
農人貯物の事……五
豊凶免上げ下げの事……五
庄屋・百姓方算用の事……五
土免毎年取計いの事……七

井手・川除堤・雨池の事……七
往還道橋の事……七
荒起地取計いの事……七
諸樋の事……七
新開堤普請の事……八
春普請の事……八
牛銀・作食の事……八
苗代仕付けの事……九
御茶屋作事の事……九
郡々未進百姓の事……九
庄屋・組頭広島出勤の事……一〇
変年秋毛見付願の事……一〇
畳表・葛葉・葺茅・煎茶御用取計いの事……一〇
毎年宗旨改めの事……一〇
鉄砲持主死失跡願の事……一一
年中相極り郡中触の事……一一
諸職人改めの事……一二
諸郡柿木の事……一二
公儀御役人・御大名御通行の事……一二
侍中・御歩行組・御鷹方出郡の事……一三
寺方後住・剃髪の事……一三
寺社・医師・役人他国出願の事……一三
寺社・百姓・町人目安差出し取計いの事……一四
年寄・庄屋・組頭役儀の事……一五

百姓・町人引越し願の事……一五
出火咎の事……一五
他国沙汰の事……一五
旅人病気・御領分の者他国にて相煩い取計いの事……一五
盗賊徘徊耕作の障りの事……一六
郡中善人・悪人心付けの事……一六
御蔵入・明知御年貢取立て方の事……一六
見取新開の事……一七
高田郡御年貢津出し・所払の事……一七
免割帖しらべの事……一七
郡割の事……一八
一村限り夫割心得の事……一八
郡中事立候普請越夫の事……一八
御貸ある村人別印形の事……一九
欠算用帖の事……一九
麦見分の事……一九
御年貢納所・差次米の事……一九
匣米取立て方の事……二〇
郡中より態飛脚に及ばざる諸用達取計いの事……二〇
中勘定・諸運上銀取立ての事……二〇
御用餅・大豆割賦の事……二一
郡々差出帖の事……二一
所払三月・六月上納の事……二二
御小人札の事……二二

作食御貸し・種米の事……二二
厘米の事……二二
御貸麦取立ての事……二三
小物成の事……二三
鹿雉子鳩札の事……二三
竹代の事……二三
諸職人水役の事……二三
鉄砲札の事……二三
壱歩米取立ての事……二三
船床役の事……二三
鍛冶鋳物師炭・紺屋灰運上の事……二三
割木・炭船運上の事……二四
給人免帖の事……二四
上ケ知・隠居渡り百姓鬮取帖の事……二四
給人貸種米・牛銀・作食の事……二四
諸毛見付取計いの事……二五
郡中夜通り飛脚御門通りの事……二七
近在出火並びに急御用御代官・村廻り・番組夜中出郡御門通りの事……二八
寛保の頃郡奉行中より村廻りへ相渡す掟……三〇
威鉄砲願案文の事……三〇
諸郡地概し相止め御直筆の事……三一
賀茂郡百姓騒動の節願書並びに仰せ付けらる御書付の事……三一
体国院様御直筆　御代官中へ相渡す御書付の事……三七
御勘定所より御代官中へ相渡す勤め方御書付の事……三七

御代官その外手付出郡人馬並びに賄銀渡り方の事……三九
体国院様御直筆　定書の事……四〇
村廻り勤め方御書付の事……四二
体国院様御直筆　郡廻り・御代官へ御示しの事……四三
体国院様御直筆　御年寄へ仰せ付けらる御掟書の事……四五
世羅郡甲山町浜田屋儀八郎後家・山県郡八十郎孝道の事……四八
諸郡免割帖・郡割帖・夫割帖吟味の事……四八
郡御奉行・御勘定奉行・郡廻り・御代官御用につき登城、御居間において郡方の義仰付けらるの事……四九
体国院様御直筆　他国百姓御領分立退きの節取計いの事……五〇
他国僧侶郡中へ泊りの節御法度の事……五一
吉長公御直筆　御代官勤め向き心得方御示しの事……五一
御代官宗旨改め出郡の節百姓共へ申付け方御代官心得の事……五五
公儀より仰せ出さる寺法の事……五五
村々貸借利足の事……五七
諸取立て・諸給分の事……五七
庄屋引高・組頭引高・御蔵番給の事……五九
村高に応じ筆墨紙・油蠟燭その外諸入用方の事……六〇
御小人飛脚・諸役人賄い入用方の事……六一
稲毛下見免割等の節役人飯米・諸寺社初穂米・御蔵払い欠け米・鼠喰い・船賃・米見の給分の事……六三
地詰め・地坪し心得の事……六四
升突き仕様の事……六八
升突き心得の事……七一
升突き野取帖仕形の事……七二
升突きにて上げ下げ概しの事……七三

升突き先位を見るの事……七四
見付けの事……七五
給知割につき郡方心得書の事……七七
御領分追放立帰り者咎め方の事……八〇
郡方御歩行目付並びに番組他国へ遣わされ候節渡り物の事……八一
御用屋舗集会の事……八二
郡奉行引請け諸触・諸願等の事……八二
御勘定奉行引請け諸勘定米銀請渡し等の事……八二
御山方引請け諸山伐刈り等の事……八三
郡廻り引請け御免組・土御免触等の事……八三
郡方御用のうち郡御奉行引請け天下送り・御大名通り等の事……八五
郡方御用のうち御勘定奉行引請け所務方並びに諸道具引替え等の事……八七
郡方御用のうち郡廻り引請け御免組・郡割・免割・夫割等の事……八七
郡御奉行・御勘定奉行中より出る御所務方覚書の事……八八
公儀御判物写し　芸備御拝領高の事……九三
御領分郡名御改め並びに切畑・小物成・鉄山吹役・鉄穴役の事……九六
御領分諸郡公儀御帖面筆列次第の事……九八
諸郡米上中下の事……九八
所払米値段違いの事……九八
上り銀相場付の日より免許日延べの事……九九
種米利足・未進利足・作食飢食利足・庄屋給米の事……九九
所払里程定めの事……九九
御調郡銀納の事……一〇〇
山県郡為替米の事……一〇〇

宮島水主役の事……一〇〇
宮島薪六歩銀の事……一〇〇
郡々より調え上るうち代米遣わされざる品の事……一〇一
後懸り壱歩米の事……一〇一
諸郡寺社修覆御銀出し場所の事……一〇一
倹約筋郡中へ示し書付の事……一〇三
入役の義につき御年寄中より御代官中・御歩行目付へ相渡さる書付の事……一〇三
体国院様御直筆　御勝手向きの義につき仰せ出さる写し並びに添書の事……一〇五
体国院様御直筆　地概しの義並びに添書の事……一〇七
宝暦六年二月郡賄賂筋御奉行中より内々厳しき吟味あり、相顕われ候につき示し書付……一〇七
郡方懸り役人中賄い一汁一菜並びに村役人賄いの事……一一三
鑪所並びに塩浜拵ぎ他国者出帰りの事……一一四
鑪割鉄鍛冶屋・千割吹屋・鍛冶屋願運上並びに鋳物師・釘地鍛冶屋運上の事……一一四
小鍛冶・紺屋運上の事……一一七
諸郡炭薪運上の事……一一八
諸運上来暦の事……一一八
　小物成……一一八
　鉄山役……一一八
　広島町馬追札……一一九
　鹿雉子鳩札……一一九
　竹代銀……一一九
　船床銀……一一九
　炭薪船運上……一一九
　壱歩米……一一九

諸職人水役……………………………………………………………………………一二〇
十歩一……………………………………………………………………………………一二〇
沖十歩……………………………………………………………………………………一二一
口屋御番所………………………………………………………………………………一二一
畳表運上…………………………………………………………………………………一二一
塩浜・柴問屋運上………………………………………………………………………一二一
銀掛判貸…………………………………………………………………………………一二二
鰯網運上…………………………………………………………………………………一二二
材木方……………………………………………………………………………………一二二
紙方………………………………………………………………………………………一二二
厘米………………………………………………………………………………………一二二
蒲苅繋船米………………………………………………………………………………一二三
所払定法割合並びに所払い村分の事…………………………………………………一二三
諸山伐刈り並びに山番入替えの事……………………………………………………一二四
山目付給米格式の事……………………………………………………………………一二五
明和二年春御倹約触の事………………………………………………………………一二六
明和三年四月四日郡中入役しらべの義につき郡方御歩行目付増人仰せ付けらる御書付並びに御用郡分けの事……一二七
明和五年六月十一日郡中入役尚又しらべの義仰出さる書付の事……………………一三〇
浦手五郡へ御船手御用割賦銀古法の定めに改むる事…………………………………一三一
郡中にて行倒れ・川流れ諸入用定めの事………………………………………………一三二
江戸大廻り船運賃の事……………………………………………………………………一三三
諸郡入牢者諸入用出方の事………………………………………………………………一三三
御領分追放者入用賄い米等の事…………………………………………………………一三四
諸向き村送り並びに先触の事……………………………………………………………一三五

明和七年徒党・強訴・逃散の御高札建添え仰せ出さるの事……一三七
吟味者取逃す番人咎めの事……一三八
御勝手向き御取締め御書付写し並びに添書……一三八
兄を殺し候者片付け仰せ付けらるの事……一三九
道中筋病人宿送り並びに相果て候節取計い方の事……一四〇
郡方御吟味屋敷出来吟味方御書付並びに吟味屋敷壁書の事……一四二
諸国百姓徒党・強訴御示し仰出さるの事……一四四
郡中賄い方御改めの事……一四六
伝馬・旅籠の事……一四八
吟味の義につき郡方御歩行目付へ相渡さる書付の事……一四八
万吟味者片付け入用等出方分り法則並びに追加の事……一四九
諸御役所御定銀等取締め筋の事……一五四
御国境村々往還筋番所壁書の事……一五五
国政心持ち・公武知行貫積り・郡方支配心得の事……一五六
御咎め者片付け隙取り候義につき御示し書付の事……一五八
御代官所根物箱取計い方の事……一五八
御鉄方抱えの者変死取計い方の事……一五九

芸州玖波より長崎迄道法の事……一六〇
三上郡川西村四郎兵衛・高村兵三郎を殺害に及ぶ始終入用出方分りの事……一六二
御調郡吉和・木原両村病人送り差縺れ一件諸入用出方分りの事……一六四
御調郡綾目村御年貢米不埒あり、吟味入用出方分りの事……一六五
御調郡三郎丸村百姓助左衛門公領上下村銀口入れ差縺れ吟味諸入用出方分りの事……一六六
公領より郡方へ借銀停止仰せ出さるの事……一六七

郡中において浪人並びに物貰い等の義につき公儀より仰せ出さる御触書の写し……一六八
百姓跡式相続並びに家督分け等の義につき触形の事……一六九
社倉法の義につき安永八年仰せ出さる御書付の事……一六九

解題

一 地方書と青枯集

この「吹寄青枯集」は、その自序によると、郡方の下級役人である自称「蝙蝠軒不及」(その他の事柄については不明)編で、成立は寛政二(一七九〇)年十二月である。この寛政二年は、広島藩七代藩主浅野重晟の治政下にあり、前藩主宗恒及び重晟によって進められた、当時の郡村の変質に対応した封建支配の強化を一つの柱とする、宝暦の藩政改革が一定の成果をもたらした時期である。「青枯集」とその時代背景については、このあと詳しく述べるが、編纂の動機は、自序で編者が記している通り、場合によっては「大軍よりも治りかた」い郡民を教導すべく地方役人(農政実務役人)である編者、「蝙蝠軒不及」が「郡方の端に加りしより、旧記に眼をさらし、古役の物語を耳に留め」た諸法令や実例を「新古の要用」として選集し、在勤中の手本、模範としようとしたことであり、この「吹寄青枯集」の書名の由来ともなっている。

江戸時代も中期を過ぎると、初中期に出された農政に関する諸法令や規則、又は慣例、裁決の判例によって地方の実務が行われることが多くなり、豊富な農政実務経験を積んだいわゆる地方功者は重要視された。「吹寄青枯集」冒頭の記事のように、地方役人の集会で、地方功者(首藤子)が「師匠」として頼まれ、その経験を他のものに伝授するという例も多かったのではないかと思われる。このように郡方役人や村役人は地方支配のための規範書や総合手引書の性格を持つ文献を必要とするようになり、実務書として利用されたのである。これらを総称して「地方書」と呼んでいる。

地方書の内容は、民政・農政・検地・年貢・助郷・倹約・農民統制・普請など地方制度全般にわたる。代表的なものには、田中丘隅の「民間省要」(享保頃)、大石久敬の「地方凡例録」(寛政六)等があり、既に刊行紹介

されている。広島藩内では、地方支配に関する諸規則を集めた同種のものに「安芸風土記」や「温故郡務録」、「芸備郡要集」、「郡務拾聚録」等があるが、その最も代表的なものが「吹寄青枯集」であるといえよう。

なお、この「吹寄青枯集」は、同時期の寛政年間に代官の大藤良蔵が、先輩の代官から見せてもらった書付の中から自分の郡村支配の実務心得のために編集したという「温故郡務録」（『広島県史』近世資料編Ⅱ）の内容をほぼ包含している。このことは、この「吹寄青枯集」に収載された記事や法令等が、当時の郡村支配の基調となっていたことを示唆するものであり、また逆に当時の地方役人の郡方支配に対する意識なりをくみ取ることもできる。

二　本書の伝来と異本

本書は美濃紙横帳仕立て（竪一三・五×横二一・三センチメートル）で、表紙題簽（布製）に「吹寄青枯集」とある。最末丁に「文久三亥季夏写之終　黒瀬庄平賀氏」とあり、また、「青枯集目録」に「中黒瀬村平賀」の蔵書印が押印されていることから、本書は、文久三（一八六三）年に、平賀氏（おそらく当時賀茂郡の割庄屋を勤めていた平賀礼三郎）によって筆写され、以後同家に伝来したものであることが分かる。これは昭和四十五年、賀茂郡黒瀬町上保田の平賀勝吉氏より、広島県史編さん室に寄託された数千点にわたる古文書の中の一点で、他の古文書とともに昭和六十三年九月、平賀陸雄氏より改めて県立文書館に寄託された。

同家は、賀茂郡上保田村の庄屋を歴代勤め、幕末には、前述の平賀礼三郎が賀茂郡下西条村組の割庄屋を、その長男寛夫（隆右衛門）も上保田村・市飯田村の庄屋を勤めたのち、少長・大区用係・戸長などを歴任し、明治十二（一八七九）年の広島県初の県会では、県会議員として賀茂郡から選出されるなど、賀茂郡でも指折りの名家である。

「吹寄青枯集」の異本としては三原市立図書館桜山文庫のものがあり、これは昭和三十九年、橋本敬一・昭子

氏によって刊行、紹介されたことがある。また、『広島県史』近世資料編Ⅲ（藩法集１）も、この桜山文庫本を底本としてその一部を収載している。これは初代同館館長沢井常四郎氏が昭和初年に広島市尾道町の古書店で購入し、同図書館に架蔵されたもので、題簽には単に「青枯集」と記され、中には以前の所蔵者によると思われる「玉井旧蔵」という蔵書印が押印されている。平賀家本が一巻一冊の体裁であるのに対して、この桜山文庫本は五巻五冊の体裁であり、各巻ごとに目録が付されている。これも写本であるが、筆写した者やその年代は明らかではない。

両写本を比較検討すると、どちらも誤記・脱落と思われる箇所が非常に多い。桜山文庫に誤記が多いのに対し、平賀家本は脱落が多く、筆写後に朱で校訂した形跡がありながら、なおかつ誤記がある。このことから考えると、これは転写した元の本が既に誤っていたものと考えるのが自然である。また、両写本に共通する、編者或は筆写した者がつけた「或曰」という注釈に加え、平賀家本には更に「謙曰」という注が加えられている。これらの事実は、この「青枯集」がその「地方書」という性格から考えて、成立した寛政期から平賀家本が筆写された文久期までの六十年余の間に何度かの筆写を経て広く流布したことを示すものであろう。ただし、現在この二つの写本以外は知られていない。

今回は筆写年代や筆写者も明らかな平賀家本を底本としながら、桜山文庫本「温故郡務録」等との校合（凡例参照）も行いつつ刊行したものである。

三　本書の時代背景―享保一揆と宝暦改革―

この「青枯集」には、寛政年間に地方役人あるいは村役人が、年貢の収取や郡村の治安の維持といった任務を遂行していく上で規範とすべき事項が、法令、記事の形で、ある時は実例を挙げながら収載されている。それらの年代は大きく二つに分けられる。一つは享保一揆以後の享保・元文のものであり、もう一つは宝暦改革以後の

宝暦～安永年間のものである（表参照）。

享保三（一七一八）年に起こった享保一揆は、広島藩が初めて経験した、全領内に波及した大規模な百姓一揆であった。元禄以降慢性的に財政が困窮していた広島藩では、第六代藩主浅野吉長が藩政改革に着手し、諸役所の経費節減を図るとともに、郡方では「正徳の新格」と呼ばれる郡制改革（従来の代官制を廃し、郡奉行のもとに六人の郡支配をおき、在地責任者として大割庄屋のなかから所務役人を抜擢し、その下に頭庄屋をおく組織への改編）を行い、地概（じならし）の実施、定免制（じょうめんせい）の採用、詰め米（まい）制の開始等といった、直接的な収奪体制の強化によって貢租の増徴を図った。しかし、これは、農民の不満をますますつのらせ、ついには享保一揆を引き起こしたのである。これにより藩が受けた打撃は大きく、郡中支配は再び元の代官制に復し、藩の郡方支配は根本的な政策転換を余儀なくされた。

表　「吹寄青枯集」の掲載記事と法令

年　代	件数
享保以前（1111～1716）	8
享保年間（1716～1736）	25
元文～寛延年間（1736～1751）	17
宝暦～安永年間（1751～1781）	44
不　詳	10
計	104

「青枯集」には、賀茂郡百姓の十五ヶ条の願書（三一頁）、藩主吉長の十八ヶ条の御宥状（三三頁）等といった享保一揆の記事の他、吉長より代官へ申し渡した地方支配の注意すべき十二ヶ条の指示（三七頁）や一揆直後の代官支配の施行細則と言うべき「所務方幷勘定方覚書」（高田・高宮郡、一六頁）、各地方支配役人への勤方心得書など郡中支配制度の再編に関する触書類が多く収載されているが、このことは、享保一揆が広島藩の郡中支配政策の画期となったことを示している。以後の地方支配に関する触書、地方役人の勤務方心得書には、百姓の盛衰に配意し、「百姓なつけ」は「強過候処ハ少シユルメ、弱キ所はハケシクいたし、其所々ニ相応ニ仕向」け「寛猛」の二字を以て行うこと（五四頁）、諸役・郡割の不正によっ

て「百姓疑心」の生じないように努め、地方役人同志が連絡を取り合うように留意するようにという基調のものが多くなっている。「青枯集」の序も、同様の主旨に沿って記されていることは注目に値する。

広島藩では、享保一揆での挫折を契機に、より慎重な財政再建の方法が講じられ、上米(あげまい)収納体制の維持強化を図ることによって実質的な貢租増徴政策が推し進められていくことになる。それらの政策は、宝暦改革の諸法令に具体的に表れているのであるが、「青枯集」に宝暦〜安永期の諸法令が多数のせられていることは、とりもなおさず、これらの法令が、寛政期の郡方実務を推進していく上での直接の規範となっていたことにほかならない。

改革では政務の簡素化、諸役所の経費節減がうたわれ、郡方所務をはじめとして藩の財政に直接関係する職務を勘定奉行が集中的に支配管掌することになった。郡方支配では、郡奉行の権限が強化され、倹約令の徹底、村方諸入役の削減、郡方役人・村役人の贈収賄や不正の禁止、司法制度の整備が図られている。

改革の背景として、この時期が、宝暦初年や天明の気候不順による凶作が続き、また地主・小作関係の展開により農民の貧窮の差が顕在化し、さらには、庄屋・組頭等村役人に対する農民の不信・疑惑から、農村は一揆・村方騒動がいつ起こるともしれない、極めて不穏な状況下にあったことを念頭に置く必要がある。

村役人に対する疑惑は、一つには村入用（村の運営や維持に関する諸経費等）の使途やその運用が村役人に委ねられていたことに起因している。宝永元（一七〇四）年に統一基準が定められた広島藩の村入用(五七頁)は、年貢米納入に関する諸経費や郡割なども一括して扱われるため、農民の地方税的性格を帯びることになった。これらは年をおって増大する傾向にあり、農民の大きな負担となっていたため、その支出については農民は非常な関心を寄せていたのである。享保期から繰り返し発せられたそれらの削減・節約についての法令は、「青枯集」にも多く見受けられるところである。

宝暦四（一七五四）年、藩は、年寄・郡奉行・勘定奉行・郡廻り・代官列座の上で、郡方仕置に関する基本方針を発し、「郡方之儀者御国政之根元」とした上で、地方役人による支配地に対する恣意的、偶発的な農民統制を排するため、厳重に申し渡すところがあった（四九頁）。続いて、同六年には、郡奉行の指図によって各郡一二ケ村づつ抜き打ち的な会計検査が実施された結果、多くの村で諸入用の不正や郡方役人の贈収賄の事実が摘発され、諸郡の代官以下の郡方役人・村役人・百姓中に対しそれぞれ綱紀の粛正を図るため厳重な戒告が行われたのである（一〇七頁）。この例が、以後の地方役人の戒めとなっていたことは想像に難くない。

それまでは「出方区々」、又は「諸郡区々」であった行き倒れ者や入牢者・領分追放者・殺人犯等に要する諸経費、訴訟・裁判等の諸経費負担の支弁方法（藩・郡割・村割・当事者等）が整備されたのもこの時期であるが（一三一・一四八・一六一頁）、ここからも、諸経費節減の趣旨から、関係者の人数を削減し、賃米・賄銀を低く維持しようとする藩の意図がうかがえる。この訴訟・裁判等に関する諸経費の負担体系の整備は、宝暦改革の柱の一つである司法制度の整備政策とも深い関連がある。その画期になったのは、宝暦九（一七五九）年、前年の町方吟味屋敷に続いて郡方吟味屋敷が広島城下に設置され、従来、郡中の公事出入りについては、郡方歩行目付等が郡中に出向いて裁判を行っていたものが、この後は関係者をすべて吟味屋敷に呼び出して、代官の直吟味とし、代官の力が及び難いものについては郡奉行が裁判を担当することになったことである。これによって、裁判の公正化もはかられたのである。

司法制度の整備にあたり、かわた身分の公役である「かわた役」も治安・警察・刑罰的役目をになって整備されていった。「かわた」は、浅野氏入部当時は「身分」としての実態が明らかでなかったが、広島藩では治安維持の役割を中心として、軍事強化のために必要な皮革業をも含む、さまざまな職業に従事する人々をまとめた新しい呼び方として「かわた」身分を設定した。広島藩は、寛永七（一六三〇）年の郡中法度の中で、郡村の牢番

役をその職務として課したのを始め、寛文十二（一六七二）年に重要犯が広島牢を破ったときに、それを捜索・逮捕するため領内の「かわた」を動員したことをきっかけとして、盗賊制止などを主な内容とする「かわた役」を設定し、「かわた」は農村の治安維持の役割を果たすようになった。享保一揆を契機に、身分階層間の分裂をはかることによって農民を統制するため身分規制は一段と強化され、「かわた」身分の人々は、享保十一（一七二六）年の倹約令で頭髪は茶筅髪、衣類は木綿・布で無紋とするように命じられ、またさし傘・合羽・木履・雪駄が禁止され、風俗の違いによって民衆との区別が明確にされた。宝暦九年の郡方吟味屋敷の設置以後は、「かわた役」に出役が定められ、「かわた」は、法度に違反した者などが吟味を受ける際に警固にあたったり、盗賊の追捕では、犯人の逮捕と吟味までの一時入牢の牢番役、犯人が牢舎処分と決まれば郡中牢まで付添い、牢屋の掃除や在牢中の賄い・牢番に従事した。また犯人が追放処分となれば他領境までの付添いや領外追放の確認にあたり、死罪となれば警固・人押え、太刀取りなど、死刑執行の手続き全般に従事したのである。このような「かわた役」の出勤には頭かわた・小頭・下かわた等、「かわた」の職階に応じた賃飯米支給の規定があり（一五一頁）、その賄いがどこの負担となるか（支配割＝藩吟味屋敷の経費、郡割＝関係郡の負担、村割＝犯人居村の負担）も定められた（一六一頁）。このような「青枯集」の法令・記事を通じて、「かわた」の身分規制が強化されていくにつれて「かわた役」の内容も細かく規定されていき、およそ警察・司法の全過程にわたって関与することになったことを知ることができる。なお、身分制の問題については、県史編さん室が作成した『広島県史と同和問題』（昭和四十八年八月）を参照していただきたい。

以上「青枯集」に収載された享保・宝暦期の法令・記事から、広島藩の農政を概観した。「青枯集」が編纂された寛政以降、藩は幕藩制村落がさらに変質・解体していく情勢に対応して村方の風儀立直しをはかり、村落運営の正常化をめざすことになる。

吹寄青枯集

青枯集目録

地方役人心得・土免考・荒起・農業時節出郡用捨・田畑植附・麦刈（時）等之事
検地之節縄引・田之畝引等之事
田畑上中下位集（付）・検地之節役人出張・毛見等之事
見附取計之事
農人貯物・豊凶上ケ下ケ（免脱）・庄屋百姓方算用等之事
土免毎年取計・井手川除堤雨池等之事
往還道橋・荒起地取計之事
諸樋・新開堤・春普請等之事
牛銀作食・苗代仕附・御茶屋作事之事
郡々未進百姓之事
庄屋組頭広嶋出勤・変年秋毛見附願・畳表葛葉葺茅煎茶御用取計之事
毎年宗旨改・鉄炮持主死失跡願之事
年中相極郡中触之事
諸職人改・諸郡柿木・公儀御役人御大名御通行等之事
侍中御歩行組御鷹方出郡・寺方後住剃髪・寺社医師役人他国出願等之事
寺社百姓町人目安差出取計之事
年寄庄屋組頭役儀・百姓町人引越願・出火咎・他国沙汰・旅人病気御領分之者他国ニ而相煩取計・盗賊縮徘（徊）
耕作之障・郡中善人悪人心附等之事
御蔵入明知御年貢取立方・見取新開・御年貢津出所払・免割帖しらへ・郡割・一村限夫割心得等之事
郡中事立候普請越夫・御貸有之村人別印形・欠算用帖・麦見分等之事
御年貢納所・差次米・厘米取立方・郡中態飛脚ニ不及諸用達取計等之事
中勘定・諸運上銀取立・御用餅（糯）大豆割賦・郡々差出帖等之事
所払三六上納・御小人札・作食御貸・種米等之事
厘米・御貸麦取立・小物成・鹿雉子鳩札・竹代・諸職人水役・鉄炮札等之事
壱歩米取立・船床・鍛冶鋳物師炭紺屋灰運上・割木炭船運上等之事
給人免状・上ケ知隠居渡り百姓圖取帖・給人貸種米牛銀作食等之事

諸毛見附取計之事

郡中夜通飛脚御門通・近在出火幷急御用御代官村廻番組夜中出郡御門通之事

掟幷威鉄炮願案文之事

諸郡地概相止御直筆・賀茂郡百姓騒動之節願書幷被仰付御書附之事

体国院様御直筆御代官中江相渡御書附之事

御勘定所より御代官中江相渡勤方書附幷御代官其外手附出郡人馬幷賄銀渡方等之事

体国院様御直筆定書之事

村廻り勤方御書附之事

体国院様御直筆郡廻り御代官江御示し・右同断御年寄江被仰付御掟書之事

世羅郡甲山浜田屋義八郎後家幷山県郡八十郎孝道之事

諸郡免割郡割夫割帖吟味之事

郡御奉行御勘定奉行郡廻御代官就御用登城於御居間郡方之義被仰付候事

体国院様御直筆他国百姓御領分江立退候節取計幷他国僧侶郡中へ泊之節御法度之事

吉長公御直筆御代官勤向心得方御示書之事

御代官宗旨改出郡之節百姓共へ申附方御代官心得之事

従公儀被仰出寺法之事

村々貸借利足之事

諸取立・諸給分・庄屋組頭引高・御蔵番給・村高ニ応筆墨紙油蠟燭其外諸入用方等之事

御小人飛脚諸役人賄入用方之事

稲毛下見免割等之節役人飯米・諸寺社初穂米・御蔵払欠米鼠喰・船賃・（見脱）米之給分等之事

地詰地坪心得之事

升突仕様之事

升突心得幷野取帖仕方・升突ニテ上ケ下ケ概・升突先位ヲ見ル等之事

見附幷給知割ニ付郡方心得書之事

御領分追放立帰り者咎方之事

郡方御歩行目附幷番組他国へ被遣候節渡物等之事

御用屋鋪集会之事

郡御奉行引請諸触（諸）諸願等之事

御勘定奉行引受御勘定米銀請渡等之事

御山方引請諸山伐苅等之事
郡廻り引受御免組土御免触等之事
郡方御用之内郡御奉行引受天下送御大名通等之事
右同断御勘定奉行引受御所務方幷諸道具引替等之事
右同断郡廻り引請御免組郡割免割夫割等之事
郡御奉行御勘定奉行中より出ル御所務方覚書之事
公儀御判物写・公儀御帖面芸備御領分高之事
御領分郡名御改幷切畑小物成鉄山吹役鉄穴役之事
御領分諸郡公儀御帖面筆列次第幷諸郡米上中下・所払
米直段違幷上り銀相場付之日ゟ免許日延等之事
種米利足未進利足作食飢食利足庄屋給米幷所払里程定
等之事
御調郡銀納・山県郡為替米之事
宮嶋水主役・同所薪六歩銀・郡々ゟ調上ル内代米不被
遣品・後懸り壱歩米・諸郡寺社修覆御銀出場所等之事
倹約筋郡中へ示し書附之事
入役之義ニ付御年寄中ゟ御代官中御歩行目附へ被相渡
書附之事
体国院様御直筆御勝手向之義ニ付被仰出写幷添書之事

同御直筆地概之義幷添書之事
宝暦六子二月郡賄賂筋郡御奉行中ゟ内々厳敷吟味有之
相顕候ニ付示書附之事
郡方懸り役人中賄一汁一菜幷村役人賄等之事
鑪所幷塩浜拵他国者出帰之事
鑪割鉄鍛冶屋千割吹屋鍛冶屋願運上幷鋳物師釘地鍛冶
屋運上小鍛冶紺屋運上等之事
諸郡炭薪運上幷諸運上来暦之事
但
鉄山役・広嶋町馬追札・鹿雉子鳩札・竹代・船
床銀・炭薪船運上・壱歩米・諸職人水役・十歩
一・沖十歩・口屋御番所・畳表運上・塩浜柴問
屋運上・銀掛判賃・鰯網運上・材木方・紙方・
厘米・蒲苅繫船米等也
所払定法割合幷所払村分之事
諸山伐刈幷山番入替・山目附給米格式等之事
明和二酉春御倹約触之事
明和三戌四月四日郡中入役しらへ之義ニ付郡方御歩行
目附増人被仰付書附幷御用郡分之事

明和五子六月十一日郡中入役尚又しらへ之義被仰出書附之事
浦手五郡江御船手御用割賦銀古法之定ニ改候事
郡中ニ而行倒川流諸入用定之事
江戸大廻船運賃并諸郡入牢者入用出方・御領分追放者入用賄米等之事
諸向村送并先触之事
明和七寅年徒党強訴町散御高札建添被仰出候事
吟味者取遁番人咎之事
御勝手向御取縮御書附写并添書之事
兄ヲ殺候(者脱)片付被仰付候事
道中筋病人宿送り并相果候節取計方之事
郡方御吟味屋敷出来吟味方御書附并吟味屋敷壁書之事
諸国百姓徒党強訴御示被仰出候事
郡中賄方御改并伝馬旅籠之事
吟味之義ニ付郡方御歩行目附へ被相渡候書付之事
万吟味者片付入用等出方分り法則并追加之事
諸御役所御定銀等取縮筋之事
御国境村々往還筋番所壁書之事
国政心持公武知行貫積り郡方支配心得之事
御咎者片付隙取候義ニ付御示書付并御代官所根物箱取計方之事
御鉄方抱之者変死取計方之事

青枯集序

夫郡方は広大にして、長を取る事拙き者の及ふへきにあらす、幾万の郡民律儀片意地之愚昧に理非をおよほす事、臨気応変之導を以心服に落し入る事、たとへは大将・士卒夫々の示しは其道理を以令教導、法度作法・賞罰の二ッに留る、郡民・村役人は諸役にならへ威愛を表として、賞罰正しからされハ大軍よりも治りかたく、大旨寛猛の二字をとり、実義正直(道)をたに導ならは、善は弥増悪は改り、益郡村繁栄の基とならん、不学文盲の我等式恐敷も思ふへき勤にあらすや、郡役に(の端脱)加り候(は)こそ蝙蝠も鳥の内とやらん片腹いたし、我五十に余り郡方の端に加りしより、旧記に眼をさらし、古役の物語を耳に留め、一日なりとも人並に君恩を奉報度、拙筆をとり此一巻を写置、在勤中の先生ともなりぬ新古の要用を撰集したるにより、吹寄青枯集と号け呼はしむ、穴賢々々

寛政二年戌極月　　蝙蝠軒不及

御家地方役人仮初集(参)会席に愚考(愚考歟[朱書])在郷方之支配功者之聞(と)及、教導せよと偏に師匠に頼との事也、其志難黙止愚意(昧)を顕し、下のいやしき謂を仮名書にして所令附与之条々

一夫免奉行・代官・村廻り・下代等始而其地に莅(ノゾム)時者、土地厚薄、田畠広狭を(先脱)考検、次に東西南北、日向陰地、大河小河之流、池塘(堀)井手溝川除、山林竹木、漆楮桑茶園栗柿、此外何によ(限)らす其所之貢物等駄物運送行程之遠近委ク考検、毎年之取毛無高下様に可為支配事第(専)一也

一土免之義、前年之毛上を能御見聞にて善悪之村々書附置、及暮年貢等令難渋歟不難渋歟を御見計ひ、常々草臥之多少ヲ考、土免之上ケ下ケ差引可有之候、若御貸等有之、御用捨之義ハ可為格別事

一荒起之義ハ、村々任従古来之例遅速不同之事

一農業之時節ハ、諸役人在郷江罷出候事者些御用捨可有之候、一日之隙を費候得者十日の後レニもなるものニ候、時を以すと相見へ候、されとも不叶公用之時者格別之事

一田畠仕附之事ハ、節之早キ年者其時之考ゟも五日程

延、又遅キ年ハ考ゟも五日程早く仕附候様にと申伝候、惣而五月の中の前後を時取仕るがよきと相見候、家職ニ候得共百姓もしらぬ勝に候間、おり〳〵は御教候而も能候事

一麦蒔之事ハ、毎年八月末より九月中、若は十月初之頃迄も能候、畠共ハ年之内ニ弐度程中打も能候、百姓は麦ヲ能作り候得者宜物ニ而、麦ハ雑穀之内ニ而者上分之喰ものにて候、然ル刻ハ麦蒔之節日和能候ハヽ、収納并差当り夫使等も被差延、麦を専蒔候様仕(度脱)事ニ候、百姓ハ喰物さへ相応に持貯候得者、耕作之節時を不失心まめに精を尽ス物ニ候、食乏時ハ耕し耜(クサキル)事疎ふして不熟なる者也、貧民を救事も薄して扶助を不加時は日々に力衰へ、田畠之作毛微少になり、常の半作ニもなるものニ候、然る刻は年々上之御損不可限計事

一検地之時は、たとへハ真四角之田畑ニも十文字ニ打而者荒く候、功者成竿頭跡先キに立並、出目入目を考定りを打せ、両方之肩ニ而二竿、中ニ而一篇横竿、合三竿也、定り延びたる所は横竿四竿五竿入候事も御座候、田畠はクネリユガミ勝ニ候得ハ、其田其畑へ入廻(込)ニ而、竿目ハ田畠か教と相見へ候、算用計を証にしても危事有之様ニ(と)も御心懸至極之事ニ候、若畝不足有之時は其作人永々迷惑仕候、仮初ニも検地は一大事之ものにて、昔ハ六ツケ敷物ニ候へハ(共)、今掛算さへ覚候へ者成安もやうに相見候、能々工夫之入義と存候事

一縄引之義、腰中ニも有之深田(ハ脱)竿打事不成候故縄引申事ニ候、其時は算用之上ニ而十歩も引可被遣候、無左候得ハ竿並ニハあい不申候、膝中(半ま)ニてハ竿ニて打候而能候事

一田之畝引之事ハ、上田ニて畔ほそく候ハヽ、御引有間敷候、仮令隔植候而も畔大豆等も能出来候ハヽ、不引共能候、され共畔数多ク候ハヽ、少々(ハ)御引可有之候、其以下之悪田は相応ニ御引可然候、

附り、山田之膳棚の様なる廻(迫)り田ハ畔長ク(サ)一間程も有之物ニ候、左様之所は竿之上(算)ニ而三ケ一四ケ一も引捨不申候得者、平地並一同ニ者不及(合)物ニ候、され共其田地善悪之所能御了簡候而差引可有之事ニ候、竿打事は成程静にとつくりと打たるか能候、達者成迚足早に打候得ハ竿延申物ニ候、菟角畝不足無之様に御了簡専要

ニ候、不足有之候得者下之なやみ奉行之難、川ニ成、不流内ハ永々悪名立候事

一田畠上中下仕付候義、毛上の善悪、田畠之すわり、其年之出来不出来を考、位付可然候、黒土垣(植)地従古来名付来候得共今以其通りニ候、其村々(之)一ノ上と一ノ下とハ見安キものニ候間、其間之七八段之位付、地主(虫)ニ而土之味を能喰知り候者五(九)段十段ニも名附可申候、我等如キの土地ニも愚成ものは斗代(付)に無高下様ニ難成、愚意を以考申候所ハ、其村之庄屋・組頭・長百姓之内ニ而も功者なる者一両人相添誓詞被仰付、斗代付させ候へ者相違有間敷候、其村之田地厚薄之義者不絶見馴れ申ス(に脱)よつてなり、又能く知ル辿も他村之事は是も不知我等同前ニ候、誓詞前書ニ者、自身義者不及申ニ、親子兄弟親類縁類田地之内ニ而斗代安く名付候ハヽ、其近所之地主替て取候様ニ而可然候、斗代付之時者奉行・竿頭江相断、尤と同意ニ候ハヽ、其上ニて野取帖に書付候やうにとそんしる事

一検地之時役人附、奉行壱両人、竿頭弐人、算士弐人、竿打三人、内壱人尺縄持、帖付壱人、目代壱人 是ハ田畠之町反畝歩書、あさ名、上中下誤無之為なり、縄引壱人、ほうし弐人、庄屋・組頭・地主、都合弐拾人内外也

一毛見之事、土免不被(破)年ハ其村之上中下共ニ能見計ひ、穂平何穀(程)ニ可当所ヲ被考、米積可然候、若水旱風之災難(候脱)ハ損亡之取計(処計り)畝石を引被遣、残高之土免ニ而被召上候様ニと存候、され共損亡之品ニより土免之内御用捨被成候様にもなり可申と存候事

一見附之時者何国之様子も聞及候ニ、庄屋・組頭不埒故歟、(又ハ脱)上下疑も有之歟、御見付之上り下見に五割六割一倍も上り候様ニ承候、実者庄屋・組頭不埒も可有之条、自今以後者下見を成程念ヲ入、川成畝弁畝不足を立、残畝組合、壱升之所ハ其儘壱升書付候様ニと存候、村中下タ見段々ニ分り申事ニ候へ者、目違見落も可有之候、左様之所ハ升を除キ同穂之内へ入候而、庄屋・組頭等御相談御座候而、中分之所ニ而舛付相成、籾拵(透)候義曰ニ而成程能こふりいぎぬかはしかなきやうにゆりさびを仕り、壱升之籾に五合米有之様ニ可然候、仮初ニも青籾・ぬれ籾ニ而升突被成候事は必御用捨可被成候、其籾日に干立候得者、壱升之籾は九(八)合ニも成もの

ニ候、見付之村数多有之、御急キ之時は天気悪敷候而も升付被成候物ニ候、其時は思召之外御用捨可被成、見附之時ハ四合六合ニ分り申ス御前法(制)ニ候へ者、四合之内ニ而送駄賃・間米・諸役等下地(地下)之入目(用)迄も出ス事ニ候、四合ニ而相当仕ル義者難成物ニ候、是も目違之所ニ而升突被成候へ者、不存寄残畝ニなた(き)米過分と(ニ)重ニ(ミ)、四合米ハ不被下様ニも成ルものニ候、左候得者御納所之時はひしと行つまり、田地ニ離るゝを難義ニ思ひ、子供(牛馬)も生而も売、家財等も質物ニ入、皆済も心懸候得共、夫ニても不足仕ニ依而、家田地ニ離れ行先キ無之、親妻子ニ別れ路道ニ袖をひろげ乞食ニ成と見へ申候、からき世の中ニ候へ者何国江行候ても無住所、仮令住(居)所者有ル事ニも候得共、田地無之候へ者亦路道ニ吟ひ、終ニハ餓死仕候と見へ申候、殊ニ水損之年は一廉御用捨被成可然候、(ニ脱)目不及物ニ候得者其作人も不知、田地の有物内江取込こなしを仕と仰天仕るものニて候、右の段々ハ能了簡之事ニ候へ共、走り馬ニも鞭と申候へ者存寄事共無遠慮書顕し申候、惣而追上ケと云事以来無之様ニ被成候事御為之義と存候、併生なから(之)(脱)悪人歟、亦ハ巧ミて悪をなすもの歟(ハ)、有物を隠シ置年貢等令難渋歟、左様之者ハ庄屋・組頭能可存候間可遂(被脱)糺明、其品ニよつて追放ニも追上ケニも可成事と存候、且又納所方之義者何国ニも収納割ヲ仕捌(仕掛ケ)敷催促有之、よつて畠方作物之内雇(麻)・莨蓉[芙蓉カ]・木綿・漆・楮・栗・柿之様之もの日数も延ひ候へ共(者)、未進之心当テも有事ニも候得共、請合之日限違候時者或ハ牢舎、或ハ鎖錠、猶火水之責ニも可偶歟を(と)思ひ、百目之物は弐拾目、三拾目ニも売捨候義と(に)相見へ候、此有物之義者庄屋・組頭慥ニ可存義ニ候条、遅速之事は年内中ニ而も又は春江越候而も、庄屋・組頭受合候ハヽ、御差延にて可然候、乍去早く御取立候而上之御為ニ大ニ宜義候ハヽ御用捨(無用)ニ候、少し(之)御為までにて下之痛ミハ過分之義ニ候、彼是差湊ひ下労し候時者、或ハ免御下ケ、或ハ飢食作食、或ハ追種米・牛銀抔と名付、御貸候而御救ひ被成候事ニ候へ者、委(悉ク)皆本へ帰り御仕置之妨ニも罷成、他国へも惣洩(悪)聞候時は却而御為ニ不宜事与存候、兎角不死不生之御計策可然義と奉存候事

一見附之時、畠方ハ何国ニもそれ〳〵に成ると見へ申

候、春夏毛一作ハ取候故尤ニも可有之候得共、其出来物を以秋作も心付（仕）、其余ニ而喰や不喰体ニ而漸秋へ取付候物ニ候、見付ニ及程之事ニ候へ者水損歟旱損歟之時ニ候故、畠方ハ大方皆損之やうニも成ルものニ候、夫ニ屋敷高ヲ加へ土免ヲ懸候而者可成様これなく候、畠方をも上ケ一（三）半分引ニも可然（成）義と存候事

一下々者奢り安キものニ候、豊年ニ而作物も能出来候而年貢諸役等も快く勤候得者（時）、凶年之難義ヲハ打忘レ又来る年もあるやうに思ひ、酒肴美食之費、衣類等も人並に仕当テたかる物ニ候、耕作之義ハ己か家業ニ候へ者云ニ不及、外之拵営候義二六時中ニ不限可尽精魂事第一なり、又民の事をは不可緩、昼ハ行て茅かれ夜ハ索綯（ナハナヘ）と申候得者、たとへ打続満作多（たり）といへとも朝夕一銭之費をも省キ、稲之粃（シイナ）米・稗の糠（クロヒヘ）、蕎麦のはこ、柿糠、里芋茎、大根干葉、あみつる、大小豆之葉、葛・蕨の根葉、苓糠、野老、其時々に随ひて取置候様ニ可仕事也、或事書ニ者海藻之部類抜時炊（萌）合、成□、桑の葉、莢（サヤマメ）・漆葉、蔓荊、百合根、菊花、蓮（蓬）葉、各晒乾して逐年積蓄（可積蓄之）し有、累年不朽物之由、され共（者）一度食する毎ニ思稼穡之艱難、一度衣する毎ニ不忘紡続（績）之辛苦（労）様ニ仕候ハヽ、雖為飢饉及餓死程之事は有間敷と存候事

一豊年には免二歩三歩上り候而も下タ不痛候事

一凶年には免五歩程も御下ケ可有と思召候ハヽ、一ソン程も無御用捨候ハヽ、痛ミ可申候、豊年凶年之損益者格別之事

一庄屋・百姓算用方之義、其年限りニ可埒明候様ニ仕度義ニ候、若諸払方春越候時は、其払詰ニ者必庄屋・組頭・五人（組脱）頭迄打寄て遂（一々）吟味、埒明候様ニ可仕事也、下々は愚成者勝ニ候へ者、日来聞触候事も延々に成行時者打忘、庄屋・組頭私欲等も有之様ニ思ひ云事ニなり、下ニ而不済時は書付をも上候様ニ成事ハ毎度有義ニ候、達上聞候得者速ニ理非分明ニ被仰出候上は、愚なれハとて任御制法死罰（罪）等も被仰付ねば不成御事ニ候、是皆下之油断、庄屋・組頭無裁判より起たる悪事ニ極り申候、惣而人はきつてつかれぬ物（ニ脱）候へ者、仮初ニも人の命ヲ断申事は不仁之義と被思召、たとへ大科之者ニ而も被免置、其内ニ若御助被成義も出来候へかしと思召専一ニ候、右之旨趣ハ我等在郷方之支配功者之様ニ依

及聞召教導仕候様ニと被仰候、功者ニも無之候得共得其意申ス拙者事ニ候得者、御一言難黙止、存候所及愚意有増書顕し懸御目申候、若一事に而も能事も候ハ、其所御取、余ハ反古ニ可被成下候、乍此上も五斗壱石作る小百姓迄も能く御痛り、家田地ニ不離様御了簡専要之事ニ候、百姓之田地ハ皆々様御知行同前者(ニ候)、五代十代も続(き来り脱)親・妻子・従者等育申事ニ候、夫を少し之事にて追立候事不仁不道之様ニも罷成候、国郡之治りやふは如何様ニも可有之候得共、仁之一字と愛民との二字に極ると見へ候、然ル刻は支配所之民飢寒之憂も無之様ニと御心懸至極之事ニ候、亦諸役人も無怠様ニ慎而(其)身真実を以能教導時は、民も感其志自然と直ニも成ものニ候、下々は雖為愚蒙天性質直なる生付も有もの也、第一には父母に孝行ヲ尽、能法度ヲ守、親之悪をは退而諫之、子之悪をは親戒之懲しめ、弟は兄に随ひ、兄は弟を愛し、兄弟惣而敬老居、上不侮為下不乱様に、夫婦は慇懃に交、善悪ともに朝夕能相教、一生之中不怒様に可嗜事也、友傍輩者無偽様ニ、大事小事の義不成迄も精出し合事、是亦朋友の交共いふなるへし、世之中は嫁(婦)と姑とハ中之悪キものと誰いふともなけれ共昔より申慣し候、婦は可愛息之妻也、姑ハ最愛夫之母也、爰を思えは中のあしかるへき様なし、嫁(婦)は実母の如く思ひ、姑は真娘の如く思ふへき事也、扨又下民は甲斐なきものにて、庄屋・組頭心根悪しけれは五斗八斗の不足に而も田地に離レ安キものニ候、然者庄屋・組頭も触下之百姓共をは子弟之様ニ思ひ、耕作家業之義不怠様ニ、内外之拵キ営之事昼夜共に能教聞せ、若は正路ニも入候やうに可仕事専一也、欲深く驕廻り、身之慣(慎)なく公儀向計を欲し、下を育心なく、其村々費をも不厭様ニ仕ル庄屋は、近年其村令衰微、百姓之力益尽果、食を求兼憨也(ニ成)、耕作可励様なくして田畑作毛付荒キ様ニ成行時ハ、(至脱)其時上之御損顕レ申事ニ候、常々庄屋・組頭之善悪をも能御試之事是亦専要之至ニ奉存候、よつて如件

天明二年酉八月日　　首藤子

何かし殿まいる

諸郡覚書

一向後土免ニ被仰付、毎年正月上旬其年之土免之義猶又被相尋(触)候、其上ニ而郡中江も触可被遣候事
但、二月中免組被申談、相調次第免目録可被差出候、免帖(状)被出候義、其外具之義ハ御勘定奉行中ゟ可被申談候事

一井手・川除堤・雨池等普請之願申出候ハヽ、委細吟味見分之上夫積等被申付、其段前廉可被申聞候、尤小村抔大井手有之所ニは、近村五三ヶ村組合ニ而井手組与唱究有之様相聞候、左様之村者先規之通可(被脱)申付候事

一西国往還道は村々夫役引高究り有ル村も可有之候、其段吟味之上先規之通夫役引高被申付、其村として常々念入道造候様可被申付候、三次往還道・石州往還道、甲山・吉舎・尾道筋へ者(之)往還筋右同断ニ候、是亦同前ニ可被申付候事
附り、小道之分常々其村として破損無之様取繕候様可被申付候事

一諸橋先規より有来候橋ハ其村として取繕ひ、破損無之様取繕候様可被申付候事

一御先々代以来御鷹御用之橋、其外上使御用・巡見御用抔ニ当分出来之橋只今ニ至其儘有之、繕ひ掛替等も有之様ニ相聞候、御勝手向御差支ニ付諸事御倹約被仰出候時節ニ候、其上郡中村方普請諸材木之費(ニ脱)入役等多分之義ニ可有之候間、向後破損繕ひ懸替ともに吟味之上可被申聞候、申談破損繕ひ懸替申付橋も可有之候、品ニより右之通之橋は大小ニよらす、以来繕ひ懸替相止候様吟味可有之候、格別成御用之節ハ当分ニ出来可然義ニ候、併其村耕作之為メ向後越夫等之願も不仕、他村なと有之(ニ而)諸材木願不申、自村として破損繕懸替可仕与断申出(村脱)、又は五三ヶ村申合、其所之勝手ニも成通路(用)之為メ、旁所夫として繕等可仕願も有之候ハヽ、委細吟味可被申聞、其趣ニ随ひ差免候様ニも可申談候事

一荒起地自村として随分耕作之隙々ニ起地之普請仕候様ニ可被申付候、万一越夫ニ而なり共起地被申付度村も候ハヽ、委細吟味之上夫積書附等可被差出、可申談候、且亦先規より諸郡共一ヶ年起地有無之目録も正月中ニ被差出候得共其義ニ不及候、起地有之郡其年計前々之通員数目録可被差出候事

一諸樋之類仕替繕之義願出候ハヽ、吟味見分有之候上、

諸入用尤夫積等前方帖書附可被差出候、且亦浦辺嶋方百姓自分築之新開検地有之、高付候共小高之新開不相応之入用願申ニおゐては、品ニ寄不差免義も可有之哉、其段吟味之上可被申聞候事

一浦辺嶋方新開堤、従公儀被仰出候新開所ハ上置・平打之繕ひ、捨石等之入用有之時節委細吟味見分有之候上、入用其外夫積帖・目録被調、前廉可被申聞候、申談候上普請等可被申付候、品ニ寄見分役人ヲも可被差遣、且亦百姓自分築之新開検地有之、高付候分も繕等ニ越夫抔与願申義ニ候ハヽ、高多新開は品ニ寄少ハ越夫可被差免歟、小高之新開ハ仮令大風高潮抔ニ而切れ申候共、越夫被遣候義可為無用候、小高之新開ニ候ハヽ、重而自村として右新開取繕、毛上付候迄は其新開之高無免ニ可被申付事

一右(諸脱)普請越夫ニて相調候程之普請所幷樋木橋材木、其外大工・木挽・釘・鋏・諸材木等も入用有之分者、其品々入用夫積等之帖目録被申付、春普請ニ仕可然候、尤御所務為吟味在郡中(ニ脱)翌春之普請所有之郡々者委細吟味、得斗見分可有之候、勿論不時ニ破損出来候普請は其時々吟味有之、可被申聞候事

一春普請見分其所(前)郡中諸事為可被申付、(旁脱)毎年正月中二月上旬迄之内各出郡可有之候、前年冬積出有之普請所、越夫ニ而出来可申分ハヽ、尚又見分有之可被申付候、少々之普請候ハヽ、御歩行組ニ而も可被付置候、其節之趣ニ随ひ可申談候、先規者今年之普請夫積目録諸郡より毎年春被差出候得共、越夫之普請所無之郡ハ不及其義、越夫ニ而被申付候普請所有之郡目録可被差出事

但、(右脱)郡中早々普請随分自村として耕作隙ニ其村無油断普請仕候様可被申付候、越夫之普請諸入役多、村方難義可仕候間、向後越夫之普請ハ大体之義ニ而者被申付間敷存候、尤郡中夫役等之義者、都而普請所之義ハ委細御勘定奉行中へ申談可有之候、且又万一洪水大風高潮等(品之脱)之変たる義有之時節ハヽ、其趣ニ随ひ各出郡吟味見分可有之候、左様之節ハ其時ニ寄猶又(可)被申談候事

一牛銀・作食米又者郡ニ寄肥し銀等拝借願出候ハヽ、念入吟味有之、書付等可被差出候事

但、御勘定奉行中江得斗示談可有之候、尤右御貸物

之品々相調候上貸渡され候ハヽ、人別受取判形帖被
申付、無相違よふ取立可有之事

一郡中村々苗代之時分取付仕廻等之義被聞合、尤田方植付之時節ニ至候ハヽ、猶又吟味有之、仕廻次第村々ゟ致注進候様可被申付置候、郡中不残仕廻候時分、其段書付可被差出候事

一所々ニ有之候御茶屋御作事繕ひ、其外ニ而も古来ゟ御作事繕ひ等有之寺社・百姓家抔御作事繕願出候節、前廉ニ委細吟味之上可被申聞、尤御勘定奉行中へも示談有之、諸入用之諸道具・諸職人等之義申談可有之候、其節ニ至猶又可申談候事

但、浦辺御蔵所又ハ役屋敷・口屋御番所郡方支配ニ而作事繕ひ等調候分、諸入用之内御銀渡り郡調之分り、古格之趣下方委細吟味有之、御勘定奉行中江示談可有之候、牢屋之作事繕等も右可為同前候、且又御作事繕等之趣ニ随ひ支配之御役人中ニ(も脱)而被遣、棟梁其外諸職人等参り候程之義ニ候ハヽ、御歩行目附・御小人目附之内為見分可被遣候、尤郡中ゟ(入用之脱)諸色人夫等ニ至迄随分費無之、諸入役之吟味可有之候事

一前々郡ニより未進百姓と唱、家田地ニも離レ、右未進米村闔(ニ脱)仕度と願出候義抔有之候様ニ相聞(候脱)、諸郡共暮ニ至一ヶ年限り上納之米銀揃(払)目録被差出、御貸物等之米銀ニも取立目録被差出候、万一郡ニ寄右之品々之内差支候義も有之候得者、其段委細吟味之上願有之、年内ゟ御貸物之米銀品ニ寄御貸被遣候義も有之候、然者未進と申候義有之間敷義ニ候、畢竟村方役人百姓共手前不吟味ニ仕(立脱)、明年貢其外取立一ヶ年限り人別ニ算用相極メ不申、御貸物之米銀抔とも百姓ニ寄不相応ニ貸付有之、第一田畠作物不取散以前取立不申故、右之通之百姓も前々有之歟之様ニ相聞候、向後百姓手前人別ニ庄屋・組頭共ゟ遂吟味、作物之有高をも念入積仕、米穀費成義義[ママ]ニ不取散内、御年貢ハ不及申ニ、郡用之極りタル米銀御貸物等ニ至迄一ヶ年限り取立候様ニ可被申付候、若不届成百姓我儘之仕形ニ而右米銀不納所之者も有之候ハヽ、当分ニ役人共より各江申出候様ニ被申付置、委細吟味有之、不届ニ相究り候ハヽ、下方(より)ニ願申ニ不及、急度家田地をも被取上、其村ニ蟄居可被申付候、右等之様子吟味之趣前廉ニ可被申聞候、其節

ニ至猶亦申談、勝レて不届成者ハ御成敗被仰付歟、又ハ御領内追放被仰付可有之候、右之様成百姓之義ハ各より先達而吟味有之、下方ゟ願出延引有之間敷候、御年貢其外取立等吟味(可脱)有之趣共ハ御勘定奉行ゟ申談可有之事

但、以前郡ニ寄右様成百姓有之候得者、入替百姓共唱太分ニ(之)未進其村江闔ニ為仕、亦外へ参り百姓仕候様成義も自然ニ者多ク有之様ニ相聞候、向後右様之仕形有之間敷事ニ候、且亦其年変ニ而百姓之内不存寄不作仕、或者大病抔相煩、無是非御年貢不足有之者ハ、庄屋・組頭具ニ相改メ、願出候上吟味有之、村中百姓同心仕ニおゐてハ、其不足有之米村中闔ニ仕遣し候様可申付とも之(其)趣ハ御勘定奉行中江示談可有之事

一百姓喰物ニ貯置候木の実・草の葉、時節〳〵無油断念入取立(置)候様可有吟味、尤秋冬各出郡之刻可被申付候事

但、前々者毎年十月頃村々(より脱)帖面差出、目録被相調被差出候得共、向後其儀ニ及ひ申間敷候、百姓喰物ニ仕候物之義ニ候得者油断仕間敷事(ニ脱)候へ共、各より毎(年)事無怠様吟味可有之事

一郡中村々庄屋・組頭為村用与広嶋(江脱)罷出候義諸入役多く入用有之、村方前々不勝手ニ相聞候、不罷出候得者難埒明(者脱)御用格別、其外差向広嶋へ不罷出候様可被申付候事

但、市町年寄・組頭罷出候義も、右之趣を以可被申付事

一若其年之変ニ而秋毛見付ヲ願候様成村も有之候ハヽ、前廉委細吟味有之、可被申聞候、尤日々之義者御勘定奉行中江前廉示談可有之事

一先規ゟ御用之畳表・葛葉・葺茅・榛子(ハシハミ)・煎茶、其外之品ニ而も郡ニより被仰付、尤代銀等も被下候、右之品々御勘定所ゟ可被申談候間、可被得其意候事

一毎年宗旨改帖被取集、正二月迄ニ可被差出候事

一毎年九月宗旨御改之判形帖(等脱)之義、前々之通郡方江被申付、八月上旬ゟ右之帖念入相調、其郡々(之)所々江取集、其役人被相究念入吟味仕候様ニ可被申付候、尤前廉ゟ宗旨奉行中江示談有之、差支不申様ニ可被申付候事

一切支丹類族有之郡者、右判形之時節宗旨奉行中呼出改

〆可被申付候間、是亦前廉より被申合、差支不申様可
被申付候事
一右判形広嶋ニ而相調候郡も可有之、此段も宗旨奉行中
江申談有之、差支無之様ニ可仕趣可被申付事
一切支丹類族預ケ帖之義幷類族生死之節早速注進、尤葬
等之仕方例格之義(共脱)宗旨奉行中江示談有之、念入候様可
被申付候事
一右判形之節各出郡幷広嶋判形之節出席(郡)之義、各之内御
壱人被出合、諸事差支不申様可被申付置候事
但、先規右判形之節各不残出郡候へ共、御壱人宛ニ
而相済可申、其段宗旨奉行中へも前廉ニ可被申談
候、且亦右判形之節諸入役等多く入不申様吟味可有
之事
一鉄炮持主死失之節注進之義幷跡願等之義、是亦鉄炮改
奉行中江示談有之、念入可被申付候、猟師鉄炮之義ハ
猶又前々ゟ被念入候義ニ候間、其趣右奉行中江委細示
談可有之事
但、右注進・跡願等之義ニ付、遅速之品ニ寄村方諸
入役費(之脱)有之様ニ相聞候、其趣下方吟味有之、右奉行
中江被申合、其費之義無之様ニ可被申談事
一年中相極り郡中江触可被遣候品々、凡左之通之事
正二月頃
火之要心触
三六月
宮嶋市立之触　但、火要心触共
七月
辻相撲・辻躍之触
七月
御年貢御納所不相済以前新米為自分用売申義停止
之触
十月
仏前餝物・斎非時軽ク可仕触
十月
火要心・市町自身番・火消道具改之触
十二月
年内正月砌之義倹約之触
但、右之品々之御触以前ゟ大概毎年有之候間触可
被遣候、其時節被相考触可被遣旨前廉可被相尋
候、其節猶亦可申談候、右触状各支配限り諸郡江
飛脚可被遣義、御小人之入用大分之義ニ候、諸郡

共一同ニ差極(タ)メル御触事は前廉より日限被相究、其触状各ゟ御勘定所江可被遣候、左候ハヽ、諸郡順路能飛脚之御小人数多入り不申様ニ御勘定奉行中被申付、郡々之郡元市町江遣可被申候間、右触状も各支配之郡元市場迄認メ被遣、右之所々ゟ郡中ヘ触出候様ニ可被申遣候、其外御年貢相場替り候触、其外ニも諸郡一同之御触書ハ飛脚之仕形右ニ准御勘定所迄可被遣候、且亦郡方より各江差出候注進書・願書・被差免(急)候書附等持出候飛脚之仕形御勘定奉行中ゟ可被申談候間、村方費無之様吟味可有之候

附、右御触之内火要心・市町自身番・火番・火消道具改等之義者其郡之御歩行組

但、十月出郡之序ニ改、具ニ見届帖をも取り候様ニ可被申渡(可申渡候)事

一諸職人改出シ(者脱)亦消印等古格之趣御勘定奉行中江帖面印形之義申談可有之事

一諸郡柿ノ木高百石ニ付接木五本ツヽ、毎年仕候様ニ村々江申付可有之事

但、御献上物之内ニ而西条柿之義ハ勝レ而御国之名物故、古来ゟ殊之外被入御念候事ニ候、其上村方ニ(之)勝手ニも相成候様ニ相聞候間、無怠吟味可有之候、且亦サワシ柿仕候者通り札差出可申候、其節村方江可被申付候事

一長崎御奉行・公儀御代官、其外公儀御役人陸御通、亦者御金銀通之節ハヽ、諸色只今迄之通各支配郡々前廉吟味有之、様子被聞届候上、諸事差支無之、諸入役等多入用無之様可被申付候事

但、右之時節品ニ寄各出郡可有之哉、又ハ御歩行組之内出郡可被申付哉、其節ニ至可申談、且亦御金銀通之時ハ御馳走被仰付候所々も(可脱)有之候、其段前廉ゟ村方吟味有之、御勘定奉行中江被申談、差支なく費も無之様ニ可被申合事

一御大名衆陸路御通行之節ハ各之内御壱人御出郡有之、人馬其外諸色是亦前々之趣共ヲ(以脱)支配之郡々ニ而前廉吟味有之、其節ニ至諸事無差支、諸入役も多く入用無之様ニ可被申付候事

但、右二ヶ条之御大名衆・長崎奉行其外公儀御役人

陸路御通之節、道筋之取繕(儀脱)亦ハ御泊・御昼休之所々
宿構(拵へ)、或者旅籠、其外寄人馬之義ニ付郡ニより前々
大分物入有之、郡割等多く候郡も有之様ニ相聞候、
御領内駅所之内御泊・御昼休所之様子、其外寄人馬
等之義諸郡一同ニ無之候而ハ品ニより無益之義も有
之、又ハ差支ニ成候様成義も可有之候間、前廉御勘
定奉行中江示談有之、右之品々諸郡一同之趣ニ可被
申談候、品ニより御歩行目附・御小人目附之内壱人
宛御領内御通之内諸事為見分可被差出候事

一就御用侍中幷御歩行組・御鷹方之面々其外末々迄出郡
之刻、旅籠又ハ伝馬等之義郡方費ハ無之様、御勘定奉
行中江可被申談候、右之面々出郡之節、旅籠・伝馬等
之義度々各江可申達候間可被申付候、勿論御勘定奉行
中より申参候品も可有之候事

但、旅籠代・伝馬賃銀等村方ニ手形請取置、一両月
程宛ニ而御銀相渡候様御勘定奉行中江可被申談候、
尤右之義郡方江被(申脱)遣候飛脚も不差急義(ハ脱)幸便ニ成共被
申遣候、郡方より右之御銀受取之義費無之様ニ申談
可有之候事

一寺方後住・剃髪願之義願書出次第吟味有之、可被申聞
候事

一寺社幷医師、上方其外他国江罷出度願出候ハヽ、可被申
聞候事

但、故有之者之内参り候品ニより京・大坂御屋敷番
中江御郡代より添状可被遣候、尤江戸江罷越候節同
断ニ候、添状之趣其節可被相尋、可申談候事

一市町年寄其外役人、村々庄屋・組頭之内無拠子細有之
歟、或ハ病気ニて湯治等仕、上方其外他国江罷越度願
出候ハヽ、委細吟味之上参不申而不叶趣有之候ハヽ、
病気等之義も見分之上〔者〕ニ而も被遣候〔上〕故書附可被差出、
可申談候事

但、右之者共他国江参候義軽々敷被遣候義可為無用
候、耕作之怠りニも相成、前々自然者於他国不慮之
義抔有之ハ郡村方之費ニ成候義も相聞候、若被遣候
もの有之節、右之類も品ニより京・大坂御屋鋪番中
江添状入申義も可有之候、且亦家職商売抔之義ニ付
右之通他国江参度段願出候ハヽ、其段ハ具ニ吟味可
有之事

一郡々之者共内他国江引越申度願出候ハヽ、委細吟味之
上願書可被差出候事

一百姓・町人等之類家職之義亦者商売等之義ニ付他国江
罷越度願出、不参候得者難埒明義も候ハヽ、其所之役人
共具ニ吟味仕、日数員(数)段相極メ承届(差脱)遣シ、其以後書付
各へ差出候様可被申付置候、其外伊勢参宮亦者上方江
罷越、或ハ所々江湯治等仕度与申者有之候ハヽ、不差
急義ハ市町村方役人共ゟ各江願書差出候上具ニ吟味有
之、無拠義ニ候ハヽ、可被申聞候事

但、前ケ条之通ニ候間無拠義者格別、大概(形)之義ニ而
者他国江不参様ニ常々可被申付置候、且亦本百姓分
末々之者共男女ニかきらす抜参宮仕候者古来ゟ有之
候、左様之類村方役人随分心ヲ付常々吟味仕候様可
被申付候、夫共抜参宮之者共有之村ハ往キ帰り一ケ
月限りニ成共書附相調、役人共方ゟ各へ差出候様可
被申付置候事

一寺社方百姓町人工事等之義、目安差出候ハヽ、吟味之上
可被申聞候、其上ニ而返答書(を脱)も被申付候様可(被脱)申談候、
双方吟味有之、当分ニ理非も決断相済申義候ハヽ、埒明
可被遣候、若亦下方ニ而事済、宜者軽重ニ不限内証ニ
て取噯候様ニ被申付可然歟、其趣追而委細可被申聞候
事

但、寺社方ニ而候共出入之品ニゟ委細吟味有之上、
御国法ニも被任、御領内御追放も可有之哉之節、猶
又可申談候、且亦庄屋・組頭へ対し百姓共算用合之
工事等出来申候ハヽ、御年貢其外取立之諸帖ヲ以百
姓人別之下札与引合、吟味有之候ハヽ、算用合之義者
埒明可申候、右品々帖面之類相対貸借之米銀入組有
之候ハヽ、庄屋・組頭とも口入米銀ニ而候共、相対
借之義理非付被遣候ニ者及ひ申間敷候、右品々帖面
之御年貢御貸物其外郡用へ懸候米銀皆済仕候以後精
ヲ出、自借之米銀も相対を以返済可仕候、尤貸主も
右之心得ニ而受取候様ニと申付可有之候、勿論百姓
人別一ケ年限り差究メ皆済可仕、米銀算用合不吟味
ニ仕置候村、右之様成公事(も脱)前々有之趣ニ候、御年貢
・御貸物其外郡用之米銀等相究メ、取立候義公事沙
汰ニも不成様村方役人可入念旨常々吟味可有之候、
且亦田畠山林境目等之公事出候ハヽ、委細吟味之上

其所をも見分有之、事済候義ニ候ハヽ、埒明候様ニ支配可有之、品ニより嗳候様ニも可被申付候、右品々公事之内悪心を構不届至極之者者急度御成敗も（可脱）被仰付候、常々下方ニも左様相心得居申候様ニ有之候ハヽ、公事沙汰ニ取結申義格別大事ニ存、村方役人諸事之取立常々之支配念入、百姓共も役人ヲ疑申心止ミ候様ニナリ候ハヽ、公事沙汰余り申間敷事

一郡中市町之年寄・組頭、村方庄屋・御茶屋番・宿送・惣山守、右之者共役義願又ハ差替等被申付候節吟味有之、跡役等ニ可被申付候人をも撰有之、其趣可被申聞、且亦村々組頭等ハ各吟味次第差替可有之事

一百姓・町人御城下又者他郡江引越住宅仕度願出候ハヽ、委細吟味之上双方より願書出し申候而突合候ハヽ、其趣ニ随ひ可申談候事

一郡中村々若火事有之候ハヽ、焼失之家数桁粱又ハ百姓持高等書付、出火之様子も委細注進仕候様ニ被（可）申付置、左様之節ハ早々可被申聞候、火元之者共ハ一家共江被預、追込可被申付候事

但、御城下近在之所々火之手も相見候様成義ニ候ハヽ、各之内早速御壱人出郡、諸事支配可有之、たとへ火之手相見へ候共、小火ニ候ハヽ、出郡ニ不及候、委細村方ゟ早々注進仕候様ニ常々被申付置、注進次第可被申聞候、且亦市町有之所々出火之刻、火防之手当近村者共翔付候様ニ究有之村も有之由相聞候、若左も無之所ニ者下方吟味之上近村ゟ翔付、火を防候手当之人数可被申付置候、勿論市町之内駅所抔焼失仕候ハヽ、当分早く（ニ脱）小屋掛等ニ而も仕候様ニ可被申付候、其節ニ至尚又可申談候事

一他国沙汰之義何事ニよらす変たる義承及候ハヽ、虚実者不苦候間早々注進書付差出候様ニ可被申付候、注進次第可被申聞候事

一往還通り旅人病気之者節只今之（迄脱）仕形、郡方ニ而吟味有之、宜様ニ支配可被申付置候、左様之義有之節ハ可被申聞候事

但、御隣国之者抔ニ而候ハヽ、遂吟味、分明ニ候得者、其者之在所へ品ニより村送ニ而戻し候様ニも、兼而下方へも可被申付置候事

一御領分之者於他国ニ煩候歟、又ハ病気等之義ニ而先方

ニ而之趣申来候歟、或ハ相知レ(ラシ)申義も候ハヽ、早速注進仕候様被申付置、其様子委細可被申聞候、其趣ニ随ひ先方へ一礼申遣候品も可有之、其時ニ至猶亦可申談候事

一郡ニ寄盗人徘徊仕候義も有之、百姓共難儀いたし、時節ニ寄耕作之障ニも相成候様ニ相聞候、夫ニ付近年も番組之者ニ革田相添御廻し被成候郡も有之候、(向後脱)盗人等少ニ而も徘徊之郡ハ早速ニ注進仕候様ニ堅ク可被申付候、番組ニ革田相添被(可)遣候、若盗人搦捕拷問之上盗人ニ相極り候ハヽ、即日御成敗被仰付へく候、尤村方ニ而盗人搦捕候者も有之候ハヽ、何者ニ不限御褒美可被下候、常々其段可被申聞置候事

但、自然盗人捕候村も有之候得者其村之入役ニ相成、(ニ脱)難義存見遁シ仕候村も少々有様(之脱)ニ相聞候、自今右入用之分ハ委細吟味之上不残御銀相渡候様可被申聞置候事

一郡中村々ニおゐて善人悪人之義常々可被心付義専要之事

右者先規之趣、且亦当時御用之筋も無滞、郡方諸入役等も多く入用無之様ニ申談候上、差当り候品々如此候、郡ニより紙面ニ成(拠)候義共も可有之候、其段ハ追々可申談候、勿論御貸物類之義ハ不及申、其外諸入役等都而米銀懸り之義、亦ハ御納所之時節(も脱)各出郡之義等者御勘定奉行中ゟ示談可有之候間、猶亦各ゟも可被申談候、常々郡中費無之様ニ吟味有之、百姓家業無油断耕作情(精)出候様可被申付候

享保三戌年　[郡代]井口惣左衛門

六月　[郡代]御牧源太夫

高田
高宮郡所務方并勘定方覚書

一御蔵入・明知方先規之通土免ニ被仰付候村々御考免組、被念入可被相極候事

但、村々御年貢取立之義、早稲方より晩田ニ至迄収納所(割)御申付、急度御取立可有之候、収納日限相違不納所之百姓も候ハヽ、当座〳〵ニ被遂吟味、米・雑穀共取散し不申内御取立可有之候、尤雨天続候歟、又ハ麦蒔付之時節之(其)外格別之子細等有之、収納日限違之村も有之候ハヽ、其趣猶亦吟味御聞届可被遣候、

早稲・中晩共村ニより田畠多少（之脱）可有之候、其段御吟味収納割御勘弁可有之事

一見立（取）新開有之村者御吟味之上御年貢可被取立事

一高田郡御年貢之内所払翌年江越上納仕ル儀者、広嶋江道程遠ク年内ニ津出成兼、亦は雪深之村も有之、秋作物早ク取上ケ不申候得者、若雪押等ニも当り旁以年内御年貢払切難成、其上石州境之村近辺ニ者折々鉄山抔も前々より有之、飯米入用彼是ニ付翌年迄御残被遣候、翌年三六月限上納仕候義先規格（之脱）ニ候、右之通故所払之米者所蔵（江脱）不残納置申義先格ニ而候、其段被遂吟味急度納置候様ニ可有御申付候事

一村ニ寄畠多キ村は畠高多ク持候者も可有之候、左様之百姓は麦作（麻作脱）・夏作・秋作等之代銀を以御年貢上納仕候義も可有之候、早々庄屋・組頭委細吟味仕、御年貢取立之義無遅滞様可有御申付事

但、高田高宮郡者（共）川筋之村々ハ御材木并御用薪伐出し、其外炭焼出等仕候村も有之、左様之山林浮（抔）所務ヲ以御年貢上納仕村ハ是亦被付御心御吟味、御年貢納所遅滞不仕様可有御申付候事

一高田郡所払之内并津出米等之内も為替米与唱、壱石ニ付何斗何升と歩米を添（相脱）、請合申ものへ相対を以米渡揃（掛）、御年貢ハ仕廻申ス心ニ仕、右受合之ものゟ御年貢仕候義も前々ハ有之趣ニ相聞候、今以左様之仕形抔有之候ハヽ、委細御吟味、御勘定所へ御申聞可有之、可申談候事

一御用米ハ不時御用之為御残置被遣候、只今迄御用米残米村々被遂吟味、余慶残不申様米之員数前広（廉）御勘定所江書附可被差出候事

一御蔵入・明知方村々免割帖各被遂吟味、少ニ而も無益之物免割江入不申様御申付有之、免割帖翌年正月中ニ御勘定所江可被差出候、御貸米銀有之村々者右帖之奥へ書記シ申様ニ御申付可有之事

但、先規者村々諸入役帖諸郡ゟ被差出候得共、免割帖出申候へ者諸入役帖被差出候ニ不及、免割帖仕立之義被遂吟味、三次往還筋亦ハ奥筋・中筋・川筋有之所ニ而三ケ村程宛村々へ御申付、免割下帖初秋御勘定所江被差出候ハヽ、不審之所付紙ニ而相尋可申候、其上ニ而帖面御究サセ可有之候、尤高田郡者村

ニゟ津出・所払共欠米多ク入申村も可有之候間、其段御勘弁、員数之御吟味御申付可有之候事

一郡中江懸候郡割銀者、御蔵入・明知・給知共江懸り申候得者其郡割銀帖壱通り、又御蔵入・明知方計江懸り申郡割帖壱通り、各御吟味之上帖面被究、奥書銀高等ニ御印判ニ而被相渡、村々取立候様ニ御申付可有之事

但、郡割帖之月々究メハ、前年霜月より今年ハ十月晦日迄を限り帖面相調候様可有御申付候、郡割帖御申談相調候義者、郡中之庄屋五七人被相究御申付可有之候、いつれ之村々庄屋(可脱)被申付候段前廉より御申聞可有之候、尤免割帖一同ニ郡割帖も御勘定所へ御差出可有之事

一一ケ年分夫割帖一村限り庄屋手前ニ帖調置、たとへハ高百石ニ付夫高何百人与先ニ定メ置、銘々百姓持高江其夫高之人数ヲ人別ニ割懸、帖面相究メ、所夫過不足無之様夫役相勤させ、夫不足米ニ而ハ取遣り堅ク不仕様ニ御申付可有之候、無拠子細有之、所夫出不足之分米ニ而取遣り仕候分、各御聞届之上被差免候段御勘定所へ御申聞可有之事

但、往還筋其(之)村又ハ居村之普請所多キ村ハ所夫入用ニ高下可有之候、其段可被吟味候、耕作之隙ニ所夫ニ而普請相調候様ニ可有御申付、普請帖出候分夫ニ及申間敷哉、其段御勘弁次第可有御申付候、他村より越夫被遣候義殊之外難相調義ニ相心得候ハヽ、存之外所夫ニ而普請能仕候様相聞候事

一郡中事立候普請所越夫ニ而無之候得者相調不申程之普請所有之候ハヽ、御勘定所江御申聞可有之事

但、掛(越)夫ニて調不申候へ者難成普請者(所脱)、前年冬ゟ村方ゟも申出、各見分之上委細御申聞可有之候、申談其上ニ而普請所夫高等も被究、翌年春普請相調候様可被申付候、越夫之普請ハ郡中之費多く村方難義可仕候間、不時之義ニ而ハ越夫之普請御申付有之間敷事

一右之通大概免割可(ニ脱)入品之米銀共十月中ニ吟味御究、霜月中旬迄ニ免割帖相究候様ニ被申付、其帖村別奥書米高等ニ御印判ニ而可被遣候、尤御年貢皆済ハ極月へ入可申候間、諸欠米其外入用米も可有之義ニ候、其分ハ荒増員(米脱)数を積り免割帖へ入(置脱)、翌年正月欠算用差引仕

候様可有御申付候、若年ニ寄格別之子細有之、免割帖相究以後割ニ可入米銀有之候ハヽ、右之免割帖之奥へ追割之分被成御書入、御印形ニ而可被遣候事

但、庄屋・組頭等右奥書御印形之帖を以念入割掛（賦）仕、百姓共へ人数（別）ニ下札調遣し、取立候筋不審無之様ニ仕、下札（之）も外少ニ而も米銀之割不仕候様ニ急度御申付あるへく事

一御貸有之村者借主人別判形帖被申付、下札人別之奥書へ記し取立候様ニ御申付可有之事

一右欠算用帖翌年正月差引相究候ハヽ、前年御印形ニ而被遣候免割帖ニ相添村々ゟ各へ差出、御見届相違も於無之ニハ、欠算用帖ニも奥書御印形ニ而右免割帖一緒ニ村方へ戻し可被遣置候、自然後ニ至算用合之公事沙汰出申候時節（者脱）、右帖面証拠ニも成可申義ニ候間、被入御念候義肝要ニ候事

但、高田郡所払有之村々ハ御年貢皆済翌年中勘定迄ニ相済申事ニ候間、翌年六月所払等之勘定も仕廻以後欠算用帖差引相究差出候節、其帖面も奥書御印形被遣候義ハ年内払切之村同前ニ可有御心得事

一村々麦見分帖差出申ニも及申間敷哉、然共其年之麦毛上一通ハ御見分之為ニ候間、御両人二手ニ一遍御廻郡可有之事

但、先規ハ麦帖・麦目録被差出候へ共御差出ニ不及候事

一御年貢米納所之義御支配（差問）之時節ニ候間、随分早稲方より御蔵々江納所御申付之義専要（肝）ニ候、秋之彼岸前より各御壱人ッヽ御代り合御出郡有之、御納所収納等之吟味御申付可有之候事

但、御蔵々江御年貢上納仕候義、定日五三ヶ村程ッヽ隣村申合納メ可申歟、左候ハヽ、米払之者共委細被遂吟味、於御蔵々御納所之義ニ付若支配（差問）之義も有之候ハヽ、御勘定所江早速御申聞可有之候、御蔵方をも承合可申談候事

一御年貢差次米之義、差次仕候村方勝手ニ成申義も可有之候ハヽ、其段御吟味御申聞可有之候、申談之上差次之員数相究り可申候、村方勝手ニ成申道理も不分明ニ候ハヽ、米上納ニ仕、差次多無之様可有御心得事

但、畠多キ村又ハ山挊等之浮所務を以差次仕候村々

者、其段前廉御申聞可有之候、差次いたし候仕形可
申談、(前々脱)自然者村方役人共町人と申談請合(之)其差次等有
之、疑敷訳も相聞候、向後ハ差次之仕様御勘定所江
承合可申談事
一御年貢納り帖・納り目録被差出候ニハ及ひ不申候、払
目録迄御差図可有之事
但、先規者納り帖・納り目録(郡々より脱)被差出候へ共、払目録
ニて済候間其義ニ不及候事
一厘米取立之義、秋冬ニ至例之通御取立可有之候、其内
宿送・山守等給米例格差次来り候分ハ格別、其外者随分
春越無之様可被遂吟味候、給知(江も)下ニ懸り申義ニ候間、
取立念入候様可有御申附候事
但、右勘定帖ハ翌年六月中勘定之節一緒ニ御差出可
有之事
一郡中諸用村々ゟ広島へ飛脚差出候義、諸入役之費可有
之候間、吉田町・可部町両所ニ役相究被置、郡中之諸
用不差急願又ハ注進書付等右両所江差出、一ケ月六度
程ツヽ、兼而日限被究置、郡中之諸用書附取集吉田町ゟ
飛脚差出、勿論可部町ニ集り(申候脱)居書付等も右飛脚立寄、
一緒ニ仕広嶋江持参候様可有御申付候、右飛脚参着之
日を御考置、早速埒明可被遣候、其外之義急ニ注進仕
候義ハ、其村より直ニ広嶋江注進仕候様ニと兼而被申
付置候、広嶋ゟ郡中村々江御申遣候義も、不差急義者
吉田町より之戻り飛脚便りニ吉田町又ハ可部町迄被
遣、夫ゟ村送ヲ以相届候様ニ御申付置可有之候、不時
急御用(者脱)広嶋より直ニ飛脚ニ而御申遣り(シ)可有之事
但、川筋其外広嶋近方村々より吉田町・可部町へ右
之諸書付差出申義不勝手之村ハ、勝手次第直ニ広嶋
へ注進仕候様ニ可被申付候、且又各ゟ郡中一同触被
遣候触状等も吉田町・可部町迄被遣可然候事
一中勘定又ハ御年貢払切勘定其外上納之米銀等有之、不
罷出候得者埒明不申時者、御吟味之上村々役人共之内
広嶋江罷出候様可有御申付候、其外軽キ御用抔ニ役人
広嶋江罷出候義殊之外諸入役之費可有之候ニ付、常々
ハ堅ク広嶋江不罷出候様ニ可有御申付、不差急村方用
者各出郡之刻、郡中ニおゐて御聞届相済候様ニ御心得
可然事
但、右勘定等ニも近村五三ケ村程ツヽ申合、役人壱

人広嶋へ罷出事済候義者、其段御吟味之上兎角人少ニ罷出候様可被申付候、尤夏秋上り之諸役銀も前廉ニ取集メ置、役人少ク広嶋へ罷出、埒明候様可有御申付事

一右ケ条之通、御年貢諸欠又ハ郡割之米銀其外諸入役、或ハ夫役普請所等随分費無之、常々吟味御申付可有之候、第一村方算用方之義者後々ニ至候而も疑無之様ニ堅ク御詮義可有御申付、郡中公事沙汰ニ及候義、前々ゟも算用合之義、或者田畠・山林境目等之公事多く候様ニ相聞候、公事沙汰ニ及候時ハ其村ハ不及申ニ、近村迄も痛ミに成申候、御所務方之根元ニ候、其段御勘弁可有之事

一諸運上銀品々時節無相違被取立、上納切手御取立〔置〕并御貸米銀も定之時節御取立、右いつれも勘定帖翌年二三月之内可被差出候事

但、御貸米銀取立目録者払目録と一緒ニ極月御差出可有之事

一御用餅〔糯〕并大豆郡々割賦、御勘定所ゟ書附ヲ以可申達候間、村々割賦有之、蔵々江上納仕候様可有御申付候事

但、右両様共村方江割賦御申付之趣、前廉御勘定所江御申聞可有之、可申談候事

一前年分御年貢皆済帖并其年分壱歩〔米脱〕・小物成・諸役銀等品々勘定帖、毎年十月十一月之内御差出可有之事

一郡中村々差出帖各江御取候ハヽ、前廉御勘定所江御尋可有之事

右先規之通遂吟味、当時諸入役減申候様ニ各へ可申談旨就被仰付、差当り候趣如斯ニ候、猶又紙面ニ洩候品者追々可申談候、以上

享保三

戌六月

〔勘定奉行〕服部平馬〔助〕
〔勘定奉行〕松野弥一左衛門
〔勘定奉行〕西川文右衛門
〔勘定奉行〕足立善左衛門
〔勘定奉行〕青木弥太夫
〔勘定奉行〕服部金左衛門

〔高田・高宮郡代官〕佐藤五兵衛殿
〔高田・高宮郡代官〕龍神助右衛門殿

高田
高宮郡

一御年貢方
右当六月中勘定之義、去暮払目録を以中勘定建り、例格之扣帖ニ而御見合可被遂御勘定候事
一春越ニ相成所払并御用米之内当春以来払方有之分、御吟味次第ニ中勘定可有之（可被立）候、并此以後御取立勘定建り之分左之通
一高田郡所払　三月六月両度取立
一（脱）御用米払残、六月（ニ脱）米銀之内百姓勝手次第上納仕候様ニ可被仰付候事
一去年分郡方ニ而払（候脱）御小人札御年貢立ニ相成候間、早々御取建集メ御勘定所江御差出可有之事
右中勘定色々之払凡如斯候得共、此外ニ有之候ハヽ、御吟味払方勘定ニ御立可被成候事
一高田郡御年貢所払之内作喰御貸米之利（元）、当九月米銀之内勝手次第上納ニ御申付可有之候
　但、此皆済勘定帖十月十一月迄之内御差出可有之候
一種米元御貸居ニ相成候ニ付、六月勘定ニ立候様ニ差紙差出可申候
一種米元御貸居ニ相成候ニ付、御年貢ヲ離れ（し）御貸米ニ相成候、仍之新明知種米御貸替も此以後者御米蔵渡り差紙を以払替候様ニ可仕候、左候ハヽ、例年春越御用米之内ニ而有之候、種米御貸替之心当ニ残置之分当暮ゟハ減少ニ候而、御用米御残候様ニ勘弁所払有之所ハヽ、右貸替之分程ハ三月取立増候様ニ御吟味可被成候事
　附り、諸樋之類入用之大工・木挽作料、其外品ニより御用米之内ニ而払来候へ共、去春以来者右之類当分御銀渡り相成候間、此等之類も御用米高之内減候様ニ可被遂吟味候事
一種米御貸居ニ相成候ニ付、利足米之分只今迄之通米銀之内勝手次第九月御取立可被成候、勘定ハ翌春外御貸物并（並ニ）勘定帖御差出可被成候
　但、只今迄ハ利足三割ニ而候得共、当年ゟ弐割ニ相成候事
一厘米之事
右去暮当春以来取立残り之内、例格払方勘定ニ立候分御吟味残り米之分、米銀之内百姓勝手次第六月御取立、同月勘定可被遂候、尤例格之勘定帖扣ヲ以御見分可被成候

但、只今迄ハ春夏上納ハ銀取立候へ共、此度ゟ右之
通被仰付候

一御貸麦之事
右古格之通利足麦も〔之〕相場御勘定所ゟ申参次第銀子取立
上納可有之候、元麦ハ郡中麦蔵江納置、其年九月十月
頃又ハ翌春村方ゟ願出次第御貸渡、利足定只今迄之通
御申付可有之候、郡村ニより元麦ハ御貸居抔与心得
居候様ニ相聞候、御貸居ニ而ハ無之、毎年右之仕方ニ
而候、其心得可有之候、此義追々御相談可申事
但、年内ゟ御貸麦者利足弐割、春ゟ御貸麦利足壱割
之定メ

諸役

一小物成　六月九月両度上納
一鹿雉子鳩札　六月上納
一竹代　右同断
一諸職人水役　六月九月両度上納
但、諸職人水役帖古格之通改出候分、御勘定奉行印
形并消印、御郡代・御勘定奉行印形御取可有之事
一鉄炮札役　六月九月両度上納
一壱歩米　右同断
但、米銀之内百姓勝手次第上納之筈、以前六月ハ銀
上納ニ候へ共、此度ゟ右之通被仰付候
一右之通勘定帖十月十二〔一〕月迄之内御差出可有之候
一当御年貢米秋冬ニ至御取立相済候上ニて、払目録十二
月上旬ゟ中旬迄之内埒明次第可被差出候、尤委細之義
者追々可申談候事
一当厘米七厘懸り被仰付候、当秋冬ニ至御取立之仕形、
例格御差次物ハ格別、其外取立候分ハ随分年内上納仕
候様ニ御申付可有之候、尤春越米多く無之様ニ兼而吟
味可被遂、暮ニ取立目録出不申候間〔付〕郡々〔ニ〕ゟ年内払勝手
次第〔之〕ニ候様ニ相成、払方多ク無之候、此段可被相心得
候

諸運上

一船床役　極月上納
但、例年十一月頃御勘定所より根帖参り次第御取立
可有之事
一鍛冶鋳物師炭、紺屋灰運上
但、例年十一月頃御勘定所ゟ根帖参り次第御取立可

有之事

一割木・炭船運上

　但、御勘定所ゟ根帖参次第度々取立上納可有之事

一諸御貸物之類、先郡御役(所脱)ゟ仕出扣書ヲ以夫々返上之時節御見合、無滞様御取立上納可有之事

　但、取立目録極月ニ御差出可有之事

右運上・御貸物者前年分翌年二月三月ヲ限勘定帖御差出可有之候、尤御貸物之類当分借状戻り埒明分ハ春勘定ニ不及候事

一高田・高宮両郡諸勘定、此以後者古格之通勘定帖結ひ候而御差出可有之候、其内去年分御年貢・厘米ハ只今迄之取立諸切手等有之候所、当中勘定ゟ結ひ候而者紛敷可有之候間、此両品先ツ当年ハ去年迄之格ニ一郡限り別帖ニ可被成候

　但、当年分之御年貢米・厘米・御貸麦・諸役・諸運上・御貸物等之諸勘定者、(ゟ脱)当年古格之通両郡結ひ可有之候

一村々給人免帖翌正月中村々ゟ御取集メ、御蔵入・明知・給知共ニ郡中免帖壱冊ニ御調、三四月迄之内御差出可有之、猶又此義者追々可申談事

一上ケ知・隠居諸渡り百姓分ケ之鬮取帖早々差出候様御申付、帖出次第帖面ヲも被(以)遂吟味、各宅ニおゐて給人衆家来出合鬮取御申付可有之事

　但、鬮取済次第水帖調、給知方へも差出候様ニ御申付可有之事

一新明知之分給人ゟ被貸置候種米・牛銀・作喰等之類、種米者御貸替ヲ以相済申候、牛銀・作喰等之類無滞致返弁候様ニ御吟味可被仰付候、若知行高ニ不相応成大分之貸物等有之候ハヽ、村方ゟ給人江相断致返弁候様、又ハ年賦等ニなりとも筋を立、幾(歳)々無相違致返弁候様ニ御申達し可被成候、尤年貢等之未進ハ御聞届ニ不及候事

右之品々御取立等之義前廉ゟ日限御究メ被仰付置、夫々時節無遅滞無之(遅滞無之)様可被成候、右ケ条之内差当り急務之義有之候間、為御心得先大概之趣書附如此候、尤只今迄之取立物、先所務役人ゟ差出候諸切手帖・目録等御吟味被成、并此以後御取立物之義凡此紙面之通ニ御心得、又ハ古格之筋ヲ以夫々之仕形共御吟味可被成候、其趣ニより

追々御申聞候ハヽ、猶又其時分可申談候、以上

〔享保三〕
戌五月廿一日　　　御勘定所

〔高田・高宮郡代官〕
佐藤五兵衛殿

〔高田・高宮郡代官〕
龍神助右衛門殿

諸毛見附之覚書

一村々(ニ)ゟ其年之変ニ而秋毛上相違有之、見付を願候村も有之候ハヽ、鎌留被申付、御勘定所江御申聞之上、稲毛早稲方ゟ念入、庄屋・組頭・村中百姓立合下見(帖脱)相調候様可有御申付候事

但、早稲ゟ晩田迄下見帖段々ニ念入相調、見合不済以前少ニ而も刈毛不仕候様御申付可有之候、且亦給知入交り之明知村ハ刈毛之吟味可有肝要候事

附り、見付ニ相究り候ハヽ、村方役人并中見之者誓詞御申付可有之事

一稲毛之下見帖者九段ニも十段ニも取分候様可有御申付存候、其内成次第段数少ナ(無数)之方可然候、尤合穂見概之段取不仕様可有御申付候事

一早稲・中田者無別条、晩田毛ニおゐて(至而)(若)右変も有之、尤晩田畝数多キ村故無拠見付願候ハヽ、早稲・中田之畝数并有米等御吟味被入御念、早稲・中田下見帖之合穂ニ上り懸り候合穂御吟味可有之事

但、早稲・中田過半刈上候以後、残毛上ニ而見付願申義者無之義ニ候、然共右之趣之村抔願申候ハヽ、可有御申聞候、見附ニ極り申義可申談候、且亦早稲・中田之下見帖、尤合穂之升付ケ等常々見合念入候様ニ、御支配之番組并村方役人共へも御申付之義可為肝要候、右之通変有之年ハ本見付同前ニ早稲・中田之合穂升付ケ有米(ニ脱)用ひ申ニ而可有之候間、其御心得ニ而毎年被入念(可被入御念)入候事

一屋鋪高・畠高之分へハ見附ニ成候共、其年之土免江掛り御年貢納所可仕候事

但、畠高者麦作・夏作・秋作共大方ハ三作之もの故、先規ゟ其年之土免ニ懸り候事

一村ニより古荒・川成之闔高多キ村、土免之年者右之闔高荒起之分も隠シ居申候へ共、見附之年者毛付畝高、其外古荒川成之闔高も被遂吟味、御考之上或者半分又ハ三歩一、見附年者起高ニ成合穂懸申義古格ニ而有之事

(一脱)右見附願申村下見帖相調(候脱)田畑之畝は検地帖之畝ニ而調候様可有御申付、若亦前々御代官中或ハ外御役人中ニ而も罷出、見分之上地坪有之村ハ、其地坪之帖面畝ニ而も不苦(候脱)、下方ニ而郡々(之)庄屋幷役人迄ニ而地坪仕候村抔者、其帖面之畝ニ而ハ御申付有之間敷候、検地之畝ニ而見附可有之事

一右之通見附ニ極候村、下見帖出来之上早速御見合可有之候、見附之升ハ仮令ハ下見九段目者其段之内三段歟五段程合穂之升付可有之歟、其上ニ而村中有米之都合四歩六歩ニ分ケ、六歩米御年貢ニ成候義先規之格ニ而、其外屋敷高・畑高ヘハ其年之土免懸り、御年貢納所可有御申付候事

但、前ケ条之通古荒・川成御吟味之上、起畝ニ成候分ヘハ中分之合穂懸り可申事ニ候、若皆損之畝多く取申候ハヽ、具ニ御見合之上皆損之有無可被相究候事

一見附ニ成候村、其年之土免ニ高ニ付三歩迄之内下り候分ニ而ハ見付物入ニも不足有之、下方之役人尤百姓共不了簡我儘之願故、其村々役人不届ニ被仰付候事先規之格ニ候事

但、見付之趣ニ随ひ少々変ニも前々見付願出申様ニ相聞候、前ケ条之通見付之格村方ヘ申聞置候ハヽ、少々之義ハ見付願出申間敷哉之事

一以来見附之村も有之節ハ、御勘定所ニ而も見附見分之御役人中可被差出候事

右先規見付之格大概如此ニ候

(一脱)見付願之村下見帖出来之上、合穂有米と稲毛上之趣とを御見合、屋敷高・畠高江其年之土免掛申、有米彼是ヲ以御考ニて、稲毛下見帖ニ見付之升之上り懸可申、大概ヲ以(者)毛上ニ而見ヘ申様ニ前々ゟも相聞申候、又ハ皆損之畝多く御座候村抔ハ、皆損見戻し米幷起畝有米等(ヲも)ヲ以も御積合、高見付之升御見分ニ不及、大形ハ岡見之積りヲ以免下り候様子知レ可申哉、左候ハヽ、岡見之免下りニ被申付候而も苦カル間敷候、然ハ村方無費(ニ脱)可有之哉、其段御勘弁可有之事

一岡見ニ而其年者(之)土免下ケ被遣候得ハ、其様子ニ随見付願出申候村有之様ニ前々ゟ相聞候、たとへ岡見ニ而土免之内下ケ被遣候共、前ケ条之通本見付之趣ニ段々御

吟味ニ而稲毛下見帖ハ御申付、出来之上本見付之心ヲ
以御勘弁有之、岡見免下ケ被遣候ハヽ、下方見付同前ニ
心得、少々之変ニ而者願出申間敷哉之事
但、岡見免下ケ尤本見付共有之村々、其時之趣ニ随
見付願出申候所、取計悪敷スル歟又ハ見付之被申付
様ニ而其村痛ミに成申様ニ前々〔ゟ脱〕相聞候、向後見付願
出候村有之候ハヽ、委細御吟味御勘弁之上見付有無
御究メ可有之候、勿論前廉御勘定所〔へも〕ニ而御申聞可有
之、可申談候事
右岡見ニ而免下り之古格大概如此候、此趣ヲ以御考可
有之事

享保三

戊七月廿九日

〔勘定奉行〕服部平〔助〕馬
〔勘定奉行〕松野弥一〔右〕左衛門
〔勘定奉行〕西川文右衛門
〔勘定奉行〕足立善左衛門
〔勘定奉行〕青木弥太夫
〔勘定奉行〕服部金左衛門

〔高田・高宮郡代官〕佐藤五兵衛殿
〔高田・高宮郡代官〕龍神助右衛門殿

順達物写　但、郡中飛脚夜通之事

一当春町門夜通り之義ニ付町御奉行中ゟ存寄書被差出、
其段郡御奉行衆より被申聞候ニ付、其節各様へも致示
談候所、猶亦御存寄書被差出、私共存寄之趣右御存寄
書ニ付紙いたし申達候処、此度別紙之通郡御奉行衆ゟ
申来候ニ付、右紙面共都合七通入御披見候、郡御奉行
衆紙面之趣御承知可被成と存候
一右之内郡方ニも兼而承知仕候品も可有御座哉、其段は
右一巻御見合御取捨之上御取計可被成候
一右一巻七通之外当春町御奉行中ゟ出ル書附并十八ケ所
御門通之義ニ付先年書付無御扣も可有御座候へ共、為
御見合相添順達いたし候、各様御披見相済候ハヽ、留
り之御方ゟ一巻久左衛門方江御戻し可被成候、以上

十月廿九日

〔郡廻り〕田中茂〔右〕左衛門
〔郡廻り〕原新五兵衛
〔郡廻り〕恒川久〔左〕左衛門
〔郡廻り〕池谷三郎右衛門

諸郡

御代官中宛

当春申達候郡方飛脚等町門夜通之義、町御奉行中被差出候書付之趣各御手元御差支も無之由、尤御受郡限り御代官中へも申談候処、区々ニ而呑込一致ニハ無之候得共、且亦差支無之趣ニ相聞候由ニ而、御代官中存寄書へ夫々御付紙ヲ以先達而御申聞候趣令承知候、成程御付紙之通ニ而差支も無之相見候間、諸郡(共脱)一統此趣ニ被相心得候様ニ御申談可被成候、則右存寄書令返戻候

一近在出火ニ付御代官中始村廻り并番組之(共)者夜中出郡之節ハ、其訳申断候ハヽ、通し可申、乍去火之手見へ不申而ハ通し申間敷候間、火之手見へ候上ニ而被出浮候様御申談置可有之候、勿論番組共義も火之手見へ候ハヽ、出懸候様兼而被申付置可然事

一急御用等ニ而御代官中其外村廻り・番組共夜中出郡之節御門通り之義、御代官中ハ供連レ等も格別、其外厳重ニ有之候ニ付、出郡之趣被相断候ハヽ、差支も有之間敷候へ共、番組類ハ目印も無之事故紛敷筋も出来可申哉ニ付、一通り申断候迄ニ而ハ難通義も可有之哉、何分急御用ニ而夜中出郡と申ス義者先ツハ無之事ニ候、若急ニ出郡之義有之候ハヽ、拙者共不承と申義有之間敷候ニ付、左様之刻者被申聞次第拙者共ゟ御門札を以なり共送せ候様可致候間、余之義者先ツ只今迄之通ニ而も相済可申義ニ存候

一御普請方受十八ヶ所御門通り之義も御普請奉行中(へ脱)承合候処、先年相極メ之通今以相違も無之由被申聞候間、先年極り候通被相心得候様ニ御申談可被成候、以上

十月廿三日

〔郡奉行〕梶川一郎兵衛
〔郡奉行〕三谷源次左衛門

〔郡廻り〕池谷三郎右(左)衛門様
〔郡廻り〕恒川久左衛門様
〔郡廻り〕原　新五兵衛様
〔郡廻り〕田中茂左(右)衛門様

十八ヶ所御門通之義ニ付先年御門江相渡候書附扣

寛保二戌三月左之通御書附御門々江相渡置候ニ付相しらへ候処、今以此通ニいつれも相心得居申候

覚

一郡中ゟ急御用有之、郡御奉行・御代官中江注進之者参候ハヽ、御門通シ可申候、尤文箱之名宛郡中ゟ釣燈ニ而参可申候間、様子得斗承届無相違候ハヽ、御門通し可申候

但、右之訳翌朝可申出候

三月

当春町門(夜脱)通之義ニ付町御奉行中ゟ出候書附扣

郡方飛脚町門夜通之義相しらへ候処区々ニ候条、此以後左之通

一郡御奉行中

一御船奉行中

一御勘定奉行中

一宮嶋御奉行中

右之輩江郡方・浦辺・宮嶋ゟ飛脚到来之節ハヽ、其入口之町ニ而役人共御用状持参之体を見届、有論之義無之候ハヽ、御門通、釣燈を以追々送り、終之町ゟ右御用状相達候、先方迄送付可申事

一右飛脚戻り之節ハヽ、御用状受引之輩ゟ夜札ヲ以手寄之御門歟町門歟一ケ所送出シ、其出初メ之町役人共方へ、此飛脚いつ方へ戻り候間只今町門通り候様ニと口上有之候間、其段承知門通釣燈ニ而送戻し、其段翌朝書付を以可申出候事

但、宮嶋御奉行中宮嶋ニ而逗留之内留主へ差越候飛脚入ハ右本文同様仕、戻りハ其奉行兼而認メ残置候直名印之切手を以先達而入候町門へ留主より相断可申候間、其切手役人共見届、有論之義無之候ハヽ、右本文之通り送戻し、翌朝右切手ニ書附相添可申出候

宮嶋御留主之節

一御年寄中

一御用人中

右之人江宮嶋ゟ之飛脚往来も右同断之事

此本文ニ而見合候得者、入口ハいつれニ而も町御座候故、其町役人飛脚相改有論之義無御座候得者、御門通之釣燈ニ而其先キ迄送付候事ト相見申候ニ付、飛脚釣燈ニハ及申間敷与存候事

一郡廻中

一御代官中

右之輩江郡方ゟ之飛脚入ハ右同様ニ可被相心得候、此輩ニハ夜札無之候間、戻り之節ハ其年寄之町役人共方へ此飛脚いつ方へ戻り候間、早々送返し候様ニと右輩名居印形有之切手ヲ以相断可被申候間、右切手ヲ以相断可被申候間、右切手見届有論之義無之候ハヽ、門通釣燈ニ而順々送戻、其切手書附相添翌朝可被差出候事

右之通五人組同様ニ無相違相心得候様可申付候、以上

三月

掟

（記入）
私曰、此書附寛保之頃郡御奉行中ゟ村廻りへ相渡、毎年出郡之節此通申付これあるよし

一百姓上下共此身をやすく暮すハ皆々上之御恩也、常々農業精出し御法度相守、御年貢・諸上納物無滞様ニ致スへし

一父母ニ孝行いたし兄弟妻子親類睦（ニ脱）しく互ニ助合、大酒・博奕を慎ミ実貞なれハ、自然と冥加ニ叶ひ繁昌すへし

一上江願書あるとも大勢申合連判徒党しては所（上）のさわきになり、面々のためにも悪かるへし、存付候品々あらは壱人なり共ひそかに役人共へ申出へし、若庄屋取次不申事は村廻り・御代官・郡廻り之内へ封書ニいたし直ニ可差出候

四月

右之趣度々小百姓迄不洩様ニ読聞せ可申事なり

威鉄炮持主病死跡鉄炮請継願案文之事

何国何郡何村

覚

一威鉄炮何挺　玉目何匁　筒長何尺

右者威鉄炮持主何兵衛当何ノ何月何日病死仕候ニ付御注進申上候、右鉄炮之義者庄屋方念入預ケ置申候、何兵衛倅何右衛門歳何十何才ニ相成申候

年号エト月日

庄屋　何兵衛（印脱）

（与頭脱）
何右衛門（印脱）

宗旨改・鉄炮改御奉行中

其郡之郡廻中

同御代官中

覚

何郡何村

一当村威鉄炮持主私親何左衛門何月何日病死仕候ニ付、跡威鉄炮私所持仕候様奉願度奉存候、私歳何才ニ相成申候、願之通相叶候様被仰上可被下候、以上

百姓 何 兵 衛

ヱト月日

庄屋
組頭殿宛

右之通何右衛門跡威鉄炮倅何兵衛所持仕度奉願候間、願之通被為仰付被下候ハヽ、難有可奉存候、以上

ヱト月日

庄屋
組頭連印

宛前ニ同し

※①

覚

一鉄炮何挺 玉目何匁
筒長何尺

但、威鉄炮

右ハ威鉄炮持主何右衛門何月何日病死仕候ニ付、跡威鉄炮倅何兵衛所持仕度奉願候、尤当村山奥ニ而畜類等多く作毛荒難義仕申候ニ付、百姓共も何兵衛願之通被為仰付被下候様ニ奉願候、願之通被為仰付被下候ハヽ、難有可奉存候、以上

年号ヱト月日

宛前ニ同し

諸郡地概被仰付、其義被相止候節御直筆写

地概之事元来地方之不直ヲ平等（ニ脱）為可相改申付候処、去年仕形追々主意ニ有相違、其上事ヲ急ニ取計申候故旁以（今以）今不同有之由相聞候、仍之おもひ寄も候ニ付先古帖之通可相用候、尤追々遂吟味、郡村難義場所ハ改替遣し申義（も）可有之候、其内新帖も（ヲ）相望候村々ハ勝手次第ニ可申付候、委細ハ岡本［年寄］大蔵へ可承合候、以上

（巳十月朔日）

享保三戌三月奥郡百姓騒動願之扣

奉願口上之覚

一御免相之義 （四拾年前以前未年ゟ三拾年巳前辰年迄拾ヶ年之間坪免ニシテ御定免被仰付可被下候、村ニゟ格別高下御座候ハヽ、御了簡郡中並ニ被為仰付可被下候）

一御納所方之義　近年三斗二升入被為仰付、殊ニ縄俵等被入御念、秋半百姓迷惑仕候間、米縄俵中分ニ被成、計り切三斗入ニして御取被成可被下候

一御蔵払之義　先年ゟ御取来被遊候通、所々浦々御蔵所ニ而上納仕候様被為仰付可被下候、尤升斗懸下村々江壱ツ宛御渡置可被下候、御年貢米御納所之刻御蔵所へ持参仕、村限(切)銘々払ニ仕候様被為仰付可被下候

一壱歩米之義　秋米ニ而御上納仕候様被為仰付可被下候

一厘米之義　先規之通六厘懸り被為仰付可被下候

一御詰米之義　近年銀納被為仰付、殊ニ直段高直ニ而百姓共迷惑仕候間、今年ゟ御赦免被為遊、惣米ニ而筋々御蔵所ニ而御上納仕候様ニ被為仰付可被下候

一御給知方之義　一村御給知方之内ニ而も御屋敷ゟ御免相入実、其外米拵何角殊外不同と申百姓御座候間、今年ゟ惣明知被為仰付可被下候

一秋毛上之義　御見付之義秋半ニ役人并長百姓罷出費多ク御座候間、此已後御差止メ可被下候

一賄方旅籠并御伝馬銀　時々払ニ被為仰付可被下候

一山之義　御建山之義者御格別、村腰林并百姓銘々腰林之義者自由ニ被為仰付可被下候

一御種米之義　元利共米ニ而御上納被為仰付可被下候

一草山薪之義　先規ゟ入来候所御留山ニ相成、百姓共迷惑仕候村御座候間、先規之通入来り候様ニ被為仰付可被下候

一村々庄屋之義　三ケ年切ニ御差替可被下候、其内只今迄之役人(之儀脱)者村ニ寄今年ゟ御差替奉願上候ハヽ、百姓願之通被為仰付可被下候

一御蔵払切之義　十二月十日限ニ被為仰付可被下候

右十五ケ条之義、近年打続上(定)免被為仰付、其上御年貢米入実等強く百姓共及困窮申候所ニ、近来(年)御新格郡々所務役

・頭庄屋御定置被為成候処ニ、下方難義仕候義(も)心を付不
申、此格ニ而者百姓覚不申ニ付、其恨(ヲ脱)此度いつれも相集
居宅悉く潰し、其上ニ而御公儀様江御願ニ罷出可申与奉
存候所ニ、何ニ而も願之筋有之候得者直ニ差上候様ニ被
為仰付候ニ付、此願書壱通差上申候、右願之通相叶被下
候ハヽ、百姓難有可奉存候、以上

享保三戌年
三月廿八日　　賀茂郡明知・給知
　　　　　　　百　姓　中
〔大目付〕
一柳平兵衛様

(追而御給知百姓共ゟ願奉り候口上之覚脱)
一此度一乱ニ付御明知方百姓中江当分御救ニ及ヒ、弐歩
通被為遣候由承申候、御給知之義ハ別而及困窮、誠(殊)ニ
此度惣明知ニ奉願候ニ付、御給人様より何之御労りも
無御座候ニ(間)付、只今之(迄脱)御給知百姓明知同前ニ御救米被
為遣可被下候、此願相叶不申候而者御給知方百姓も御
明知同前ニ潰し(り)可申候、已上

戌三月廿八日　　賀茂郡給知方
　　　　　　　百　姓　中
〔大目付〕
一柳平兵衛様

付紙
(今度賀茂郡(ゟ脱)差出し候願書弐通受取申候、願之通
早速相叶候様可及言上候、為其此一通遣スもの
也

享保三戌三月廿八日　　大御目附役
　　　　　　　一柳平兵衛書判印判
　　　　村々百姓中

覚（享保三戌年中渡し書附　十八ケ条　横折共）
一此度百姓共追而差出し候願書之趣御吟味可有之処、其
郡村ニゟ願書之品不同不相応之義も有之候得共、百姓
共不勝手之段上ニも兼而御不便ニ思召難被捨置ニ付、
別紙之通御宥免被下候様江戸へ(早々脱)奉伺ヒ候間、御下知可
有之候条、弥相慎ミ候而相改メ可申候、先心得之ため
左之別紙書附遣候間、末々迄読聞せ可申もの也

四月

同横折ニ而　覚　私曰、所謂十八ヶ条是也
一百姓落着之為メ去春ゟ御定免被仰付候得共、却而村々(ニ)
ゟ迷惑仕候筋ニ相聞候ニ付、向後土免ニ可被仰付候事
但、当年も御免之内被御心付御下ケ可被下候事

一先年郡中ゟ差上候寸志米(当脱)秋御下ケ可被下候事

一御詰米之儀ニ付百姓共迷惑仕候筋ニ付、此已後詰米御免可被下候事

一種米利足只今迄三割之返上仕候得共、当年ゟ弐割(ニ脱)被仰付、壱割御免可被下候事

但、種元米之儀者当年ゟ其儘御貸居被仰付候事

一百姓腰林雑木之分、不及願ニ勝手次第伐り可申候事

但、御用木之分ハ可申出候事

一腰林松枝下苅之節、壱割五歩運上只今迄差出し候得共、向後運上御免可被下候事

一郡方諸算用仕候節、庄屋・与頭・長百姓も立会費無之様可申合候事

但、長百姓罷出候節者其入用御代官聞届可遣候事

一入役等之儀者御代官中吟味之上、随分百姓不勝手相成義無之様ニ減候様仕可遣事

一米入実之儀只今迄三斗弐升入相極申候得共、此已後三斗壱升入ニ相極可被遣候事

一縄俵之儀者七年已前之通り被仰付候、尤只今迄之仕形心得違ニ而無益之立派下方痛ミ与相聞へ候、此已後庄屋・与頭・百姓共得斗呑込仕形可有之候事

一厘米(地方七厘 浦辺壱厘)懸り被仰付、米銀之内百姓共勝手次第上納仕候様被仰付候事

一壱歩米

但、米銀之内勝手次第上納可仕候事

一紙方・山方之儀、追々吟味之上百姓迷惑不仕様可被仰付候事

一御年貢上り銀之相場、只今迄当町上米相場石三匁上り(ゟ)ニ被召上候得とも、此已後ハ三匁上ケ御免被下、当町(ニ脱)相場被召上候事

一御蔵払、已前之通村々ゟ銘々納ニ被仰付候事

一郡中初秋ゟ新米改、向後御止メ被遣候事

一村々(ニ)ゟ切免願候義者品ニ寄聞届可被遣候事

一庄屋・与頭広嶋へ罷出候儀諸注進之義、只今迄郡御役所へ度々人夫費注進仕候得共、郡御役所相止候ニ付、此已後者(其)郡元之御代官所へ申出候而相済候事

右条数之趣無相違被仰付候様ニ江戸へ申上候間、追付可被仰付候、其趣可相心得候、尤此度差出し候願書之内相残候分者、此後追々御吟味之上猶又可被仰付候、以上

四月

亨保三戌年六月百姓共へ申渡ス覚書

百姓共へ申渡ス趣

一当春百姓共騒動之義、其砌者如狂之立騒候得者押而難鎮候ニ付、出合候役人も先有〆置候処、弥以我儘法外成仕形いたし(ヲ尽シ)候、され共素り家屋敷・田畠・妻子等ヲ捨、何方へ亻(可脱)申様無之候故ヲノレト鎮り申候、誠ニ上ヲ不恐前代未聞、不届千万之仕形ニ候、願所(訴訟)限有之、たとへ其儀相滞申スとも致方ハ幾重ニも可有之候、其上所務役人・頭庄屋等之家ヲ崩し家財・金銀・米穀等ヲ費シ、或者所々ニよりてハ、右之仕形故盗人も打交盗賊之族ト相聞(候脱)、右之者共趣意有之候ハヽ、仕形も可有之候、又者其時之役人共依怙非分之仕形有之候ハヽ、其(甚)不届ニ付候而者御吟味被遊候筋ニ候へ者訴出、或者及困窮候へ者其一通り(ヲ脱)願可奉受御慈悲候処、理非ヲモ不弁任我意候仕形一切横道之至ニ候事

但、村方役人共家財相崩サレ候もの家作仕候ハヽ、百姓共理不尽より事起り候得ハ郡割ニ而繕(償)ひ可出事

一上へ対し御恨可申上品も不相見候処、御建山・御留山猥ニ伐荒法外之仕形不届千万之事

一古来ニ済来り候公事出入又者算用等此節申出、理不尽ニ金銀米銭貪取らせ候者有之様相聞候、不届千万之事ニ候、急度(可脱)相嗜候事

右之条々重罪之至ニ候、依之上之御悪シミモ強く、此度頭取之者委細被遂吟味一々可被行厳科之所、猶亦御憐愍ヲ以被差置(免)候、其上ニも諸郡百姓共差出し候願書之趣一々御吟味之上御格式も御改被成、大旨先年之通り被仰付候、右願之内重キ義第一百姓之クツロギニ可成分十八ケ条、先達而百姓共承知仕候通、達御聴無相違御宥免被仰付候間、弥以難有可奉存候、此已後相慎農業精出、御年貢者勿論、兼而御定之通諸役等無滞相調(納メ)可申候、且又願之内得勝手之儀其限も無之品(品々者)ニ候間御取上ケ無之候、此旨相心得可申候、若此已後非分申出候者有之ハ、御吟味之上速ニ罪科可被行候、古来之通り郡中東西ヲ分ケ我等共支配被仰付候間、志不宜物毎ニ害ニ可成ものハ一村限り相改可申出候、若隠置外より相知レ候ハヽ、其場へ出合候ものども迄吟味之上急度罪科ニ可行候、仮令同類タ

リ共、(といふ脱)於申出ニ者其科ヲ宥褒美可被遣候、御代官中被申付候儀ハいふに不及、手附之役人并村方役人申付候儀違背仕間鋪、於相背者是又急度可申付候、以上

六月　　［郡代］井口惣左衛門
　　　　［郡代］御牧源太夫

覚（私曰、所務役人・頭庄屋へ被仰付ケ条書ナリ）

一当春百姓共願有之望(由)ヲ申立、人数ヲ催シ了簡違之儀も有之候哉、第一役人ヲ目当ニ家財等令破却段、役人共不残非分も有之間敷候得共、都而役人之風俗不宜故ト被思召候、古格ニ御戻被成候ニ付、其方とも御扶持方切米等被召上候

一其方共役人被仰付置候得共、百姓とも法ヲ犯シ及狼藉ニ候之段無無念ニも可存所、上ヲ大切ニ奉存一向手出シも不仕段神妙之至ニ候

一郡ニ寄其方共居宅并家財等迄(百姓共脱)破却仕候段、上へ対シ候而も不届至極ニ候、(付)百姓共之内頭取も可有之候間、委細御吟味之上いつれも急度可被為仰付候事ニ候得共、御憐愍ヲ以御差免被遣候ハヽ、其方共野心存間敷、此度之儀ニ付皆々共居宅作事入用銀者御代官所ゟ被心付、郡割ニ而銀子少々宛遣し可申候間、左様可相心得候、右作事入用材木之儀者手寄之御建山・御留山ニ而願出候ハヽ、可遣候

六月

覚（私曰、(竪紙ハ脱)所務役・頭庄屋へ被仰付書附也）

一今度東郡百姓共大勢集り、所務役人并頭庄屋共居宅損候由相聞へ候、定而右之役人共へ存寄有之故之儀与相察候、素り右之役ヲ被仰付候者、村方末々之事ヲモ能存支配仕候ハヽ、百姓共勝手ニも宜筋与思召被仰付たる事ニ候処、百姓共ニ悪マレ申筋ニ候得者上之思召ニも不相叶候、依之此度家老衆并拙者(共脱)令相談、郡御役所被差止、諸郡所務役人并頭庄屋役義御取上ケ被成候、支配之義者追而可被仰付候間、万端相慎可罷在もの也

享保三戌年六月廿二日(三)

［年寄］松宮兵庫
［年寄］谷崎主膳
［年寄］箕浦蔵人
［年寄］［丹羽］木村宮内

〔浅野吉長〕体国院様御直筆写　享保三年御代官江相渡ル書附也

覚

一従公儀被仰出高札之通代官所堅守可申事

一代官所免合之義郡代・勘定奉行令相談、（村々脱）無高下様ニ相極候、納所年内皆済申付、（払脱）目録郡代披見為仕、其後勘定奉行江可相渡事

一所務之義夏毛・秋毛いつれも其（時）村々相改メ、其田畠有米ニ応し無油断納所可仕事

一壱歩米・小物成其外諸役銀夏ト秋ト両度可納候、秋ハ九月中取立可遂算用候、貸米・貸麦ハ極月（二脱）上納為仕可申事

一郡中懸り役念入吟味仕、并庄屋・組頭村中江相懸り候出米・出銀之様子委細聞届、一ケ年限り算用可申付候、其段常々勘定奉行江申談、帖目録等可相渡事

一年貢方掛（払）目録極月中旬以前相究差出、中勘定明六月勘定奉行江可相渡事

一池川除・井手并道橋損所能々見届、郡代・勘定奉行江相談、百姓銘々（隙之）時分可申付事

一在々之義委細聞届、諸事念入百姓迷惑不仕様可致旨、村役人共江可申談事

一新開荒起其外何事ニ不限手廻し（依）ニ成候義於有之者、郡代・勘定奉行へ令相談可申付事

一用ニ而遣し候もの在々ニ而定置候外百姓ニ対し非分成義於有之者、誰ニ（よらす）不限申出候者江褒美可遣候間、所々代官聞届可申事

一村々役人共初小百姓ニよらす不届之義於有之者、郡代・奉行曲事可申付事

一在々仕置等之義郡代可申付候、尤所務方之義委細者勘定奉行より可申渡候間不可疎略事

以上

享保三年戌六月

覚

一御代官支配郡御蔵入・明知方之村々ヲ二ツニ被分、大小之村を組合せ高も増減無之様御申談、御両人之納下被極、御米銀之受取通等納下限りニ御一判ニ而可被遣候、御勘定所御米銀之仕替之切手御取之刻ハ先格之通

御両人宛、亦者品ニより御壱人宛之切手御取可有之候、其分ハ其時節ニ至御勘定所へ御尋可有之事

一各納下之村々大小之村高共増減無之様ニ組合せ、御支配之番組ニも組下之村分被究、取立等之義吟味可有御申付候、尤各納下之村高幷番組銘々之納下之村高共極り候迄帖面被相調、御勘定所へ御差出可有之事

一御米銀其外御勘定帖・諸目録被差出候義者、各御両人一ヶ年限り被引受御調出し可有之、尤御勘定之節入用有之諸差紙・諸帖等之分御勘定被引受之方へ御預置可有之事

但、右諸差紙・帖目録等本紙御預ケ置候方へ預り証文御取替可被置候、右之外ニも両納下之分結ひ調出（候脱）帖目録迄も其年御引請之方ニ而可被調出候事

御勘定所

享保三年戌六月

御代官宛

覚　戌六月御勘定ゟ相渡ル御勘定組・番組勤方之書付弐通

何　某

右両人之御勘定組各支配郡へ相勤候様被仰付、諸事御用向之義御申渡御示談可有之候、在郡無之時分ハ各宅へ参会、御用向相勤候様ニ御心得可有之候事

右之面々勤方之義ニ付各存寄之義も有之候ハヽ、何事ニ不限御勘定所へ御申聞可有之、可申談候、尤御歩行組ゟ郡方之義ニ付存寄之趣ハ無用捨申達候様申渡候間、左様御心得可有之事

番組

何　某

右四人御両人江御付被成候、各支配被仰付候諸事御用向念入相勤候様御申付、万端之義少も無遠慮御支配有之、常々之勤方・作法等之義迄も可有御申付候、勤方之善悪品ニより御勘定所江御申聞可有之候

［勘定奉行］服部平馬〔助〕
［勘定奉行］松野弥一左〔右〕衛門
［勘定奉行］青木弥太夫
［勘定奉行］服部金左衛門

享保三年戌六月

御代官宛

御代官出郡之節人馬幷賄方銀渡方書附

覚

一荷馬　　壱疋宛

一駕籠人足　四人宛　但宿継

一帖箱持　　壱人宛　右同断

右御代官出郡之砌他郡往来之分相渡ル

但、広嶋附出人足者、自分雇ニ而其時々(之)賃銀相渡可申候、右賃人足銀共銘々受取手形を以可被遂勘定候、宿継人足之外他郡ニ而村継人足雇ひ有之間敷事

一人足九人宛

右御代官支配廻郡之節、村継夫先規之通相渡候、此外人足御遣ひ有之間敷事

一銀壱匁五分宛　一昼夜壱人分賄渡り銀

右御代官出郡之刻、他郡・支配郡ニ不限上下共人数ニ応し賄銀相渡、尤渡り方者村方役人方ゟ仕出書附差出、各奥書印形ニ而御勘定所へ被差出候ハヽ、相渡可申候、二三ヶ月程宛ニて受取候様可有御申付候事

但、賄銀之外郡中ニ而塩噌・醤油・魚鳥之類所有合之物被相調候ハヽ、其代銀銘々(ゟ脱)可被相払候、其外野菜・炭・薪・油等之類ハ先規之通郡中ゟ出し可申候、尤宿壱軒へ内夫壱人宛可被差仕候、且亦其所ニ無之野菜類・魚鳥其外之品ニ而も遠方ゟ取寄候義堅無用ニ候、面々之家来ニ而も曽而馳走等不請様御申付可有之候事

享保三年戌六月　　御勘定所

御代官宛

御勘定組出郡之節人馬幷賄銀渡方書附

覚

一馬壱疋宛　但宿継

一人足壱人宛　右同断

右御勘定組出郡之節郡中(他郡)往来之分相渡賃銀、銘々受取手形ヲ以可被遂勘定候、尤他郡ニ而村継馬雇ひ有之間敷事

一馬壱疋宛　但村継

一人足弐人宛　荷物持右同断

右御勘定組支配郡廻郡之節相渡、此外人馬差雇(遣)ひ有之間敷事

一銀壱匁五分宛　但、一昼夜壱人賄銀
右御勘定組出郡之刻他郡・支配郡共上下賄銀相渡、尤渡方ハ村方役人ゟ仕出書付出シ、御勘定組奥書ニ而御勘定所へ被差出候ハヽ、相渡可申、二三ケ月程ニ而請取候様ニ可申付候事
但、右賄銀之外、郡中ニ而塩噌・酒・醤油・魚鳥之類所有合之物被相調候ハヽ、其代銀ハ銘々ゟ可被相払候、其外野菜・炭・薪・油等者先規之通郡中ゟ差出可申候、尤宿壱軒江内夫壱人ツヽ可被差仕候、且又其所ニ無之野菜・魚鳥其外之品ニ而も遠方ゟ取寄候義堅ク無用ニ候、勿論家来へも曽而馳走等不請候様可被申付事
六月

番組出郡之節人馬并賄銀渡方書付
覚
一荷馬壱疋宛　但宿継
右番組出郡之節他郡往来之分相渡ル
但、右之外村継人馬相渡申間敷事
一軽尻馬壱疋宛
一荷物持壱人宛
右番組支配郡廻郡之節村継人馬渡、此外人馬相渡申間鋪事
一銀壱匁五分宛　一昼夜壱人分賄銀相渡ル
右他郡・支配郡共相渡ル
但、右之外野菜・炭・薪・油等之類先規之通郡中ゟ出し可申候、其外曽而馳走ケ間敷義請不申様可有御申付候、品ニより賃銀渡り方御代官中ゟ支配可有之事
一人足九人宛
右広嶋近郡之分御代官出郡之刻、村継夫先規之通相渡ル
但、広嶋近方之村ゟ御代官宅迄人足出可申候間、其村ゟ片道之分賃銀自今可相渡候、宿継人足之割を以請取候様ニ可有御申付候、尤川船等ニ而之往来有之郡者先規之通船賃相渡ル
六月

〔浅野吉長〕体国院様御直筆写　享保七年御代官へ被仰付候御書附

定

一従公儀被仰出候高札之趣急度相守、代官万端堅ク可申付事
一百姓共常々身持(能脱)農業情ニ入相勤、庄屋・小百姓ニ至迄者過分之義毛頭無之様ニ急度可申付候、第一郡中之風俗善悪惣(別而)百姓盛衰之趣心を付可相考事
一郡中掛り役念入村中へ相懸り候米銀委細聞届、毎年秋中村別ニ免割帖遂吟味、勘定奉行江申談候上、代官奥書印形いたし村方江可申付事
　附り、米銀其外郡割・諸入役之割賦等具ニ勘定奉行江令熟談可受差図候、并惣体百姓致迷惑之筋無之様可心付事
一代官所免合之義勘定奉行・郡廻りへ遂示談、村々無高下様可相極候、納所年内皆済申付、(払)掛目録勘定奉行へ可相渡事
一年貢米於致引負ハ、其身之義ハ不及申ニ、其趣ニ依而ハ代官可為同罪事
一所務之義其時物相改、田畠有米又ハ雑穀ニ応し無油断納所可仕事
　但、壱歩米・小物成其外諸役銀、夏秋両度ニ可相納候、秋ハ九月中取立算用可致候、貸銀・貸米も可為同前事
一新開起地其外何事ニよらす可然趣も有之候ハヽ、郡奉行・勘定奉行江可遂相談候、并池・川除井手・道橋損所普請之義具ニ聞届、郡奉行・勘定奉行江示談之上、百姓隙之時分可申付事(候、郡夫之儀念入可申付脱)
一番組之者勤方急度可申付候、若不宜義有之時者勘定奉行江可申聞候、見遁しニいたし又ハ見聞候趣心懸薄ク候ハヽ、代官越度ニ可申付事
　但、下役之者百姓ゟ一切音物不可請、尤百姓へ対し非分之仕形有之候ハヽ、急度可成敗事
一庄屋并村役人其人柄ヲ撰吟味之上可申付候、若不宜之品有之候ハヽ、厳敷令吟味曲事可申付事
一公事・訴訟之義不滞様明白ニ承届、少も内談等之義を以堅ク不可取計候、郡中仕置所務万事郡奉行・勘定奉行申渡旨聊無相違様可仕事
右之趣堅ク可相守もの也
　享保七年二月廿二日

覚

一此度村廻り役被仰付、勤方別紙之通有之候間、此旨被相心得万端可被申談、此度被仰付候者共ハ年来勤方之義ニ馴居申ス事ニ候得者、古法有之義者勿論之義、御所務筋其外御代官所平用之内ニ而も前々之様子等相しらへ、当時之考合可被成(ハ脱)抔随分根ヲ押候而も尋問有之可然候、近来追々御役人も転し、仍之ハ地方之古法も自然ニハ取失ひ候様ニも有之歟ニ候得者、是等之筋ハ其委細被糺、其風義御代官所ニ残、永々見合ニも成候様ニ被仕向置可然候事

但、右村廻り役者御代官所助用ニも相成候様ニとの義ニて被仰付候事ニ候得者、万端打守り相勤候様ニ各よりも無用捨被申談、諸帖・書付ニ至迄も手懸候而相しらへ候様御仕向可有之事

一取次役此度御入替、各手付之内ヲ以相達候筋ニ相成候、尤諸願取次之筋ハ只今迄之趣ニ御仕向可有之候、且又人名替之義村々御しらへ(せ)可有之候、以上

六月

村廻御勘定所ニ而申渡ス書附

覚

一各勤向之義、常々郡中之盛衰異変心ヲ付、村役人之善悪、末々拵候甲乙、都而郡村之風俗・御法度筋守等、其外都而見聞候趣委細郡廻り中・御代官中江可申達候、勿論其品郡奉行中・御勘定奉行へも可申達事

附り、品ニ寄御勘定奉行・郡廻り・御代官江難申義も候ハヽ、郡御奉行中江密(密々)可被申候、尤郡方付御役人末々迄も仕向候筋心を付見合可有之事

一出郡無之節ハヽ、毎日請郡御代官所へ相詰候而万端御代官中差図ニ随ひ、尋問之筋者不及申ニ、平用取計共存寄可有之義者不残心底和順ニ可被申談候、全体郡中御仕向之御趣意ハヽ、古今同様之向ニ有之候得共、追々御役人之転ニ随ひ、御所務方之義を始メ都而地方古法等自紛敷成候類も可有之候、左様之義者別而心を寄せ、少ニ而も御代官中取計候ハヽ、助用ニ而も古法御代官所ニ残候筋ヲ専ニ可被心得候事

附り、御代官所江罷出候ニ不及申候得共、随分御代官所之助と相成候様打はまり、諸帖・書附等も手懸

候而相しらへ候事、急成節抔ハ別而倲り候手業ニ而
も手伝候程ニ相心得候而（被脱）可相勤候事
一免割・郡割等之義も御代官所取計之義ニ候得共、是等
ハ免組根元之義ニ候故郡廻り中別而被相しらへ候様被
仰付、各義も此筋ヲ第一ニ相心得、心を付郡廻り中へ
申達、差図（ニ脱）随ひ入役しらへ等無怠様ニ可被仕候、是等
之筋ハ前々別而見苦敷類も有之候へ共、只今ニ而ハ左
様之向ニも無之候条、若内証体アヤモ可有之義者不忘
古風を、随分厳密ニ心を付少ニ而も入用減シ、末々之
為ニ相成勿論、疑ヲ散シ候筋第一ニ心を付可有示談事
一各同役一同之義ニ候得者、請郡迄之義相互ニ話談致（不相心得、一ヶ月二三度ツヽ日ヲ極メ置寄合候而諸郡之儀脱）
合、其筋ニ付当時受郡之益ニ成可申義者其御代官中江
申談、惣体之御仕向ニ懸り申義抔無用捨郡御奉行中江
可被申達、御勘定所之心得ニも可成義者此方へも可被
申聞事
附り、寄合之義各存寄次第被申出候ハヽ、其向ニ応
し可申談事
一各出郡之義、定式之見分ハ勿論之義、臨時ニ被罷出候
義等郡廻り中・御代官中江申達出郡可有之候、御用之品
ニ依而右之面々ゟ差図も可有之候条可被得其意、惣而
出郡之時分ハ郡御奉行中・御勘定所へも可被致案内事
右之趣可被相心得候、以上
六月

浅野長政公ゟ七代目
従四位少将吉長公
体国院様御直筆写　元文二巳年被仰付

覚

杉原横折
一郡中之義何れも念入申談候義者勿論ニ候、惣体郡違候
とも無其差別郡廻り・代官共無底意熟談いたし、郡中
治りよきやうニ可取計候、尤郡奉行共へも不絶申談、
存寄候ハヽ、年寄共へ申談、郡廻りハ直ニ（直談）談候而猶亦可
及言上候、代官共迚も無拠所（品）ハ直ニ可及言上事
一郡廻り者元来目付役相兼申ス事ニ候得者、万事厚心付
見分之趣可及言上事
一銘々手附支配之者共村役人之善悪不怠力ヲ入見届、夫
々ニ勤メ可申付候、何分ニも真実之人柄を専一ニいた
し、少も不宜相見候ものは入替可申、其見立肝要ニ

候、万一能人柄ニ而も銘々自分之心ニ不叶迚、能人除
候様成事ハ定而有之間敷と察申候事
附り、村役人共幷小役之者共迄も諸事力を入候而相
勤、夫々受方之郡中之義委細申出候様ニ仕せ可申、
第一手付支配之者共と村役人等申合、不宜(直)之仕形有
之ハ急度罪科可申付事
一当年者地概以後之義弥以念入令熟談、年貢納所等之事
無滞様ニ可相心得候、殊ニ豊年之風聞も候へ者猶又物
毎心ヲ付、軽キ百姓共迄貸借等之筋不致難儀様ニ村役
人共厚心を付候様ニ可申付候、ケ様之年柄之時難義之
者取続せ候ラハテハ片落ニも成可申候、其故者福富之
者ハ益利を得、貧窮者ハ弥増ニ可及困窮候、此段得斗
考、何れもより(何もかも)も村役人共へ得斗申付可然事
一銘々示談区々ニ候而者万端之義間違出来可申候間、前
条ニも書調候通相互ニ打明し申談、役筋之心得違無之
様急度可相心得事
右紙面之趣者不及申、常々銘々ニも具ニ心得罷在候事ニ
候得者(共)、兎角示談熟と無之様ニも風聞ニ付猶又内意申候
間、弥物毎丁寧ニ遂相談、其筋立相違之義不可有之やう
ニ可令承知候、以上

巳八月

郡廻り
代官共江

右御代御直筆写　杉原竪紙

定

一銘々裁判郡村之義無油断申合心ヲ付、其時節令廻郡、
郡中風俗善悪、百姓盛衰其外諸事委細見分いたすべく
候、郡中之為メ亦ハ百姓甘ミ可相成義ハ随分見聞仕、
たとへ前々より有来り事ニ而も相改可然趣も候ハヽ、早
速可為言上候、幷塩浜有之郡ハ損益ヲ考、鉄山之所々
無断絶様山々之立木見計、郡代・勘定奉行共可遂示談
候事
但、於其所ニ可定鋪(補)義も有之ハヽ、代官幷歩行組之も
のへも相談、念入吟味之上ヲ以急度相調候様ニ其所
之代官江可申渡候、其趣郡代・勘定奉行江申(可脱)談候事
一百姓農業無怠第一情を入相勤、常々之暮無益之義不
仕、身持能キ様ニ急度可申付置候、諸役・郡割等之品

々心ヲ付、百姓不致迷惑候様可申付事
一村々免合之義致言上可相極候、尤郡代・勘定奉行江も可相談候、年貢方・諸役米銀等納所方之義定置候通遂吟味可申渡候事
一在々新開并古荒之内、開ニ相成候所亦者竹木を植サせ林ニいたし、池川・道橋損所之修覆、〔旦〕旱損所ニ池を堀申義等それ〳〵〔其〕丈ケ相応之地ヲ見立候之上可申付事
但、往還之障ニ不相成所ハ、有来橋ニ而も古来ゟ無之橋ハ其損益を相考、村方費ニ可成義ハ委細郡代・勘定奉行へも示談之上可相調候事
一代官之善悪并歩行組之者以下庄屋・組頭ニ至迄、非分之裁判有之者ハ早速可為言上事
一郡代・勘定奉行江支配之義申談筋ニ付不宜様も候ハヽ、何事ニよらす可為上達事
一代官共へ申付置前条之趣具ニ承届、万事令吟味急度可申付事
右之趣堅ク可相守もの也
享保六年十月九日
郡廻江

元文二巳六月被仰出
左之一通も大御目附中ゟ之書付、諸口半切ニ而少張付有文段如左
今日御用達所ニ而御年寄衆被相渡候御直筆之写為持進候間順達可被成候、尤同御役中之御内御壱人様御写取先御順達可被成候、同御役中御借合御写取可被成与存候、相済候ハヽ、留り之御方様ゟ御戻し可被成候、以上
六月十五日
〔大目付〕〔西〕寺田源助
〔大目付〕勝田十左衛門

〔浅野吉長〕体国院様御直筆写
覚
一科人者其様子之筋道理非ヲ糺、其罪之軽重ニより可相達〔定〕事也、重罪磔・獄門・斬罪〔等脱〕、軽罪ハ討首又ハ牢屋ニ而首刎或ハ領分追放、并城下十里四方又ハ城下追放等ニ而可相済事
但、郡中抔ニ而乱心等ニてハ〔其〕一家〔へ脱〕預ケ置囲江入置、

或者禁足仕らせ候類ハ別(至)而軽キ軽罪哉、此義者城下之通可為同前事

附り、火ヲ附候者ハ可為火罪、然レ共郡村共ニ而ハ火罪をイラヱ(いとひ)候由相聞候、此義難相心得候、天下御仕置ニも火罪有之事ニ候、ケ様一筋ニ心得申ス者奉行人之不心付故ニ候事

一喧嘩口論ハ双方呼出様子委細聞届ケ、其非分ヲ遂吟味仕置可申付、一方果候ハヽ、其相手も成敗定例也、然レ共其趣ニ依而決定すへし、仕懸候者者罪科難遁ト申せ共、是以軽罪申付置も可有之事

一他国之者共城下町通候節喧嘩口論いたし討果し候時者、則検使差出様子具ニ承届、理非ニ随ひ夫々に取計へし、其筋ニより其先方役人江申通候上申付置候仕形も可有之候、尤下々ニ而内証取嗳相済候得者、其通之義兼而其向へ示置候而も可然候、是者双方他国之者之事也、扨又領分之者ト他国者ト右之仕形有之時者、猶以力ヲ入吟味之上他所之者待せ置、先方へ申届(候脱)仕向も可有之候、勿論領分之者共計ニ候ハヽ、理非を糺し罪科可相極事

一重罪ハ主殺・親殺・夫殺之事

右之分ハ同罪、其内主ヲ殺候者ハ其一家親類・忌懸之分、其親遠ニよりて罪科之軽重夫々ニ可相分候、其内十五歳以下之男女者十五歳迄之内ハ一家江預ケ置、成長之上可相極候、乍去幼少(女)ハ様子ニ寄可差免義も可有之候、継父母ハ実父母の如ニハ有之間敷候、若継父母之方ニ非分之義も有之時者、継父母之方罪科可重ル、然ル時者其悴罪軽カルベシ、(尤脱)其子非分無之共父母ニ准シ候もの故罪科遁レカタカルベシ、軽キ罪科ニ可申付、勿論其子非分抔(なら)者実父母之如ニ恵ミ可申付事

一兄弟・姉妹・伯父・叔父・舅・姑・小舅・実(異)父兄弟等者前条之分よりハ少軽見へし、尤其内親之分(方脱)少シ心得(持)可有之候、惣体理非ニ可随也、并同苗之方ハ重ク、内族軽可取計事

一妻ヲ殺候夫ハ其様子ニ寄差別可有、妻若密夫抔も有之義を夫慥(見)ニ承届殺候分ハ其通ニ而可差置候、自然夫之方ニ誤も有之候ハヽ、罪科可申付、然れ共夫ヲ殺候罪科よりは軽ク可申付事

一盗賊人ヲ殺候ものは重罪、但、諸道具計取候ものハ少

軽ク仕向可申付候、火を付人ヲ殺候者も可為同然候、
勿論盗もの丶多少、其仕形ニもよりて軽重有之事
一罪科有之者領分追放之後立戻候時、数度ニ不及内ハ入
墨等目印いたし候而追放シ可申、若四五度(ニ脱)も及候ハヽ、
死罪其軽重ニ随ひ可相極事
一死罪ニ不及候程之罪科ハ牢舎・追込日数多少并過料等
其本人ゟ為出可申候、郡中ニ而其一家へ預ケ置囲入
置、又者禁足之類ニ可准事
　附り、喧嘩ニ而及刃傷候節、双方手負候迄ニ而死命
ニ不拘、其上訳も無之事を申募り乱心同前(之体脱)ニ候事
ハヽ、其仕懸候者ゟ療治薬代料為出候様可相極候事
一惣躰重罪人者城下町中ヲ引廻シ、村方も其居村又ハ近
辺引廻サセ罪科可申付、尤其もの家財闕所、郡中ハ山
林・田畑共可致闕所、少軽ニ者其家財ハ妻子ニ遣し申
事も有へし、先ハ闕所物妻子ニ遣候義者無之事、其様
子ニ寄可申事
右大概如紙面可相心得候、何分(ニ脱)も其模様ニ寄差別有之、
兼而決定ハ難成、兎角理非糺敷可取計もの也
　丁巳六月　丁巳年ハ元文二年ニ当ル

年寄中

体国院〔浅野吉長〕様御直筆写　諸口竪紙

覚

一直参之者軽キ者共只今迄仕来候通りニ町奉行可取計
也、但、歩行格之者ハ其支配方江申通、先方返答承候
上ニ而町奉行宅へ呼寄、品ニ寄町奉行直ニ様子可承届
候(尤町内名代ニ而吟味申儀ハ仕来候通可心得事脱)
一主水〔上田〕并家老中家来共其館門外ニ而之事ハヽ、町奉行・普
請奉行其受方之奉行可取計候、尤侍分之者ハ大目附よ
り其先方江申通呼出、其奉行宅ニ而直ニ様子聞届、猶
又再吟味之間者其役〔家来〕人之内重キ役人役〔ママ〕人方江申遣シ、
重テ差出候様可申合候、重キ吟味之者ハ其屋敷内ニ囲
へ入置番人可付置、軽キ義者外へ不罷出様ニ為致可
申、若其内出奔いたし候ハヽ、其段も先方より届申越
シ、右之者召捕差出候様可致候、勿論軽キ者ハ先方家
来重役之輩方へ申達呼出、前条之通可致、本人吟味不
相済内者相手之者裁判(可)不致延引候事
一此外侍共家来之義者只今迄之通ニ可相心得事

右紙面之趣者罪科之趣〔儀に付〕ハいつれも同意〔内〕之品就相伺候、其段別紙ニ申遣、猶此添書調差遣候、以上

巳六月　　年寄中

右御代御直筆之写　諸口半切ニ而

一世羅郡甲山町浜田屋儀八郎ト申スもの後家致方之義具ニ聞届候、存通〔孝道〕之義者誰迚も可有之事ニ候へ共、右婦人ニ者無類之孝道、其上御存込候趣共感入、誠之可為賢女候、依之為褒美米五石遣し候、男子ニ而候ハヽ、其子孫相続之事ニ候、婦人之事故嫁娶無之而者一代ト相見候、何卒右孝心之義後世迄も申伝候様ニ致方可有之候間、申談猶亦可相調〔伺〕候、尤村役人共も厚心を付、孝心之筋相続候様いたし可遣旨も可申付候

一右婦人之仕形類も多ク有之間敷様ニ候、男子ハ左も可有〔之脱〕候へ共婦人ニハ珍敷事候へ〔ニ脱〕者、右仕形之趣共具ニ書附為差出、寺田半蔵江〔臨川〕申付伝記可申付、并山県郡八十郎義も同様之事ニ候、是亦孝心之仕形委細書附サせ半蔵へ文章相調サせ可申候

右之趣共致承知申候而、両人之仕形明白〔ニ脱〕可書附旨代官所〔共〕江可申聞候、以上

九月十四日　　清水三郎兵衛〔郡奉行〕
　　　　　　　今枝半左衛門〔郡奉行〕　江

御年寄衆ゟ郡廻中宛之書附

覚　諸口竪紙

一諸郡村々毎年免割帖并郡割帖・年中夫割帖等、御勘定奉行江遂吟味候様ニ兼而被仰付置候処、御当用多キ節ハ右之吟味及延引候義も有之段達御聴候、向後急度力ヲ入、少ニ而も無益〔之脱〕品ヲ相除キ〔セ〕、村方費無之甘ミ罷成候様常々可遂吟味旨被仰出候事

附り、於御勘定所右之品々帖面吟味方、御小性組之内伊藤儀左衛門〔勘定吟味役〕・青木伝右衛門〔勘定吟味役〕江常住、無間断相しらへ委細御勘定奉行江申達候様ニ被仰出候事

一右免割之米銀高帖面不相極以前、郡廻り・御代官中申談、御勘定奉行差図次第、奥書・印形ヲ以村方へ申付、庄屋・組頭共ゟ百姓人別下札遣し取立候義、尤免割帖之外、曽而米銀外割之取立堅ク無用ニ仕、若無拠義ニ

而不時之取立有之郡者、其段御勘定奉行江御代官より
示談有之、其外御貸物之米銀貸付之義取立候趣等、都
而御米銀へ懸り之筋ハ御勘定奉行江熟談有之、委細可
遂吟味旨被仰付置候処、是等之義も品ニ寄〔吟味脱〕不具趣達御
聴ニ候、弥念入御代官共へ可申談旨被仰出候事
附り、右帖〔紙〕面吟味之義ニ付品ニ寄差支候義も有之候
ハヽ、御勘定奉行江熟談之上言上可有之候事
一諸御役人請方御用之内都而郡方〔へ脱〕懸候米銀請渡之筋、其
外之品或者人夫等ニ而も村中割賦ニ成候義者御勘定奉
行江熟談有之、郡方少ニ而も費無之様ニ可仕旨被仰出
候事
右之通被仰出候条、御代官并郡御歩行組へも可〔被脱〕申渡候、
勿論此紙面之通此度猶又御勘定奉行へも被仰付候、以上

〔年寄〕岡本 靭負
享保六年　〔年寄〕小鷹狩勘解由
丑十二月十二日　〔年寄〕箕浦 蔵人
〔年寄〕浅野 帯刀
〔郡廻り〕龍神 甚太夫殿
〔郡廻り〕久野 三之丞殿

〔郡廻り〕龍神助右衛門殿
一宝暦四年戌三月四日、郡御奉行中ゟ奉書ニ而御用之義
有之候間、明五日四ッ時登城可仕旨諸郡御代官江申来
罷出候処、郡御奉行・御勘定奉行・郡廻中何れも右同断
之御用ニ付登城有之、右追々御居間江被為召、御直々
御意有之候由ニ而、諸郡御代官不残是亦御居間へ被為
召、御直々御意有之、郡方之義委細思召被仰付、右之
節羽織・袴・脇さし罷出ル、御側ニ者御年寄中・御用人中・小性
頭山田兵太夫被相詰、其外之面々退座、尤郡御奉行も
被相詰、但、御代官江御意之御受寺西〔年寄〕藤蔵殿へ被申上
候事、右畢而御立座被遊引取候処、御用部屋へ罷出候
様ニとの義ニ而〔付〕罷出候処、御年寄列座ニ而〔年寄、岡本〕大蔵殿ゟ藤
蔵殿へ左之書附被相渡、上付紙ニ御代官中と有之、諸
口半切ニて
郡方之義者御国役〔政〕之根元と被思召候、定而右御用ニ
懸候御役人共ハ油断も有之間敷候得共、前々より御
聴〔及脱〕被遊候処、土民共之義故ニ支配等殊之外六ケ敷、
第一御免米之外入役等之義多ク下方難義仕候由、此

義力入〔申脱〕候事古来功者之者共専要ニ仕候段も御聴〔及脱〕被遊
候、只今迄〔迄脱〕も定而心付可申候へ共、別而力入可申事
ニ思召候、猶又岡本大蔵・寺西藤蔵江被仰付候間存
寄も可申談候
　但、郡奉行共〔と〕ハ近来入役等之事ハ御所務専〔之儀脱〕御勘定
　奉行江被任候故、帖面等披見等も〔被脱〕不仕候様ニ相成
　居申候得共、勿論御勘定奉行しらへ候事とハ乍
　申、百姓盛衰或ハ庄屋等出入取結候も此筋ゟ出来
　候事ニ候間、郡方御仕置根元ニ懸り候事ニ候条、
　此節猶又力入可申事
一只今迄之致方ニ而者可有之候得共、前条之通入役等減
も致方妨ニ相成趣も候ハヽ、いか様ニ成共取計、其印急
度有之候様可被仕候、下役等功者ニ而も入役等不減、
上下不益之筋有之候而ハ功者之詮も無之義、万端質素
之取計度々出郡等も無之、百姓之益ニ相成候いたし方
専要工夫可有之事
一下役抔ニハ賄賂之筋兎角難相止相聞候、随分力入不絶
心付可申事
右御仕向之義一通り御直ニ被仰付候得共、猶得斗申聞候
様ニ被仰付候間書付相達候、以上
　三月
　〔浅野吉長〕体国院様御代享保十二未年被仰出
一他国之百姓御領分江子細有之、立退候節致方等之趣ニ
付被仰出、郡御奉行中江相渡、此趣御代官承知仕居可
申と清水〔郡奉行〕三郎兵衛殿・服部平助殿被相渡候、此紙面両
村役人共江写取ヲ申聞候趣ニ而も無之ニ付、此趣を申
合〔含〕置相済、御書附左之通
　体国院様御直筆写
一他国之百姓共其国を立退領分内江罷越候節、其〔時之〕村々役
人念入様子委細承届、早速其郡之代官共へ致注進、其
内者於所養育を相加可差置、彼方ゟ追而〔手〕相越可受取よ
し申候共、代官共ゟ申付無之内者いつ〔あの〕方よりいか様ニ
申候共相渡申間敷候、兼而此通ニ村々役人共呑〔込脱〕居申候
様可申付置候
一右之刻若其国之百姓取立方之義ニ付難儀及ひ立退候趣
ニ候而〔ハヽ〕、あの方より可受取与申候共容易不可相渡、先
右之段注進有之ハ早速可得内意ヲ候、下知無之内者其

村として心付、雨露ニあたり不申様ニ取計養育致置、裁許次第可取計候、若其主へ対し無礼之筋ニテ立退候輩ニ候ハヽ、彼之方之追手之者ニ其様子具ニ承届、其段代官共江注進之上相渡候歟、又ハ会釈候歟、此義得内意ヲ候上之義与可心得候

但、初メケ条之趣ニ而立退候百姓共之類ハヽ、直ニ彼(へ脱)方相渡候時者必立退程之義故、引連帰り候而者厳科可被行ニ付此方ゟ詫ヲ申談、厳科ニも被行間敷候訳憶ニ有之候ハヽ、相(申脱)渡義も可有之候、乍併受取方より(たとへ脱)ハ厳科不申付段請合候而も、他国之義故無覚束筋ニ候間心易ク渡難遣候、此節あの方役人抔参、此方よりも其向之役人立会申歟、又ハ郡方引受候重役ゟ彼ノ国之重役へ通達之上相渡、受取候仕形も可有之事ニ候、若(其脱)主ヲ恨徒党抔之筋ニ而其場ヲ遁候而、欠落同前之仕形ニ而領内へ罷越候節、あの方ゟ受取之人数罷越候へ者、得内意候上相渡候向も可有之候、是亦科之様子即座ニ者不分明可有之候得者、兎角早速相渡事とも難極候、其内上ヲ恨ミ徒党抔同類之者ニ相極候ハヽ、此方ゟ召捕相渡候首尾も可有之事ニ候、此間合之所ハ決定ケ様とハ難極置、可依其模様ニ候

一他国僧侶郡方ニ而泊り候節ハ(之)御法度享保二年之秋左之通ニ被仰出、於御用屋敷ニ郡御奉行中・郡廻り中江被相渡候、御代官中へ順達有之、諸郡へ申付置左之通

兼而諸郡江相触候通、他国之者僧侶ニよらす一宿之外宿貸不申、宿貸申候共何国ゟ何方江参り候哉念入承届、飛脚往来之外ハ証文取宿貸可申事弥以無怠相守可申事

一於郡方ニ他国出家并山伏等談義・(勧脱)化・祈禱用として罷越候得者、逗留為仕候村々も有之様ニ粗相聞候、仮令右之趣ニ而参り候共一切逗留為仕間敷候事

酉七月　私ニ曰、此酉年ハ享保十三(四)年
酉年ナルヘシ

一享保十年被仰出御直筆写(之脱)

享保十三年(寛保三年)[郡廻り]池谷三郎左衛門へ被為(召)見、十年以来郡廻り中同御役申送も中絶いたし候由ニ而又々見置候由(ニ而脱)、其御書付写左之通

吉長公御直筆写

覚

一銘々支配郡村之義、諸事念入同郡同役申談候事ハ勿論、たとへ外之郡代官共も存寄候義者相互ニ示談、心付申候品ハ無用捨申合候而、兎角村方之趣宜様可取計専要ニ候

一郡村ハ第一ニ候（其）村百姓之居り立候義、幷村々盛衰心付、其趣ニ随ひ正道ニ導候様支配肝要ニ候

一村役人初メ百姓共常々暮し方随分軽くいたし、少も奢ケ間敷又ハ不益之音信贈答急度致了簡相止候様ニ不断申聞、倹約専ニ仕候様有之度候

一田畑上中下之位幷土地之善悪迄も心附、下田も上田ニ成り、尤上田も下田ニ相成不申様之取計之仕向も可有之候、勿論勝手向宜ものは仕入仕込等念入候故、下田も上田之方ニ成り安く、たとへ上田持候百姓之極貧之者ハ心ならす上田下田（も脱）ニ落入、又ハ田地ニ離レ候様ニもおよひ申事も可有之候、然レ共常々極貧福有ニも可寄候得共、申内ニも何卒夫程ニ抜群たがひ不申様ニ常々百姓へ申付候仕向も有間敷事ニも無之候、是者代官共之工夫了簡之上ニ而少者仕形も可有之事ニ候

一右之通豊饒之者ハ下田も上田ニ成り申義者勿論ニ候、乍然平常百姓之覚語又ハ其支配之代官共申聞候様ニ而、急ニハ直り不申共年々ニ者改り申間敷事も無之候、たとへ上田持候福有之ものニ而も無益之事ニ物を遣候ハヽ、年々天災ニて出来物等も打続不出来、悪敷成（畢竟ハ上田（持之福有之者も段々と脱）可申義ニ候、極貧者迚も常々覚語身持能ク不益事（無益之事）も不致、其内ニ作物等ヲ（も）も打続能出来候様有之候ハヽ、上田之下田ニ成り候も中田程迄ニ落候様ニも可有之哉、菟角福（富）有之者ニ而も極貧之ものニ而も少ハ其者之心懸覚語ニも可依事ニ候

一田畑水懸り能、少々之旱ニハ損不申、湿深キ所ニ（之）水吐等之能キ様ニ成候ハヽ、少々旱水損ニハ大損ハ有間敷事、尤当年之様成年柄ハ雨池之水も旱候而カハキ申様ニ候得共（者）、其時分之仕形も有間敷候へ共、年々其筋之事不怠、代官共心付、毎度相考取計候ハヽ、仮令今年之様成年迚も年々之心当ニ而少ハ違ひ可申事ニ候（ニ脱）百姓之疑心者兎角村役人共之仕形ニ而、第一免割・郡割・夫役等之義念入費不申様申付、月々之算用合庄屋共小百姓等迄ニ得斗申聞候様申付可然事ニ候、庄屋之

人柄ニよりケ様之筋抔ニ私之有之より百姓共も自ラ疑心も出来申筈ニ而、別而庄屋・組頭共之役人者人柄ヲ幾重ニも遂吟味、人柄能者申付候様ニ有之度候、尤村中ニ能キ者無之事も可有之候へ共、村中之百姓人別不〔程ニ〕〔脱〕断代官共常々致見分候而、代り役〔役〕人入用之節ハ猶亦相しらへ申付候様ニ有之候ハヽ、能〔ク〕人可有之候

一普請之事菟角百姓之隙〔ママ〕之時分ニ申付候様可有之候、其時節遅速有之故、百姓取込候時分ニも成可申与考候得〔者〕共、春普請之義ハ其場所之義年内可成程ハ其前ニも見合之上粗相極メ、猶亦春ニ至り候上ハしらへいたし、其儘申付候様ニ有之候ハヽ、百姓共も助り、第一時節も差イ不申候而可然事、百姓ヲ遣ひ候時分ハ昔より相定候時節有之、此義村へ懸り申候役人ハ不残承知〔可脱〕罷在候へ者不祥〔詳〕候

但、普請所之義者、百姓共願出以前も代官共心付見分いたし申談候様ニ可仕候事

一闔高之事無之様取計ハ不叶事なから、其内ニも代官共心付闔高欠り申様取計可申事ニ候、年柄之善悪ニ而年貢等ニ詰り候者も可有之歟、乍然少シハ年柄之出来不出来迄ニ而も無之、其田地持常々人柄不宜、ムザト物ヲ遣ひ捨候而身代も不相成様ニ成ものゝ作物不作、彼是ニて追上ケ又ハ外ゟ之闔ニ成申者も可有之候へ者、必作物之不作迄ニ而も有間敷候、是ハ其村之風俗悪キより起り申事ニも相見、尤其年之不作迄ニてかつき遣し申事ニても可有歟、ナレトモ必不作一通り計とハ不被察、常々覚語も少ハ手伝ひ不申哉と考へ申候

一百姓之裁許者六ツケ敷事之由古来ゟ申伝候、しかれ共其通迄ニ心得候ニ而ハいつも支配成間敷候、惣而百姓之趣強過も不宜、尤なつけ〔過候〕ニも尚又〔更〕不宜と申候、是ハ其村之人柄ニより強過候而も能所も有之、強過候而も如何と相見候所も可有之候、是等ハ其支配之代官共思慮工夫ニて無之而者強弱共ニ不被相断候、然者代官ハ常々村方之義昼夜少之間も無怠心懸、物毎相考合〔令〕仕向不申而者成間敷候、尤充分ニ難仕向事も可有之候へ共、自分ニ其心付無怠心付〔掛〕申候得者、自然と存寄之趣も出申ものニ候、常々致油断居申候而、其事出来之時分ニ至致思慮候分ニ而ハ、たとへ大才発明の生質ニても的当之分別者難出事ニ候、此所能々工夫心得専要至極之

所と相見候、古語ニ寛猛ト申事ニ候（候）、強過候所ハ少シユルメ、弱キ所ハハケシクいたし、其所々（ニ）相応ニ仕向申ス事ニ候よし、此二字之心を不意（忘）胸中ニ籠置、日夜無怠工夫有之者何事も難致与申ス事ハ無之筈ニ候、尤此二字より思慮工夫致候得者万事之分別も出申ス事ニ候、勿論此二字の心ニ（者）至極之道ニ而候得者、中々早速ゟ二字の心ニ相叶候様仕向者成間敷候得共、大筋を此二字（之心脱）ニ叶候様心懸候ハヽ、後ニ者我物ニ成可申候、古今共人道ハいつにても同事ニ候、此義幾重ニも工夫専要ニ候

一たとへハ武芸稽古いたし候者常々無怠不断稽古いたし、（其脱）所作之上り候（ニ脱）連レ工夫も出来、段々芸術熟シ候得者、其師伝も不残受印可程ニも相成候、夫ニも稽古ハ不怠勤申候而も、思慮工夫もなく何心なくて一通迄ニ心懸ケ申ス芸者ハ、後ニハ退屈も出来申候而極意之伝授も不仕様ニ相成申候、役人共も其受方之役筋ヲ不怠情出心懸可申候、武芸之稽古いたし印可ヲも取候程ニ成申候得者、役筋ニ而も成不申与申ス事ハなく、乍然是ハたとへニ申候得者必一通とは難極候、然共右之通之筋ニ心懸ケ候得者、村方之義迚も唐・日本ト違申程ニハ無之と考申候、菟角其者共之覚語次第之事ニ候

一年中一ケ月分晴雨毎月一日も無怠書扣置可然、右之通いたし候へ者（中脱）翌年天気合之見合ニも成、第一天気合之其時節之趣も考候ハヽ、何角ニ付足りニ成可申候、昔之代官共ハ右之通心懸候者も有之由兼而聞及申候、如何様能キ心懸ケと感し申事ニ候

一今年之様成事ニ候得者、来春ゟハ麦毛上ヲ始メ時々之作物出来不出来・毛上増減をも何となく心覚候様ニ書調置可然候、尤麦毛上秋毛上之事ハ百姓共江申付、帖面等差出サセ見合ニ手前々々（ニ脱）差置候而も可然候、時之（々）間のものハ急度書出サせ候而も却而如何敷も候間、是ハ代官共へ心得ニ見分となく出来善悪・生産（物）之増減見せ置、其趣書留メ置候ハヽ、自然と役方之助力ニ成可申哉

一番組共之勤方善悪不断心を付見聞（分）可致（致シ）候、少も油断不致様ニ可心付候、昔より下代・村廻り共色々悪祝（説）有之事ニ候、只今番組迚も其筋怠不申様ニ常々心付可然候

一他国境近キ所之義一入ニ心怠不申様心懸、其境目之場

所をも不断見廻り、少しニ而も心懸之義候ハヽ、宜様ニ申談尤ニ候、境目之義者少シニ而も大事ニ而候、万端其心得常々工夫可有之候事ニ候

以上

代官宗旨改ニ罷出候節百姓共へ可申聞趣、又ハ代官共心得可申頭書

一当年者諸作之出来宜相聞候間、ヶ様之節諸事無油断、凶年之節不及難義様ニ貯物等之義相考之仕形申付、代官共も心付申付置候品可有了簡事

一兼而相定置候法度之趣堅く相守候様ニ申付置候義も不及申ニ、近年百姓もの毎に奢、分ニ過候暮等仕候ものも有之、其上家中侍共往還通候節無礼之仕形も有之由ニ候(付)、此度稠敷申付候様ニ可有之候、其外家中侍共之義慮外唱候様ニも風聞ニ候、此等之義急度申付置可然事

一近来者百姓共城下江罷出我儘成仕形も有之、馬士(子)等之類法外成趣有之段、此以後急度嗜(相嗜候様)様ニ申付、相背者ハ仕置ニも可申付候様申聞可然事

一凶年之節百姓共給物之義、貯物之改先年之通ニ常々相改候様ニ仕可然事

一百姓共之仕形其筋ニ候、難捨置義者其支配之代官即時ニ手錠又ハ牢舎申付(等脱)、追而其趣郡奉行・勘定奉行・郡廻りへも致示談候様ニ仕可然候、其郡之支配代官手を引候様ニ有之候へ者、村方百姓之直り可申様無之候、此段もいつれへも申談可然事

一惣而村方之趣ニ寄強過候而宜筋も有之、又ハ強過候而ハ如何と相見候村も可有之候、莵角其程合見合せ別届等之仕向可有之事ニ候、此段ハ代官共得斗心懸不申而者的当申間敷候、此義代官共之心得第一之義ニ候事

寛文五年七月十一日従公儀被仰出候寺法之義御書附写

定

一諸宗法式不可相乱、若不行義之輩於有之者急度可及沙汰事

一不存一宗法式之僧侶、不可為寺院住持事

附、立新義不可致寄怪(説)之法事

一本末之規式不可乱之、段〔縦〕雖為本寺末寺江対し不可有理
不尽之沙汰事
一檀越之輩雖為何寺可住〔可任其心〕怠、従僧侶方不可相争事
一結徒党闘〔企脱〕論、不似合事素〔業〕不可仕事
一背国法輩到来候節〔之〕、於在其届無異義可返事
一寺院仏閣修覆之時、不可及美麗事
附、仏閣無懈怠掃除可申付事
一寺領一切不可売買候〔之〕、并不可入質物候事
一無由緒者雖有弟子之望猥ニ不可令出家、若無拠子細於
有之者、其所之領主・代官江相断可任其意事
右之条々諸宗共堅ク可守之、此外先判之条数弥不可相背
之、若於違犯者随科之軽重可沙汰之、猶載下知状者也

条々

一僧侶之衣体応其分際ニ可着之、并法〔仏〕事作善之規式〔儀〕檀那
雖〔之脱〕望相応軽ク可仕事
一檀方建立由緒無〔有〕之寺院住職之義者、為其檀那計之条、
本寺ゟ遂相談可任其意事
一以金銀子〔不〕〔致〕可為後住之契約事（子ノ字不ノ字ノ誤乎）
一借在家構仏檀不可求利用事
一他人ハ勿論親類之奴雖〔好〕有之、寺院坊舎ヘ女人不可拘置
之、〔但脱〕有来妻帯ハ可為格別事
右之条々可相守之、若於違犯者随科之軽重可〔御脱〕有沙汰之
旨、依仰執達如件

寛文五年七月十一日

大和守〔老中久世広之〕
美濃守〔老中稲葉正則〕
豊後守〔老中阿部忠秋〕
雅楽守〔老中酒井忠清〕

宝暦十二午年従公儀被仰出書附写

只今迄元来寺院ニ而無之百姓所持之地所ヲ寺院江致寄
附、又ハ譲地等ニ致候も有之、右之地所ヲ他之寺院或者
他寺之塔頭寺江譲渡、右場所ニ〔江〕引〔寺〕高等いたし、〔亦者本寺離末致し、〕或者当時
〔願者勝手之宗旨ニ仕替引寺致、脱〕退転寺号計水帖等ニ有之を取立引寺号〔ニ脱〕致シ候義、并墓所
詰り添地寄附〔進〕境内江囲込之義〔候〕、右之願自今可為無用候、
百姓者勿論、たとへ領主・地頭たり共田畑猥ニ寺院江致
寄附候義容易ニ者難成事〔ニ候脱〕
右之趣可被相触候事

二月

〔老中松平武元〕松平右近将監殿御渡候御書付写し壱通相達し候、被得其
意無遅滞順達留より〔大目付池田政倫〕池田筑後守方江可被相返候

二月

御大名様方御留守居宛

公儀御廻達之書附写壱包為御心得入御披見候、以上

三月十七日　〔郡奉行〕鳥井九郎兵衛
〔郡奉行〕能勢十太

諸郡
御代官宛順達

宝永元年申七月日
郡へ相渡覚書附、村々貸借利足之事

一質物ニ而貸候ハヽ、月壱歩半、質物なしにて貸申候ハヽ、月弐歩、但、質物なしニて貸仕候共右之定ゟ高利取申間敷、定より内之利安成貸借者相対次第可仕候事
一米貸借利足月弐歩
一麦・雑穀貸借利足月三歩
右之利ゟ高利取申間敷事、尤米・麦・雑穀貸借銀子直不申、夫々之色にて取替仕、かたく相守可申候、此外月入并加詰之利直切可為無用事

諸取立之事

一御貸麦元利　一船床銀
一諸札銀　一鑪札銀
一割鉄吹屋札銀　一釘鍛冶炭運上銀
一小鍛冶炭運上銀　一諸職人水役銀
一鍛冶炭紺屋灰運上銀
右之品々者人別より取立相済〔候刻脱〕、夫々へ庄屋方ゟ請取手形遣し可申事

諸給分之事

庄屋給
一百石之村　給分弐石
一弐百石之村　同　弐石五斗
一三百石之村　同　三石
一四百石之村　同　三石五斗

一五百石之村　同　四石
一六百石之村　同　四石五斗
一七百石之村　同　五石
一八百石之村　同　五石五斗
一九百石之村　同　六石
一千石之村　同　六石五斗
右百石ゟ千石之村迄此通五斗ッ、増シ、たゞし何百石
余之半高ハ拾石ニ付五升まし
一千石以上之村者百石ニ付三斗増、但、半高も拾石ニ付
三升まし
一庄屋弐人有之村ハ、仮令ハ千石之村者五百石ッ、之庄
屋給之通壱人ニ付四石ッ、取可申候
右者御蔵入・丸(明)給知之村々庄屋給分如斯
明知給知之入交(組之)庄屋給分
一知行(給知)高百石ニ付三厘懸給分取可申候(事)、半高も准之
一寄合・丸給知之村之庄屋給分も右同断之事
組頭給分
一壱人ニ付　壱石五斗宛
組頭給分ハ明知方ゟ出シ、給知方ハ不出候事

但、百五拾石以下之村者無之様ニ申付候事、村ニよ
り組頭無之候而不叶村者吟味之上可申付事、或者長
百姓ニ給分遣し候而成共諸用(可脱)申付候事
筆取給分
一米弐石　筆取壱人給分
但、高百石ゟ四百石迄
一同弐石五斗　右同断
但、五百石ゟ九百石迄
一同三石　右同断
但、千石ゟ千九百石迄
一同三石五斗　右同断
但、弐千石ゟ三千石迄
右御蔵入・丸明知村々筆取給分如此可相極事
一明知・給知入組有之村ハ、右相極給分之内給知方拾石
ニ付壱升五合宛給分出し可申事、筆取所ニ無之他所ゟ
召抱候ハ、給分之様子可申聞候、役人之内ゟ筆取ハ勤
申間敷候、手跡之善悪ニ不拘(構)外ニ召抱可申候、但、寄
合・丸給知者庄屋ニ而も勝手次第相勤可申事
小走給分

一米壱石　　小走壱人給分
右小走壱人給分者明知・給知共高割(可脱)仕候、たとへハ千石
之村者百石ニ付壱斗割、百石之村ハ(高脱)拾石ニ付壱升割、
余者准之、大高之村壱人ニ而調兼候ハヽ、弐人(或者脱)或者三人
ニ而も相勤可申、只今迄勤来候外増人仕候ハヽ、可申聞
事

山守給分

一米三斗ゟ五斗迄壱人之給分、但、山之大小・遠近ニ応
シ遣し可申、山数多キ村ハ山守数を増し可申事

樋守給分

一米三斗ゟ五斗迄壱人給分、但、樋之大小、数之多小ニ
寄右之給分ニ而難勤所ハ可申聞候事
右山守給分・樋守給分、明知・給知方共高割可仕候、
高割之仕様小走給同断之事

米計給分

一米三斗　　米計之給分
但、大高之村壱人ニ而調兼候ハヽ、或者弐人或者三
人ニても相勤可申候、只今迄勤来候外増人仕候ハヽ、
可申聞候事

庄屋足子引高壱人分

一高百石ゟ弐百石迄　拾　石
一同三百石ゟ四百石迄　拾弐石
一同五百石ゟ六百石迄　拾四石
一同七百石ゟ八百石迄　拾六石
一同九百石ゟ千石迄　拾八石
一同千石ゟ千弐百石迄　弐拾石
一同千三百石ゟ千四百石迄　弐拾壱石
一同千五百石ゟ千七百石迄　弐拾弐石
一同千八百石ゟ弐千石迄　弐拾三石
一同弐千石ゟ弐千三百石迄　弐拾四石
一同弐千四百石ゟ弐千六百石迄　弐拾五石
一同弐千七百石ゟ三千石迄　弐拾六石

組頭之引高

一高七石　　組頭壱人分
右庄屋・組頭引高之義足子迄之事ニ候間、此外諸割賦ハ
惣百姓並可相勤候

年行司之事

一村ニ寄年行司給分有之候、自今以後者給分・引高共ニ

無用ニ可仕候、年行司有来候村ハ廻りく\勝手次第可
相勤事

　但、月行司右同断

　　蔵番給

一村ニより御年貢蔵番給有之候、自今以後無用ニ可仕、
廻りく\相勤可申候、尤高割（ニ脱）可仕候事、但、給知之分
ハ可差除候事

一村々状持給分向後無用之事、百姓廻りく\壱人宛、急
用之節ハ庄屋所へ相詰〔勤〕サセ可申、尤高割可仕事

右之外村ニ而品々番人給有之候、此以後給分之義者（ニ脱）及ひ
不申候、番人も無用ニ可仕候、番勤不申而不叶義者廻り
く\為相勤可申候

　　紙筆之事　但、高割一ヶ村分

一高百石ゟ弐百石迄　（紙拾束 筆拾三対）
一同三百石ゟ四百石迄　（紙拾三束 筆拾六対）
一同五百石ゟ六百石迄　（紙拾六束 筆拾九対）
一同七百石ゟ九百石迄　（紙拾八束 筆廿一対）
一同千石　（紙弐拾束 筆廿三対）

　但、千石之村より三千石之村迄、高百石ニ付右之割
　ニ紙壱束宛之増ニ、筆壱対宛之増し

一高百石ゟ三百石迄　墨四挺
一同四百石ゟ六百石迄　同六挺
一同七百石ゟ九百石迄　同八挺
一同千石ゟ千五百石迄　同九挺
一同千六百石ゟ弐千石迄　同拾挺
一同弐千石ゟ弐千五百石迄　同拾壱挺
一同弐千六百石ゟ三千石迄　同拾弐挺

　　右紙墨筆之事

一明知・給知入交り之村者右之積を以入用相しらへ、明
知・給知之入用を仕分ケ、入役帖へ書記可申、給知入
用之分ハ給知ゟ出申候、明知入用之分ハ明知ゟ出し可
申事

　　右之紙筆墨代銀定

一諸口壱束ニ付　弐匁ゟ弐匁三分迄
一筆　壱匁ニ付四対ゟ高ク成ハ無用
一墨　壱挺ニ付壱匁ゟ高ク成ハ無用

右筆・墨・紙、往還筋并市町有之所ハ多く入(申脱)義可有之候間、其品相伺(調)ひ可申事

油・蠟燭之事

一蠟燭、市町有之所ハ御用之義并其町中火之廻り之為メニハ蠟燭燈し可申、其外村々ニ而ハ蠟燭無用可仕候事

一燈油、村々庄屋・組頭手前ニ而入用大分ニ相聞候、此後過分ニ候(入脱)ハヽ、入役算用ニ立申間敷候間、随分油入不申様可仕、尤日之内ニ算用以上(下)相仕廻候様可仕候、附り、市町火番屋之油者其町屋(家)役ニ仕、村割ニ出申間敷事

一御蔵入・明知方村々所蔵ニて場莚買調出候義、自今以後曽而無用仕、入用之員数程百姓役目ニ申付打せ出し可申(候脱)、尤出候百姓手前之義者夫程ニ立遣可申事

一村之内普請仕候節、竹木縄菰買調候義向後無用仕、是亦夫役ニ可仕候、竹木無之村者可申聞候事

一所普請夫者不及申、他村ニ(江)越夫人夫ニ而可遣米銀取遣り堅ク無用之事

一其村之普請夫、甲乙無之様作高ニ応割可申、但、老人女童難出候ハヽ、其者相対ニ而雇ひ出候様可仕事

一庄屋・組頭御用ニ付他村所へ参候刻、所之百姓召連レ候義無用ニ候、若召連候ハて不相叶義候ハヽ、壱人召連れ可申候

但、一日飯米壱人ニ付壱升ツヽ、所ゟ弐人と召連申義有之候ハヽ、其段下代共へ相断可申事

一庄屋御用ニ付広嶋へ参候刻、飯米一日壱升五合ツヽ、薪・塩噌共此外広嶋郡中ニ而も市町定宿賃之義者此方へ可相窺、尤庄屋・組頭広嶋へ罷出候ハヽ、何月何日何御用ニて罷出、何月何日ニ所へ罷戻候様ニと被仰付戻候由、度々此方下切ニ書附出し可申事

一組頭其外長百姓御用ニ付広嶋所々江参り候刻飯米壱日壱升弐合宛、但、薪・塩噌とも

一御用并急飛脚之義、壱人一日銀弐匁ツヽ、遣し可申事

但、夜通しハ昼夜四匁遣(四匁ツヽ遣し可申事)候事

諸賄之事

一御小人飛脚壱人ニ付(三分脱)、薪・野菜入用相宿之時者壱人ニ付壱分増し

御代官・都廻り壱人一日一夜賄ひ

一薪炭壱匁五分

一油三合壱匁
一野菜五分
銀〆三匁
用談之時者右之積ゟ入用多キ義も可有之候、其外所柄
ニ寄入用多小(少)有之候ハヽ、其当分可申達候事
一諸役人中宿賄之義、此以後村賄之義差支(止)、所々泊り候
入用委細記可置候、重而郡割可申付事
一山奉行衆・宗旨奉行衆被泊候刻も右同断、是亦入用多
少有之候ハヽ、追而可申出事
　村廻り壱人ニ付一日一夜賄
一薪五分
一野菜弐分
一油五分
銀〆壱匁弐分
御歩行山方右同断
　下代壱人ニ付一日一夜賄
一薪四分
一野菜弐分
一油五分
銀〆壱匁壱分
御用之品ニ寄、或者夜中帖目録等相調、或ハ吟味仕候
義共有之村者、右之積より入用多キ義可有之候間、其
刻ハ当分此方へ可申聞候事
一稲毛下見之時分、庄屋・組頭共并中見之者飯米又ハ村
中諸算用之刻出合候ハヽ、飯米銘々持参可仕候事
一免割之節、寄村庄屋共賄入用此以後無用ニ候、諸村庄
屋共他村へ御用ニ付参候飯米者、其面々之村ニ而定之
通出サせ可申事
一五人組之頭出(寄)合談合之時分入用、此以後無用之事
一村々より宿々江遣候年頭・歳暮物、此以後無用之事
一村中有残成者改或者為火用心百姓又ハ革田廻り候刻
者、一日壱人ニ付飯米壱升遣し可申事
一村々雨乞・虫送之義、其時節ニ至此方へ相窺、吟味之
上入用之員数迄差図受執行可仕候事
一神事祭礼ハ何より随分軽く可仕候、若過分之入用村々(之)
割ニ出候ハヽ、算用ニ立間敷事
一伊勢・熊野・高野・八幡・愛宕・大社・厳嶋(等江脱)檀那共ゟ
先規之通少々初穂差上候共弥軽く仕、銘々心次第ニい

たし一切割ニ入間敷事、附り、太夫・使僧村々檀那廻り不及仕ニ、或ハ広嶋（宿脱）或者其郡元一ヶ所ニ初穂取集メ可相渡由可申談事

一御蔵払欠之義、村々ニて米拵不念故米直ニ付、欠米并斗欠も多有之候間、此後米主念入御蔵ニ而欠米多無之様可仕候、若過分欠米有之候ハヽ、遂吟味算用立間敷事

一所蔵ニ而升減・鼠喰有之間敷義を、村々より右之欠米書出候、此以後立間敷事

一村（々脱）駄賃之義、村々所蔵ゟ所々御蔵へ津出米、牛馬所持之者者牛馬ニて出し、小高之者者負（背負ニ而）候而出可申候、駄賃割ニ出シ申間敷事

一村々船賃之義、其米主ゟ船賃出サせ割ニ出申間敷事

一嶋方之者共御用之外船ニ而往来仕候ハヽ、船賃之義自分ゟ出、皆〔堅〕割ニ入申間敷事

一浦辺庄屋・組頭御用ニ而罷出候ハヽ、陸ヲ罷出可申、船ニて罷出候共船賃算用ニ不立候事

一米見之者を相定候義此後無用ニ候、米吟味庄屋・組頭・長百姓見届可申事

一村ニより組頭役を庄屋兼勤候所も有之よし、向後組頭役庄屋兼相勤候義無用之事

一庄屋・組頭・〔長脱〕百姓御用ニ付広嶋又ハ他村へ罷越飯米、明知・給知方分り之品可有之候、年中出飯米書出し相伺候、以後差図を受明知方・給知方割高可相極事

一飛脚賃銀、右同断

一代官出郡之内麦見分・秋毛上見分、尤所務右度々之賄明知方計割賦仕、此外之出郡之節ハ明知方・給知方共割賦可仕候事

一村廻り出郡之節、右同断

一自今以後明知・給知共新規割賦仕義有之候ハヽ、相窺ひ明知・給知割賦之分り請差図可申事

右之村々諸入用并諸給分等迄相定候通堅ク相守、随分費無之様可仕候、若紙面之通難成義有之候ハヽ、其品申出可受差図候、不申聞役人共之心得迄ニ而、村々諸割其外我儘之支配仕候ハヽ、急度越度可申付、勿論此帖面村々写留メ惣百姓共へ読聞せ、承届候段書記不残判形為仕可申もの也

明石与三右衛門

申七月廿八日

津田左次兵衛
高屋五郎左衛門
年寄
庄屋
組頭

一近年在方諸入用幷給分不同ニて、先年給知〔分〕之時分ニ違たる義も有之様ニ相聞候間、右紙面之通年寄・庄屋・組頭共手前毎年其時〳〵ニ被遂吟味、無怠堅ク相守候様可被仰付由、御代官衆へ私共ゟ申達候様ニと被仰聞候故如斯ニ候、被入御念可被仰付候、以上

宝永元年
申七月廿八日
〔勘定奉行〕竹腰次左衛門
〔勘定奉行〕杉山兵左衛門
〔勘定奉行〕青木弥太夫

明石与三右衛門殿
津田左次兵衛殿
高屋五郎左衛門殿

地詰地坪升突見附之心得書幷給知割ニ付郡方心得書共

地詰之事

一古検地之村ニ而土地も宜全体畝広之所、又ハ田地ニより甲乙出来、依之村立も悪敷相成候様成所地詰有之附り、村ニ寄新開をいたし、凡拾ケ年余ニも相成候へ者見取米被仰付、年数二十ケ年余りニも及ひ作物も能出来立候へ者新ニ高付申付、ケ様之所御改有之、検地有之事ニ御座候

一地坪之事ハ、田地荒所〔地〕出来又ハ田地片寄甲乙有之、一村之内ニて三四歩方も百姓勝手ヲ得、六七歩方難義仕候故、多分ヲ以村方ゟ願出候、御吟味有之、聞届被遣候へ者百姓平等ニ相成、当時之差支相止候処〔江脱〕地坪被仰付候へ共、惣体之業者地詰同前ニて仕形軽キ事ニて、畢竟村内証通用迄ニ右坪高を用ひ、上よりハ都而本高ヲ用候御事也、夫故以前ゟハ村役人出会、尤地見抔ハ功者成庄屋他郡より被申付、或者田地境抔ハ銘々地主罷出、引合申様ニ成事ニ而済申候、時節ニより候、尤役人中計ニてハ仕形無心許トテ、支配之御代官中下代召連被罷出、地坪有之候義も御座候、左様相成候時者

地詰同前ニ御座候、郡方割等地坪高ヲ被用申候、又ハ下代ヲ始終被付置、御代官中折々見分ニ罷出候義も御座候由、郡御役所之節ハ他郡ゟ所務役人被仰付候事も御座候

一地詰被仰付候ヘ者、田畑或者人別畝数相しらへ、境目之杭木相改、木札・手板二十六夫々ニ立置、紛敷無之様ニ仕、田地之割一方ゟ帖面ニて引付安キ様ニ役人立会候而相改候様前廉村方ヘ触有之候事

一地詰出会之御役末々迄夫々之御役向念ヲ入、尤依怙贔屓之沙汰無之、右御用ニ付賄路受不申、万端有体ニ相勤候旨誓詞被仰付候事

右同断之義有之場所ヘ地主罷出候事堅く無用之事

一地詰承奉行

右以前者其支配郡郡廻り衆・御代官中・村廻りニて相済、役人不足之節ハ他郡功者成村廻り加り被仰付候よし、近年之地詰惣奉行或ハ見合御役被仰付、地詰御奉行ニハ御名目御代官中御馬廻り之内、或ハ御代官中被仰付候

一地見取次役　御歩行組壱人

右地見之者田地之位を銘々見込、存寄之入札差出候を受取、地詰御奉行ヘ差出申候、田地之位被致相談候、尤入札之多分ニ位相極メ候事、位相極候趣野取帖ヘ書記サセ、其上ニて右入札ハ当分〳〵ニ地見之者ヘ相戻し申候、時ニ寄地之見様不相応ニも相見候ヘ者、地詰奉行中申談見直し入札為仕申候

附り、地見入札不同有之、一ほのき之内ニて一位ニ難片付とて、或ハ三四歩方ハ上位、六七歩方ハ上中位抔与相極メ候義有之、一通ハ尤ニ相見候ヘ共、地主ニ相成候而者いつれより以後右田地半方ニ而も売払申候時節、土地之分り難知御座候ニ付地主難義仕候、ヶ様之ニイロ(二色)之位をは見坪ヲ以一ト位と相極置候ヘ者、永々迄宜様奉存候

一竿先役　番組壱人

右以前者下代、尤村廻り仕候節も御座候よし、近年も番組相勤候義も御座候由、間々延縮無之、尋問(向)竿打せ申候、竿数を以畝町相極候ヘ(傍示)者大切之事歟、近年者毎年御歩行組之内被仰付候、尤ほふし好方之好ニ応し竿打せ申候

一傍示好役　御歩行組壱人
右以前ハ無之哉、地詰功者之もの近年被仰付候、ほふし役傍示差廻し候を致見分、存寄も候へ者差直サせ申候
一傍示役　番組弐人
右以前ハ功者之御奉行中被遣候ニ付、奉行中ほふし差所ハ好被申候而下代相勤候由、傍示差込候へ者畝数相定候、元立ニ御座候故一ほのき限り境(之)ニ杭木相改、杭木外ツラへほふし相差、尤田地ニ寄種々之形有之候故、夫々ニ付角ニ取傍示差申ス事も御座候へ者、此役別而功者入申候、不功者ニてハ田地ニ広挾[狭]出来御益ニも不相成、或者下方永々之難義ニ相成り候事ニ(も)御座候
　附り、土手外(下タ)ト三尺通ハ一間或ハ五尺三尺、其所ニ
　　応し見合引遣し申候
一間帖附　番組壱人
右以前ハ下代相勤候由、間帖ニ竿入候田地之作人之名・ほのき書留メ、其上ニて竿先より申聞せ候竪横之間を記、尤算用方へ申聞畝数ニ直し、其畝書付申候事
一算者　番組壱人
右以前者下代相勤候由、間帖方より申聞候間数(ヲ脱)畝数ニ応(通)し間帖へ書記候事
　附り、間数割(之脱)ニて小一畝ニ不合事有之候、左様之所
　　者歩を引遣候而、小一畝ニ合やう中古より仕候、
　　但、三歩を小一畝ト唱、三十歩ヲ一畝ト呼(シ脱)候ニ付、
　　三百歩ハ壱反ニ相成候事
一野取帖役　番組壱人
右以前者下代相勤候由、間帖ニ而相極申候、畝数書記、其上地見方相極候を地見取次方より申聞候ニ付書付申候、尤手板ニ只今迄之畝、田地之位、作人之名、ほのき等相記有之候ニ付、点ヲ懸ケ(裏江脱)、相改候畝数・位・ほのき名等相記申候
一竿打　御小人弐人
右竿先之差図を受竿打申候
一地見之者　他郡他村之功者役人四五人
右土地之善悪、水掛り・日請善悪、森藪陰・岸之上下之田地、又者作人之丈夫不丈夫、(夫)夫ニ寄作物出来口ニ違ひ有之、ヶ様之義迄心を付入札仕候義肝要ニ御座候、地見抔ニ付地見仲間申合候義を、目合・手真似・合

言等種々之事を以仕候、尤手板位抔申様成事共御座候ニ付、地見之もの一所ニ不差置、相極(分)り候而銘々見込之入札仕せ候事、畝数相極メ候上者田地位付之義無之事ニ御座候得者、入札之仕形ニより御不益共又ハ下方永々之難義共相成候事

私ニ曰、此地見之者大村ニ候へ者五人、小村ニ候得者三人、菟角人数三五七之数ニ組合候仕形宜候、其故ハ上中下之入札之時者四人ナレハ五歩／＼ニ入候時難分、又見替サせ候様ニ相成隙取申故、最初より三五七と人数組合候方宜候、尤古法他郡他村之者を申付ルなり

一後帖
　後算　其村之内ゟ算(筆)者仕候者弐人

(者脱)右見合之為メニ御座候故後帖・間帖付之跡ニ附廻り、後算者算方之跡ニ居候而相勤候

一傍示肝煎　村方長百姓之内働有之者弐人

右傍示差候もの者村方百姓之内ゟ勤申候ニ付、傍示差或者揚ケ申候手遣役、其上傍示差日々ニ代り候へ者、右肝煎之者呑込居申ニ付差配仕候ニ付、万事手廻り能御座候

一傍示差　村方百姓十人程

一深田(フケ)ニ而者足入レ難義ニ付、水縄ヲ用ひ候へ者縄ニ而者延縮有之、不慥もの故可成たけ者竿ヲ用ひ申候

一其村之役人不残罷出候事、尤田畑一ほのき限りニ帖面を以傍示方御役人江引付申候、右一組之仕形畝数有之、日数相懸候得者見合ニ而弐組或者三組ニも相成候得者、夫々之人数相増申候

一田畑之位ハ其村ニ応し相極メ候事、屋敷地斗代ハ壱石五斗ニ而御座候、其外悪所田地有之候へ者見附田畑と唱、位を其村々ニ応し下斗代ニ相極メ申候、又作付も成不申所者連々作と唱へ、一向斗代難付故畝計相改候、此分ハ年月ヲ経作物も宜出来仕候へ者見取懸り、其以後高付ニ相成申候、此年数之仕形ハ前ニ書記申候事

一朝ハ五ツ時ゟ取懸り、晩ハ七ツ時前迄相詰候、一日限り田畑改之高畝日ニ寄候而目録相調、手板取集メ見合仕候事

一晴天計、雨天者不相成候事

一一日ニ四五丁程小マチ多候得者、弐三町も出来申候

一御役人之面々往来人馬賄被下候事

一昼食者田道ニおゐて相認候事

右賄仕出御役人并諸道具左之通入用之事

一大傍示八本　一小傍示十本

一間竿差多過分入申候　一竿先杖三本（但、杖元ニ鉄ニて石突有之）

一入札十三四枚宛、地見之人数程

一水縄　一歩ミ板

一紙筆墨朱墨　一薄縁り

一莚　一腰懸（但、御歩行組以上人数程）

一円座　一ホテ　但、村役人人数程

一湯桶・やかん・茶碗・薪・田子・柄杓とも賃銀者其村割

但、時節ニ寄村方一向ニ物入無之様被仰付可然候、地坪ニ者村方夫々之働ニ応し御米銀被下候年も御座候

右之品々一組入用詰之節者上ゟ被仰付候、地坪ニ者村方入用ニ相成候事

一地詰請状者中長ケにして一通村へ被下候、其節手板取集メ御戻（し）り被成候、一通ハ御勘定所へ出申候、尤地詰惣奉行不残出会之御役人性〔姓〕名書記、惣奉行・地詰御奉行ハ書判・印判被仕候、墨付紙数へも印（形）判被仕候事

升突仕様之事

一早稲・中田・晩田（共脱）畝其（壱）歩之内出来籾ヲ知而其籾ヲ米ニ直し、其村々其年々出来米高ヲ承知仕候様之事ニ而御座候

一籾壱升ハ米五合半減ニ相成候義定法ニ而御座候

一早稲・中田・晩田之出来籾（稲）銘々ニ帖面ニ仕立三冊ニ仕候、又ハ中晩田者毛上一緒ニ見分仕、帖一冊ニ仕立、小内ニて中晩田分り相見候様ニも仕候

一右帖面仕様之義者、畝壱歩之内籾弐合より凡弐升四合位迄ハ土地ニ応し出来申候、村役人并長百姓打寄、於田道ニ其出来ヲ得斗見合仕、百姓人別・出来稲、尤畝数を相改書記、乍然一町之内ニ出来ニ勝劣有之ものニ候、ましてあせ違（者脱）ニて其違数々有之、其畝・出来稲共ニ引分帖面ニ書記、奥ニ而夫々之畝合穂共拾ひ集メ申候、是ヲ合穂（寄脱）ト唱申候

一出来籾弐合ゟ四五合迄出来候故、たとへ者合穂寄之所

ニ而弐合穂ヲ一段、三合穂を二段ト夫より壱合之(ツヽ)上り
候ヲ其数ニ銘々寄何段ニも帖面ニ(之)奥江書出申候、是を
段取ト唱申候、右之如段取夫々ニ畝出来米も集メ、尤
都合之畝有米ヲ〆候ニ付、其村出来米相知申候故有米
帖ト唱申候、此仕形村役人并長百姓出合候而相極メ候
ニ付下見与唱申候

一段取寄之仕形たとへハ

四町八反三畝拾五歩

但（ケ様ニ畝ノ次何十何歩ヲ田法三ツヲ以割候て、割余り無之ヲ小一畝ト言）

有米弐拾壱石七斗五升七合五勺　三合穂

六町三反八畝十六歩　但（右之如ク三ツヲ以割候而、割余り有之ヲ小一畝ニ不仕ト言）

有米四拾七石八斗九升　五合穂

四町三畝

有米四拾弐石三斗壱升五合　七合穂

四町六反八畝

有米六拾三石壱斗八升　九合穂

畝数合拾九町九反三畝壱歩

有米合百七拾五石壱斗四升弐合五勺

一有米見様之事、三合穂之惣畝四町八反三畝拾五歩有
之、此拾五歩を三ヲ以割候へ者五ニ成、是ニ而歩に通
(ヒ)之、故ニ三合穂ニ一五ヲ懸ケ四五ト成、是ヲ目安ニ仕、
右之畝四畝(丁)八反三畝ニ五ヲ(懸)加懸候へ者、有米弐拾壱石
七斗五升七合五勺ト知申候

一小一畝ニ合不申候ハヽ、右ニ有之六町三反八畝拾六歩、
此拾六歩を三ニて割詰、合穂五合ニ一五ヲ懸ケ七五ト
成ルヲ右之畝へ懸申候、何も合穂ニ一(五)五ヲ懸添目安ニ
いたし、其穂ニ懸候得者有米ト相成候事、或者金割ト
唱、拾六歩ゟ上畝へ三ヲ懸平坪ニ直し、是ニ合穂五合
ヲ懸候へ者九拾五石七斗八升ト籾相見申候、是ヲ二ヲ
以割候へ者四拾七石八斗九升ト有米ニ直り申候、ケ様
ニも仕候

一惣畝・惣有米ニ而坪壱歩、籾米何合出来ニ当り候哉之
事、右惣畝拾九町九反三畝壱歩ヲ三ニ而割、是ヲ目安
ニして惣有米百七拾五石壱斗四升弐合五勺ヲ割候へ
者、坪八合七勺八才七毛六弗ト出来米相知申候、右ヲ
倍ニ仕候へ者壱歩籾壱升七合五勺七毛五弗余ト知申候

一下見・升突共ニ年々之季節(ヲ量リ銀)重ク被申候、下見相調候上

郡方御役人御差出、尤村役人幷長百姓罷出、於田道ニ右帖面ヲ以出来稲江夫々ニ引付、見合入御役人も相尋、下見之仕形直不直ヲ得斗見分ケ、扨又去当之年柄を考、其上去年之有米帖ヲ取寄概等見分、其年之善悪ニ随ひ一村ニ而升突二三ヶ所仕候

一田道ニ而ハ御役人之見分之心得、下見之仕形ハ何と致ても自然と内端ニ成リタガリ候ゆへ、下見よりハ惣体何割も上り候へ者、其年柄惣応(相)ト有之義を考知事、功者無之而ハ不相成候、其見込ヲ以毛上見計ひ、歩竿ヲ入一歩刈仕候事、タトヘハ弐割上り候見込

下見四合穂　見込四合八勺
同　七合穂　同　八合四勺
同　壱升弐合穂　同　壱升四合四勺

右之如ク毛上見計候事、此心得者下見四合穂有之候ニ付、四合へ弐割ヲ懸候へ者八勺ト成、元升四合入候へ者四合八勺ト出申候、其外弐割五歩上りニても可仕と存候ハヽ、元升四合へ弐割五歩懸候へ者壱合ト成、夫ニ元升四合ヲ加五合ニ成候ニ付、下見四合穂ニ八勺も壱合も上り候様成、毛上ヲ見合候事肝要ニ御座候、余此(者脱)心得ヲ以考可申事、弐割上ニ付有米帖江出候様左之通

畝合拾九町九反三畝壱歩
有米百七拾五石壱斗四升弐合五勺
但、此壱歩籾ニ八合七勺八才七毛八弗（此概ハ下見ニて仕候故此義書出村も御座候）
此上リ米三拾五石弐升八合五勺　但、下見弐割上リ
二口合弐百拾石壱斗七升壱合
但、坪壱歩籾壱升〇五勺四才五毛余
上り(但脱)米仕形ハ、有米百七拾五石壱斗四升弐合五勺へ弐割ヲ懸候へ者上り米と成ル、何レも惣米上りを懸ケ候事

右之通御役人相改、上り米を書記〆合仕、尤縄俵米拵念入何日限ニ御蔵払仕、切手取可差出旨奥書仕、名宛印形仕、村役人江帖相渡候事
但、小内升突仕候田地之所へ升突籾何程有之候段、升突所(ト脱)相知申候タメ書記、委細印形仕置候事

一早稲ニ而者有米之内何程御蔵払可仕旨員数究〆申候ニ付、中田よりハ収納割仕、其通御蔵払仕候様ニ申付候

一合穂段取之寄せより上り米〆合之所迄ヲ書記候ヲ有米目録ト申候、此分御代官中へ帖ニ仕差出申候事

一升突之節、村役人之心得ニ依而上穂ヲ隠シ、或ハ色々手立ヲ仕、難致升突様ニ仕候事御座候ニ付、御役人心得肝要ニ候

附り、森藪陰或ハ苗代跡之稲ハよろしく相見候而も有籾無之物故升突不仕候事

一升突之義、郡方之趣万事功者ニてよく合点不仕候而ハ有米ニ不同出来、免上之村も上り不申、升突仕形ニ寄有米帖面ニ相見候処、不相応之改ニ相成候事も御座候、ケ様ニ申改米ヲ村立見合ニ相成候而者村方難渋ニおよひ候、功者無御座候而ハ其分難知御座候ゆへ、爰ヲ以功者入り申ス事と奉存候

升突心得之事

一有米百三石弐斗弐升六合

右下見ニ三割五歩上りヲ最初見テ、此三割五歩を有米高へ懸候得者

此上米三拾六石壱斗弐升九合ト知ル

籾有米百三石弐斗弐升六合ト上り米三拾六石壱斗弐升九合ヲ懸ケ合

二口合百三拾九石三斗五升五合ト成ル

右ヲ見立テタトヘハ

畝数四町八反五畝拾五歩有実ニ置テ、サテ拾五歩計ニ三ヲ懸（謙曰、十五歩計三ヲ以割、五ニ成ルコトト相見ルナリ）四町八反五畝五ト成ル、サテ夫ニ五ヲ懸増七二八二五ト成ル、是ヲ以二口合百三拾九石三斗五升五合ヲ割時者、坪壱歩籾壱升九合壱勺三才五毛五弗ト去年分之壱歩籾ヲ差引、何程増欠り知ル事、扨升所役人見込ハ八合穂有時三割之上りニスル時、心得ニ而壱升壱合ト仕時ハ米上り多ク成候故弐勺捨ル、壱升八勺ト仕時八合ヲ引残弐合八勺ト成ル也、弐合八勺ヲ八ヲ以割時ハ三割五歩ト知ル也、都而升所壱升五合、下見之時本升ハ壱升八合六勺有時、下見程ヲ引残ル分ヲ下見之本升ヲ以割時ハ何割何歩ト知ル、いつれニても下見之升本升ヲ差引、下見之員数（ヲ以脱）割ハ夫々ニ知ル也

上り何割ヲ知ル事ハ

一畝高拾五ヲ懸ケ
　但、五畝高ニ五ヲ加ヘテも同事、何十歩之ハシタ有時ハ、何十歩計ヲ三ヲ以割テ右之通十五ヲ懸ル宛、但、五ヲ加ヘル宛ニシテ吉五ヲ加ル法早ク候
　謙曰、宛ノ字難解
右之通ニシテ有米壱升八合ニ坪敷時ハ、壱升八合ヲ畝高ヘ懸時者米ニナル、此米之内下見(之有米脱)ヲ引残ル米を有米高を以割時者何割之上りト知ルナリ
　畝数十六町九反八畝有時、此有米三百四拾四石壱斗三升三合下見有米也
右畝数ニ十五ヲ懸ケ二五四七ト成ル、但平坪也、是ニ壱升八合穂之心ニて壱升八合ヲ懸候ヘ者、米四百五拾八石四斗六升ト成ル、右之内帖面有米三百四拾四石壱斗三升三合ヲ引、残百拾四石三斗弐升七合アルヲ、有米三百四拾四石壱斗三升三合ヲ以割時ハ、何割之上りト知ル、三割三歩弐厘弐毛上りニ出ル、是ヲ有米高ニ懸ケ上り米何十何石何斗ト知ル也

　　下見何割上りヲ知ル事

一下見壱升壱合之所ニ而升突仕時、壱升壱合ヲ実ニ置三割之上りヲ懸ケ、又弐割五歩之時者弐割五歩ヲ懸ケ、何れも上り之倍程ヲ懸ル也、右之通ニして元壱升壱合ヲ実ニ置、夫ヘ三ヲ懸ケ(其上江脱)壱升壱合ヲ加ヘテ其内壱升壱合ヲ引、残壱升壱合之下見升ヲ以割時ハ三割(之脱)上りト知ル也、いつれも此心得也
一升所壱升壱合之時、四割之上りナレハ壱升壱合ニ四ヲ懸ケ、夫ニ壱升壱合加ヘテ升突之有籾壱升五合四勺ト知ル、いつれも此仕形也
一概壱歩籾何程ニ当ルト言時、畝高ニ五ヲ加ヘ（但、何十歩ニ割テ何ヲ加五ル也）有時者三ヲ以割、夫ヲ以有米ト上り米ト二口之米ヲ割候ヘハ、壱歩籾壱升何合何勺ト知ル也
　但、畝高何反何畝何拾歩有時ハ何十歩計ヲ三ヲ以割而置、いつれも五ヲ加テ割ト知ルヘシ

　　升突野取帖仕形

一畝(何拾脱)何町何反何畝何拾歩　但、壱畝何程増減或ハ去同
有米何拾何石何斗何升(何合ト脱)　下見帖ニ有
　此上り米何拾何石何斗何升（下見ニ何割何歩上り）
二口合何拾何石何斗何升何合

概壱歩籾何升何合何勺何才何毛何弗
去年ニ何合何勺何才何毛何弗増減記ス事
升所（何升何合穂
　　　何升何合有
　　内
何拾何石何斗何升　八歩米
　　内
何石何斗　何月何日収納
右之通中晩田共奥書仕、庄屋・組頭宛升突之番組名印
両人印〆り（メイ）〳〵ニ居候事、壱歩籾何升何合之所、或者
壱升穂之田地之所ニ而壱升三合有之候へハ、其所ニ印
形仕候事
　一ヶ村ニテ毛損有之時
一畝数何拾何町何反何畝何歩　但、何畝共畝ニ増減
　　内
何町何畝　当洪水砂入荒（所脱）
　　内
何反何畝上りナシ　何合穂見起

残何拾何町何反何畝　毛附
有米何拾何石何斗何升何合何勺
此上り米何拾何石何斗何升何合何勺
　　但、下見ニ何割上り
外ニ何石何斗何升（何合脱）何勺　見起米
三口合何拾何石何斗何升何合何勺
右之通仕候事、其外ハ前ニ有之仕立也
野取帖奥ニ升突・村数・畝数寄仕候事如左
村数合何拾何ヶ村
畝数合何百何拾何町何反何畝何歩
内（増畝何町（何反何畝）
　　欠畝（何町何反何畝）
差引何町何反何畝何歩
有米（合何百何拾何石何斗何升何合何勺）
此上り米（何百何拾何石何斗）
二口合何千何百何拾何石何斗何升――
　　内
何百何拾何石（何斗何升何合）
但何月何日ゟ（何月何日）迄収納
右之通

晩田升突仕ル時

村数合（何拾何）ケ村

畝数合（何　程）

内（何拾何町）中田改候テ欠ル

（何　程）右同断まし

差引（何　程）欠り

内何程（何町何反脱）　砂入毛上なし

内

何程上りなし　何合穂見起シ

残何程

有米（何　程）

此上り米（何　程）　概下見ニ何程上り

外ニ（何　程）　見起米

何口合（何　程）

概壱歩籾何程　（本畝ニ概シ何合何勺
毛附畝ニ概シ何合何勺）

右之通仕候事

一新開方畠方ハ畝ニ六割懸ケ取也

升突ニテ去年弐三勺も下ケ、当年概仕ル事

一去年之帖升突一口合之此概ニ何升何合何勺有、当年者下見有米概何升何合何勺有ヲ、右去年升突概何升何合何勺内ニて、引残何程有ル分ニて或ハ当年弐勺も下ルヘクト存ル程引、又上ルベク存ル時ハ何勺何才成共加ル、当年之下見之有米概ヲ以割ハ、（割脱）凡何程之上りト見ヘ申候

一当年下見概ニ何割ヲ懸、夫ニ下見升概シ程ヲ入テ、去年之升突ヲ差引仕ル時ハ、去年ニ何合何勺之上り又欠（ト脱）り知ル也

升突先位ヲ見候事

一壱割五歩上り可申与存候時、坪高ニ成ト存候ハ、才捨ルよし、又升ヒクシト存候ハ、才ヲ上テ吉、都而才ハ升合不申故捨（ル脱）歟上ル歟ニ可仕候事

一上り升合ひ不申割合せニ仕時ハ、タトヘハ壱升弐合穂ニて壱割五歩上可申与存候ハヽ、壱升弐合穂ニ壱割五歩ヲ懸ケ壱升弐合加ヘル、其内壱升弐合ヲ引残ヲ壱升弐合穂ヲ以割時者、何割何歩何厘何毛何弗ト出ル、いつれニても此通ニ可仕候事

但、此義者或ハ壱升穂ニて壱割五歩上ル時分、割合ハ成不申候へ共、壱升穂又ハ壱升壱合計りニ而も上

りヲ懸ケかたき事ゆへ、右壱升弐合穂ニて壱割五歩上ケ度ト存ル時升合不申故、其時右之通割合ニ仕候事、此起ハ最初壱升何合穂ニ而何割可上ト見込候而仕事、大通り極メ不申而ハ相成不申事

見附之事

一見付願候義者、水損或者日損仕候而早稲刈コナシ仕見合申候処、免米不足可仕ト存ルより願申候、早稲ゟ願申候へハ至而毛損多キ故、願及見付ニ候へハ上下共物入ニも相成、第一大切之事多くハ早稲之カリコナシ仕見合、弥不足と相見候得者願出候

一見付ニ相成候而も畠屋敷之分ハ其儘本免懸候、尤畑之義も皆損同前之趣候得ハ是亦御吟味之上下ケ遣し(被遣)候、右之通故畠・屋敷へハ先本免懸候而、惣有米四歩六歩ニ分ケ、四歩ハ作得、残六歩ハ上納米ニ相成候、此六歩米と右畑屋敷物成と入合候而、免米ニ不足有之候へハ、其不足之分下ケ免ニ相成申候

一見附願出候得者弥免米ニ不足ニ候哉、念入御吟味有之候而も、見付願候へ者被仰付候事ニ御座候、見付ニ及ひ候而も村方依之過分物入出来、上ニも御不勝手之筋有之候、免米不足ト申物ニ候へ者、迚も御救ひ被遊候事ニ候へ共、上ト共ニ不益之費有之候故、御吟味之上当免何程御下ケ被遣候間、見付止候様ニト被仰付候事も有之候を岡見ト申候、しかれ共其趣合点不仕、是非願候へ者見附被仰付候事

一見附有之候へ者、其郡之郡廻り中・御代官・村廻り・下代御差出、勿論御勘定所ゟも御役人被差出、御歩行目附・御小人目附被差出候

一見附ニ相成候へ者、共村之役人幷出合之者共合穂段取、下見之仕形、村境等迄念ヲ入、少も不直之仕形無之、万端有体ニ仕候旨誓詞被仰付候事

右ニ付入用之墨・筆・紙・蠟燭等者上より被下候よし、尤升歩竿等も上ゟ相渡候由、右之外惣入用者其村之入用ニ相成候

但、歩竿者〆緒之元ゟ穴迄七尺八寸ニ可仕候事

一鎌入候義触有之候事

一地坪等有之候間、村々ニ而右帖を用ひ申事ニ而ハ無之、検地帖ヲ用ひ申(候脱)、タトヘ故有之、本帖無之候而も、万事本帖之趣ヲ以相しらへ候様ニと御申付有之候事

一古荒・永川成等者相改、引当候へ者引遣申候、然共年久敷事故多くハ得不仕物ニ御座候、此義者其荒畝高引当改見合候趣ニ随ひ引遣し申ス義ニ御座候

附り、打籠掛下ヶ高有村者素り畝ナシニ付前々之通

一見付・下見之仕形ハ平年之有米積りゟハ至而念ヲ入、村境迄相改サセ置、其上ニ而御役人見分之時節弥力ヲ入相改、下見之仕形一町之内上中下穂之取分ヶ有之候得者、上穂之畝少ナク下穂之畝多く取候哉、其畝分ヶ心ヲ付猶亦升突候共、たとへ者同壱升穂之下見之内ニ而も何ト仕候而も一様ニ無之、少々宛之見違も有之物ニ御座候間、村内ニ而見合中田（分）ヲ升突候事いつれ之合穂ニ而も右之心得ニ而仕候へ者直ニ相成候

一見附升突之段取ヲ仕候而下升突候得者直ニ御座候へ共、大村ニ而段取多く有之候へ者殊之外隙入日数懸り候故、上中下穂此内ニて升四五所仕候而可然奉存候

一日々致見分候畝町・有米、尤升突ニ而上り下り之段左之通日々寄せ目録仕候事

覚

一何町何反　　但、何合穂

有米何程

一何町何反　　但、何合穂

有米何程

一何町何拾歩　　但、何合穂

有米何程

畝合何町何反何畝何拾何歩

有米何程

此上り米何程

二口合何程　但、概壱歩籾何程

エト月日

一見附之業ニ至候而者大切至極之事ト奉存候、見分之趣ニより御費共又ハ村方難渋ニ共成申ものニ而御座候ニ付、不功者ニてハ其趣得伺ひ難知物ニ御座候、功者成者見付村へ入込、其村之田土毛上之趣ニ而ハ、見付願見分候へ者、此村合毛上之趣ニ而者願候義者尤、又ハ此毛上ニ而ハ見付ニも不及之間イ大概相知申候、不功者ニ而ハ此分ヶ見分ヶ難知物ニ御座候、其上壱歩竿ニ籾米ヲ以其村之有米ヲ相計事ニ候へ者、升突之籾壱勺（升）ト違ひ有之候而も、大小村共其村ニ応し出来之勝省ト

相見候様ニ成申候、然ハ見付願迚も升突之仕形ニより願相止、又ハ見付ニ不及候而済候様成毛上ニ而も見付を受候様ニも相成、是ヲ以郡方万事功者ニ而、毛上之事ニ而も能馴候者ならてハ此間之義難知御座候事

一見附相済候へ者、段取・畝分ケ・有米之所、(尤脱)升突ニ而上り下り之趣書附、惣米ヲ〆、内ニ而四歩六歩相分ケ、右六歩之所江定物成ヲ立差引仕、其不足米を高ニ而割、免ニ直シ下り免相知、目録ニ相調御勘定所へ出し申候

右始終兼々承及之義書付申候

給知割ニ付郡方心得書

一給知割被仰付候得者、前年御勘定所より御代官所江為知有之、尤明知村之分、村合上中下、百姓人数多少、免上り詰下り詰、浮所務之品、山林之多小、牛馬数、水損日損之所等之義、御代官中存寄之趣一村限り書付、翌年之免組も相調被差出候様ニと通達有之事

但、給知渡ニ相成候村、尤渡残有之村、其儘明知ニ相成候村共御貸米銀ハ不残御捨被遣候、仍之免組も右之心持ニ而上ケ候而組候得共、村ニ寄過分御貸物有之村ハ、其御貸物を免ニ通し申候迚も夫程之上免ニ相成不申事有之候、元御貸物ハ捨被遣候義ニ候へ共、御貸物ニ差而拘り不申、惣体村合之趣ヲ考上ケ免可仕義肝要ニ候、扨又上り詰・下り詰共必見合せニも難成子細ハ、下り詰之村迚も痛ミ強候得者其上ヲも下ケ、上り詰之村迚も、村立之建りも能候得ハ上り申候、是等之義郡村之義能合点仕、功者無之候而ハ難知御座候

一給知割相調、御判物頂戴以後何郡何村〱ニテ誰々江何程ツヽ相渡候間、甲乙無之様ニ組合水帖相調、鬮取相極メ、夫々給人江相渡候様ニと御勘定所へ申来候

一右之趣ニ付御代官所ゟ郡方江申付候義ハ、田畠善悪并百姓数・住居之善悪相考申事、片寄不申平等組合、尤与庄屋相勤候様成者ヲ帖面之口ニ相記シ、尚又本百姓・越百姓之義迄も不同無之様ニ念入帖面差出候様申付候事、此帖ヲ鬮帖と唱へ申候

一鬮取帖之義者、其村給人江渡高之趣ニ而、相給知尤残高有之候へ者其明知と鬮取仕候故、鬮取安キ様ニ帖面相調サセ候事、其仕様ハ、高を幾品ニも見合分ケ帖ニ

仕、上書も何石組と当分鬮取之時見分ヶ宜為メ書付サせ、尤帖之口江百姓之名前ヲ書記シ置候へ者、弥鬮取之見合能有之候

一鬮取之仕形ハ、前ニ有之水帖之口へ出ル百姓之名を書附候而鬮ニいたし差出申候、此者鬮取当り候帖ヲ夫々ニ給人江相渡申候、鬮取帖調様、給人江渡候高残り明知之仕形左之通

七百石之村ニ而
内
百石渡り　給人三人
五拾石渡り　同断

又五百石之村ニ而
内
百五拾石渡り　給人弐人
八拾四石三斗五升渡り　同　壱人
弐拾三石渡り　同　三人
〆四百五拾三石三斗五升　給人六人
残四拾六石六斗五升　明知ニ相成分

右之分も前々ハ心持ニ高之品仕候而郡方へ好ニ遣し申候

弐拾三石組帖　弐拾冊
此高四百六拾石
拾弐石組帖　三冊
此高三拾六石
六斗五升組帖　六冊
此高三石九斗
帖数合弐拾九冊
高合五百石
内
百五拾石渡リヘ　（弐拾三石組帖六冊ツヽ、拾弐石組帖壱冊ツヽ、）
弐拾三石渡リヘ　弐拾三石組帖壱冊
明知四拾六石六斗五升　（弐拾三石組帖弐冊、六斗五升組帖壱冊）
八拾四石三斗五升　（弐拾三石組帖　三冊、拾弐石組帖　壱冊、六斗五升組帖　五冊）
三拾弐石五斗渡リヘ　同断　壱人
〆四百八拾弐石五斗　給人　七人
残弐百拾七石五斗　明知ニ相成分

右闔取帖調様、見合ヲ以高ヲ幾重ニも仕候へ共、仕形ニより帖数多相成申候ニ付、此見合第一ニ候、此上前ニ有之通可申付事、片寄不申平等ニ組合闔（帖脱）取調候様郡方へ申付候、給人数・給知高ニ応シ帖数調（様脱）之義御代官所ニ而吟味候而、村方へ書付遣し可然、左なく候而村方任ニてハ帖調様も悪敷有之候、別帖調サせ様左之通也

拾五石組帖　四拾三冊
　此高六百四拾五石
弐石五斗組帖　弐拾弐冊
　此高五拾五石
帖数合六拾五冊
高合七百石
　内
高百石渡り江　（拾五石組帖　六冊ツ、／弐石五斗組帖　四冊ツ、）
同五拾石渡り江　（拾五石組帖　三冊ツ、／弐石五斗組帖　弐冊ツ、）
同三拾弐石五斗渡りへ　（拾五石組帖　弐冊ツ、／弐石五斗組帖　壱冊ツ、）
残明知高弐百拾七石五斗　（拾五石組帖　拾四冊／弐石五斗組帖　三冊）

右之通（ニ脱）可成程ハ考合、給人夫々之渡高へ応シ闔取ニ而帖相渡済候様ニ帖数・高組合相調候事、左候へ者闔洩不申、平等ニ相成候而能有之、外ニ壱斗帖・ナシ付帖ト唱、追而相済候事

右之通ニ仕候故、壱斗闔取無之分出来申候、何程（高脱）纔ニ而も闔取帖不成ト申ス義者無之候へ共、纔之高ヲ帖数ニ仕候而ハ村方難義仕候故、ケ様之ハシタ類ハ闔取相調候上ニ而無闔ニ夫々へ付渡申候、是亦不同無之様ニ組合調候様ニ兼而村方江申付候而帖之外書附（取脱）申候、其趣を以村方ゟ無甲乙組合出候ニ付、其趣給人ゟ闔取ニ出候者へ申聞付ケ渡申候故、給人方ニも少シも申分無之候、附帖ト唱申候

一右帖組合平等ニ仕候故、小内ニ而一ほのきの田地ニ而も、幾筆ニも分ケ候而帖面へ書出申候へ者不同無之候、仍之壱人一ほのきの高畝帖毎ニ有之候を、一ほのき限りニ銘々持分を一ツ所ニ集メ候へ者、人別之高畝全相成候間、見合ニも能候間其通ニいたし候ハ、、水帖調替サせ闔取帖ト追而引替可申、それニも不及、闔取其儘御用ひ候ハ、、壱冊ニトヂ候様可被仕、惣庄屋

遣し可申候間、相対仕候而可然旨鬮取ニ参り候者へ申聞候事

一隠居并死去跡之義御勘定所ゟ度々御代官所へ申来候、隠居之上ケ地・死去跡ハ新明知ト唱候、隠居上ケ地・給知渡り之高分り書付御勘定所ゟ参り(候)、此上ケ知・給知渡り鬮取も右同断之仕形ニいたし候事

一給知割相済候得者、上より御貸付被置候種米者、元米計給人より返上可仕筈之事

一新明知ニ相改候分ハ、其新明知へ先給人ゟ貸付置被申候種米・牛銀ハ上より御貸(替へ脱)被遣候ニ付、其村方へ員数尋候而、書付出次第其員数御勘定所へ御代官所ゟ書付被差出候へ者、御貸替ニ付新明知跡へ其村役人ゟ持参返弁為仕候事、諸取手形取御代官所江為差出、見届済次第村役人江下ケ遣シ候事

一右新明知相成分未進米有之候而も、先給人より相対次第返弁可仕候事、御代官所より急度裁許事ニてハ無之事

一鬮取帖郡方ゟ相調差出候へ者、引受之御代官中宅ニ而、何月何日鬮取仕候間支配方之もの被差出候様ニと給人中江御代官所ゟ案内之紙面遣し候事

一鬮取之節、御代官衆両人共袴着被仕、見分被致候事

一鬮取帖村方ニ而調候ニ付、役人共へ左之趣ニ証文為仕置可然事、尤鬮取帖差出候節一緒ニ為出候

此度御給知割御座候ニ付、鬮取之水帖百姓人別・田地甲乙無之、本百姓・越百姓之義不同無之平等相極メ候、給知へ相渡候而於後日ニ御給知ハ不及申上ニ、村方等ニ至迄為何申分無之様ニ組合帖面相調可申由、段々被為入御念被仰付候趣奉畏候、則組合帖面相調差出申候、若又不埒之仕形も御座候ハヽ、庄屋・組頭共越度ニ可被仰付候、為其証文仕差出申候、以上

年号エト月日　村役人印

御代官中宛

御領分追放者立帰、隠(シ)レ居候者咎方等之事

一宝暦十辰年八月十二日被仰付、郡御奉行中ゟ諸郡御代官中江左之通順達出ル、仍之諸郡へ相触置候

覚

一悪事有之、御領分追放申付候者立帰り候共、立宿ニ而

も不仕筈之処、近来流合立帰り之者多く相聞候条、自今左之通

一追放立帰り之者致宿候者ハ牢舎可申付事
　但、牢舎之間日々賄其外諸入用共本人ゟ出サせ、尚不足之所ハ親類・五人組ゟ為差出候事

一村役人ハ右油断之咎メとして役義取上ケ、又ハ過料等可申付候事

一立帰り之者居候段慥ニ申出候ものハ、即時ニ褒美として鳥目壱貫文遣し候事

一御領分追放者者其度々人相書ヲ以諸郡(へ脱)相触候事故、何方へ立帰り居候共右同断之事
　以上

郡方御歩行目附幷番組他国江被遣候節渡物等之事

一宝暦十二午年御代官所手付宮木平三江戸江被遣候節、本馬五歩方御勘定所ゟ御渡、是ニ而難取合、申談候上又本馬五歩方、外ニ継人足壱人賃共郡御奉行衆より御渡被遣候
　但、都合本馬壱疋ニ人足壱人之賃銀被遣候

一宝暦年中御代官手附水野金五公領上下村江被遣候節も本馬壱疋、人足壱人賃銀被遣候
　但、此節者郡支配銀ニ而相渡り候様相聞候

一明和八卯年二月朔日、郡方御歩行目附岡平太幷御代官所手附加藤喜七備中倉敷江被遣候節渡り物、御勘定所ニ而左之通極メ渡ル

（往来継馬壱疋
（一日上下弐人之旅籠
郡方御歩行目付
岡　平太
　但、一日壱人百七拾文宛
　但、倉敷迄道程三十三里、往来六拾六里分之馬銀幷日数十五日分上下弐人之旅籠等左之通相渡ル

一丁銭弐貫七百七十弐文　但、六十六里継馬壱疋賃
一同　四貫九百八拾文　但、日数十五日分上下旅籠賃
銭合七貫七百五拾弐文
　銀ニシテ百拾匁七分

一同年同月御代官手付加藤喜七倉敷江被遣候節、左之通御勘定所ゟ相渡ル
（往来今極軽尻馬壱疋
（一日百七拾文宛之旅籠
御代官手付
加藤喜七
右之積ニ而左之通御勘定所ゟ相渡ル

一丁銭弐貫四拾六文　　但、六十六里軽尻壱疋賃
一同　弐貫四百九拾文　但、日数十五日分旅籠賃
銭合四貫五百三拾六文
銀ニシテ六拾四匁八分
今極メト有之義相尋候所、近年御改ニ而山坂ノ増ヲ
コメ候間、古来ゟノ極メゟ相増申候故、今極ト唱申
候

元文三午年郡方御役人中へ被仰出候書附之事

一御用屋鋪集会之節、此以後郡廻り以上迄罷出、其余者
毎事罷出ルニ不及候、御用有之節計可被罷出候事
一御代官中不残被罷出候ニ不及、御用有之面々計可被罷
出候事
一大御目附中・御目附も見廻り同前被相心得、(ニ脱)始終被相
詰候ニ者不及、見合先へも引取可被申事
一只今迄物書之者差出書付等読せ并即席ニ書留サセ申候
得共、此後ハ夫ニ不及、跡ニ而頭書為仕候筈之事
右之通被仰出候間、弥熟談有之候様可被仕候事
二月　私曰、元文三午年二月也

郡御奉行引請

一郡中江被仰出之事
一御大名衆御通等之事
一郡中江諸触之事
一郡中諸願之事
一寺社諸願之事
一御所務方之事
一公事出入之事
一諸普請之事
一御貸物筋之事
一他国風聞其外諸注進之事
一地詰・地概并目附等之事
一郡中貯物筋之事
右之外郡中之義一円ニ郡御奉行方江承而、夫々(江脱)申談候事

御勘定奉行引請

一諸勘定承届之事
但、(諸)御勘定ニ懸り候類払目録ヲ始、都而其根ニ成候

郡之帖書付引受只今迄之通之事

一御米銀ヲ以請渡有之類之事
　但、厘米払之内帖面ニ出給米渡シ并勘定聞届払方之
　事

一右御米銀出之義者様々有之候へ共、専勘定承届候類之
払方、或者寺社破損繕ひ・御高札場入用等御大名衆御
通り宿構之類、其外郡中普請方ニ懸り候義、郡御奉行
方へ承候而可申談候、尤右御米銀出之内ニ郡割賦等者
直ニ御勘定所より可被申談候事

一差次米并為替米等其外上納ニ懸り候諸願事

一酒場願之事

一御高札・山札又ハ壁書類調候事

一御蔵々繕ひ并諸口屋繕ひ等之事

一見取新開地詰・地開（開地）等之書付取納之事
　但、此類も郡中ゟ郡御奉行へ申出承届済候上、書附
　等御勘定所（へ脱）出申候事

一郡中御貸物之事（右例格物ハ格別、其余者先郡奉行へ願之筋承候而承届候而（承届候而）可申談事）

右之外其事品ニ付郡奉行中ゟ可申談候事

御山方引請

一御建山・御留山其外野山・腰林伐刈等之事
　但、只今迄此筋郡御奉行へ承届候へ共、此以後者御
山方へ申達有之候ハヽ、免許可有之候、其内例ニ無之
義歟或者事通達（品達）之筋ハ御山方ゟ郡御奉行江可被申聞
候事

郡御奉行江可被申聞事

一材木・炭・薪其外諸品山本直段并御払直段極メ之事

一御山方仕入御米銀請取渡之事

一所々門松書付取しらへ之事

一古家川下シ之事

右之品其外御山江懸り候義ハ御山方ニ而承、郡御奉行所
へも申達取計之事

郡廻引請

一御免組しらへ并毎春土御免触之事

一郡割・免割・夫割之事、但、此義一通り願ひ候類ハ直
ニ郡廻江承届候事

一地概・地コブリ等之願之事
一御代官并下役村役勤方善悪之事
一鑪鍛冶屋・千割鍛冶屋願之事
一郡中盛衰ニ懸り候義考合之事
一小鍛冶・鋳物師願之事
　但、小鍛冶類所替願之事
一紺屋・小鍛冶炭灰運上之事
右之通郡(分)廻り(被脱)承届、郡御奉行江被申聞伺ひ、又ハ御年寄
共江申達シ取計可有之候、此外之諸用只今迄之通御代官
所之義被承、其外郡御奉行出し(候)諸用之内しらへ之事ニ懸
り候義、何事ニよらす郡御奉行へ申談可有之候、以上
右之通元文三年午二月改〆被仰出候事

　右引受分り延享元年子七月ニ尚又被仰出別帖ニ記置
延享元年子七月十二日被仰出
　都而村方御仕向ニ付被仰出
郡御奉行衆へ相達之義引請
御勘定奉行中引受
郡廻り中引受

　諸郡御代官御所務仕向
右被仰出候書付、於御勘定所ニ郡御奉行衆・御勘定奉
行中列座ニ而被申渡候
一近年郡々御所務難渋之趣相聞候、就中去年之義者、御
年貢滞候郡々有之趣等委細達御聴ニ候、郡ニより作方
之趣善悪軽重ハ可有之候へ共、於年柄ニ者一統之事ニ
候、勿論右相済候方角迚も御代官所可有油断様無之、
近来打続年柄不宜故も有之候へ共、御定法も有之義心
得薄思召候、此以後之義厚力ヲ入、取立筋手後ニ不相
成様別而念可被入候、右之趣いつれもへ申聞候様ニと
被仰出候
　子七月
　　郡御奉行
　　御勘定奉行江出候書附写
一郡方御所務筋郡ニより近年ハ定法も難立、御貸物等毎
年毎〔マヽ〕年願出候趣ニ相聞(見へ候)、依之ハ年々其筋も立被遣候へ
共、全百姓共潤ニも不相成趣ニ相聞候、是等者畢竟村
役人共之取計不宜故ト風話も有之候、勿論此筋ニおゐ

てハ第一御代官所之仕向取計ニ寄可申事ニ候へ者可被入力義、尤村役人ニ者寄り可申候へ共、右之筋追々被心付役人共相改正道ニ取計、全百姓共取続候様仕向可被申事

但、御貸物等ヲ以役人共へ口入又ハ余借等ヲ償ひ、作方仕入等も闕キ候役人も有之様風聞ニ候、此義別而御代官中心付、其筋無之様可被申談候事

一御年貢之義ハたとへ少々不作之年たり共、兼而被仰付置候通見付も不願ニおゐてハ、聊無滞様御納所可相済義ニ候所、納所半ニ至不埒之申出いたし候村方も有之趣追々相聞候、右之通御定法も有之義ニ候へ者、右〔若〕不熟ニ而御年貢不足も可有之趣ニ候ハヽ、見付を願其趣ヲ以有体上納可仕義ニ候、若又右之筋心得違上江もたれ候取計之役人も有之候ハヽ、其趣ニ寄可遂吟味事

一近年郡々之免合追々下り候方ニ相見候、尤年柄不宜ニ而も候得共、元来御納所取立遅滞ニ依而追々借銀等重ミ、ヲノツカラ御免等へも相障り可申義ニ候、〔左候得者脱〕右筋之取計肝要之事ニ可有之候間、別而可被入力事

但、近年者何となく村方入役之吟味しらへも薄、依之者自然と百姓末々致難義候趣之風聞も有之候、入役等之義者其村之盛衰ニ懸り、百姓共取続之第一ニ而可有之候間、此等之趣郡廻り中・御代官中者勿論村廻りへも被申談、追々入役減シ候様可被仕候

右之趣郡廻り中・御代官中へも厚示談有之、御為宜様別而念ヲ入可被申談候、以上

子七月

郡御奉行引請郡方諸御用之内

一天下送り之事

一公儀御役人衆御領分御通行之節御用向之事

但、此内御米銀ニ懸り候義并宿構〔栫へ〕、其外其品ニ寄御勘定奉行引受申談候事

一御大名衆御領分御通行之節右同断之事

一郡中諸触之事

一寺社江懸リ候願之事

一郡中諸願之事

但、御所務方并郡而御米銀等出入ニ懸候義者、御勘定奉行引受申談候事

一厘米之米銀幷郡中支配銀等之事
一公事出入之事
一人改之事
但、帖面引受(請引)幷吟味しらへ御帖面等調候義ハ、只今迄之通御勘定奉行引受之事
一御上下之節御用向之事
但、此内品ニより御勘定奉行引受ニ候事
一郡方江被為成候節御用向之事
但、右同断之事
一郡中普請所之事
一本郷・四日市・海田・瀬野・可部御茶屋御普請作事幷御作事より相調候寺社御繕ひ等之事
一御制札・高札建替之事
一郡中火事・風雨其外転変ニ付注進之事
但、此内ニ而田畑損等都而御所務方へも響候筋之義者、郡御奉行ゟ御勘定奉行へ可被相通候事
一焼家小屋掛願之事
但、小屋掛割賦等之義者只今迄之通り御勘定奉行引請之事

一諸札願幷札書調郡御奉行引受御焼印押候事
一御年貢上納不相済以前新米売買幷自用ニ取散し候筋停止触之事
但、郡御奉行・御勘定奉行連名ニ而相触候事
一郡中貯物之事
但、木実・草葉取置候改筋共
一郡中用事ニ付他国ゟ書状往返之事
但、文通ハ郡廻り引受ニ候事
一他国外聞注進之事
一於郡中死罪之者、又ハ御追放者有之品々之事
一盗人其外御吟味者牢舎等之事
一鑪鍛冶屋・千割鍛冶屋幷鋳物師・小鍛冶屋・紺屋等之類願之事
一郡中之者他国江罷越、又ハ他国より御領分江参り逗留又ハ引越等之事
一庄屋・組頭等之村役人入替之事(等脱)
右之品々者御代官より郡御奉行江直ニ申達、尤御米銀出入ニ懸り候義者御勘定奉行へも申談候事

子七月

御勘定奉行引請郡方諸御用之内

一毎春土御免組之義申談候事
一御所務方へ懸候（候）義御用向之義一円
一郡中諸願之内御米銀出入ニ懸候義一円
　但、右之品々帖面者只今迄之通毎年御勘定所へ受納
　候事
一郡中普請所入用申談候事
一御高札場・御茶屋・所々御蔵・御番所・口屋等普請作
　事等之事
　附り、諸道具仕替引替之事
一人改ニ付人数帖請引吟味申談候事
一見附願之事
一御所務方御用并普請所見分出郡時節之義ニ付申談候事
一地詰・地概等之事
一新開又ハ起地・開等願之事
一郡中貯物増減之義ニ付申談并勘定筋之事
一鑪鍛冶屋・千割鍛冶屋并鋳物師・小鍛冶願之事
一職人改出シ并消印之事
一酒場願之事
一三次郡村々渡シ船損し繕ひ・引替願之事
一同郡上里村八幡祭礼入用竹之事
一塩浜売買願之事
一御茶屋等ニ有之樹木伐刈并成実入札払之事
一田方植付仕廻候程注進之事
一沼田郡祇園祭礼入用御貸米之事
一庄屋・組頭都而村役人入替等之事
右御代官より御勘定奉行へ申達候品、此外都而御米銀出
入之様（根）ニ懸り候筋之義者承届ケ可被申談候事

　以上

子七月

郡廻り引請郡方諸御用之内

一御免組之事
一郡割・免割・欠算用・夫割等都而入役筋増減しらへ申
　談候事
一村役人入替等申談
　附、平常人撰考合之事

一郡中江懸り候義ニ付他国往返文通之事
一郡割・免割・夫割等江懸り候諸願之事
但、此内虫送・雨乞・神事祭礼等之差極候例格有之義者、入用相しらへ申談之上即時ニ被差免、其趣追而序ニ郡御奉行・御勘定奉行江向ニ寄可被申達候事
一地概・地コブリ等願之事
一郡中盛衰ニ懸り候義考合之事
一小鍛冶屋・鋳物師願之事
但、小鍛冶類所替之事
一鑪鍛冶屋・千割鍛冶屋願之事
一紺屋・小鍛冶炭灰運上之事
一他国もの於御領分死失幷送者等有之節吟味申出之事
一郡中之者共他国へ罷越候願、又ハ他国ゟ子細有之、御領分江当分参り候歟、或ハ引越逗留仕らせ度願之事
附り、郡方之者ニても右同断之事
一変死之もの注進之事
一郡中之者共へ御褒美被下候筋申出之事
右品々御代官より都廻り申談、しらへ(脱)候而議論之上、郡御奉行・御勘定奉行江申達シ、諸用之内根ニ懸り候義者別而不洩様ニ委細熟談之上ニて、御代官より夫々江申達シ有之候様可被申合候、以上

子七月

郡御奉行
御勘定奉行衆ゟ出ル覚書

覚

一御所務方之義、別紙御年寄衆より出申候紙面ニも有之候通、近年何となく秋方各毛上見分有之迄之趣ハ、御納所差支候様子ニも無之処、兎角御所務半ニ至村方差支候様ニ村役人共ゟ申出候趣ニ相見候、元来村々稲毛刈上之最初より御年貢ヲ第一ニ仕、諸上納相済候以後、外借其外自用相払候義古来ゟ相極メ(之)ニ候へ者、今以其筋違ハ無之筈之処、いつとなく左様之筋も前々之様ニこれなく、御納所之励ミ薄ク、外借等ヲ払自用ヲ弁候故上納不足ニ相成候と相見候、尤其趣風説も有之候、畢竟収納割之趣意ヲ村役人共心得違候故取立手延ニ相成候ニ付、有物も自然と取散し、末ニ至り厳敷せり立候而も外用江取遣ひ、諸取立実ニ不足へ落候得共、御年貢之義いつれ共取立無之候而ハ相済不申、其時ニ至り俄ニ借替等ニ而間ヲ合候故、高利之借銀重

ミ、却而不勝手ニ至極之事ニ相成、村方困窮之根元ニ相見候、此筋之義各得斗御考、別而被入力、当年より番組共升突之最初随分念入見分致候様御申付、収納割日限手延ニ不相成義専要ニ可有之候、若又故なく上納渋り候村方も候ハヽ、其村役人共手前被遂吟味、不宜仕形有之候ハヽ、即座ニ追込手錠御申付、品ニ寄牢舎ニ而も申付候様ニ御心得、村役人共油断無之様御仕向肝要之事ニ有之候

但、作方若風雨・水旱等之変も有之、御年貢不足之趣ニ相極り候ハヽ、其段升突以前番組共詮義ヲ相詰、其趣ヲ以御定法之通見付ニ御申付、有体ニ御取立可有之候、若又見付も(ハ脱)不願御免米之通聊無相違御納所可相調趣受合置、左様之村方末ニ而兎哉角歎(キ脱)ケ間敷申出候ハヽ、猶御吟味之上不納之百姓者不及申ニ、村役人共も急度御申付可有之候、且又初秋之内ニ作物不熟之趣ニ而、三田之内ニ見付ニも可相成趣ニも候ハヽ、早稲方ハたとへ損毛少々候共、三田共ニ見付ニ可相成候間、早稲方ゟ鎌留可被申付置、勿論此義者兼而定法も有之義故此度申談不及候へ共、去年抔番組共心得違之方角も有之候ニ付尚又申談候事

一御免之義追々下り今以難戻り、尤近年作方不熟之事も
※②分り人別相応之高ヲ引分ケ所務下限ニ取立御申付可然候、夫共近年仕来之趣ニ付取立ニ打はまり不申類も可有之候、左様之者共ハ御所務いたし様之義古参功者之もの共へ幾重ニも相談いたし、何分其所務下限ニせり立取立候様ニ御仕向可然存候、若作物外事ニ取散シ不納所ニ候ハヽ、其引受候者之越度ニ可相成趣ニ御呑込せ可然候、尤如此相成候ハヽ、其者共義も自ラ相励ミ、連々其もの功者も出来可申義ニ候、尤右之趣当時差支難被行事も有之候ハヽ、御存寄御申聞可有之事

但、近年ハ収納割之義一通ハ被極置候得共、其収納割日限之通納方之しらへも薄く相成候趣ニ相聞候、左候而ハ畢竟収納割者名聞ニ相成候、当年ゟ者右割賦日限之通り少シも無相違相納メ、納り口之趣も不絶吟味可有、其内何ソ故障も有之、兼而日限之通難納子細も有之候ハヽ、其趣ヲ以筋立候義者被聞届、又夫丈ケ後日ニ至余分納メ込候様御仕向可有之候、尤郡ニより早稲・中晩田米之分ハ九歩米抔も極り居

候義も有之趣ニ候へ共、右之通り相成候上者是等も八歩方納候様ニなり共少々被宥、莵角収納割之石数日延ニ不相成様ニ御取計可有之候、万一故なく及遅滞候村方も有之候ハヽ、其村役人急度御申付可有之候

一村々津出米之義、近年ハ御蔵方受引之趣見合せ津出差扣見合居候郡村も多キ趣相聞候、然ハ其筋ニ而も収納後ニも可相成義ニ候、是等ハ村役人共之取計善悪ニ可依事ニ候、御蔵方受引者如何様ニ可有(之脱)候共、収納之米高者割賦日限之通無相違御蔵所へ津出仕可申義ニ候間、此度村々江急度御申付可有候、其上ニ而御蔵方受引・取捌之義差支も有之候ハヽ、御勘定奉行へ御申聞可有之候、此(其)趣ヲ以御蔵方へも可申談候、然所若是等も申立収納津出等延引之村方も候ハヽ、村役人共之手前急度吟味可有之事

但、米拵等之義前々ゟ申談候義ニ候得共、兎角米拵不宜、依之者子米も多ク、受方も及延引ニ候趣ニ候、是等ハ畢竟村方之不勝手第一ニ候へ者、村方ニて随分米之拵ヲ念入、凡例年納り口之趣ヲ以米拵為仕、御蔵所ニ而直シ替等無之様相調候様ニ村々役人共へ急度御申付、百姓へも此後得斗呑込せ候而、村方不勝手無之様ニ御仕向可有之候、若是等之筋力ヲ不入流合ニ仕候村方も候ハヽ、役人共越度可有之段御申付、勿論其趣可取計候、且又郡村ニより候而ハ、米入之者共納方受合候而様々手事ヲいたし相調候類も有之、依之米拵村方ニ而力ヲ不入も有之趣風聞有之、是等者折々番組被差廻被遂吟味、若左様之類も候ハヽ、米入之者共ハ不及申、受合せ候村役人共迄急度御申付可有之候

一近年何トなく割庄屋共御納所之義専ト引受候様相成候趣ニ相聞候、此義者近年之仕形ニ相成候義故、急ニ仕向御改之義成兼可申候得共、元来此筋熟与無之趣ニ相聞候得共、追々ニ者左之趣相成候御仕向御心得御取計可然候、尤遠郡ニ而古格之時節より割庄屋共請引仕来候分ハ格別、左も無之郡々者其村々庄屋・組頭又ハ取立役等有之義ニ候間、御吟味しらへ等も右役人共江番組ゟ直ニ申付可相済義ニ候、尤古格之趣ニ而ハ、割庄屋共義者第一郡中之諸割賦之義迄相勤来候趣ニ相見

候、其外公事出入等有之節ハ、其趣ニよりて人ヲ撰ひ御差仕可有之候、然共若村々之内上納不埒ニ而、其村々役人共手前取計不分明も有之節、其吟味割庄屋共之内人撰ニ而さし加へられ吟味御申付候義者、是亦可為格別候、勿論割庄屋共御所務ヲ引受いたし候而ハ広嶋等へ之出郡も繁、大分物入も有之、村方益ニも不相成趣ニ候、旁以前之通相成可然候、右之趣御心得、割庄屋共追々引受候ニ及不申様ニ御仕向可有之候、勿論番組所務下も分り以前之趣ニサヘ取計候ハヽ、自然与割庄屋共御所務方手伝不申共相済申候様ニ成可申哉ニ候得者、是亦兼而被入御力御取計可有之候事

但、諸御貸物等之義者、只今迄ハ兎角組合村々ヲ割庄屋共方へ引受願出候様相見候、是等ニ付而者不宜訳も有之趣ニ候、旁此以後ハ其村之役人共御代官所江直ニ願出候筋ニ御仕向、其上之義ハ番組共所務下限り其村合之強弱之趣ヲ以御貸多小等相しらへ、存寄等各へ申出候様ニ御仕向可有之候、村ニ寄不相応之願等申出不審之義も有之節ハ、其趣ヲ以割庄屋之内人柄ヲ被撰吟味も御申付可然哉、(且)是亦右之通被取行候ハヽ、願書等御代官所へ差出候者先年御勘定所ゟ相渡候覚書ニも有之候通、郡之(々)手寄之村方へ取集メ、五六村程ツヽ組合飛脚便ニ差出候歟、たとへ役人共可出とも、諸村を取集メ多人数不出候様ニ御仕向可有之候、右之趣御考当時難取行義者尚御しらへ御改可然候、これ又其趣御存寄可被仰聞候事

一近年者割庄屋勿論之義、村々役人等も村用等ニ付広嶋へ罷出候義繁キ趣ニ相聞候、此義者前々御勘定所より申談候通、役人共広嶋へ出候義繁候而者、往来之物入・出飯米等大分之失墜有之、畢竟村方入役相増、百姓共之不勝手難義之筋ト相見候間、此以後者格別急御用之外猥ニ役人共広嶋へ不罷出候様ニ御申付、不急村用等者前々御勘定所ゟ申談、兼而其郡々ニ極メ有之候月五六度之飛脚便ニ、諸願書附等も取集メ差出候様ニ御仕向可有之候、尤郡ニ寄候而者今以右極メ之通ニ御取計候も有之趣ニ相聞候得共、弥以右之趣御取計可然候、若御代官所より御申付候御用向之義も、急御用ニ付而村役人是非不罷出難済義者格別、其外之義者右飛脚便ニして御出郡之序々ニ郡中ニおゐて御申付候様

ニ御仕向可有之候、若飛脚便迄難延義も候ハヽ、例之通御勘定所江御申聞候ハヽ、飛脚御小人可相渡候、惣而ヶ様之義迄も御心被付、兎角入役不多やうニ御取計可有之候事

但、広嶋へ罷出候役人共乗掛馬等ニ而罷出候も有之趣ニ相聞候、尤其義其郡中古来之格合可有之義ニ候へ共、当時者諸事御撿〔倹〕約御取縮之時節ニ候へ者、往来日数ヲ懸候遠郡抔ハ軽尻馬ニ乗候義者格別、其外広嶋へ手近キ郡抔ハ歩行ニ而罷出可相済義ニ候、近年村方も困窮体ニ而上納物等サヘ及遅滞趣ニ候へ者、右体之儀迄も随分致省略候様ニ御申付、菟角郡中之入役減シ候様ニ御仕向可有之候

右之趣別而被入力各厚御示談、追々以前之格ニ戻合候様御仕向可有之候、前ヶ条之向村役幷百姓共へも御申付置可有之候、当時ハ差支難被行事も有之候ハヽ、追々御示談可申候間、右之趣御承知之上御存寄之義ハ用捨なく御申聞可有之候、以上

子七月

郡御奉行
御勘定奉行

一今日御代官被仰出も有之候ニ付、諸郡村役人之善悪御しらへも無之候而ハ相済申間敷候間、御代官ゟ追々存寄申出候様可被仕候

子七月

一今日於御勘定所ニ郡御奉行・御勘定奉行中列座ニ而被相渡候書附七通順達仕候、早々御順達被成候而、留り之御方様ゟ書附共郡御奉行中・御勘定奉行中江御戻可被成候、以上

七月

小出宇平太
田中茂右衛門

小池文右衛門様
川崎新三郎様
須崎多平太様
湯川伝兵衛様
後藤金次右衛門様
神尾半左衛門様
永原喜左衛門様

早速四郎左衛門様

公儀御判物写　芸備御拝領高之事

一安芸国弐拾六万六千六百石余、備後国御調・世羅・三谿・怒可・三上・甲怒六郡之内拾万九千五百石余、都合三拾七万六千五百石余在事、任寛永十一年八月四日先判之旨充行之訖、全ク可領知之状如件

寛文四年四月五日　御書判

〔浅野光晟〕安芸侍従とのへ

一備後国三次・恵蘇郡并御調・世羅弐郡之内四万七千百五拾石余、安芸国佐伯・豊田・高田三郡之内弐千八百四拾石余、都合五万石在事、任寛永十一年八月四日先判之旨充行之訖、全ク可領知也、如件

寛文四年四月五日　御朱印

〔長治〕浅野因幡守との

公儀御帖面　芸備御領分御高之事

元和五年公儀御引渡御帖面御高左之通

安芸国御知行帖

佐東郡　三十ヶ村　正徳三年ヨリ三拾三ヶ村

一高壱万六千五百五石弐斗壱升四合

但、広嶋新開・同町はつれ・同新開三口正徳元年ゟ此高へ入ル、弐万八百弐拾弐石三斗三升八合之高ニ成

佐西郡　六十五ヶ村

一高三万四千七百九拾八石七升

但、此郡内ヲ置上ケ弐合過有之、寛文四年上ル郷村帖より中道村ニ而八合ヲ弐合減し六合ニ成上ル、

但、六十六ヶ村之内同村分出不申分一(拾)ヶ村有之、此分後一緒ニ成

豊田郡　六十六ヶ村　当時五十六ヶ村

一同五万千四百拾四石八斗五升八合

山県郡　六十四ヶ村

一同弐万八千五百拾八石六斗六升九合

安北郡　三十二ヶ村

一同壱万六千百九拾三石七斗九升六合

賀茂郡　八十八ヶ村

一同四万九千弐百九拾八石八斗九升弐合
但、此郡之内置上ケ弐合不足有之、寛文四年上ル郷
村帖ゟ奈良原村ニ而弐合増上ル
安南郡　三十九ケ村
一同弐万五千三百五拾六石八升五合
高田郡　六十二ケ村
一同四万三千七拾五石弐合
広嶋新開
一同千三百弐拾九石壱斗八升
同町はつれ
一同三百七拾弐石壱斗九升
惣高合弐拾六万六千八百六拾弐石五斗五升六合
此外
一高九百八拾九石四斗壱升五合　切畠除置
一銀七拾四貫弐百五拾目余　万小物成銀除置

元和五年
〔己〕乙未八月

五味金右衛門〔豊直〕
大久保六右衛門〔忠尚〕
伊丹喜之助〔康勝〕
松平右衛門〔正綱〕

御名宛

備後国御知行帖
御調郡　五十九ケ村
一高弐万九千弐百六拾九石壱斗四合
世羅郡　四十九ケ村
一同弐万九千五百七拾壱石四斗弐升五合
三谿郡　三十八ケ村
一同壱万八千百五拾六石弐斗五升五合
三次郡　四十二ケ村
一同弐万弐千九百五拾石七升壱合
恵蘇郡　二十四ケ村
一同弐万千七百弐拾九石八斗六合
三上郡　十七ケ村
一同壱万弐千七百八拾石五斗六升弐合
奴可郡　三十八ケ村
一同壱万七千四百六拾八石壱升六合
甲怒郡
一同四千五百拾三石四斗七升九合

一同九百四拾八石四斗七升（鉄役 吹役 かなら役）
惣高合拾五万七千三百八拾弐石四斗四升四合
但、備後国郡々置上ケ四石七斗四升五合過有之、置
上ケ前左之通
合拾五万七千三百八拾七石壱斗八升八合
右之高辻此以後福島左衛門〔正則〕太夫殿内大崎玄蕃・間嶋美
作様之判有之帖面之写し、小物成共ニ相渡申候、依而
如件
此外
一高三百九拾五石壱斗三升三合　切畠除置
一漆・味茶・鹿皮・紙・馬札銀・榴　小物成除置
元和五年乙（己）未八月　五味金右衛門〔豊直〕
大久保六右衛門〔忠尚〕
伊丹喜之助〔康勝〕
松平右衛門〔正綱〕
御名宛
右弐冊之御高合

一四拾弐万四千弐百四拾九石七斗四升四合
但、備後国ニ過有之分四石七斗四升四合詰込
右御引渡御帖面ニ而不足有之趣左ニ記ス
右御引渡（之脱）帖ニ備後国（鉄役 吹役 かなら役）之三口合九百四拾八石
四斗七升ト有之処、寛文十一年御差上被成郷村帖ニ者
五百八拾弐石九斗七升弐合、三次・恵蘇ヲも詰（結）込ニ（と）而
有之
内（弐百弐拾五石弐斗壱升弐合　怒可・三上郡
三百五拾七石七斗六升　三次・恵蘇郡）
但、是ハ鉄山高御吟味御座候処、御引渡御帖面トハ
不足有之候ニ付、其様子被仰上候而如斯相定候歟、
如此五百八拾弐石九斗七升弐合鉄山高ニシテ御引渡
御帖差引試候得者、（猶又脱）御拝領高不足有之
一弐千六百拾五石七斗五升四合　御拝領高ニ不足
右不足之分ハ寛永拾一年ゟ左之通御書載せ差上ら
る、但、此義も鉄山高之心ニ其様子被仰上候而、御
書載セ上り候而（候ニ而可有之）有之候へ共、委細之旧記不相見
一弐千六百拾五石七斗五升四合　同新開

但、此分右不足之方ニ御上ケ被成候物故新開所〔ニ脱〕者無
之、左之通入寛永十一年御帖高左之通
　但、三次御分知ヲも一諸ニ結ひ、鉄山高ヲ五百八
　拾弐石九斗七升弐合ニして
一四拾弐万三千三百壱石弐斗七升四合　郡々御高
〔一百八拾弐石九斗七升弐合　鉄山高〕
一弐千六百拾五石七斗五升四合　但（鉄山〔広嶋町はつれ新開〕・広嶋町はつれ新開）
　御高〔合脱〕四拾弐万六千五百石
一千三百弐拾九石壱斗八升　広嶋新開
一三百七拾弐石壱斗九升　同町はつれ
一弐千六百拾五石七斗五升四合　右新開・鉄山役共〆
右之三口、右〔古〕者郷村帖安芸国諸郡之余〔末〕ニ三口別段出達
申候処、正徳元年御上ケ被成候御帖面ゟ沼田郡之内江
入申候事
　御本帖当時支配違有〔之脱〕郡村
一弐百六拾六石弐升九合　川田村・白〔箱〕嶋村高
一千三百弐拾九石壱斗八升　広嶋新開
一三百七拾弐石壱斗九升　同町はつれ
右三口、御本帖ニ者沼田郡之内ニ有之候へ共、当時町
支配ニ成居候事
一九百八拾石九斗七升　穴村
右御本帖ニハ佐伯郡之内ニ有之候得共、当時支配者山
県郡へ入居候事
一千七百六拾六石八斗四升三合　（段原村・大須賀村・明星院村・白〔箱〕嶋村・尾長村）
右五ケ村高御本帖ニ者安芸郡之内有之候へ共、当時支
配ハ町組ニ入候事
　御領分郡名御改之事
一寛文四年御判物御頂戴之刻従公儀郡名御改替被仰出候
節、〔奏者番、長矩〕小笠原山城守殿ゟ龍神角兵衛へ御改御渡被成候御
書付写し
安芸国
　沼田郡　佐東郡之事
　佐伯郡　佐西郡之事
　豊田郡　山県郡
　高宮郡　安北郡之事
　安芸郡　安南郡之事
　賀茂郡　高田郡

備後国
　御調郡　世羅郡
　三谿郡　三上郡
　奴可郡　甲奴郡
一右寛文四年辰御判物御頂戴之刻より沼田・佐伯・高宮
・安芸四郡御改被仰出御判物も右之通御(相)改、其外郡々
文字も右之通相改候事
外ニ寛文四年扣之内左之通之書付相見候事、但、左
之書附ニ而相考候時ハ、郡名改之義者従公儀被仰出
相改候事と相見へ、此方より被仰出改ル趣ニも変地[マヽ]
帖抔ニハ(而脱)相見候へ共、決定従公儀被仰出ト相見候事
一此方より被遣候御両国出高之御目録ニ御奉行衆ゟ付紙
之写し
佐東
　古書ニ不相見　（佐伯郡、是ハ古書ニ有之候、東西二ツニ分ケ申候事哉、佐伯一郡ニ可被成候
佐西
安北
　同断　（安芸郡、是ハ古書ニ有之候、下略いたし、南北ニ分ケ候ト申事歟、安芸郡一郡ニ御極メ可被成候
安南
右之通付紙ニ書附参候

奴哥郡　世良郡　三谷郡
　此方より如此御調上り候
奴可郡　世羅郡　三谿郡
　御奉行衆ゟ如此書直シ候様ニト御好ニ候
一右之通御好(付)ニ候、御調直御上候へ共、又八郡ニ調直候
へと被仰出、今日より調懸(リ)ケ候
佐東郡ヲ　佐西郡ヲ
沼田郡　佐伯郡　豊田郡
安北郡ヲ
高宮郡　山県郡　賀茂郡
安南郡ヲ
安芸郡　高田郡
右之通調直申筈ニ候、以上
　閏五月十一日　山田加兵衛
西村長左衛門様
西村五郎左衛門様
一御高四拾弐万六千五百石　村数七百拾四ケ村
　内
　弐拾六万九千四百七拾八石三斗壱升　（安芸八郡、村数四百三拾九ケ村
　拾五万七千弐拾壱石六斗九升　（備後八郡、村数弐百七拾五ケ村

一千三百八拾四石五斗四升八合　切畠
　内（九百八拾九石四斗壱升五合　安芸国
　　（三百九拾五石壱斗三升三合　備後国
一百貫七百八拾七匁四厘　小物成
　内（七拾貫九拾五匁八分八厘　安芸国
　　（弐拾六貫六百九拾壱匁壱分六厘　備後国
正徳年中御差上之改出新田高ナリ
一五万五千五百拾〔七脱〕壱石六斗八升
　高五百八拾弐石九斗七升弐合　鉄山（吹役
　　　　　　　　　　　　　　　　　　鉄穴役）

御（諸）勘定方之部

一芸備御領分諸郡
公儀御帖面筆列次第之事
沼田　佐伯　山県　高田
高宮　安芸　賀茂　豊田
御調　甲奴　世羅　三谿
恕可　三上　三次　恵蘇
以上

一諸郡米上中下之事
上々　御調
上　佐伯　高田　高宮　安芸
　　賀茂　豊田　世羅
中　沼田　三谿
下　恕可　三上　山県
右上中下品々ハ慶安四年十月吟味相究ル
外ニ三次恵蘇両郡下々ニ准ス
但、此両郡ハ御還付郡故慶安四年（年中）之定ニ者無之、享
保五庚子年御還付也（謙曰、御還付難解、誤乎）
一銀子払之相場　付所払直段違之事
所払石ニ付六匁五分〔壱厘脱〕下り　奴可三上郡
但、正保三年迄ハ四匁五分〔壱厘脱〕下り
同三匁下り　三谿郡
同弐匁五分下り　高田郡
同弐匁下り　山県郡
御調郡津出之内
同弐匁五分下り　（御調甲怒）郡

津出石ニ付八匁下り　（三次郡・恵蘇郡）
同拾匁下り　恵蘇郡高野山組十(ニ脱)ケ村
同五分下り　御調郡

上り銀相場付之日ゟ免許日延之事

一（沼田郡・町　組）　二日
一（佐伯郡・高宮郡）　三日
一（安芸・高田郡・賀茂）　四日
一（山県郡・豊田郡）　五日
一（世羅・三谿郡・御調）　六日
一（恕可・三上郡・三次・恵蘇）　八日

一利足定并庄屋給口米之事
種米御貸利足弐割之事
但、外壱割、享保四年四月御免
一未進方　右同断
一（本種米・追種米）利足　右同断
但、右同断
一（作食・飢食）御貸利足も弐割
但、延宝四年より相究ル
庄屋給、本物成百石ニ付三斗宛
但、御蔵入・明知之分百石ニ付三厘ツヽ、被下、
給知之分者給人高百石ニ付三斗宛送(遣)候事
口米者壱石ニ付弐升宛

所払之事

一広嶋并浦辺五ケ所之御蔵々江津出仕候ニ付、村々道法八里迄ハ津出仕候御極メ、九里ゟハ其村々物成之内八里分ハ津出、壱里分ハ所払ニて村内百姓共面々御年貢払、(右脱)両様之分り有之候、八里江越ヘ十里廿里有之所も八里引去、其余者所払之割合有之事
但、恕可・三上郡種米利足ハ不残所払相場ニて銀納、山県郡種米利足ハ不残津出

私ニ曰、高田郡・山県郡所払、村々御城下江之里数ニ不合村々有之、是者昔深川ニ福嶋時代ゟ蔵所有之、請米有之故其蔵所迄之里程定ト申伝候、高宮郡下深川村尾和と申ス所也、当時新開ニ成居候、其所ニ御蔵有之候由、此蔵同郡下中野村へ引ヶ高田蔵と唱、高田郡御蔵入・明知方幷御給知方より御蔵納米ヲ繰出シ、此所ニ集メ置、夫ゟ可部・河戸船ニて広嶋御蔵江納メ申候、右之蔵場所不宜、不手廻之よしニて宝暦十二年年可部町御茶屋跡江引也

銀納之事

一御調郡ハ津出之内米銀勝手次第上納仕候、其代差次之義者御聞届無之事

外郡ハ所払之外ハ銀納不相成、差次之義ハ其年之趣ニより多少聞届有之事

怒(ノ)可郡御鉄下之米代銀納者所払、石ニ付弐匁上り直段ヲ以銀納仕候事

山県郡為替米之事

一山県郡為替米之義者同所鉄山入用米ヲ鉄師共買調候ニ付、百姓共致相対、御年貢米ヲ鉄山入用米ニ例年之格ヲ以願出、免許之上鉄師共受込、御年貢方ハ鉄師共ゟ差次銀納ニシテ上納仕候、此内年内納・春越両様員数之分りも有之、古来より右之仕形ニ御座候、近年者年内納メ相増候様郡請よりせり立候事

私曰、右為替米之内差次又ハ銀納古昔より勝手次第ト郡中ニハ心得居候由、古来之御代官免許紙面も有之よし

宮嶋水主役之事

一宮嶋浦水主役願ニ付享保六年より寛保二年迄廿ケ年之間御免、寛保三年ゟ復水主役相初ル、右水主飯米以前佐伯郡より相渡候ニ付、此度も同郡御代官より申遣シ、御年貢直段一同ニ相立候事

右同所薪六歩銀之事

一明暦元年以来宮嶋ゟ差出候薪売払代、一ケ年分運上之

内四歩者其郡(所)へ被下、残六歩之内ニて宮嶋役者切米扶持方幷木守・大工・小工御扶持方代銀相払、尚残銀御座候へ者上納仕、尤不足仕候得者御銀相渡ル

但、正徳三巳年より十五ヶ年之間御免、其間者右切米扶持方代御銀渡申候、尤右年数相済候而も右扶持代ハ其儘御銀渡ニ仕、薪運上ハ年々上納仕候

郡々ゟ万調上ル内代米不遣(分脱)分

うと　わらひ　むめ　山椒　柿渋

菖蒲（いはら　すいかつら　まこも　よもき　蓮葉

麻柄　からす瓜　竹の子　やまもゝ　鳥毛

但、此分後懸り壱歩米之内ニ入

寛永廿一年霜月ゟ御免

とまかつら　浦々より　植木小右衛門へ渡ル

後懸り壱歩米之事

一御蔵入・給人知共寛永廿一年霜月ゟ初ル、此年者六厘米被召上、明ル正保二年より壱歩米、但、是ハ在々江万懸(リ)候物御免ニ付如此相究ル、米受払奉行津田五郎右(左)衛門へ被仰付

諸郡寺社修覆御銀出ニ而相調候場所之事

沼田郡

一祇園本社　北下安村

一官幣社　南下安村

安芸郡

一松崎八幡社　府中村

一道隆寺　同

一不動院　新山村

一尾崎八幡社　矢野村

佐伯郡

一地之御前ノ社　地之御前村

一速田社　上平良村

一大頭社　大野村

高宮郡

一福王寺　綾ヶ谷

奴可郡

一帝釈堂　未渡村

三次郡

一鳳源寺　五日市
一妙栄寺　同
一大歳之社　同
一万光院　同
　但、定銀渡ニ而修覆仕来候
一多門寺　同
　但、同断
一岩屋寺
　円通寺同断

豊田郡

一仏通寺　別迫村

世羅郡

一今高野　甲山町

恵蘇郡

一円通寺　本郷
　但、(為脱)修覆御銀御下ケ貯置、御利潤ニ而修覆有之筈
一功徳寺　新市
　但、普請之刻尚御貸米有之

宝暦十二年郡中倹約筋尚又被仰出候事

但、年内午四月三日被仰出候由、郡御奉行中ゟ郡廻へ通達有之、御代官へハ御城ニ而諸郡ゟ壱人ツヽ、呼出達有之、郡中江相触候事

諸口竪紙ニ而

一都而檢(倹)約筋之義者上下共流合安キものニ候ニ付、猶又此度御家中向江倹約之義御示し有之候ニ付、郡中之義相しらへ候処、先年ゟ追々数ヶ条ヲ以御示有之候得共、年ヲ経候義故尚又左之通

一郡中百姓(マヽ)・町人・百姓共着服之義素り大法有之候処、近年段々流合ニ相成、就中妻子之着服不都合千万之義相聞候条、自今堅ク布木綿而已ヲ相用ひ、軽キ品ニ而も絹類一切用ひ申間敷事

一平日之食物所有合之麁抹ニ而相済候義ハ田舎之常ニ候間、不相応之食事不仕、一家・親類用談相集り候歟、重吉凶出会之外相互ニ食事差出不申、若終日も懸り候参会之節ハ銘々持参相済(せ脱)可申事

一家作之義農人之分限ヲ忘レ、物数寄ヶ間敷仕形儘相

(候脱)聞、全作物取入等之用向達候義ヲ第一ニ相心得家作可
仕事
　但、寺社方作事も右ニ准シ軽ク可仕事
一氏宮之外祭礼之仕形段々及超過、無願見せ物・通り物
抔仕、其村所々費ニ相聞候間、右体之義かたく相止メ、
信心一通之祭礼軽く可仕候事
　附り、祭礼之砌銘々家内ニ而も相互ニ集り、不都合
　之料理向抔仕候様ニ相聞候、是亦祝義一通り軽く可
　仕候事
一寺社備物過分之義不仕、音信贈答も弥以堅ク仕間敷、
無拠吉凶之送物相互ニ鳥目取遣可仕事
一浄瑠璃語・狂言師・人形遣ひ之類市立之節所ニ寄願出差
免候処、(其道筋脱)往来之所々ニ而一両日宛も差留置候旨相聞、(候脱)
素り制禁之義ニ候条、宿貸候共遊芸堅ク為仕申間敷事
　但、小間物売之類徘徊仕候共、作方無用之商人ハ通
　一遍之外差留置申間敷事
一釣燈・合羽・傘ハ市町之年寄又ハ庄屋・医師・寺社之
外弥用ひ申間敷事
　但、市町之外ハ都而明松ヲ相用ひ候事
一役人共ヲ始メ都而病人之外駕籠幷皆具馬ニ乗候義弥停
止之事
一博奕之義者勿論、軽キかけ銭之勝負事ニ而も弥以停止
可仕事
右之通堅ク相守農業一遍ニ打はまり、妻子等迄も忽緒に
くらし不申様郡中末々迄可被相触候、以上
　午四月　　郡御奉行

郡中役人共江申付候紙面写　諸口半切ニテ

一割庄屋(其)之外役人共勘定等ニ而御城下江罷出、逗留之節
ハ勿論、郡中市町等江用向ニ罷出候砌とも、不都合之
料理向仕構不正之参会いたし、於当町ニ者格違之者抔
引受遊興仕候風聞も有之候条、以来用事外ハ一切参会
不仕、随分用向早々相片付長逗留等無用之事
右之通役人共へ可被申付置候、以上
　午四月　　郡御奉行

御年寄中被相渡候御書附写し

一郡中村々諸入役之義者人民之盛衰ニ懸り候義ニ付、常

々郡廻り・御代官中無油断御心付、各ゟも厚被申談取約メ可有之義勿論之事ニ候処、近年追々御仕向之結構ニ甘へ、却而下方心得違候哉、何となく入役筋流合ニ相成候郡も有之様ニ相聞候、此等者第一御代官所之取計不行届故ト相見候、既ニ去ル戌年御代官中も被為召、御直ニも被仰付御趣意も有之義ニ候条、不絶相しらへ等閑ニ不相成様ニ御代官中江厚可被申談候、勿論郡廻中江も直ニ申談可有之候

宝暦十二午四月

諸郡御代官中へ相達候書附写し

一此度御年寄中より別紙書附被相渡、尤郡ニ寄入役筋流合ニ而、各御取計不行届方角も有之様相聞候旨御達等も有之、於拙者共ニも甚油断之筋気之毒ニ存候、是等之義者兼々相達候通上ニも別テ被入御念事ニ候処、各ニも甚御油断第一御手附之者心付薄く、流合之方角其旨申出等も不仕段、甚不心懸義与存候、別紙ニも有之候通、盛衰之根元土地人民之強弱ニ懸候事等閑ニ致置候義難心得事ニ候、勿論近来御山方・御船手等一緒ニ相成候ニ付、御人少ニ而難手届可有之哉ニ候へ共、近来諸御役所御人減之砌ニも有之候処其義も無之、却而加り等も相増候郡も有之義ニ候へハ、不行届無沙汰ニ相成候而ハ甚難相済事ニ候、既ニ此度格別書附ヲ以御年寄中ゟ被申聞候事ニ候へハ、御手付之者共勤向急度御改、或ハ年番等相極メ、入役筋之義一ヶ年限引受相勤候様御申付、各ニも厚可被入御力義肝要之義と存候、尤御勘定所も右しらへ方極メ置候而、受引取計等有之事ニ候へ者、各御手元ニおゐても無油断相勤候様御取計、以来者入役米之増減年々惣辻一通書付、尤御手付年番之人名も御申出可有之候、拙者共披見之上御年寄中へも相達候様ニとの義ニ候間、兼而不埒無之様ニ御申付置可有之候、以上

午四月　　郡御奉行

郡方御歩行目附へ申付候書付写

覚　　郡方御歩行目附

一右郡中諸入役しらへ方之義、近年申談も薄く相成候様ニ相聞候、依而已来請郡限り於御代官所ニ各打はま

り、先規之通相しらへ心付之義厚申談等可有之候、右ニ付何ソ不審之筋共候ハヽ、郡御奉行・御勘定奉行へ可被申聞候事

四月

〔浅野吉長〕体国院様御真筆写（私曰、年号不相知（追而承合書加へ可申事脱）享保廿卯年乎）

覚　諸口堅紙

一勝手向段々差支、只今迄之通ニ而ハ年々ニ随ひ差詰ニ成可申外ハ有之間敷候、勿論不怠仕向之義勘定奉行共無油断心ヲ付、差繰いたし様も試ミ申義ハ候へ共、其通ニも難相立候、大坂表借銀高も相増、利銀計も余程之事ニ候、尤米直段不宜故不廻シ（取）不埒ニも可有之候、然共直段之義者諸国一同之事ニ候へハ、直段之高下ニ懸り候迄ニ而者始終用ニハ（之脱）相立間敷候、何卒大坂借銀減（少宛）〔も減し申候ハヽ、夫程之益も出来可申候、とかくに借銀脱〕不申而ハ何とも仕向も有之間敷候間、此筋之義年寄共・勘定奉行共厳重ニ申談、存寄書附可差出候

附り、撿（倹）約筋之義只今迄段々遂吟味申付候事ニハ候得共、纔之事計ニ心ヲ付、又ハ格式等ニ懸り候義迄ニ取捨有之分ニ而ハ中々相立間敷候、〔其上家中之もの共難儀致〕何分ニも其根元ニ付始終（其脱）筋立申様無之而ハ仕向も堅く難申付候〔し候様成筋之儀ハ難申付候、脱〕

一芸備領内ニハ新田開候様成場所ハ無之哉、大国之事故何方ニも可有之事ニ候、尤土地宜候而も水懸悪敷、又ハ古田江障り候所共ハ難成可有之候、左様義（之脱）なく（ど）厚念入致熟談取立見申度ニ而候、郡奉行・郡廻り・代官共力ヲ入申談可然事ニ候

但、郡中仕向先年と違、時々之趣ニ寄可申事なから、其根本ニ懸り候筋ニ役人共心付薄く、同役ニ而も郡違候所抔ハ外支配之もの共ハ構不申様ニ成行、銘々支配之郡村迄ニ心付取計候故、自ラ郡風村建り之様ニも相成申候故、年貢収納其外何角ニ付怠安く、兎角同役ハ支配違候訳も立不申、表向ハ其筋立候様ニもいたし、内証ニ而申談候時ハ無底意申合取計候ハヽ、諸郡一同ニ其仕向も違ひなく、郡村ニ而も思付も能可有之様ニ相考候、右之通申合候ハヽ、自然と筋違（道）もやすらかニ〔あきらかに〕、村役人迄も私欲内割之様成事も相止ミ可申事ニ候、其仕来と計心付候（得）而ハいつ迄も正敷筋道ニ者成間敷、第一村之入役減シ、夫割等も念入遂吟味候程ニ仕向専要之事ニ而候、此義者郡奉

行・郡廻り共得斗内談、勘定奉行共も存寄致示談、代官共も具ニ呑込候而同役一同無底意致熟談候ハヽ、可相成事

一前々ゟ仕来とは乍申、只今迄之仕向者我等心ニ不叶候、当時之様子ニ而者其筋之役人之内ニ而も諸事之義委細存タル者も有之、又ハ不存者も有之様ニ而、何共惣体縮之筋ハ無心元候、然ハ此後之仕向ヲ相改、其向之役人ハ不残其手筋互ニ存申而、双方ともニ其損益之事迄相考、存寄之義者尤無底意熟談いたし取計候様ニ有之候ハヽ、万事之間違も無之、勝手之為ニも成可申候、勝手向之義ニ付当前之事計ニ心付、始終之義ニ力ヲ入不申候而ハ危候、後来ヲ考合せ工夫無之而ハ物毎丈夫ニ成間敷候、惣体近来撿約之筋取捨之品役人之心付候処厚無之様、何角之事も難相立候、此後申付置候趣ハ諸人共も得斗致心得候様ニ可申付候へハ、幾重ニも念入申談候趣可相調候、何分近来之役人心付候所ニ目附候様子薄相見候、其心得ヲ以委細可申談候

右紙面之趣年寄共始メ其向之役人共急度致承知、万事厚ク相談存寄申趣も候ハヽ、何れ之役人ニ而も其思ひ寄之筋可申出候、此書面之品々能々可有示談候、以上

卯五月廿二日

口上之覚　諸口横折

一此度御直筆ニ而被仰出候御紙上之内、各承知可有之候御ヶ条別紙写之通拝見可有之候、此御趣ヲ各得斗承知有之、新田開所又ハ村々入役減等之義者弥以不怠厚被心付、其外御借銀減候様等迄も存寄之趣も有之候ハヽ、可申出候、追々御示談可申、各御支配郡御両人諸事無底意被申談候義ハ勿論之事、外郡々ニ而も被心付候品有之候ハヽ、相互ニ無底意厚被申合、尤外郡と懸合候而者諸願又ハ出入等有之節ハ双方共熟談有之、存寄書付等ヲも連名ニ而可被差出候事

此度御直筆之趣ヲ以相考候而ハ、兼々談置候通郡方村々貯米銀等之義弥以不絶御心付ニ而、何時ニ而も急用之間ニ合候様御仕向可被置候、以上

六月　私曰、此紙面ハ郡奉行中ゟ出候もの歟

右同断御直筆之写　杉原半切

一地概之義、元来地形之不直ヲ平等ニ為可相改申付候処、去年之仕形上之主意有相違、其上事ヲ急ニ取計申候故、旁(今脱)以不同有之よし相聞候、依之思寄も候ニ付先古帖之通可相用候、尤追々遂吟味、郡村難義之場所ハ改替遣シ申義も可有之候、其内新帖ヲ相望候村々ハ勝手次第ニ可申付候、委細ハ岡本大蔵〔年寄〕へ可承合候、以上

巳十月朔日　私曰、元文二丁巳ノ年也

覚　添書

一此度地概之義思召有之、御直筆之通被仰出、然ル所御年貢取立半之義下方難渋仕候事も可有之ト被御心付、地坪被仰付候村々之分、当御納所米之内高ニ付三厘ツヽ、御引被下候事

右之趣被仰出候間、其段末々迄不洩様ニ可申聞、役人共別而情〔精〕出し弥以御所務無滞様ニ可申付旨被仰出候、以上

十月

一私ニ記、宝暦六年子二月郡中賄賂筋内割ヲ以取立候趣ヲ、厳敷為吟味郡御奉行ゟ御歩行組物書役并番組之内三手程ニ分ケ、村々江前方より通達ニも不及、不意ニ村々へ入込、役人元之根本帖取出、入役筋之隠し居候迄委クさかし出シ、根帖共ニ取戻り段々吟味有之候処、郡中是迄賄賂筋并村役人共不直委(悉)ク相顕候事

私ニ云、郡中底引ト号シ、本文之通庄屋元又ハ年行司小帖・根帖共厳敷吟味取出シ、郡中是迄之内割相顕候よし、其後郡奉行衆ゟ左之趣ヲ以夫々其方角ニ被申聞候事

上付紙
諸郡御代官中　諸口半切

一近来郡中賄賂超過之趣ニ付、郡御奉行存寄を以此度先一郡一二ケ村ツヽ、遂吟味候処、各手附番組ヲ始メ其郡村へ掛合之(候)方角之下役、其外出郡有之等之〔ママ〕家来共ニ至迄、村役人共ゟ無筋米銀致受納、郡ニ寄尚又割庄屋共ゟ別段ニも多分之賄賂ヲ受、其外風俗不宜義共相顕、依之急度御咎可有之義勿論ニ候へ共、是迄之義ハ古来ゟ之仕来と郡御奉行限りニ見流し置度旨御年寄中迄相歎、不及上達ニ候、右各手付ヲ始メ村役人等迄御尤(咎)ハ

無之候、尤此以後も此度之通不絶相しらへサせ、不直之義於有之ニ者、自今ハ速ニ及上達ニ御咎可被仰付候条、別紙之通手付之もの幷村役人・百姓共へ可被申付置候、尤為心得之村廻りへ相達候書付之写入御披見候、彼是見合手付之者以後心得違無之相勤候様、各思慮ヲ以取計可有之事ニ候

一各家来出郡之者共ハ勿論、宅ニ相勤候者共迄賄賂之米銀積候而者、多分致受納候義年来之事と相見候、此義前々より心ヲ付、示し等厳敷被申付候ハヽ、ケ様ニ者有之間敷事ニ候、此以後之義共厚力ヲ入可被申付置候

右之外何角近来(年)流合之義共有之趣ニ相聞、是等之義尚又追而可相達候、以上

八月

前に同し
諸郡御代官中　前ニ同し

一割庄屋・村々庄屋共手前ニ不直之義有之、依之百姓共疑心ヲ生シ及騒動候義古今有之候ニ付、此等之義も此度可遂吟味申談候へ共、村数之義手も難及、旁強而此度穿鑿不申趣意ハ、各手付之者是迄と違ひ、銘々自今者潔白ニ成候上之義故、立入右穿鑿可相成筋ニ候条、以来糺明之仕形各思慮ニ不可過義与存候、右しらへ被取懸候ハヽ、其節尚又存寄可被申聞候、以上

八月

一近年郡中賄賂超過候趣相聞候ニ付、郡御奉行存寄ヲ以此度先一郡一二ケ村ツヽ遂吟味候処、其方共村役人ゟ無筋之米銀受納いたし、郡ニより尚又割庄屋共ゟ別段ニも多分之賄賂ヲ受、其外風俗不宜義共相顕、依之急度御咎可有之筋ハ勿論ニ候へ共、是迄之義者古来ゟ之仕来ト郡御奉行限り見流置度旨御年寄中迄相歎、不及上達候故御咎者無之候、以来ハ此度之通不絶相しらへサせ、不正之義も有之候ハヽ、自今ハ速ニ及上達、御咎可被仰付候条急度相慎可申、村役人・百姓共へも以来曽而手入ケ間敷事不仕様申付候間、其方共江対し候義者勿論、他之下役江及候義も承次第御代官所へ可申出候

一此度致糺明候趣ニ付以来御取立、其外共力ヲ入候得者下役反讐之出訴も可仕歟、又ハ借替等之義ニ立入候へ

者、却而疑ヲ得可申歟抔与万手ヲ入候体ニ心得違於有之者、是亦急度可被及御沙汰候間、銘々潔白ニ改候上ハ尚以踏込ミ可相勤之事ニ候

右之外何角近来流合之義共有之趣ニ相聞(候脱)、是等之義者尚又追而可被申付候、以上

八月

郡方番組へ申渡(ス)之書付

一郡方ニ而賄賂之義ニ付別紙之通御年寄中ゟ被申聞候、古来ゟ流来と者乍申、賄賂之義者兼而被仰付候趣も有之、其段前々ゟ申聞置候処、近来別而流合ニ相成、剰村方しらへ之趣ニ而ハ段々其品も多分之義、彼是甚以心得違之事ニ候、是等之筋ゟ下方之事も万端流合ニ相成候事故、急度御咎も可被仰付義ニ候得共、御年寄中紙面之通是等之義者仕来流合心得違之向ヲ以、先此度ハ御咎者無之、以来之義者不及申聞候へ共急度相改、賄賂ケ間敷筋之義受引堅可相慎候、尤此筋之義不絶御吟味(可脱)有之候得者、油断可仕義ニハ無之候得共、万一不図心得違之義有之、村方江対し何ニよらす賄賂ケ間敷義、其外出郡之節於郡中ニ聊紛敷義無之潔白ニ取計可申候、勿論此以後御納所取立筋之義別而相励ミ正道ニ(可脱)相勤候事

附り、右之筋此度糺明有之候ニ付、若下方心得違、其方共身前之義ニ付此以後何ソ出訴之義も可仕歟抔ト、尚又心得違諸事手弱キ取計等有之ハ、却而急度可被及御沙汰候間、右之通銘々差心得潔白ニ取計、弥以御納所取立筋亦者村方入役筋之義迄も、猶以銘々力ニ及候丈ケ存寄一ぱい無用捨踏込取計可申候、然ル上ハたとへ訴状目安等差出候共、下方急度御吟味可被仰付候条、何も得斗相心得一入相励ミ可相勤候

右之外近年心得違流合之義共有之趣ニ候、其段ハ追而可申付候、以上

八月

諸郡割庄屋共
　郡村々庄屋

一近年郡中賄賂私欲超過ニ候よし相聞候ニ付、郡御奉行存寄ヲ以此度先壱郡一二ケ村ツヽ、遂吟味候処、第一御

代官所手附番組・御米蔵下役、其外其郡村々へ懸り合候方角之下役幷出郡有之輩之家来共ニ至迄、右役人共より内割取立ヲ以多分之米銀賄賂取遣候趣相顕レ、其員数一郡ニ割当り候へハ夥敷義と相見候、素り内割之義者郡中制禁之筋、其上近来段々入役取縮之義御代官所ゟ被申付候処、右之次第甚不届之至ニ候、其外払方熟と無之趣内割帖面ニ相見不審も有之候へ共、是迄之義者差免、郡御奉行限りニ承置度旨御年寄中迄相歎、不及上達ニ候故御咎者無之候、此以後も此度之通不絶相しらへサせ、賄賂其外不正之物入相見候ニおゐてハ、自今ハ速ニ及上達ニ急度可被及御沙汰ニ候間、賄賂之義堅ク相止メ、若所々下役人米銀貪り候体之義も有之候ハヽ、役人共存寄次第いつ方へなりとも可申出候、尤不審之内割取立於有之者、其段百姓共ゟ出訴仕候様ニ申付置候間、銘々手前も潔白可相勤候

一此度右之通及糺明候ニ付、以来右役人共御取立其外共力ヲ入候へ者、下方反讐之出訴も可仕歟、又ハ上納借替筋ニ立入候へ者却而疑ヲ得可申歟抔与万々手ヲ引候心得違ひ有之ニおゐてハ、急度可被及御沙汰候間、不勤之義無之様可仕候

右之外郡方之義万端混雑流合之義も相聞(候脱)、是等之義ハ追而可申付候

右之通郡御奉行より相示し候旨を以申付可被置候、以上

八月

郡中百姓共

一近来郡中賄賂之筋募り候趣ニ相聞候ニ付、此度郡御奉行存寄ヲ以先一郡一二ケ村ツヽ遂吟味候処、御代官所手付番組ヲ始メ、其郡へ懸合候方角之下役幷出郡有之候面々之家来ニ至迄、村々役人共ゟ内割取立ヲ以過分之賄賂いたし、就中広嶋御蔵所者勿論、浦辺御蔵所其外所々受米所ニ而も御米受引いたし候下役幷小人江米銀之内ヲ以手入仕候由委(悉)ク相顕、双方共甚不届之至候へ共、是等之義者古来ゟ之致来と見流し、郡御奉行限り承届、御咎ハ無之候、此後も不絶相しらへサせ、其筋役人共・百姓共右之通之手入筋之義相止不申ニおゐてハ、双方急度御咎可被仰付候間、以来賄賂筋堅相止可申候

(ニ脱)右之通相片付上ハ、たとへ訴状ヲ以いか様之賄賂筋申出候共、是迄之事ハ不聞届候、此後之義村々役人まいないニ付内割又ハ役人共私欲いたし候趣心付候ハヽ、人名ヲ訴状(訟)之上書ニ相調差出可申候、其外何事ニ不限(依)右同様(ニ)之人名ヲ記差出候訴訟之分ハ委ク遂吟味ヲ可遣候、尤右訴訟之趣巧ヲ以得方成事ニ候得者、急度咎可申付候へ共、素り実事之申出候へ(ニ脱)者訴訟人可咎様無之、其趣ニ寄却而褒美遣(可脱)候、人名不記差出候訴状ハ素り目安之大法ニ候へハ一向取上不申、如此申聞置候上にて人名ヲ不記、何郡何村惣百姓ト致候訴訟之分ハ、たとへ実事たり共偽之訴訟と見候間、此後ハ封儘(之脱)其村役人共へ下ケ遣候間、兼而此趣承知いたし、右之通之訴訟ハ以来曽而上へ者通不申義と相心得可申候、此度郡中遂吟味候趣(ニ付脱)、百姓共ハ忝義弥以諸事相慎可申筈ニ候、然者却而心得違下張ニ相成、右下役并村役人ニ対シ無礼我儘之申分致候者も有之候ハヽ、急度其咎可申付候

右之通郡御奉行より相示し候旨ヲ以、百姓共へ得斗可被申付置候、以上

八月

諸郡村廻り

一近来郡中賄賂超過候由相聞候ニ付、郡御奉行存寄ヲ以此度先一郡一二ケ村ツヽ遂吟味候処、御代官所手附番組ヲ始其郡村へ懸り合候所々下役、其外出郡有之輩之家来ニ至迄無筋米銀致受納、其外風俗不宜義共相聞(顕レ)、急度御咎可有之義者勿論ニ候へ共、是迄之義ハ古来ゟ之仕来ト郡御奉行限見流し置度旨御年寄中迄相歎、不及上達候故御咎者無之候、尤此後も此度之通不絶相しらへサせ、不直之義有之ニおゐてハ、自今ハ速ニ及上達御咎可被仰付候条、以来相慎候様夫々へ相達、村役人・百姓共へも賄賂相止候様ニ堅ク申付候、尤家来も度々賄賂取候義年来之事与相見候、此義前々ゟ心付示し等厳敷被申付候得者、ケ様ニハ有之間敷候処、於御役柄猶以難相済義ニ候条、此以後之義急度可被心付候

一村廻り之義当時在役無之分ハ賄賂請引(引受)候趣ハ一々相顕(レ)シ、当時在役有之輩ハ右不直不相聞、御役柄之義左も可有之事ニ候、併銘々受郡下役等不直年来之義ニ候へ

ハ、各兼役筋ヲ以ハ心付も可有之所、曽申出も無之段ハ自然ト疑心ヲ生候筋ニ候条、以来御役筋等閑無之様可被相勤候

一此度致糺明候趣ニ付、諸郡番組・村役人等御取立、其外共力ヲ入候ヘハ下方反讐之出訴可仕歟、又ハ上納借替筋ニ立入候ヘハ、却而疑ヲ得可申歟抔与万々手ヲ引候心得違も有之ニおゐてハ、急度可被及御沙汰候間、右之趣ニ被相心得、不勤之者も有之候ハヽ可申出候

右之外何角近来流合之義共有之趣(ニ脱)相聞候、是等之義者猶又追而可相達候、以上

八月

村廻りへ申渡書付

一郡中ニ而御代官手付番組其外賄賂之義ニ付、御年寄中ゟ別紙之通被申聞候、各義郡方兼役御目附被仰付候へハ、郡方御役人平常之勤向厚薄、下方へ之仕向、私曲之裁判、亦者手付番組其外郡付役人中家来ニ至迄、賄賂筋之義ハ心ヲ付見聞有之、申出可有之筈之処、此度村方吟味之趣ニ而ハ賄賂之義甚流合ニ相成、殊外手付番組其外迄も其品多分之事ニ相見候、各義ハ兼役も有之、平常別而心ヲ付可被申筈之処、其義申出も無之、殊ニ各家来賄賂致受納候義御役柄之義ニ候得者、常々示しも可有之筈ニ候処、右之次第無念之事ニ候、然共此迄之義者御年寄中紙面之趣ニ付此度御咎無之候へ共、以来之義急度心得可有之義ニ候、各家来之義者勿論之義、御代官手附番組其外都而郡方付御家人中家来等迄賄賂受引有無之義平常被心付、其趣可被申出、此後御吟味之節相顕候ニおゐてハ、各義も御咎可有之旨以来厚可被心付候、御代官手付番組へも別紙之通申聞候間万端心付可被申事

但、右之外近来(年)何角流合之義も有之趣ニ付、是等之筋ハ尚又追而可相達候、以上

八月

郡方懸り御役人郡中賄一汁一菜ニ而仕向之事、宝暦九卯正月廿六日御勘定奉行ゟ御代官所へ相渡ス書附

一於郡中賄足銀之義差定之外余分致足銀候と相聞候、賄

之義者兼而御定も有之候処、其通ニ而ハ当時賄出之義
難相成と相見候、依之賄方以来左之通相改、定之外決
而足銀不仕賄出候様御申付可有之候、勿論ケ様ニ改候
(方一脱)上心得違足銀等仕候者於有之者、取計方之義急度御吟
味も可有之候間、此段得斗相心得取計候様厳敷御申付
可有之候

郡方御役人
宗旨御奉行　付紙ニ而（本文之外奈良漬・香物等有合候共決而出申間敷候、尤塩漬・香物有合候而出候義ハ格別之事）

朝夕一汁一菜（但、汁ニ魚鳥之類決而相用不申、所有合之菜大根・茄子之類ヲ以調出候事）

昼飯湯漬　但、泊所ニ而炊せ持参之事

一右飯米一人一賄三合ツヽ、代御銀渡郡立銀(足)（泊壱人壱匁壱分　昼湯代五厘）

一伝馬旅籠（朝夕賄方　昼飯とも右同断）

右渡方只今迄之通　外ニ（壱人泊ゟ五人泊迄内夫賃銀　壱升代渡ル）

一（御先手足軽　御小人）　賄方右同断

右渡方只今迄之通　外ニ郡割足銀（御先手足軽六分　御小人五分）

附紙、右之外(定脱)内夫聞届無之事

一右之通相成候ニ付、出郡之面々末々迄たとへ自分代銀
ヲ出候共、酒肴者不及申、菜好ミ等決而不仕、勿論郡
中ニおゐて一切買調物不仕様かたく御仕向可有之事

一先触有之村々延縮有之候而ハ仕構等無益之費候間、其
義無之様ニと存候、其内途中差懸候義出来候ハヽ、其
事柄趣次第先触之村へ早速通し有之歟、何分費無之様
御取計可有之候

但、昼休之義者前段之趣故先触ニ不及可相済、たと
へ御用向有之、先触御出候共昼飯ハ泊所ニ而炊せ、
昼所ニ而ハ湯ヲ涌し候迄ニ御仕向可有之候

一村役人共賄之義者出飯米之内ヲ以相渡候分ハ、罷出候
節遠郡抔ハ入目余分郡割ニ立来候与相見候、畢竟賄入
用当り候故と相見候、是等之分も右准シ随分手軽く相
約、郡割立過半相減候様御仕向可有之事

一郡方御歩行目附只今迄ハ駕籠ニ而致往来も有之と相聞
候、以来駕籠相止致往来候筈ニ候、御手付番組共義勿

論ニ候、万一途中ゟ病気等ニ而無拠駕籠乗候ハヽ、帰郡之上早速申出候様御申付、其段度々可被仰聞候、ケ様之義追々流合ニ相成、村役人末々迄(も脱)相応々々柔弱之筋ニ押移、甚風俗不宜と相聞候、此等之義ハ郡中難義候根ニ懸り候義ニ相見候間、追々申談諸入役取縮ハ素り之義、暗ニ費所迄も厚御心被付、各方御出郡之節御行荘等之義只今迄ゟ随分手軽く取縮、駕籠抔も右ニ准し山坂辺道等之取扱最安キ様ニ御仕向被成、依之者御荷物等も可成丈ケハ御減シ、宿仕構役人共相詰候義諸事取計ニ至迄、随分御作略有之候ハヽ、下方目当ニも仕、自末々迄も質素之筋ニ押移可申事ニ候、勿論一通御申付候共上ヲ敬し候筋ヲ以容易改兼可申候間、此所ハ別而被入御力、各方下方之趣御考察候而、費之取計無之様御示し方肝要之事ニ候

右之趣其外御心付之義も有之候ハヽ、一同ニ被仰合御取計可有之候

正月

鑪所并塩浜拵他国者出帰之順達写

一都而郡中鑪所并塩浜拵等ニ他国者御領分へ引受、御領分之者他国へ罷越候義共、前々ゟ無願又ハ村役人共聞届候而相済来候郡も有之よし相聞候、自今ハ右出入共度々御代官所へ差出、免許之上取計候様可被申付候

但、百姓之子供并浮過・無高之者鑪所并塩浜下職等ニ他所へ罷越候節ハ、割庄屋限り得斗相しらへ承届遣し、年分両度程寄せ書付ヲ以出帰共御代官所へ申出候様可被申付候、以上

七月　〔郡奉行〕鳥井九郎兵衛

〔郡奉行〕能勢十太

(私曰、宝暦十二年七月右之通相改順達出候事)

諸郡御代官中宛

河瀬弥右衛門延享之頃御山方相勤(候脱)内、下役頭取之者へ御山方鑪割鉄類運上取計之義相尋候処返答書写

鑪割鉄鍛冶屋・千割吹屋・鍛冶屋之事

一願書村方ゟ御代官中江差出候へハ、其郡々(之)郡廻り中(へ脱)御示談御座候、郡廻り中ゟ御山方江御示談御座候、御山

方御しらへ御座候而相違之義も無御座候へハ御存寄無御座候間、御代官中ゟ被申聞候ハヽ、可被仰談之趣御返答御座候、其上ニ而御代官中より御山方へ申来、尚又御しらへ之上免許御代官中江被仰談候、尤御建山・御留山ニ而も願ニ御座候得ハ、御年寄中へ被仰達候上ニ而御代官中江免許之被仰談ニ相成申候、願書ハ御山方ニ被留置、手紙ニ而之免許被仰談相成申候

但、下地御示談之義者郡御奉行中ゟ申来候義も御座候、夫ニ而も郡廻衆江被仰談候通御山方ニ存寄無御座候、御代官中ゟ被申聞候ハヽ、可被仰談趣ニ御返答ニ而相済申候、怒可・三上郡辺之義者御上ゟ御鑪鍛冶屋御座候節ハ、右之通村方鑪鍛冶屋共願出候へハ、願書御鉄方ニおゐて差支無御座趣御鉄方付紙御座候、夫故御鉄方之付紙無御座候得者、一通御鉄方差支之義者無御座哉之段、御代官中ゟ御尋被仰遣候上ニ而御免許被仰談ニ相成申候、近年ハ怒可・三上郡辺ハ御上ゟ御鑪鍛冶屋相止候様ニ相聞申候

一鑪願之義山県之分ハ同郡外鉄師之者共存寄無御座段添書付差出申候、怒可郡鑪願之義者左様之筋無御座候、本願書計差出申候

但、寛宝(保)四年迄ハ諸郡共ニ運上取立之義、奥ニ記御座候通ニ奥書之帖面ニ而運上取立、御代官中江被仰談候へハ、帖面ニ相添候而御勘定所江上納御座候処、延享元年之頃諸御役所取計之義可成筋ハ相減シ、筆紙相減候様ニとの義、夫故御勘定所より御存寄段々御示談之上、運上帖壱冊ハ海田紙ニ而相調、壱冊ハ諸口ニ而相調、海田帖之分ハ御勘定所ニ被差置、諸口帖之分ハ御代官中ゟ御勘定所へ被差出候間、増減之節御代官中ゟ直ニ御勘定所江被申出候ハヽ、承届印形相調、御代官中江御示談ニ相成申候へハ右紙面ニ而相済、年々新ニ帖面相調候ニ不及、左候へ者紙筆之減ニ相成候段、御勘定奉行中ゟ諸郡郡廻り中・御山奉行中連名ニ而被仰談御座候、差支無御座候義故其通ニ相成申候、依之前々御山方ニ留り申候本願書義者御勘定所ニ留り申候、尤御勘定所御引(請引)受之第一ハ運上銀之義ニ御座候、御山方ニ而ハ願出之山所之義、其上運上取立被仰談候、元者郡廻り中・御山奉行中より之義ニ御座候、受主村役人御材木場物書

へ罷出候節目当ニ相成申候、御役所扣置申候頭書ニ御座候請主・村役人共名印之願無御座候而ハ難相済故、願書之扣書又ハ類紙願ヲ御山方へ被差出候様ニ被仰談候而相済申候、元延享元年御改之筋御山方扣帖面等被相止候様ニとの義ニ而ハ無御座候、惣体之御取計等只今迄之通畢竟年々新ニ運上帖出来候義相止申候迄之義ニ御座候、延享元年改之義者郡廻り衆ゟ御代官衆へ被仰談御座候、夫故御代官所之被仰談跡御山方無御座候

一鑪割鉄屋・千割吹屋鍛冶此類へハ御免之木札相渡申候、札之義者御代官中ゟ郡御奉行中江被仰達候而、郡御奉行中ゟ御勘定所江被仰談札相調申候、右之方角御免之木札江書入印形等相調候上、御代官中ゟ御山方へ参候得ハ木札江山所書入仕、御山方焼印相調御代官中へ御戻し、尤右仕廻候へハ其段注進書相調、御免之木札ヲ相添御代官中ゟ来ル、左候へハ帖面ヲ直シ、木札之義者御山方焼印之所消印ニ而御戻し

但、請主ハ其儘職仕候而山所伐尽申候ニ付、打替之義願出申候、書物被仰付候最初、御免之木札差上候へハ消印ニ而御戻し、其後新札御代官中ゟ参候へ者打替候山所書入、御山方焼印御調御渡し

一鑪所割鉄屋之類ハ越炭鍛冶仕度段願出申候、書物ニ不及、御存寄無御座御差免被成候様ニとの付紙御免許ニて相済申候、越炭之義者野山・腰林之内ニ而炭焼鑪所鍛冶屋之所へ持参売払ものニ御座候事

一鑪之義上中下分無御座候、一ヶ所ニ而銀五百目ツヽ、

一割鉄屋壱軒ニ付銀弐百廿五匁（九ヶ月分　一ヶ月廿五匁）

但、長割鍛冶屋・割鉄屋鍛冶与申類ハヽ、大鍛冶屋ニ而人数余分懸申候、延鉄も長サ弐尺七八寸より三尺迄出来申候、千割鍛冶屋之類ハ延金七八寸より壱尺位出来申候

右之通人数懸り違申候、其上地金（子之）も善悪も御座候様相聞申候、夫故運上高下も御座候様ニ奉存候

一千割吹屋鍛冶壱軒ニ付　五拾目宛

一釘地鍛冶屋壱軒ニ付　六拾目宛

但、釘地鍛冶之義ニ付何れ共年数三ヶ年之間限り御免被遣候格、三ヶ年相済山所建木残御座候へハ追願申出候、又三ヶ年之間御免書物計ニ而相済候間、木

札ハ無御座候

一鋳物師壱軒ニ付　弐拾五匁五分宛

但、御免木札無御座、御山方ニ而書物無御座、御聞届之上運上帖へ書入候迄

怒可郡運上

一上鑪壱ケ所運上　銑十九駄壱束

但、壱駄と申ス者弐束ツヽ(と脱)、伝聞申、掛目三拾六貫ニして壱駄ニ付弐拾目

付紙ニ而（山県郡鑪之義ヒゴリウト申候、大鑪之由、夫故敷運上一ケ年五百目）

一鑪中壱ケ所運上　銑十六駄壱束

但、同断

付紙ニ而（怒可郡辺鑪之義イツハリウト申候、小鑪之よし相聞申候）

一下鑪壱ケ所運上　銑拾四駄壱束

但、右同断

一千割吹屋鍛冶壱軒ニ付　五拾目宛

一釘地鍛冶屋壱軒ニ付　六拾目宛

但、前ニ書記御座候、山県郡同断

一鋳物師壱軒ニ付　拾五匁宛

但、同断

高田
高宮　郡運上

一鑪壱ケ所　五百目宛

一割鉄鍛冶屋壱軒ニ付　弐百廿五匁宛

一釘地鍛冶屋壱軒ニ付　六拾目宛

但、前ニ書記し御座候、山県郡同断

世羅郡運上

一鋳物師壱軒ニ付　拾五匁宛

但、同断

安芸郡運上

一鋳物師壱軒ニ付　弐拾目宛

但、同断

諸郡共小鍛冶・紺屋運上　何村　某

一銀三匁九分　此灰(炭)三斗、石ニ付拾三匁ツヽ、

但、紺屋運上銘々職次第ニ而、灰入用増減御座候、

運上銀高下御座候　何村　某

此炭(灰)拾俵、壱俵ニ付四分ツヽ、

但、小鍛冶運上之義ハ銘々職之高下ニ而入用炭増減
御座候、運上銀職分ニ応し増減御座候
但、紺屋・小鍛冶共願書申談御座候へハ、御存寄無
御座趣被仰談候、尤運(上脱)帖へ書入仕候事

諸郡江寛保四年之頃迄運上(帖)銀面相調奥書之事

一右者豊田郡小鍛冶・紺屋・炭灰運上銀ニ候条、御取立
可被遂勘定候、以上

延享元年　十一月

〔郡廻リ〕堀　権左衛門
〔郡廻リ〕恒川久左衛門
〔郡廻リ〕堀田与左衛門

〔代官〕神尾半左衛門殿
〔代官〕林　甚左衛門殿

諸郡炭薪運上札之事

一炭焼出し町売御免馬札之義者壱枚ニ付拾匁程、人札壱
枚ニ付五匁程ニ而御座候様承申候、尤郡々ニ而運上高
下御座候
付紙ニ而、此類之運上銀ハ御代官中ゟ直取立上納

一薪伐出し町売御免之札・馬札之義ハ壱枚ニ付拾匁位ゟ
四匁、人札壱枚ニ付五匁ゟ弐匁程ニ承申候、尤郡々ニ
而運上銀高下御座候
但、此両様運上札之義も鎌札之義も、御代官中ゟ郡
御奉行中江被仰達候得ハ、郡御奉行衆ゟ御勘定所江
御示談御座候而、郡御奉行中江相調候札御勘定所ゟ
御請取、夫より郡御奉行中ゟ御代官中江御渡し、御
山方江参候得ハ、山所書入焼印相調候而(ニ)御代官中江
御戻し候、已上

諸運上来暦之事

一小物成之事
右郡々綿・うるし・茶・漆之実、其外品々役銀先代よ
り相極メ於于今被召上候、御帖面ニ有之候
一鉄山役之事
右御引渡ニも高弐百弐拾五石余御帖面(ニ脱)有之候、先代よ
り相極メ於于今被召上
一山ゟ鉄ヲ堀出スヲ鉄穴ト云(又カンナ、トモ云)、是ヲ川へ入土ヲ
洗去り小鉄ト云、山鉄ヲ鑪ニ而吹返シ鉄ニするを銑と

云、ズクヲ割鉄鍛冶屋ニ而吹割鉄ニする、拵候所ヲ吹
屋ト云、鑪・吹屋両所運上出る、是ヲ鉄山ト云
一右之吹屋・鑪之炭、腰林切炭ニいたし候、腰林無之所
ニ而ハ上ゟ山ヲ被下伐申候、此運上ハ出不申、右鑪・
吹屋運上(上)とり相済申候
一札役之事
右者農業之外ニ色々営ミ仕面々心儘仕せ候テ者万事猥
ニ有之候ニ付、銘々営望ニ随ひ免許之札ヲ下ケ遣候ニ
付、札役銀被召上候
一広嶋町馬追札役之事
右者町中ニ而馬持申義心次第ニ仕候へハ馬役多分ニ相
成、馬追共渡世迷惑仕候ニ付、馬不自由無之程相極メ
札ヲ被遣候ニ付、役銀被召上候
一鹿・雉子・鳩札役之事
右者百姓共望次第御吟味之上札ヲ被遣候ニ付、役銀被
召上候、心儘ニ御免ニ候而ハ大勢ニ相成候而渡世之便
ニも不相成、百姓共願ニ付人数多少ヲ考夫々ニ免許札
被遣候
一竹代銀之事
右者郡々三年ニ壱度宛奉行被遣御伐せ被成候得共、寛
永五年ゟ百姓願ニ付代銀ニ積り、三ケ一ツ、毎年銀子
ニ而被召上、竹者百姓共自分ニ売払申候故勝手能御座
候由、沼田・佐伯・高宮三郡者為当用竹ニ而被召上、此
三郡竹商売不仕候ニ付代銀上ケ不申、百姓共藪留メ藪
ト申、藪主自分用事ニ者入用次第伐取売申義者不仕
候、御用之刻者何程ニ而も伐申候、竹代ハ不被下、伐
夫賃被下候
一船床銀之事
※③右川上之郡々ゟ広嶋江積下候船数相定、役銀被召上
候、船数心儘ニ仕せ候而ハ右之営仕候者大勢ニ相成迷
惑仕候ニ付、百姓共願ニ付船数ヲ相定申候
　但、炭薪百姓共望候へハ数ヲ極メ札ヲ遣し運上出
ル、尤山ニ依而伐せ不申、御免之山ハ右之通札遣候
而ハ伐申義何程ニ而も伐取炭薪ニ拵、船ニ積出シ、
川上ゟ船ニ而下ケ申刻船借積下り申候、船賃炭薪主
ゟ出、船主ゟ一艘何程(相脱)ト極運上上ル

薪炭・御馬草藁糖（糠）入レ候へ共、元和八年ゟ高千石ニ付
米拾石ツヽ、被召上被下候様ニと百姓共依訴訟ニ壱歩米
ニ相定申候、浦辺嶋方ハ水主役仕、諸職人者水役仕候
ニ付、此高ハ壱歩米懸り不申候

一職人水役之事（大工　木挽　種（柿）葺　壁塗　瓦師　桶屋　畳差　鍛冶　船大工）
右広嶋（町脱）家持者本役、一ケ月ニ弐工、家不持者者半役、
一ケ月ニ壱工水役仕、夫ニ付外之町役ハ御免被成候、
在々ニ而者本役仕候者ハ壱人ニ付高五石、半役ハ高弐
石五斗ツヽ、壱歩米并厘米等懸り不申候、先年ハ右之
職人御用次第召出、民数役相勤、未進之分米ニ而差上
候得者（共）、寛文十一年ゟ銀子ニ而被召上候
　但、郡中大工も水役出申候郡ニ而ハ町役ト申義無
　之、作高不残御免ニ而ハ余程之義ニ而有之候ニ付、
　たとへハ五石作申ス者へ（ハ）本役高五石前之役引五石之
　役仕候、半役と申スハ大工弟子抔も持不申、壱人働
　候者ハ半役懸り、弟子抔持候ものハ本役高引ル

一山方諸運上之事
右者山野見立実植等申付、竹木立置申候、炭薪等伐度
与望申村ハ札数極伐（せ脱）申候ニ付、歩一ヲ上申候、百姓家
作仕申刻ハ材木等順路能方ニ而望次第被下候、尤井
手・川除等仕候節ハ竹木被遣候

一玖波・廿日市十歩一之事
右者佐伯郡ゟ出ル炭薪玖波・廿日市ニ而船ニ積ミ、方
々江遣申候ニ付、歩一ヲ被召上

一十歩一取立場所之事
佐伯郡玖波村　受負人同村百姓　勘三郎
　但、一ケ年請負銀壱貫七拾目
閏月御座候年ハ一ケ月分月割ニして相増上納仕候
同郡黒川村　受負人同村百姓　勘七
　但、右同断百六拾弐匁
同郡大野村　受負人同村庄屋　理助
　但、右同断四百目
佐伯郡宮内村之内串戸　受負人同村百姓　七兵衛
　但、右同断三拾目
同郡廿日市　板炭問屋　拾六人

但、右同断弐貫五百六拾目　　受負人同村百姓　太左衛門

同郡五日市

但、右同断四拾目　　受負人同村百姓　惣兵衛

安芸郡船越村

但、右同断弐貫目　　受負人同村山目附　兵　作

同郡矢野村

但、右同断八百五拾目　　受負人同村百姓　新左衛門

賀茂郡

但、右同断

同郡竹原（古広口　沖口　多井口）（〔ノ脱〕田浦口　成井口）　小泉村之内　関屋口

但、右同断五貫百五拾壱匁六分　　受負人四日市年寄「光棟屋」〔朱書〕　十郎右衛門

謙曰、田浦関屋ハ豊田郡也、如何敷

一安芸郡宇品嶋十歩　但、御手取立

一沖十歩　　但、右同断

一口屋御番所佐伯郡（草津村　廿日市　玖波村　小方村）

一豊田郡右同断（沼田下村之内　木浜）

一畳表運上之事

右者水野美作守殿御領畳表多打出申候処、御調郡程近御座候、就夫畳表打習申度候間、はた道具拵被下候様ニと願出申候ニ付諸道具等調被遣、夫ゟ畳表打出し、遂年大分ニ相成百姓共悦ひ申候、運上銀少々宛被召上候

一古江・廿日市・白嶋〔口屋脱〕運上之事

右者木地・葛籠・藤組折敷在々ニ而山ヲ御免調出候ニ付、十歩一被召上

一竹原地方薪十歩一之事

右者竹原塩浜江賀茂郡・豊田郡・安芸郡三郡より薪ヲ伐出申候ニ付、十歩一被召上

一竹原塩浜・柴問屋運上之事

右者方々ゟ船ニ而参候薪銘々ニ買候得者、勝手能者ハ大分買取、不如意成者者一切買取候義不相成、其上薪

も高直ニ而痛(ミニ脱)成申候ニ付、買主を定メ塩木之割賦平等ニ為仕候、御領内之薪ハ百歩(一脱)ヲ取せ申候、就夫買主も勝手ニ成候ニ付、為礼銀一ケ年ニ銀壱貫目ツヽ差上申候

一木浜口屋之事

右者豊田郡山々ゟ炭薪ヲ伐出候ニ付、十歩一ヲ被召上候

一矢野・海田十歩一之事

右者安芸郡山ヲ免し伐せ申候ニ付、十歩一被召上候

一沖十歩一之事

右者浦辺嶋方山々ゟ柴ヲ伐出申候ニ付、十歩一被召上候、地方ニ而者十歩一出シ不申候

一銀掛ケ判賃之事

右者御領内之銀子善悪吟味仕、包候而印判ヲ押申候、銀子包(せ脱)候方ゟ銀弐百目ニ付包銀四分ツヽ出シ申候、判屋者合力銀ヲ被遣候、其外包銀諸入用ヲも被下、残銀ヲ差上申候

一鰯網運上之事

右者年々奉行人ヲ出し相改、多取申年ニ者歩一(ヲ脱)被召上、少シ取申年ハ歩一上り不申候

一材木方之事

安芸国者山深(ク)之材木多、自往古山拵ヲ以山中之百姓渡世ヲ送申候、田畑ニ作五穀者飯米ニいたし、材木代銀ヲ以御年貢ヲ納申候処、近年者山遠成、山出之夫数多入送用ニ合ひ不申、及迷惑候由訴訟申上候ニ付、前年より銀子ヲ利なしニ御貸、材木出次第翌年差引仕候

一紙方之事

右者最前ゟ紙少ツヽ漉申候得共、先年願ニ付紙漉道具拵被遣、今以損失之分遂吟味拵被遣候、扨紙漉候義ハ前方ニ利無ニ銀子大分貸渡、紙出来次第返納仕候、其刻利合ヲも夫々ニ随ひ被下候ニ付逐年紙高も出来、百姓之甘ミニ成申候

一厘米之事

（地方高百石ニ付米九斗ツヽ懸り、一歩米懸り候高三拾六万石余ヲ地方ト云、浦辺嶋方ハ水主役仕候ニ付、高百石ニ付弐斗ツヽ懸ル）

右厘米、西国海道(街)天下送り之夫切米扶持方、川々渡守給分、其外御領分惣百姓中寄合可相調普請所之入用并在々懸り役ヲ皆令免許、諸役之義国中無甲乙様厘米ニ

相極り、百姓勝手能御座候、但、懸高ハ年ニ寄多分御座候、併一歩懸り申義者終ニ無御座候、厘米ト号ケ申候

一蒲苅繋船米之事
右最前者浦々ゟ番船ヲ出シ、西国送船之御用相達候得共、百姓共願ニ付米ニ而出サせ、奉行人被仰付置、定船頭・水主置、送り船之御用相達候、尤御船も蒲苅へ被遣置候

一所払之定法割合之事
但、仮ニ高物成ヲ記、所払之分ヲ記し、此里程ハ其村ゟ納所仕候御蔵所迄之里程なり

十二里
何村
高百石
免五ツ成物成五拾石　口米壱石
二口合五拾壱石　是ヲ定物成と号申候
内（三拾四石　津出シ
　（拾七石　所払

右物成・口米共合五拾壱石ヲ定法十二里ヲ以割候得者、壱里ニ付四石弐斗五升宛ト相成申候、是ニ八里ヲ懸候へ者津出米三拾四石ト知申候、右之内四石弐斗五升ニ四厘ヲ懸候へ者、所払拾七石ト知申候
但、右之通物成ニ而所払津出ヲ仕分申候故、年々免之高下ニ而変申候故毎年仕分仕候義ニ御座候、里程何程ニ而も右之仕形ニ而所払津出分申候、津出八里之定ハ広嶋御蔵所ニ不限、其方角之御蔵ゟ蒐角八里ハ津出米ニ引残、里程ハ所払ニ成申候、夫故御蔵所ゟ八里ヲ津出ト仕来申候、里程九里ハ内壱里所払ニ成申候筋ニ御座候、古来ゟ之道法定リ御座候処、高田・三谿之内ハ九里之村御座候、山県者九里之村ハ出シ不申候、世羅郡ハ三原御蔵へ近キ故所払無御座候

山県郡　三拾ケ村

橋山	東八幡原	西八幡原	草安
奥中原	川小田	土橋	雲耕
中祖	才乙	苅屋形	岩戸
宮迫	大朝	細見	新庄
筏津	移原	溝口	奥原
小原	大塚	米沢	高野

大暮　政所　南門原　荒神原
宮地　大利原
　高田郡　弐拾弐ヶ村
糘地　本村　北村　生田
川根　原田　横田　来女木
下小原　上小原　高田原　戸嶋
深瀬　(粟)栗屋　浅塚　羽佐竹
房後　船木(佐々部・下甲立脱)
　　謙曰、四ヶ村不足如何
　三谿郡　三拾壱ヶ村
三国(玉)　小田幸　吉舎　和地
石原　海渡　糸井　灰塚
長田　廻神　志幸　矢野地
海田原　矢井　清綱　有原
高杉　多(田)利　三良坂　安田
敷地　三若　上田　仁賀
江田川ノ内　大田幸　茅瀬　木乗
岡田　棗原　光清
　奴可郡　三拾九ヶ村
（栗大戸村　加谷　大佐　三坂
平子　油木　小嶋(鳥)原　高尾
宇山　上千鳥　森脇　小串
森村　大屋　竹森　所尾
小怒可　中迫　未渡　久代
請原　内堀　戸宇　田黒
川西　塩原　川嶋(鳥)　保田
中野　川本(東)　山中　菅村
田殿　始終　福代　下千鳥
八鳥　(粟)栗田　入江
　三上郡　拾八ヶ村
小用　永末　大久保(上谷脱)　川手
高村　高門　上庄原　本村
春田　峯村　下庄原　是松
実(富)留　川西　宮内　一木
板橋
右之通不残所払村々ニ而御座候、以上
　御山奉行江被仰出候書附写シ

御山方引受　但、上付紙ニ而御山奉行中（江脱）ト有之
一御建山・御留山其外野山・腰林伐刈等之事
但、只今迄此筋郡御奉行承届候得共、此以後者御山方へ申達し有之候ハヽ、免許可有之候、其内例ニ無之義歟、或者事品違候筋ハ御山方より郡御奉行中江可被申聞候事
一材木・炭・薪其外諸品山本直段并御払直段極ノ事
一御山方仕入御米銀受取渡之事
一所々門松書附取しらへ之事
一古家川下之事
一山番人死失并入替之事
右之外御山へ懸候義者御山方ニ而承、郡御奉行へも申達取計候事、以上

覚

一諸郡ニ山目附御山方ゟ被申付、常々御山見廻り札（村）方守候甲乙、其外植蒔之節迄も心ヲ付、見聞申出候様ニ仕、伐刈有之村方ハ立会見分（時分）仕候筋ニ可被申付候事
但、一郡ニ弐三人程ツヽ被申付、給米三石ツヽ、被下候間、割庄屋格ニ可被申付候事
一村廻りニ御山見廻り被仰付候、廻郡之節其外ニも度々御山所へ入込見聞候様ニ被申聞、尤伐刈願之時分も罷越相しらへ、其外建木之趣植蒔之義心ヲ付候様可被申聞候事
但、御山方詰御奉行（歩行）も山々見廻り之義只今迄之通（可脱）被申付候事
一伐刈願、御代官中ゟ郡御奉行江申出候筋只今迄之通ニ而、其免許書附ヲ以各へ御代官ゟ申談有之候ハヽ、山切手相調遣可被申事
右伐刈免許切手ハ御山方ニ而（相調脱）、其請郡之郡廻り壱人ツヽ御山奉行名印ニ而可被申付候事
但、村方へ申付候義ハヽ、各切手ヲ以御代官所ゟ申付可有之候事
一伐刈見分之義者、御山方ゟ御歩行番組遣シ可被申候事
但、御代官所御山方付之番組、各方へ引受可被申事
一腰林願者只今迄之通郡御奉行中承届相済、其上ニ而御代官中ゟ御山方へ右書付可被相渡候間、歩銀懸り願材木之才（材）間等相しらへ、早々御代官所へ可被差戻候事

一山出入論所之義、郡御奉行中ゟ申談可有之候間、相しらへ其趣ニ寄御山見廻り役之御歩行亦者村廻り差遣、見分之趣ヲ以可被申談候事

但、論所出入之義者、品ニ寄郡廻り・御代官、尤各申談相しらへ可被申候事

右者（村方脱）近年御山所之守ゆるまり、段々御山荒候ニ付、此度右之通被仰付候間、念入可被申付候、以上

丑十一月　私曰、延享二〔享保十八〕丑年ト相見候

明和二酉暮郡中江も被仰出候御倹約之事

※④一今般御倹約之義御家中始御領分一統別紙書付両通被仰出候間、此趣郡中末々迄奉承知、近年下方心得違流合ニ相成候品ハ急度相改、聊費之筋無之様ニ可仕候事

一着類之義ハ兼而被仰出候通、郡中町立共絹類者御停止ニ而、素り布木綿致着用候筈ニ候処、近年（来）別而流合ニ相成候趣ニ相聞、以来者全ク地布木綿着用、染色等も費ケ間敷義無之、専藍染渋帷子之類着用可仕候事

附り、妻子等之着類別而猥ニ相成候（旨相聞候脱）間、是亦向後ハ急度相改、地布木綿之外一切着用不仕、勿論櫛笄等も鼈甲類者兼而御停止ニ候間、全木櫛可相用候事

一給物之事素り麁食相用候義者勿論ニ候得共、以来弥以奢ケ間敷義無之、兼而被仰付置候通、木実・草葉類其時節油断なく取込貯置、変年之貯忘却仕間敷事

一村役人共用向ニ付此元へ罷出候節も、町方旅宿ニて美食ヲ始、其外法外之遊興体之義有之趣風聞ニ候、是等ハ甚有間敷（次第脱）共、以来右体之義風聞たり共於相聞ニ者、吟味之上急度可被及御沙汰候間、自今相慎可申事

但、役人共自分参会之節ハ勿論、村方諸相談ニ寄合候共、終日相詰候ハ、銘々昼食持参、役人元之世話無之様ニ申合、随分入役筋減候様ニ可仕候事

一郡中家作普請之義只様高上ニ相成候之趣ニ相聞、都而在家之義ハ古来ゟ（之）も建等も有之義ニ候へハ、銘々分限相応ニ致家作、目立候普譜作事等者決而仕間敷事

一於郡中ニ近来別而弓稽古致流行、懸的抔と唱へ勝負ヲ争ひ、博奕等ニ似寄候仕形有之段相聞候、素り百姓体之取扱候業ニ無之、第一農業之妨ニ相成候間、以来急度相改候様可仕候事

一郡中諸社之祭礼近来別而及超過ニ、種々通物等仕美々

敷趣相聞候、甚以心得違之事ニ候、神事之義者万端古来ゟ之仕来も有之義故、其趣ニ取行異行之筋決而無之様可仕候、勿論寺院開帖・供養・仏事等之節仏前餝り物之義も右ニ准し花美之義無之様可仕候事

但、諸祈禱・雨乞・虫送・願解等之節も随分無益之筋無之様軽く取計、入役減候様可仕候事

一近来郡中江狂言師・浄瑠理語り等之遊ひ者類徘徊致し、村中身持之者共方角ニ寄候而ハ足留メ為仕、近村ゟ見物人抔引受候由相聞候、以来右之者罷越候ハヽ、役人共心ヲ付一切足留不仕、早速村内追払候様可仕候事

一郡中へ入込候諸商人之内、呉服屋幷小間物(屋脱)之類ハ素り在中ニ者無用之商人故、他所より入込候共片時も足留メ為仕間敷事

一博奕・諸勝負之義者前々ゟ度々被仰出候通御法度筋ニ候間、役人共者不及申ニ、百姓共相互ニ心ヲ付、若取扱候ものも有之候ハヽ、不隠置、早速可申出事

一右之趣郡中末々迄不洩様被申聞、此余倹約之筋下方ニ而心付候義も候ハヽ、無用捨申出相改、弥以費之筋無之、随分取続第一ニ相心得、農業不怠御納所可相励様可仕候、万一右之条々相背候者有之ハヽ、吟味之上本人ハ不及申、役人幷五人組ニ至迄急度可被仰付候間、此段相守候様可被申付候、以上

十二月（私ニ記、此趣郡御奉行中より諸郡御代官中江達有之、御代官所ゟ添書ヲ以郡々江被相触置候事）

明和三戌四月四日郡御歩行目附増人被仰付候事

一郡御奉行中ゟ地方郡廻り中・御山方へも左之通達し有之、従合(今日)力御代官所一役所限り御歩行壱人宛相勤候様ニ被仰付候事、則如左

郡方入役しらへ候義、以来郡方御歩行目附引受幷手付番組之内年番之者壱人相加り、相しらへ候様申談候間尚又厚御申談、御存寄之趣御熟談可有之候、則右申談書付写左之通入披見候

一御年寄中ゟ被相渡候書付写壱通

一入役しらへ之義御代官中へ申談書付写壱通

一同断郡方御歩行目附江申渡書附写一通

一同断手附番組江申渡書附写壱通

以上

四月七日

[用人]鳥井九郎兵衛
[用人並]戸田嘉藤太

[郡廻り]河瀬弥右衛門様
[郡廻り]添田伝左衛門様
[郡廻り]後藤源之丞様
[郡廻り]加藤百太夫様
[郡廻り]服部斎様

上附紙ニ而

郡御奉行中
御勘定御奉行中

郡中諸入役ハ百姓共之盛衰ニ懸候義勿論ニ候、然ル所於御代官所ニ右しらへ難行届趣相聞候ニ付、今般郡方御歩行目附御増人ヲ以御代官中請郡限り壱人ツヽ御付、専右しらへ有之候様被仰付候間、小内者各ゟ夫々江可被申談候事

同御代官所江申達書附

一郡方免割・郡割等都而諸入役之義、近年手附番組之内年番被申付相しらへられ候処、此度郡方御歩行目附引受相弾候様ニ申談候間、年番之番組壱人被差添しらへ可有之候、尤只今迄之しらへ方段々隙取往返ニ相成候郡多相見候(江)、左候而者しらへ詮も薄く候ニ付、早々しらへ立候為御歩行目附御増人被仰付候義ニ候間、各ニも尚又力ヲ入厚ク論談可有之候、勿論右番組ハ右しらへ其筋ニ懸り、随分早々相しらへ立候様ニ可被申附候事

一郡々共仕来之趣ヲ以取計方幷帖面建等も区々ニ相見候ニ付、外郡ヲ打合為遂熟論、左之定日郡方吟味屋敷へ罷出、申合之趣を以相しらへ候様申談候間、年番之番組も可被差出候事

毎月　六日　廿一日

一しらへ相約り御勘定所へ被差出候ハヽ、尚又相弾差戻し可申候間、其上ニ而印形相調可被相渡、左候ハヽ、郡御歩行目附郡方へ持参、前々之通村方ニおゐて読聞せ渡遣候事

但、帖面弐冊調、一通村方へ下ケ遣し、一通ハ御勘定所へ可被相納候事

一右者大筋之趣迄ニ候、尤御歩行目附番組江相渡候書付

写し別紙之通候間、小内委細之義者随分考合有之、村方費之義無之筋厚く可被遂吟味候、御増人被仰付候程之御趣意候ヘ者、村方へも此趣を以被触渡、村役人共別而心ヲ付取計候様ニ厳重ニ可被申付、勿論郡廻り中へも厚示談有之、猶難決義も有之候ハ、拙者共へ可被申聞候事

四月

上張紙ニ而郡方御歩行目附へ申渡書付写し

一郡中諸入役之義御代官所ニ而しらへ有之候処、此度各引受被仰付候間可被得其意候、入役筋之義者村方根元ヘ懸り候義ニ候得者、別而厚力ヲ入しらへ可被申候、尤御代官所手附番組之内壱人ツ、、年番相極メ、各へ附属相しらへ候様申談候間、日々御代官所江被罷出、番組も得斗熟論有之、損益之筋厚ク考合ニ而相約可被申事

一只今迄之しらへ方ハ兎角相後レ、往来ニ相成難手届ニ付、此度御増人ヲ以各被仰付候、然ル所只今迄之通出郡繁候而者しらへ候支ニ可相成候間、以来ハ毛上見分幷公事訴訟しらへ之外ハ可成丈ケハ出郡無之様相仕向可申候間、全ク打はまり少も早くしらへ立、郡廻り中・御代官へも厚被致熟談、存寄無之ニ約り印形共相済候ハ、、前々之通郡方へ持参有之、村方ニ而読聞せ渡遣し可被申候事

一郡々仕来之趣ニ依而取計方幷帖面建等迄も区々ニ相見候、此類其外都而外郡之趣彼是取合せ宜方ニ相改可然候間、各幷番組とも左之定日之通郡方吟味屋敷へ罷出、同役人中・番組共無伏蔵会談候而是非之議論相約、諸郡一致ニ相成候様相しらへ可被申候事

毎月(定日脱) 六日 廿一日

一南部忠兵衛・高田丈左衛門両人共入役しらへ方頭取申談有之候様ニ相達候間、存寄之筋も候ハ、、右両人へ得斗熟談可有之候、尤吟味屋敷へ各会日之節も右両人之内罷出、何角申談等有(之脱)筈ニ候間可被得其意候事

(一脱)右者大筋之趣ニ候、此余委細之義右之面々可申合、何分村方入役相減候筋肝要候間、其心得ヲ以出情可有之候、若難相決義も有之候ハ、、存寄之趣可被申聞候、以上

四月

上張紙ニ而御代官所手附番組へ申渡書附写

一郡方免割・郡割等都而諸入役しらへ之義、此度郡方御歩行目附へ被仰付候、依之其方共義相添相しらへ、存寄之義ハ無用捨御歩行目附へ申談、随分入役減候様別而力ヲ入相約メ可申、勿論只今迄之しらへ方兎角隙取往来ニ相成候故右之通相改候間、年番之内ハ平御用ヲ離レ全相しらへ迄ニ取懸り、少シも早く相しらへ立可申候

一外郡之趣相互ニ申合、考合之為メ左之定日之通郡方吟味屋敷へ罷出、諸郡打合せ議論いたし、仕形宜筋ニ相改可申候

毎月定日　六日　廿一日

右之外小内委細之義ハ兼而承知之事ニ候間、何分入役相減候筋厚力ヲ入相弾可申候、以上

四月

右御用郡分左之通

一（沼田安芸）郡　山本彦助　一（佐伯山県）郡　黒河勘兵衛
一賀茂郡　福井平太（吉）　一（高田高宮）郡　山田源十郎
一豊田郡　藤田義助　一（御調甲怒）郡　久村保八郎
一（世羅三谿）郡　山沢宇佐衛門　一（怒可三上）郡　小川平八
一（三次恵蘇）郡　荒木丈七

郡中諸入役尚又しらへ之義申来ル覚

明和五子六月十一日御代官筆頭之内郡御奉行中江被呼出、左之通書付之趣ハ申談候由、郡廻りニも為承知写被差越旨、連名ニ而地方郡廻りへ翌十二日来ル

写シ

一諸郡免割方諸出米之義、去々年被仰出候趣意之通増減等之しらへ此節迄ニ相約メ候、就夫以来弥以引続、於御代官所無怠此度之趣ヲ以しらへ候様御取計可有之候

一郡々江被付置候御歩行目附之義、平生御代官所江致出勤候而も見聞一筋之役柄ニ（者脱）候へ共、今般しらへ筋ニ付候而者人数も相増、全ク手懸候相勤候義故、此後迚も同様相心得、免割へ懸候義者専引受相勤候様申談置候

間、各ニも其心得ニ而下地於御代官所御徒目附等へも示談、此度之趣ヲ以得斗しらへ之上申出候様御取計可有之候

一御手附之者壱人宛年番引受相勤候義者勿論之事ニ候へ共、右壱人ニ不限御代官所御用筋不差湊節ハ、何ニ而も惣懸り被申付置、莵角手後レニ不相成、郡割・免割帖等其年限下方へ被相渡候様御仕向可有之候、以上

六月　宛諸郡御代官中与有之

明和五子六月御勘定奉行中ゟ左之通免割しらへ方之義申来紙面之写シ

免割しらへ之義ニ付、別紙之通昨日郡方御歩行目附并御代官中・手附之番組へ申渡候ニ付写入御披見候、以上

六月十二日　　御勘定奉行連名

地方郡廻宛

一各勤向之義ハ、平日御代官所へ出勤見廻り一筋之御役柄ニハ候へ共、此度郡中諸入役しらへ筋郡奉行中ゟ改而御代官中江被相達候趣ニ付、各義も入役筋之諸出米都而免割へ懸り候諸入役申出之諸書附・帖面類手懸ケ候而厚被入力、村方費ケ間鋪義者勿論、不益無之様ニ心ヲ付相しらへられ、万端御代官中へ示談可有之候

一只今迄下方より申出書附其儘ニ而御勘定所へ出候方角も間々相見候、以来者御代官所ニ而得斗相しらへ、下方相約メ被差出候様ニ可被相心得、尤都而之義此度之趣ヲ以得斗しらへ之上申出有之候様ニとの義、郡御奉行中ゟ御代官中江被相達候間、其旨相心得万々可被遂示談候、尤手付番組壱人宛年番各へ附属相勤候筈ニ候へハ万端可被申談、於御勘定所ニ請方別ニ相極メしらへ候ニ付、各義不絶被罷出、万端免割方頭取江可被示(申)談候、右之通候へ共、根元之御役筋見届等之義弥以無油断被心付、右之勤向混雑無之様可被相心得候、以上

六月

上ニ諸郡御代官中手附番組へ申渡書付与有之

一郡中村々入役諸出米之義弥以費ケ間敷義無之様ニとの義、此度改而郡御奉行中ゟ御代官中江被相達候、尤御歩行目附へも都而免割へ懸り候品ハ専引受、手懸候而相勤候様ニとの義ニ付、其方共義も年番之ものハ勿論、

其外迚も常々一致〔可致〕ニ申合、厚心ヲ付入役筋ニ懸り候義
者御歩行目附へも申談、不益之筋毛頭無之様可取計義
肝要ニ候、細々之義者去々戌四月書附ヲ以〔揃〕申渡候趣ヲ
以万事手後レ不相成、其年限り諸割相掛候様取計可申
候

六月

浦嶋有之五郡江御船手御用割賦銀古法之通相改候事

一御船手御用諸品代安芸・佐伯・賀茂・豊田・御調此五
郡へ割賦銀、近年（私云、宝暦八寅年頃也）浦嶋高割相成候へ共、御
代官中ゟ下方迷惑仕候趣段々申出有之、依之相改候段
御勘定奉行中ゟ御代官中へ申来ル紙面之写、左之通

但、明和四亥八月八日相改候事

一御船手御用諸品代郡々浦嶋割賦、只今迄ハ高割ニ相成
候へ共、今年ゟ古法之通役家割ニ取計候筈ニ申談候、
此義ニ付追々御存寄被仰聞候趣も有之候ニ付、此段為
御心得御知せ申候

一苫縄代銀ハ先年ゟ定割賦ニ相成候得共、焼家役引等之
差引も有之候ニ付、自今定割賦相止一向年々之雇水主
賃銀ニ取詰〔取結ひ〕、毎年触出可申候間、兼而其趣ニ御承知被
置候様ニと存候、以上

八月八日

〔勘定奉行〕田上郷太夫
〔勘定奉行〕吉岡平馬
〔勘定奉行〕龍神甚太夫

浦嶋有之郡々
御代官中宛

郡中ニ而（行倒者 川流者）相果候諸入用片付定法事

一郡中ニ而支配違之行倒者又ハ川流等ニ而相果候者有之
節、其入用出方区々ニ付、此以後別紙之通被申付候様
ニ諸郡御代官中江相達置候、町方も同様被申付置候筈
ニ付、為御心得別紙写書入御披見候、以上

六月十四日　郡御奉行

地方郡廻宛

一郡中ニ而行倒又ハ川流等ニ而相果候者其居所存寄有
之、死骸引渡候迄之内村方ニ而番人等諸入用其所之入
役ニ可相成筈ニ候処、右存寄〔存当り〕之方角へ所々役人共ゟ直
ニ申合、受取候類も有之、出方区々ニ相聞、依之以来者

存当り之方角へ引渡迄之諸品入用ハ、其所之入役致候様御申付可有之候、右之段町方へも被申付置候筈之事
但、死骸受取方之ものより何ソ相対願之筋も有之、其入用も候ハヽ、其分ハ役人共ゟ直ニ申談受取可申事、以上
六月　私ニ曰、明和四亥六月此通ニ相定候事

江戸へ大廻りノ船運賃之事（但、御調郡因ノ嶋椋浦船へ被仰付候趣也）
一宝暦八年ゟ運賃減候処、商荷物運賃ゟハ余程減迷惑仕候趣歎出、依之明和三戌八月ゟ左之通相成候事
銀七貫三百五拾目（千石積之船以前ゟ極運賃宝暦七年迄此通）
銀六貫七百目（右同断、宝暦八年ゟ減シ此通ニ成ル）
差引六百五拾目減　此分当戌冬ゟ御戻し被下候
一江戸逗留日数廿五日過候得共、以前ゟ御扶持被下候義此以後も其儘被下候事、其外近年相渡候雑用銀ハ当冬ゟ以前之通相止メ、自今不相渡候事、以上
八月

諸郡入牢者諸入用出方之事
但、此義者諸郡区々ニ候処、郡御奉行・御勘定奉行・郡廻り示談之上、明和三戌二月左之通相改、諸郡御代官中江達有之、相極ル
一飯米（男一日黒米四合ツヽ女右同断三合ツヽ）（入牢者壱人分飯米但、入牢者生所之村割）
右之米牢番革田へ相渡ス、革田炊キ給サせ可申事、尤百姓盗賊之無差別此通ニ取計候事
但、諸入用相定候村割之品小高村ニ而数日入牢もの有之、諸入用格別多分ニ成及難義候ハヽ、其趣ニ寄少々郡割ニ相成候事
村別入牢者有之時
一食炊湯沸之もの薪・味噌・塩代として一日壱人前弐分五厘ツヽ、右之外革田へハ不相渡候事
一盗賊類召捕致牢舎候節飯米代幷飯炊用薪代、以来左之通御銀出ニ相成、其外入用郡割ニ成ル
一飯米一日（男黒米四合女同断三合）食炊代一日壱分
右御銀渡外ニ湯沸代（一日脱）壱分ツヽ、郡割
郡割
一賄入用道具
竈　鍋弐、蓋共　弐ツ椀膳、箸なし

杓子壱本　（水田子并汁汲用柄杓壱本）　田子壱ツ

行燈一ッ、有明用　（有明油一夜五勺ッ、此分革田渡り）

油入徳利壱つ

一自今右道具類常々牢屋敷（内）へ入置、重而入牢之者有之節相用候事

但、損（シ）之有之節ハ牢屋抱之村役人ゟ組合割庄屋へ申談、積書御代官へ出候上ニ而極候筈也

一入牢者有之節、（村割、但入牢者有之村方ゟ脱）牢屋掃除革田壱人一日罷出掃除可仕候事、夫共久敷入牢者無之、草高ク茂り候ハヽ、見分之上今壱人相増可申事

但、此賃米一日壱人前壱升ッ、

右同断
一入牢者壱人有之時者、頭革田壱人（賃米、弐升）小頭壱人（賃米壱升五合）、下革田四人（賃米壱升ッ、）、〆六人、入牢弐人ニ候ハヽ、右六人之上ニ下革田弐人相添可罷出候、賃ハ右之通

一牢舎者番革田昼夜弐人ッ、附置可申事

但、賃米昼夜ニ而壱人米弐升宛

一公事出入非分之者、入牢物入別段村割之内其入牢者ゟ出サセ候義も可有之事

一着物只今迄之通親類一家共ゟ出候事、親類無之候ハヽ、村割、出牢者着物ぬき捨候ハヽ、格別、着類剝取歟又ハ着類（代脱）抔と唱、革田銀子取（候脱）義為仕申間敷事

一鋪物牢之内へ入不申、莚抔番所へ釣り候事不相成候事

一先例之趣ヲ以刑罪之分ハ其儘御銀渡相成候事

右之趣明和三戌二月諸郡江触知セ有之

郡方より御領分御追放有之節入用賄米等之事

一御領分御追放者有之節賄米諸郡区々有之候ニ付、御勘定奉行・郡廻り示談之上明和五子八月左之通相極ル、諸郡御代官中へ郡廻りゟ順達ニ而相達ス扣

覚

一郡方ゟ御領分御追放者途中賄米等之義区々ニ付、此後者諸郡共左之通相定候事

一米（五合男四合女）（御追放者壱人、途中飯米・諸入用共昼夜之分、但、泊り之節ハ木銭払之事）

一同弐升（附添之革田壱人ニ付賃米昼夜とも但、革田共追放之節も同断）

右之外足米銀一切不相成候、尤送出郡より他郡へ通り候而も遠近無差別、右同断

一組頭・長百姓等為見届御境目迄罷越候節ハ、平用出飯米定例之通

但、居郡内ニ御境目有之郡ハ、郡内出飯米之通相立、他郡通御境目へ罷越候節ハ他郡出飯米相立候事

子八月

一諸向村送り立方相改候事

但、諸向村送・宿送・先触等流合之義有之候ニ付、郡御奉行中・御勘定奉行中示談之上、明和六年丑四月廿一日改候趣相決、其趣御勘定奉行中より郡廻中江申来ル、郡廻りより御代官中へ申達、郡中江触有之、文段左之如く、其外諸向へハ御勘定奉行中より達有之筈

但、左之触書草按御代官中より郡廻りへ御勘定所ニ而弾之上触方左之通相極候事

村送等之義此度相改候ニ付、御代官中より下方へ被申付候触（書）別写壱通、泊休之義（但）御勘定所付共

一郡々村送・宿送之義兼而御定も有之候へ共、近来流合ニ相成候ニ付左之通相改候ニ付、（間）猶亦役人共得斗令承知、心得違無之様可取計候

村送出ル方角

一郡御奉行中

但、村送・宿送只今迄之通、村送ハ東矢賀村、西ハ己斐村、北筋楠木村、右三ヶ所へ郡御役所より御小人持出候事、宿送ハ只今迄之通之事

一御勘定奉行中

但、村送只今迄之通ニ而、御用状右三ヶ所へ御勘定所より御小人持出候事

一郡廻中

但、村送只今迄之通ニ候事

一御山方

御前御用之類、其外材木伐出之内格別差急候分、又ハ急御用ニ而山目付呼出等之義者村送差出候事

但、村送東者矢賀村、西ハ己斐村、北者楠木村、右三ヶ所へ御山方より御小人持（指）出候事

一御山方ゟ就御用出郡之御歩行以上[下]、并御目附共より之
御用状差越候ハヽ、[郡奉行]平野軍次名宛ニ而差越候事
但、急御用之分ハ飛脚、不急分ハ村幸便ヲ以差越候
事、此飛脚賃出方其郡江当り候事ハ郡割、一村へ当
り候事ハ其村割ニ相成、其外之御用状ハ村幸便ヲ以
差越候事
附り、御手山ニ相成候節ハヽ、飛脚[賃脱]等ハ其節ニ至可
相極事
右御用状飛脚村便共役人江申談候事
一御代官并御歩行目附手附番組
但、受郡限り村送相成、銘々名前ヲ以可差出候事
一御鷹方
但、御鷹野場所有之郡々并地鳥見有之村々、[鷹方]川田彦
助・[鷹方]野口金十郎名前ヲ以村送相成候事、尤御鷹方ゟ
出郡之面々有之刻、鳥送等之義者只今迄之通、其外
御用状差出候刻右両人宛ニ而差出候事
一御紙奉行
但、紙楮有之郡々、御紙奉行名前ヲ以村送相成候
事、尤紙楮御用之郡迄ハ御代官所幸便又ハ御紙方ゟ
飛脚ヲ以遣し、其郡々ゟハ何村迄も村送可致事、尤
御紙蔵詰下役出郡之節郡中ゟ差越候御用状、緩急ヲ
分飛脚又ハ村幸便ニ而差越候事、小内建り、御山方
之通御紙奉行当ニ而差越候事
一御鉄奉行
但、鉄山有之郡々、御鉄奉行名前ヲ以村送相成候
事、尤小内建り、御紙奉行之通ニ而御代官勤番所へ
遣候事
右之外不相成候事

先触之事

一就御用出郡之御役人并御歩行以下人馬入用之先触差遣
候義只今迄之通ニ候事
一諸向共先[出]郡之上御用状有之候ハヽ、村役人へ申談、幸便
ニ御城下へ差越可申、差急候義者其時ニ至是亦村役人
江申付飛脚差出、其賃銀出方前段御山方之通ニ候事
但、他郡近村へ遣し候事も右ニ准し、村役人江申談
候事

以上

四月　　御代官連名
　　　　　村々宛

上付紙ニ而
一先触之事本文之通御心得可被成候、其内休泊之義請郡
之外ハ駅々へ止宿有之様ニ兼而被相心得、要用之節な
らてハ間駅へ止宿無様〔之脱〕ニ相成度段諸郡御代官中へ達置
候間、諸向共此趣御心得可有之事
　四月　　御勘定所

一（徒党・強訴・町散）御高札建添被仰出候事
一明和七寅年五月従公儀被仰出、公儀御大目附中ゟ諸御
大名様方御留守居中宛ニ而、御順達ヲ以被仰出候御高
札左之通ニ候、此趣郡御奉行中ゟ御代官中江申来ル、
郡中触渡有之、御高札ハ御勘定所ゟ相渡ル
一何事ニよらすよろしからさる事ニ百姓大勢申合候をと
ゝうととなへ、とゝうしてしいてねかひ事くわたつる
をごうそといひ、あるひは申合村方立のき候をてうさ
んと申、前々より御法度候条、右之類之義これあらば
居村・他村ニかきらす、〔早々脱〕其筋之役所へ申出べし、御ほ
うひとして
　ととうの訴人　　銀百目〔枚〕
　こうその訴人　　右同断
　てうさんの訴人　右同断
右之通被下、其品ニ寄帯刀苗字も御めんあるへき間、
たとへ一旦同類なり共発言致候ものゝ名前申出るニお
ゐては、其科をゆるされ御ほうび下さるべし
一右願〔類〕訴人致スものもなく村々騒立候せつ、村内の者を
差おさゑ、とゝうニくわゝらず、壱人も差出さる村方こ
れあらハ村役人帯刀苗字御免、〔三ても百姓にても重モにとりしつめ候ものハ御ほうひ銀下され脱〕さしつゝきしつめ候
者ともこれあらば、それ／＼御ほうび下しをかるべき
ものなり
　明和七年四月　　　　奉行
右之通御料ハ御代官、私領ハ領主・地頭ゟ村々江相触、
高札相達〔建〕有之村方ハ高札認メ相建可申候、以上
右之通被仰出候間、領国之輩急度可相守もの也
　　　　　　　　　　　安芸〔浅野重晟〕
別紙之通従公儀被仰出候間、此段郡中村々へ不洩様可被
相触候、以上

寅五月

諸郡吟味者番人附居候処取遁候節咎筋之事、明和八年卯五月廿四日郡御奉行中ゟ御代官中江被相達、諸郡触知せ有之、郡廻中へも追而郡御奉行中ゟ知せ来ル

一近年諸郡吟味者有之候節、吟味中百姓番(人脱)附置候義有之候処、間々取遁候義有之、番人ハ勿論役人共ニ至迄忽緒之仕形甚不埒ニ候、以来右体之義有之候ハヽ、日数相極メ急度尋出候義申付、其上ニ而左之通咎申附候間、此段役人百姓共迄手堅ク可被申付置候

一当番人之百姓（牢舎日数 其時ニ至可申付）

但、本人之罪ゟ猶軽(重)き咎可申付候事

一（庄屋壱人より 組頭壱人より）（過料員数 其時ニ至(可脱)申付候事）

但、本人之罪ゟ猶軽(重)き咎可申付候事

一五人組合之ものへ預ケ置候節取遁候ハヽ、五人組人別ゟ過料差出候様可申付事

右之通之事

以上

五月

御直筆写

但、明和八卯九月十七日御近習向御勝手方御役人江於御城拝見被仰付、幷御年寄中添書共

一我等勝手向不如意ハ素り不及申、いつれも承知之事ニ候、依之者我等身前ヲ始取約質素之筋油断も無之候得共、時勢ニ連レ近年江戸表之年中入用段々令増長、如是ニ而者勝手向持こたへかたき次第ニ候、就夫近年自然と弛候義者不及申、無左而も万端稠敷取縮筋いつれも心付可申候

一就中江戸表別而之事ニ候、此所随分心ヲ付些少之入用迚も令勘弁、何れも此所厚く相心得、年寄共へ銘々是等之存寄心付等厚申談、急度質素之筋可心付候、若是等之筋ニ依而年寄共之差図ニ背キ、其取縮筋不肯之勤(向脱)之者も候ハヽ、其旨ヲ承是非可申付候、江戸供幷交代ニ罷越候者共者猶又兼而此旨厚相心得、少々之義も油断無之様夫々江厳敷可申聞置候

卯九月
年寄中

一御世帯向年来御差繰御不如意ニ付、御取縮方兼而被仰付置候趣も有之、当時之御模様御借銀御差引等之次第委細帖面等御覧被遊候処、近来時勢(年)ニ連レ御物入多く、彼是其向取計方思召ニも難叶、依之此度御直筆御下ケ被遊候、御役向被相勤候面々一統油断も無之候得共、第一江戸御入用等年々相増、只今迄之通ニ而者御不安至極之御勝手向被為在候間、何れも急度此筋被心付、専御質素之思召可被相守候、此等之義ニ付其受々不肯又ハ取計難及力ニ候ハヽ、是非之御沙汰可有之候、一統御入用筋格段之御作略ヲ以御間合候様呉々も厚可被相励候、万事ニ付其受々小内之御入用御益ニ至候筋銘々心付等しらへ、拙者共へ可被申出候、追々可及示談候、此段稠敷申達候様ニと被思召候

但、本文之通ニ付上御不自由之筋随分御堪忍被遊候思召ニ候、尤此先キ幾年も同様と申ス思召ニ者無之、先年(今脱)ゟ五ヶ年程格別御手軽キ義共御試被遊度思召ニ付、是迄向々御入用高之内抜群御減少筋模様ヲ立受々存寄書可被差出候、其上ニ而入御覧ニ猶又取捨之義者追而可申達候

卯九月

兄ヲ殺害仕候者片付被仰出候事

一怒可郡大佐村百姓吉兵衛と申者兄兵七ヲ致殺害候、然ル所乱心ニ而殺候故助命之歎兵七親類・村役人共ゟ申出候、其節左之通片付被仰出候事

怒可郡大佐村百姓
吉兵衛

一
右之者乱心いたし兄兵七ヲ殺候、然共兵七悴ヲ始一類共幷役人・友百姓共迄右吉兵衛一命御助ケ被下候様ニと歎出候ニ付、右之もの者兵七悴忠七江被下置候間、いか様共存寄次第ニいたし候様可被申付候、以上

正月

怒可郡大佐村兄殺吉兵衛義片付之義、別紙之通御申付可有之候、尤別紙申達候通、吉兵衛義兵七悴忠七江被下置候上ハ、敵と存及殺害候共、又ハ囲調入置候共、其段忠七勝手次第ニいたし候様御申付可有之候

則右吟味書附令返戻候、以上

正月廿一日

〔郡奉行〕三谷源次左衛門
〔郡奉行〕鳥井九郎兵衛

〔代官〕石寺太郎兵衛様
〔代官〕米田理十郎様

右者宝暦五亥年正月廿一日ニ被仰出候由、奴可郡御代官所扣写也

附紙ニ而先年被仰出候御触写シ

一東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中、右宿々旅籠屋ハ勿論、脇往還其外之村々ニ而も宿を取候旅人煩候ハヽ、其所之役人立会、医師を懸ケ療用ヲ加へ置、其旨御料ハ御代官、私料ハ領主・地頭へ相届、五海道ハ道中奉行へも宿送ヲ以注進いたし、右旅人早速快無之趣ニ候ハヽ、其者在所之村役人江申遣、親類呼出対談之上可任存寄、療用も不加宿継・村継等ニ而送出候義頭ニおゐてハ、五海道ハ旅籠屋・問屋・年寄、其余之村々ハ宿いたし候者・村役人共ニ急度御仕置可申付候

一右之外通り懸り相煩候旅人も其所役人立会、医師ヲ懸療用ヲ加へ、勿論懐中往来手形有之哉相糺、御料ハ御代官、私領者領主・地頭江致注進、右病人早速快無之趣ニ而、〔在脱〕所へ帰度候へ共路用貯無之候間、送届呉候様申候ハヽ、書附所〔取〕、其宿寄〔最寄〕之支配之役所有之候ハヽ、訴之、其節差図ヲ受、又者支配之役所無之場所ハ其旨注進いたし置、所役人共得斗遂相談、右病人願之趣ヲ認〆相添、次村へ駕籠ニ而送、夫ゟ次之村々ニて〔も脱〕病人之様子次第服薬為致、同様取計在所へ返シ可遣候

但、旅人申立候在所江送届、万一其在所之者ニ無之候ハヽ、不取遁様其所へ留置、其筋へ可訴出候

一途中ニ而相果候ハヽ、次村へ不継送、支配之役所へ致注進、其所ニ而仮埋致置、其者之在所親類・役人江駈合、其所ニ葬候共望ニ可任、若道心者廻国之者抔、懐中ニ何国ニ而相果候共其所江葬候様本寺触頭、其在所之寺院、或ハ親類等慥成書附有之候ハヽ、支配之役所へ訴之、在所へ相届ニ不及、其所へ可取置候、勿論最初より行倒相果候節之取計も同様之事

右之通可相心得、万一療用も不加、或ハ内々ニ而継〔送脱〕ニ

おゐてハ、是亦急度御仕置可申付候
一都而右之類諸入用ハ、享保廿卯年五海道江相触候通、病人又ハ在所ゟ差出候ハ、格別、無左候ハ、宿割・村割ニ成へし
右明和八卯年大坂御番所与力中ゟ写ニ而西川〔大坂役人〕与四郎方へ為心得御見せ被申よし

郡方御吟味屋敷出来并吟味方御書附之事

一宝暦九卯年閏七月廿六日、郡御奉行鳥井九郎兵衛宅へ諸郡御代官筆頭中不残呼出、揃之上諸郡御吟味方今般別紙之通相改候様被仰出候間、則書付三通相渡候、此通以来相心得、尤当秋毛上見分出郡之節郡中へも得斗申渡置候様ニ申聞候事

郡方吟味屋敷宝暦九卯年出来、其節郡中へ被仰出候趣并郡御奉行中ゟ郡廻り・御代官江被相達候諸書附之事

一郡方公事出入吟味方、向後別紙之通相改候様被仰出、御代官中江相達候扣両通入御披見候、自今此段御心得、各〔二脱〕者兼帯御目附役筋ヲ以御吟味場所江度々御立会可有之候、尤贔屓筋ヲ以吟味片落ニ押付候体之義も有之歟、又ハ約り兼御代官之力ニ難及御見受候ハ、、其段御申聞可有之候、然ル上者見合、郡御奉行中直ニ為吟味罷出候筈ニ候事

閏七月

覚　上張紙ニ而諸郡御代官中ト有之

一郡方公事出入吟味方、向後左之通相改候様ニと被仰出候事
一郡方御吟味場所壱ケ所於御城下仕構有之候事
但、右建前・諸道具共諸郡支配銀ヲ以相調、尤向来之修覆も支配銀払之事
一公事出入有之節、右於場所ニ御代官中直吟味可有之候、尤郡廻り中壱人兼帯御目附役筋ヲ以立会被差出候事
但、右出入有之請郡之御代官其以下共不差出、手ヲ替他郡之御代官中壱人江任シ、御歩行目附しらへ添被差出候筈ニ付、人差之義ハ其時ニ至郡御奉行中ゟ度々可相達候、番組ハ銘々手附之内何れ成共勝手次

第召連レ可被罷出候事
吟味之品ニ寄郡御奉行并御勘定奉行中出席之義も可
　有之事
一出訴人有之候へ者遠近之無差別御城下へ呼出、町宿ニ
差置、此逗留往来共入用銘々自分払之事
　但、吟味之品ニ寄直ニ揚屋へ差置候義も可有之候、
　左候而も賄ひ町宿より持運ひ入用自分払之事
一村役人たり共公事之相手ニ成罷出候節ハ出飯米遣し不
申、本文之通是亦自分払之事
一科人揚屋へ被入置候ハヽ、番人之義ハ直ニ御勘定奉行
中江可被相達候、左候へ者御小人弐人ツヽ交代ニ而罷
出可申候間、作法之義宜被申付候事
一吟味之節右場所ニ而候義ハ勿論、惣而吟味ニ懸り候物
入ハヽ、公事非分ニ落候方より差出サセ、一切免割へ懸
申間敷事
　但、別而貧賤之者ニ而右之通差出候力無之者ハヽ、五
人組合又ハ忌懸り之親類・聟・舅江割賦ヲ以為差出
候事、公事無甲乙片付候節ハ右物入双方ゟ五歩〳〵
ニ差出候事
一右場所江朝五ツ半時ゟ被罷出、夕八ツ時迄吟味（可脱）被致
候、然レ共吟味之趣ニ寄手間取可申与存候節ハ、諸御
役所並之認メ町方江被仰付、代銀ハ度々御勘定奉行へ
被相達候へ者、御銀払ニ相成候事
一公事出入懸り合無之、其吟味用向ニ付呼出候村役人
者、出飯米者定之通遣し候事
一訴状差上候共、左之月々ハ農業之障りニ相成候故捨
置、農間ニ吟味有之候事
　但、至而難捨置急用ハ格別之事
　　四月　五月　八月　九月　十月　十一月
一盗賊亦者変死（博奕）、其外品ニ寄吟味方之御役人其村江不被
差出候而不叶義者只今迄之通ニ候、田畑山林公事出入
之節も、境目見分等としては是亦出郡有之候事
右之通可被相心得候、此外洩候義者時ニ取可申談候、勿
論向後吟味方相改候趣別紙頭書之通、郡中村々役人并百
姓末々迄不洩様可被申聞置候事
　　閏七月
覚　（私記脱）上張紙ニテ郡中へ申付書付と有之

一郡中公事出入吟味方、向後左之通相改候様ニと被仰出候事
一公事出入訴訟差出候者幷相手方共、遠近之無差別御城下江呼出、御吟味場ニおゐて御目代として郡廻り立会、御代官直吟味有之筈ニ候、尤品ニ寄郡御奉行幷御勘定奉行も罷出候事
　但、受郡之手ヲ替、他郡之御代官・御徒目附・番組等其時ニ至人差ヲ以吟味ニ差出候事
一右ニ付御城下へ呼出候者者町宿ニ差置キ、此逗留往来入用共銘々自分払之事
　但、吟味之趣ニ寄直ニ吟味場所ニ差留置候義も可有之、左候而も賄町宿より持運せ入用自分払之事
一村役人たり共公事之相手ニ成罷出候節ハ、出飯米遣シ不申、本文之通是亦自分払之事
一吟味之節其場所ニ而之(其)義者勿論、都而吟味ニ懸り候物入者公事非分ニ落候方ゟ差出サセ、一切免割ニ懸ケ申間敷事
　但、至而貧賤者ニ而、右之入用差出候力無之者者、五人組合又ハ忌懸り之親類・聟・舅江割賦を以為差出事(候脱)、公事無甲乙相片付候節ハ、右物入双方ゟ五歩〳〵ニ為差出候事
一公事出入懸り合無之、其吟味用向ニ付呼出候村役人者出飯米定之通遣候事
一訴状差上候共、左之月々者農業之障ニ相成候故捨置、農間ニ吟味有之候事
　但、至而難捨置急用者格別之事
　四月　五月　八月　九月　十月　十一月
一盗賊亦者変死、其外品ニ寄吟味方之御役人其村江不被差出候而不叶義者只今迄之通ニ、(候脱)田畑・山林公事出入之節も境目見分等としてハ是亦出郡有之候事
右之趣郡中村々役人幷百姓末々迄不洩様可被申聞置候事
　　閏七月

　覚　(私記脱)上張紙ニ而郡中へ申付書附之内
一無名訴状之義者、兼而被仰出候通一向御取上ケ無之義者勿論ニ候、然共只今迄ハ一応村中相しらへ、存当り無之候へ者其上ニ而火中申付来(来)候へ共、以後者其義ニも不及、直ニ焼捨候事

閏七月

郡方吟味屋敷壁書写

定

一郡中公事出入吟味之義今般思召有之、於番所(当)ニ御代官中直吟味被仰出候、尤御歩行目附壱人附属之事

但、御歩行目附計被差出候義も可有之事

一村役人共(ゟ脱)百姓共と出入吟味者受郡之手ヲ離レ(シ)、外郡御代官中人差ヲ以被差出候事

一右吟味度々郡廻り中壱人被立会、吟味之邪正被致見分、若不埒之筋於有之者、其段郡御奉行中江被申聞、其上ニ而御年寄中江可被相達候、事柄ニ寄言上も可被致候事

一至而重キ吟味有之節ハ郡御奉行中被出席候(致脱)、品ニ寄
［貼紙］「此続相しらへ候事」(御勘定奉行中も可被差出候事)

一公事出入糺明之上、非分ニ落候方ゟ其節之吟味諸入用為差出、入役払ニ為仕申間敷事

但、理非五歩／＼ニ相分り候節ハ諸入用双方ゟ半分ツヽ為差出候事

一右之外吟味屋敷作法之委細ハ、諸郡御代官中江相渡置候書面之通被相心得、吟味正道ニ取計可有之者也

宝暦九己卯年十一月

郡御奉行

諸国百姓徒党強訴御示被仰出候事

一近来関東筋百姓共心得違致徒党強訴企候趣ニ付、従公儀明和六丑春御順達ニ而被仰出有之、左之通

御順達之事

一別紙之通従公儀被仰出候、御領分百姓ケ様之心得違之筋当時ハ無之候ヘ共、従公儀被仰出候義故右御書附写相達候、自今弥以心得違無之様ニ郡中可被相触候(へ脱)、以上

四月九日

［用人］鳥井九郎兵衛
［用人並］戸田嘉藤太

諸郡御代官宛

一［老中、武元］松平右近将監殿御渡候御書付弐通相達候、順達留ゟ稲［大目付、正武］垣出羽守方へ可被相返候、以上

二月廿六日(五)

［黒田継高］松平筑前守殿奉
［鍋島重茂］松平信濃守殿同
［上杉治憲］上杉弾正大弼殿同
［松平直恒］松平千太郎殿同
［鍋島直愈］鍋嶋伊三郎殿同
［北条氏彦］北条遠江守殿同

大目附
［毛利重就］松平大膳太夫殿奉
［浅野重晟］松平安芸守殿同
［柳沢信鴻］松平美濃守殿同
［牧野忠精］牧野新次郎殿同
［九鬼隆邑］九鬼長門守殿同
右御留守居

大目附江

一諸国百姓共願之筋有之候ハヽ、名主・村役人等を以定法之通可相願義ニ候処、大勢致徒党候段不届ニ候、自今弥以右之通相心得可申候、心得違致徒党候ハヽ、可取上願たり共、理非之沙汰ニ不及無取上、其上急度仕置可申付候、右之趣兼而御料・私領百姓共江御代官・領主・地頭ゟ可相触候

二月

右之通可被相触候

大目附江

一遠国百姓共願ヲ含所々ニて寄合、手段ヲ企廻状抔出、外村之者共も趣意者不弁して不得止事罷出大勢集り、村役人之居宅(又者脱)遺恨ニ存候者共候ハヽ、家財并諸道具打損シ、吟味ニ相成候上ニ而数ケ条之願ヲ申上候類も有之候へ共、公儀ヲ軽(憚)メ、領主々々ニて申宥メ穏便ニ取鎮候義ヲ専要ニ仕候故、百姓共かさつニ相成狼藉ニ及ひ、無法之義共有之候、百姓を憐候義者勿論之事ニ候へ共、右体徒党ヲ結ひ強訴ヲ企及狼藉ニ候者共ヲ手弱取扱候而者、外場所ニ而も見習候様ニ可相成哉、以来御領所之百姓共騒立候ハヽ、最寄之領主ゟも人数ヲ出シ、私領ニて騒立候ハヽ、其領主又ハ最寄之領主ゟも人数ヲ出シ手強打散し、手ニ当り候者共ハ搦捕、願之趣ハ理非之沙汰ニ不及取上不申、他所之引合有之ハ差出、一領限りニ候ハヽ、其領主ニ而遂吟味ヲ仕置候義可被相伺候、万石以下(之知行脱)所騒立候節も同様ニ可被相触(心得)候、

以上

二月

右之通万石以上之面々へ可被相触候、万石以下ニ而も知行所百姓騒立候ハヽ、右ニ准し、最寄之領主へ早々駈合申

合可被取計与可被相触候

丑二月廿六日大御目附中ゟ之御廻達并御書附写弐通、上杉弾正大弼様方ゟ順達ニ而到来、此御方様留ニて御使者ヲ以稲垣出羽守殿〔大目付、正武〕へ御返却被成候写シ

郡中賄一汁一菜ニ相改候事

一郡中賄一汁一菜ニ可仕旨宝暦九卯正月御仕向有之候得共、却而〆り不宜可有之趣、郡廻中存寄之趣郡御奉行中・御勘定奉行中熟談之上、宝暦十一年巳七月郡御奉行中・御勘定奉行中ゟ左之通書附郡廻り中へ被相渡、夫ゟ御代官中へ達シ有之、巳七月ゟ一汁一菜ニ相改候趣左之通

於郡中ニ郡方御役人其外伝馬・旅籠等賄方、以来別紙之通相成候間、此段下方江被申付候様ニ御代官中へ御申談可有之候、勿論此義追々被申聞候趣ニ付、先達而御内談ニも及ひ候通ニ候へ共、上下差別無之方却而〆り之為メ宜候旨、依之右之通申談候間不及申候得共、定之外足銀仕、或者賄方ゆるみ候取計等仕候ハヽ、御代官中無念之筋ニも相成間敷事ニも無之候間、別而被入力手強相示し被申候様厚御申談可有之候、尤下方江御申付方之義別紙両通存寄無之候、何分以来心得違無之よふ御取計可有之候、以上

七月　私曰、宝暦十一年巳七月改ル　　郡御奉行
　　　　　　　　　　　　　　　　　　御勘定奉行

諸郡賄方申附之覚

一（郡方御役人／宗旨御奉行）

一泊所朝夕弐賄、郡割足銀壱匁三分、一賄ニ付六分、湯代五厘宛（付紙ニ而、外ニ飯米代只今之通御銀渡り之事）

一汁一菜所有合之野菜類一品ヲ用ひ可申事

一賄〔泊〕内夫郡夫立

但（人数三人迄内夫壱人／同四人ゟ五人迄同弐人）　昼所ハ五歩立ニ成／同断壱人立ニ成

一昼賄壱人弐分五厘宛　郡割、内夫無之

但、昼休内夫無之候而ハ宿主迷惑仕候よし、押置候而ハ実ニ不相当ニ付、泊所内夫定数半減ニ候郡概夫ニ被聞届致〔度〕旨、諸郡御代官ゟ郡廻りへ存寄書出、御勘定奉行熟談之上、安永五申八月三日存寄之通可被聞届旨、郡廻りゟ御代官へ申談順達書相極ル

一上分壱人泊り壱匁御銀出
一壱賄(泊り)内夫郡夫立(但脱)壱人ゟ三人迄内夫壱人　昼ハ五歩
　　　　　　　　　四人ゟ五人迄同　弐人　同　壱人
一昼賄白米弐合五勺代、湯代五厘御銀出、内夫無之内夫之義
〆印但書ニ、御小人賄只今之通ニ候、以上
同断相改
　七月　謙云、〆印相見へ不申、如何

右之通郡御奉行中ゟ郡廻り中江申来、依之諸郡御代官中江尚又申談有之、示談之上左之通郡中御代官中(へ脱)ゟ被相触書面左之通

郡中賄方之義別紙之通相極候間、此段下方へ御申付可被成候、(此儀脱)全近年御約之筋ニ而差宥ミ候義ニ者無之、右賄方之義全所有合之品ヲ以入用代銀不足不致候様ニ取計候事肝要ニ候、万一下方以来心得違不正之筋相聞候ハヽ、急度御吟味ニ被仰付候、其外万事入用減少之義までも心ヲ付、費之義無之様可仕旨被仰付様(候脱)ニと存候、以上

　七月
　　　　[郡廻り]河瀬弥右衛門
　　　　[郡廻り]山田甚五郎
　　　　[郡廻り]石寺太郎兵衛

別紙之通、郡方賄之義郡廻り中ゟ被申聞候間、以来左之通可相心得もの也

郡方賄方之覚

一（郡方御役人
　　宗旨御奉行
一泊所朝夕弐賄、郡割足銀壱匁三分、但（一賄ニ付六分
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　湯代五厘
一汁一菜、所有合之品野菜類一品ヲ用可申事
一壱泊内夫郡夫立、但人数三人迄壱人
　　　　　　　　　　同四人ゟ五人迄同弐人

右之通郡方御役人賄上下差別なく一汁一菜、所有合之野菜類其一品ヲ用ひ可申候、菜たり共数々取合料理ケ間敷義曽而致間敷(候脱)、近年何となく費ケ間敷義も有之、超過之筋有之、無菜申付置候得共此度ゟ郡中賄方定之通一汁一菜、野菜類一品ヲ用ひ可申候、自分共家来迄も此段堅ク申付置候間、無作法之義も有之候ハヽ、無用捨自分共迄可申出候、宿主之者共義も此度聞届遣候郡割足銀ヲ以賄方相調、少シも村方ゟ足銀等致間敷候、ケ様ニ申付候上万一内割等之義於有之ニ者、相顕次第急度越度可申付候条、此段心得違無之様取計可申もの

也
但、近来之趣自分共於泊所組頭・年行司・長百姓等御用有之、罷出候近村之役人共迄認メ致、右入用自分共賄方入用一緒ニ帖面へ附籠メ居候趣風聞有之候、以来ニおゐて者右郡割足銀ヲ以如何体ニ成共麁飯・麁菜之義者不苦候間、外足銀一切仕間敷、宿主之者引受取計候様可致候、御用有之組頭共初メ泊所ニ相詰候者共出飯米・塩噌代等村格之通別段ニ立遣し、賄方ニ混不申様ニ可心得候、若又流合ニ致置紛ケ間敷（紛敷）有之ニおゐてハ急度吟味可及もの也

伝馬・旅籠之覚

一上分壱人泊、朝夕弐賄壱匁弐分御銀出
　但、一汁一菜、所有合之一品ヲ用ひ候事
一下分壱人泊、同壱匁御銀出
一内夫人数三人迄内壱人（夫脱）　郡夫立
　同四人ゟ五人迄同弐人
一昼所（賄）只今迄之通御銀出、但米代白（米脱）弐合五勺、内夫無之
　湯代五厘
右伝馬・旅籠此度上下共一賄ニ付壱匁（分）ツヽ、増銀御銀出

ニ相成、足銀曽而不致様ニ取計可申者也
七月　御代官
割庄屋
村々庄屋
組頭

郡方御歩行目附へ郡御奉行ゟ被相達候書附（写脱）
〔但、安永三午正月十七日、郡御奉行中ゟ郡廻り中へ為心得被相達候由、添紙面ニ而来ル
上書ニ、郡方御歩行目附へ相達し候紙面写し
一郡中重キ吟味者有之節者、各被罷出しらへ相約り候上ニ而委細御代官中へ被申出候へ者、咎筋之儀者御代官中ゟ存寄ニ書（存寄書）被差出、拙者共判断ヲ以被相片付候儀勿論ニ候、然ル処近来吟味約り候当座各ゟ直ニ咎之形合被取計候輩も有之候、是者其節之振合ニ依而不図心得違与相見へ候間、已来右体之義者用捨可有之候、尤吟味柄ニ寄〆り筋ニ付番人付又ハ手錠等之儀者只今迄之通り取計可有之候事
正月

一郡方ニ而万御吟味者入用・片付入用等出方分り法則之事

郡中公事出入其外御吟味物(者)有之節諸入用出方分り郡々仕来区々ニ付、安永二巳秋ゟ御勘定奉行中へ郡廻中ゟ段々示談之上法則相立、小帖相調、郡御奉行中江郡廻ゟ改示談之所、存寄無之由ニて諸郡御代官中へ小帖写し候而、郡御奉行中ゟ直ニ被相達候旨、翌午正月廿日郡御奉行中ゟ郡廻中へ申来ル、小帖添書共戻ル、右之趣ニ付法則治定いたし候段、午正月末御勘定奉行江も猶亦郡廻中ゟ申談有之相定候事、

右法則小帖左之通

覚

一公事出入吟味諸入用非分ニ落候方ゟ為差出候、尤公事無甲乙相片付候ハヽ、双方ゟ五歩々々ニ為差出候事

小内　但、宝暦九年相極候通

一公事出入ニ付最初村役人共内しらへ仕候内(節)、諸入用一円ニ非分之方より出サセ候事

一公事出入居村・他村亦者広嶋ニ而御吟味之節、右用向相勤候長百姓・筆者・小走出飯米并昼飯入用夫方・飛脚賃銀御吟味者之内、若出奔者等有之候ハヽ、追而(手)之者賃銀其外(吟味ニ付脱)入用之諸品代郡而非分之者ゟ出せ候事

但、御吟味中片付迄右之通りニ候事

一公事出入(本人脱)并懸り合之者御吟味ニ付広島へ呼出し逗留中并居村他村呼出し御吟味之節、宿賃賄・諸入用共自分払之事

一非分之者素り至而貧窮ニ而、諸入用差出し候業難叶共、しらへ之上可成丈ケハ随分本人并親類・組合之者へ割賦、其余業不叶分村割

但、宝暦九卯年定之通り

付り、吟味懸り合人数多、しらへ隙取数ケ月懸り、凡年ヲモ越片附相済候類も有之、諸入用大銀ニ相成、小高之村抔者村割之業難叶分も候ハヽ、右入用之内申談之上ニ而郡割ニも相成可申候、是ハ其節之趣ヲ以相極り候事

一公事出入為吟味出浮之御役人、於郡中逗留中賄足銀夫方等平用之通ニ候事

一公事出入御吟味用向相勤候割庄屋出飯米平用之通郡

割、他村出役人出飯米平用之通公事出〔人〕入居村割、公事人居村之役人懸り合無之、御吟味用向相勤候分者、出飯米幷昼飯平用之通村割

但、公事人居村之役人懸り合有之、御吟味ニ付広嶋幷他村へ呼出し候分者宿賃・賄代等自分払之事

一公事出入吟味之節於郡中警固革田賃米、広嶋へ本人懸り合之者等呼出しニ付罷出候節、途中警固革田雇ひ賃米村割

一本人幷懸り合之者へ付置候番人、可成尺ヶハ五人組之者役目ニ相勤せ可申候、若人数多組合之者ニ而手届不申候ハヽ、外ゟ番為仕、此番人者村夫ニ立可申候

但、広嶋幷他村へ付添罷出候番人之儀者、五人組合之者ニ而も村夫立承届可申事

一公事出入非分之本人・妻子共追放相片付、家財・田畠・山林持来り之品闕所ニ相片付、未進有之候ハヽ、右闕所銀之内ヲ以未進ニ相当候銀高引去、残分闕所銀ニ相成、右闕所ニ而未進方不足之時者村割、尚又〔吟味中脱〕諸入用銀者本人之親類共幷非分懸り合之者共有之候ハヽ、右之者共ゟ可成尺ヶ為出、相残分村割之事

但、吟味中諸入用、本人之親類共幷懸り合非分之者無之候ハヽ、村割

一公事出入非分之者幷懸り合之内本人計り追放ニ相片付、所持之家財・田畠・山林等妻子へ被下候分、未進ハ勿論吟味中諸入用迄も妻子ゟ出せ、尤右入用弁出候業難叶候得者、所持之田畠・山林ヲ以相片付、其上致不足候ハヽ、親類共・五人組合ゟ償せ、尚不足致候ハヽ、村割ニ可成事

但、右之通ニ候得者〔共〕、償銀未進程ならでハ無之候得者、吟味中諸入用村割

一吟味中幷片付迄者間々隙取、極貧之者者給物差支、妻子等迄村方ゟ給物遣し候類間々有之、村ニ寄過分之取計仕区々ニ付、左之通已来相極候事

男壱人　一日黒米四合

女壱人　一日黒米三合

但、三歳已下ヲ除

右之員数ゟ内端ニ而是迄相済候村方ハヽ、大麦等ニ而済来候分者只今迄之通り

右咎〆片付諸入用出方之事

一手錠追込等者格別之入用者無之候得共、其節之趣ニ寄

り番人付置候儀も有之候ハヽ、随分五人組之者ゟ番為
致可申事

牢舎入用出方左之通

一入牢之者ニ付添牢屋抱之村迄罷越候村役人・長百姓等
出飯米村割
　但、郡内出・他郡出定之通り
一右之節罷出候革田幷牢屋掃除革田賃米村割
頭革田壱人米弐升、小頭同壱人米壱升五合、下革田
壱人米壱升
　但、人数明和三年定之通り
一科人在牢中番革田賃米村割
　但、此賃米昼夜壱人前（米）弐升ツヽ
一科人在牢中扶持米村割
　但、男壱人一日黒米四合、女壱人一日黒米三合
　明和三戌年定之通、尤三歳已下小児除ク
一湯沸・食炊薪代、塩噌代村割
　但、科人壱人一日弐分五厘ツヽ、明和三戌年定之通
り

一在牢之科人煩之節薬代村割
一牢屋番所灯油代郡割　但、一夜五勺宛
一科人牢屋ニ而着替入用親類割、尤親類無之類又者極貧
ニ而業難叶分村割
　但、綿入・袷・帷子
一牢屋ニ而科人椀・釜・田子・柄杓、其外牢屋付之道具
損仕替代郡割
　但、去ル戌年定之通り、損仕替之儀牢屋抱村々役人
　相しらへ代銀相約、書附ヲ以申出候事

追放入用出方分左之通

一追放者為見届他御領境迄罷越候村役人・長百姓共出飯
米定之通村割
一右同断附添革田賃米村割
　但、壱人賃米一日一夜分弐升宛
一科人途中扶持米村割
　但米（五合男 四合女）（御追放者途中飯米・諸入用共 一昼夜分、泊候へ者木銭村割）
右之外足銀等一切不相成候事
死罪入用支配銀払捨幷郡村割

但、小内之儀奥ニ書記有之

（御法度相背、其外上ゟ御吟味有之、御吟味者諸入用
出方之事）

一割庄屋并他村役人御吟味用向相勤候分出飯米、定之員(通脱)
数郡割

一御吟味者居村之役人并長百姓・筆者出飯米并昼飯・夫
方共村割

一御吟味中諸入用支配銀払
但、筆・墨・紙・灯油・湯沸薪代、警固革田賃米ニ
当る

一番人賃米（半方郡割 半方村割）

一本人并妻子御吟味中給物差問候ハヽ、村割、員数前段之
通

一入牢之節牢屋迄付添之村役人・長百姓出飯米村割
但、其趣ニ寄右之外割庄屋・他村役人・長百姓附添
申付候義も有之、左候へ者此分出飯米郡割

一右之節附添并立会革田賃米郡割

一広嶋へ呼出し御吟味之節、附添罷出候村役人等出飯(米脱)出
方前段之ケ条々々ニ准候事

一入牢ゟ出牢迄之諸入用都而支配銀払捨
但、科人在牢中扶持米、番革田賃米、湯沸・食焚(炊)(薪)并
塩・味噌代、科人煩候節ハ薬代并着替（わたいれ あわせ かたひら）代ニ
当ル

一追放之節為見届他御領堺迄付添罷出候村役人出飯米村
割

一右之節付添之革田賃米支配銀払

一死罪入用支配銀払并郡村割

盗賊召捕之節諸入用出方之事

一召捕入牢迄番革田賃米并広嶋吟味屋鋪へ召連候途中警
固革田賃米郡割　但、往来共

一盗賊召捕、其村之役人共御代官所へ注進罷出、盗賊広
嶋吟味屋鋪ニ而御吟味有之、附添之村役人・長百姓夫
方ニ至迄広嶋逗留中、往来之出飯米郡割
但、村方ニ而御吟味之節村役人・長百姓昼飯代郡
割、手遣夫其外入用之夫方郡夫立

一召捕牢舎迄之間盗賊扶持米郡割

但、他国者ニ候得者支配銀払

一召捕於郡中先入牢ニ相成、其後広嶋へ呼出し、御吟味ニ付広嶋差留置候へ者、其間盗賊扶持米并番革田賃米共支配銀払

盗賊牢舎入用左之通

一召捕候所ゟ牢屋迄付添之村役人・長百姓等出飯米郡割、夫方郡夫立

一右之節附添、牢屋掃除入用ニ付罷出候頭革田等賃(米脱)郡割

一入牢ゟ出牢迄之諸入用都而支〔ママ〕支配銀払

但、盗賊在牢中扶持米、番革田賃(米脱)、湯沸・食炊薪塩代、燈油、盗賊煩候節薬代、着替（わた入 あわせ かたひら）代ニ当ル

一追放之節附添之村役人・長百姓等出飯米郡割之事

一盗賊追放之節途中扶持米、附添之革田賃米共支配銀払

一(死罪)支配諸入用支配銀払并郡割

但、小内奥ニ書記し有之

追放帰り者入用出方之事

一追放者立帰り於広嶋直訴仕候節、当座之しらへ先居村へ差戻し途中共諸入用支配銀払

但、広嶋ゟ直ニ他御領(境脱)へ追放ニ候へ者、此入用出方本文之通り

一立帰り者先居村へ差戻候而不及吟味、直ニ追放ニ候へ者(村ニ脱)引渡、他御領堺へ追放候入用〔迄之入用〕迄之入用者先居村割

但、懸り合之儀致出来御吟味ニ付数日其村ニ差置候得者、其間之入用者其趣ニ寄出方相極可申(候脱)事

死罪入用出方之事

一獄門磔札木鉄物等、科人乗せ候馬并鞍道具類代四拾三匁

但、(此脱)員数ゟ内ニ而済来候郡村者只今迄之通

一御仕置場仕構革田賃米

但、一日壱人弐升宛

一御仕置当日牢屋ゟ居村江引渡し、御仕置相済候迄警固何角取計候革田・太刀取・人押共都合弐拾人

但、賃米壱人一日弐升宛

方角ニ寄革田居不申、遠方ゟ呼出し候義も候ハヽ、

人数弐拾人ニ限り申間敷ニ付内端ニ而も相済可申候
一太刀取脇差研代拾五匁
　但、火罪ニ候へ者薪代
一獄門磔番革田賃米
　但、日数三日昼夜弐人宛、壱人一昼夜米壱升五合宛
　右支配銀払
一検使腰掛ケ
一科人乗候馬口附之者郡夫立
一竹・莚・菰・縄
一田子・ひしやく
一科人目隠布
右代銀郡割
　但、右之外ニも御仕置場入用之品も有之候得者代銀
　郡割
一御仕置之節用向ニ付罷出候科人、居村之役人出飯米村
割、他村役人又者割庄屋共右用向ニ付罷出候得者出飯
米郡割
一盗賊死罪之節罷出候村役人等出飯米郡割
右之通公事出入幷御法度相背候者死罪、付り盗賊死罪共
入用出方いつれも同様之事

以上

追加

一工事出入幷盗賊牢舎・追放入用之儀者近来(年)定数申付置
候処、郡村ニ寄定数ヲ越過分之取計仕候方角も有之候
間、定数ヲ以急度取計可申候、此已後右之通取計有之
候ハヽ、役人とも心得違ニ付定数ゟ増候分者役人とも
償申付候事
　付り、吟味中諸入用者其時之趣ニ寄臨時取計候義故
　定数不申付候、是又役人共別而力ヲ入、過分之儀無
　之様取計可申、已来若至而不都合之義有之ニおゐて
　ハ、本文之通(趣)ニ准シ役人とも償ニ可申付候事
右之通郡中へ被触置可然事

以上

※⑤
安永三年午二月郡御奉行中ゟ御代官中へ出し候書
附写、諸御役所御定銀等取約(縮)筋之事

一御勝手向御差配年々臨時御物入多御手支も有之ニ付、近来(年)御世帯向御差繰等者何れも内々承知之通至而御難渋之所、去々年已来江戸向御入用甚差湊ひ、既ニ去暮ニ至江戸御銀出弥増相重、其上御他借も段々相増候而者、第一御公務ヲ始御国中御撫育及御支ニ可申哉与、是而已別而御苦労思召候、依之当御参府中稠敷万事御手詰御欠成ニ御間合せ、御入用減少候様ニとの義、此度御供之輩ニ厚御手詰筋被仰付、(候脱)右ニ付猶(於)此元ニも今年別而其諸向ニ力ヲ入相勤候様尚又可申談旨被仰付候、当暮之御差引甚御難渋ニ相見へ候間、弥以是等之筋厚ク相考、諸事心付候趣者一々書面ヲ以可被申聞候、此等之示し方呉々得斗可被申談旨被仰付候、夫ニ付諸向御定銀其外御銀受払有之面(向)々ハ一段其趣勘弁之上精勤可有之候、今年右之振合ニ付都而御銀出之筋一円容易ニ聞届難相成、此段向々厚可申示旨も被仰付候、右之趣ニ付諸向定銀も約寄も減渡候事も可有之候間、御定銀其(之)(其)外之御役所ニ而貯銀有之方角者右之振合ニ付、先今年定銀受取方等之儀成丈ケ減し、其余足銀者其御役所向貯銀又者残銀等ヲ以先今年者被取替、御間(二)ヲ合候様ニも相成候方角者其筋ヲモ考合、尚又しらへ書附ニ而可被申聞候事

但、上(定)銀高之外貯銀・残銀等も無之受方者、定銀減渡候而者差支も有之候間、此上者いか様共御取縮之筋下方迄も尚亦厚心懸申出候様可被示合候、其上ニ而定銀之渡方取捨可申談候

午二月

一別紙書附御年寄中被相渡候間入御披見候、依之諸郡御(諸)普請之儀も今年ハ可成尺差延被置、御銀出等減候様取計度候、其内被捨置候而者田畠損亡又者人命ニも懸り候程之場所者格別、左も無之方角者一体被延置、其外郡中寺社御繕ひ等之儀者右ニ准御取計可有之候、此段申達候、已上

二月十四日

〔郡奉行〕湯川十郎次

〔郡奉行〕鳥井九郎兵衛

御代官中宛　順達

※⑥

御国境村々往還筋番所壁書之事

（覚）

一公儀御荷物通申刻者行懸候人馬ヲ片寄、御荷物障無之様ニ可仕事

一御大名衆并御直参御通之刻掃除等申附、暫時人馬ヲ押置、尤慇懃ニ下座可仕事

一行疲候旅人并病人等罷通候刻養育仕置、其段所之役人共へ可申聞候事

　附り、往来之旅人変タル取沙汰仕候ハヽ、可申出候事

一手負又ハ乱心者通候ハヽ、留置、早速所之役人共へ可申出候事

一疑敷相見候者罷通候ハヽ、住所并何方へ如何様之義ニ而罷通候哉委細相尋、其旨所之役人江可申出候事

　附り、何事ニよらす非分之義有之候ハヽ、可申出候事

以上

寛永元年

十二月　　郡御奉行中
　　　　　両人之名

※⑦

岡本大蔵貞喬殿頭書之内有り

古人物語之内抜書、国政心持并公武知行貫積、郡方支配心得之事

一政は何程宜事といへとも、新成事は急に行ひかたし、素り悪敷事ハ勿論也、とかく古語の捨らさるよふにするを元とす

一科人を拷問し白状せさる時、此方より事品を作り、なき悪事を言かけおとさんとする、有間鋪事なり

一罪人を殺すハ其者にくきあらず、是を正して後のいましめにすることなり、故に人の一命をたつは至而重き事なり、幾重にも吟味すべし、其時々に科品を極る時は、たとへハ去年何方ニて親を殺シたるものを討首に行ひ、今年かしこにて小盗したるものを獄門に行ふといふかことく、違ふことあり、然ハ兼而其科を極おき、古今一やうにて其時々の奉行頭人の心任にならさるやうに兼而格式定置可然、昔の出頭人は君之方ゟ心に叶、今の出頭人は此方よりこしらへて心に叶ふゆへ

長久ならす

一或人庭の木を風入悪敷とてきらせしに、左の枝きれ右の枝きれと一二三ときらせしに、思ひの外木ふり悪敷なり、杭木のことくなりし故、終には根から切りて除し、初めのにておけばよきに、再三に及ふと根葉もなき事に成りぬ、余の事ニ付此心持あるへき事なり

一田舎に親をたゝきたる者あり、此科により其ものをいましめしに、其者の云へるハ、人の親たゝきたらばこそ科にならめ、我か親叩たるハいましめにあふましき事(と)をいひしに、奉行涙を流し、斯迄愚なるハ教さる奉行の過ちなりとて、大に恥とせしよし

一国の基ハ田地にあり、四民も是より各始れり、執政の役人は別而田道の事を心を懸へき事なり

一何程宜事にても時節至さる時ハ成就しかたし、物毎時勢をはかる事又肝要なり

一古人のいへるハ、人数者国の高ほと有物なりとそ、然共土地により少しの違ひハあり、凡五拾万石の所ニ者人数五十万有ものなり

一国を治る益ハ饑饉の備にあるへし、朱子の社倉なと見へ(て)てよく〳〵考べし

一知行百貫とハ千石の事ならん、四百石は四拾貫文、知行千石ハ永楽大道の時節弐拾五匁ニして、五ツ物成、銀弐貫百目也、此積りに弐拾五貫目石五拾目ニしてなり、百貫文百両ニ当る、永楽壱貫文小判壱両宛なり、但六拾目替、右者祖父抔ニて如此四ツ物成ニして、元米百五拾石ニ成ル、是ハ小判六拾目ニシテ積れハ百両なり、考へし

一昔公家方へ出る知行何百戸、又何百束と唱へ、戸ハ一戸トいへハ三間ニて三石米也、一束といへハ田植る一束ニて十束を一束と云、一束五合也、十束ヲ壱束といふて五升なり、是ヲ以何千戸何百束といふ、近来亦武家知行に何貫と申ハ十貫百石の積ならん、三次郡に四拾貫村といふ所の名あり、此村高四百石有よし、然れハ右之積ならん、或職原者いへるよし

一所に依て定免とて極置(所脱)あり、然れ共仕馴さる処ハケ様之事急に改かたし、別て郡村事ハ新格すへからすと云ふ

※⑧

安永七戌正月被仰出御咎者片付方隙取不申様可仕
旨御書付之事

一都而諸吟味諸しらへ之義、無故毎事数日及渋滞、御下知手後レニ相成候義も有之、諸吟味者尚更無罪之者迄、依之令難義候事共御不仁之事ニ思召候、此後者要役之者共急度無怠取計、故有而隙取候義者其段兼而申上候様仰出候事

一別紙之通被仰出候条、此旨得斗承知有之、吟味しらへ并片付等之義遅滞無之様ニ可被取計義者勿論、都而御役人向之取計手戻り或者延引ニ依而、下方之費迷惑筋等無之様厚力ヲ入可被取計候、尤小内之義者御手付之者へも篤斗可被申談義勿論之事と存候、此段申達候、以上

正月廿日　　郡御奉行

諸郡
御代官中宛

※⑨

安永七戌年ゟ御代官所取計左之通被申合候由

覚

一諸品銀并差紙類御代官所ニ有之分、帖面夫々銀辻ヲ記し、銀出入之節見届印形いたし候事

一月番送之節銀差紙等ヲ相改、〆り之所へ送方印形いたし、請方ニ而御役所出勤之上相改置候事

一月番送り之節根物銀箱等書役之もの致宰領、手付之者壱人跡慕ひ見送参候事

一根物銀箱等手付封印見届致印形候事

一根物銀箱明ケ候義、留守之節ハ大概ハ明ケ不申、差懸候義ニ而明ケ不申而不相済節者、根物有所迄手附参家来ニ為出明ケ可申事

一鍵箱封印仕候事

一手附之面々印鑑取置候事

右之通此度相改可申事

御鉄方抱之物変死之節取計方之事

一安政（永）元辰十月奴可郡始終村中原御鑪所山子文助妻山所

ニ而縊死いたし候処、御鉄方ゟ大谷庄蔵罷越、村内懸り合者無之哉否哉之義村役人申談相しらへ書附候由、葬之差図もいたし候由相聞、御代官所之形も難立如何哉ニ、(付脱)手附差出相しらへ可申哉と御代官中ゟ郡廻りへ被申出、郡御奉行中江示談之上其取計有之候処、村方ゟ申出候通御鉄方ゟ何角片付等迄申付候由、尤御鉄方抱之者故右之趣ニハ候へ共、形方聢与無之候ニ付、以来之義御勘定奉行中ゟ御鉄方へ申談有之候間、此趣御代官中へ申談、近村々へも可被申付候様翌巳四月七日御奉行中ゟ〔郡廻り〕添田伝左衛門へ申来候ニ付、奴可・三上御代官中江其通申談候事

御勘定所ゟ御鉄方へ申談書附写

覚

一御鉄方抱山子類、若村方ニ而変死又ハ異変之義も有之節者、早速其村々ゟ御代官所へ注進申出、郡方しらへ有之、懸り合之義も無之候ハヽ、御鉄方江可被相渡候事

右之通候得者、郡方しらへ約り迄之内者右死骸等番人も郡方ゟ被差出候事

一御鉄方ニも御鉄方懸り之者たり共、御鉄方ヲ離村方ニ而変死等之節者、先しらへ方御人差出不申、郡方しらへ相約引渡有之候ハヽ、其節相しらべ請取、例之趣ヲ以此方江可申出候事

一御場所内ニ而之義ニ候とも変死之者有之候ハヽ、(相脱)しらへ、早速右之趣御勘定所江可申出事、其上ニ而片付之義ハ其時之模様ヲ以此方ゟ申談差図可申事、以上

巳四月

※⑩

文久三亥季夏写之終

黒瀬庄 平賀氏

※①

芸州玖波ゟ長崎迄之道法

玖波(芸州)ゟ関戸江三里　関戸より玖可江四里　玖可より高森(萩)迄半里　高森より鳴垣まて三里　鳴垣より久保市迄壱里半　久保市より花固(岡)(萩)迄壱里半　花固(岡)ゟ徳山(徳山領)迄弐里　徳山ゟ福川まで弐里半　福川ゟ宮市(萩)迄四里半　宮市ゟ小部(郡)迄四里半　小部(郡)ゟ船木(長府領)迄五里　船木ゟ吉田迄四里　吉田より下之関迄五里　小倉渡り七里　黒崎江弐里七丁　小尾世江弐里八丁　飯場三里二十五丁　内野江弐里半　山家江三里三拾丁　宰府江壱里六丁　二日市江半里　雲母江壱里七丁　田代江壱里半　トヾロキ江弐十五丁　中原江壱里五丁　神崎江一リ弐拾四丁　境原江壱里四丁　御賀江壱里四丁　牛津江一里弐拾四丁　小田江一リ弐十丁　成瀬へ壱里二十七丁　境田江一リ半　嬉野へ弐里十四丁　侍坪へ四リ半　松原へ三里半　大村江弐里　米畠江弐里廿五丁　矢上江三里三十丁　日見へ壱里半　長崎へ三里三拾三丁

〆百三里拾五丁（内七里船渡し／九十六里十五丁陸路）

萩江順路

宮市ゟ山口江四里　但、御船入三田尻江宮市ゟ一里海辺入込　山口ゟ笹幷(並)へ三里　笹幷(並)ゟ明木江弐里　明木ゟ萩へ二里

※②

打続き候故ニ而も可有之候得共、必戻りガタキト申事ニも有之間敷歟、縦急ニ不上候共御仕向ニ寄り此上不下様ニ可相成候哉ニ候得共、其筋御力可被入儀候、御納所方之儀収納割最初より村方出来之作物不取散様御吟味有之、取立手延ニ不相成様御取計候者、高利之借物致候義ニ不及、尤入役等之吟味此已後委敷御しらへも有之、此等も減候ハヽ、自然与村方甘ミ可申候、御免も其儘居へ被置候様成間敷事ニ而も無之、其内又年柄も宜候ハヽ、必以少々ツヽ者上り候様ニ可相成儀ニ候、右入役之御吟味委敷相成、物入も減候ハヽ、御免者急ニ不上候共百姓共思ひ入茂能ク、追々風俗宜方ニ移候ハヽ、虚実も分り安く相成、御取計も容易相成り根元ニも可有之哉、旁以早稲・中晩田之有物其村々ニ早々御取立、無用之入役無之様ニ別而御力可被入儀肝要ニ存

候事

一番組共所務下分り之儀、当時茂分者有之由ニ相聞候へ共、已前之趣トハ違ひ下分ケ之唱計ニ而取立ハ打込ニ相成候様ニ相聞、其通ニ而者銘々励も有之間敷儀、番組大勢居申候而も功者成ルもの一両人へ相片付、却而少人数も同前之事ニ可有之候、此後者前々より申談候儀ニ候得共、猶亦自今ハ右之

※③

右者先代ゟ船持共役仕候、先代者船入用次第遣ひ被申候由、左様ニ而ハ船之大小ニ寄り役筋之儀甲乙有之、迷惑仕候由、船主共願ニ付帆数ニ応し床銀被召上、当船御用之節ハ夫々運賃銀被遣御借被成候、依之只今者船持共勝手能御座候、年帆壱反ニ付壱匁ツヽ運上被召上

一炭薪船運上之事

※④

一御家中江被仰出候御書付両通之外左之趣郡御奉行中ゟ添書ニ而郡中へ被仰出候事

※⑤

一御法度相背、上より御吟味被仰付候諸入用出方分リ法則追加

安永四年未八月相極ル

此帖面追加之儀、去午冬已来郡御奉行中・御勘定奉行中示談之上相決、郡方御代官中へも郡廻中ゟ相達置可申、郡御奉行中被申聞候ニ付、当未八月十二日地方郡廻連名ニ而諸郡御代官中江順達ヲ以相達置候事

安永四未年八月

一安永二巳霜月三上郡川西村・高村境川筋ニ男之死骸莚包ニシテ捨有之、当分何者共難相知レ候ニ付、村役人共両村相しらへ候内、川西村四郎兵衛欠落仕候故、召捕御吟味之上、此者村内兵三郎与申者ヲ致殺害候段相顕、御仕置被仰付諸入用

高村割

一裸莚包男之死骸高村川筋ニ有之候ニ付同村庄屋勿論、

割庄屋へ申出ニ罷越候高村与頭出飯米三升、昼夜故人
足壱人召連、此賃米壱升五合、其節入用蠟燭代共

高村割
一右死骸川中ゟ引揚候革田三人賃米、壱人ニ付壱升宛

銘々居村割
一下しらへ仕候内、川西村四郎兵衛欠落仕候故、高・川
西両村ゟ長百姓共・革田共村内山々尋サセ候賃米
　但、銘々居村割
　但、一日ニ付（長百姓壱人ニ付壱升五合ツ、
　　　　　　　革田壱人ニ付壱升ツ、

両村割
一右下しらへ之節割庄屋元江飛脚賃
　但、一日壱人壱升五合、夜通之分ハ弐升ツ、

右同断
一右川筋殺害場所抔疑敷儀者無之哉与為見廻与平百姓弐
人遣ス賃米、一日壱人ニ付壱升ツ、

右同断
一下しらへニ付両村役人・長百姓・下走共終日相詰候節
賄米、壱人ニ付米六合、銭二分宛
　但、半日詰候節者米三合、木銭二分ツ、、銘々居村
　割

右同断
一右之節手遣夫弐人賃、壱人ニ付一日米壱升宛

川西村割
一右死骸川西村兵三郎与相見候故、猶為改与同人五人組
之者ハ早朝ゟ呼出候故、粥給サセ候入用、壱人ニ付米
弐合ツ、

右同断
一同死骸置所番人小屋掛ケ候入用竹木莚菰縄代、右調夫
賃并番所湯沸鍋損料、水桶・薪代、右品々取寄夫賃米共

右同断
一死骸入物用板釘并調候手間代、夜中故松明代、板釘取
寄夫賃とも

右同断
一同番人入用
　但（一昼夜ニ而（百姓弐人　但壱人ニ付米弐升宛
　　　　　　　　革田弐人　但壱人ニ付壱升五合ツ、
　　右番所入用薪代并取寄夫賃、同所呑水桶代、湯沸
　　鍋損料、杓椀共

右同断
一死骸川西村兵三郎ニ相決シ、右弾ヘ用向ニ付郡内他郡
江も差遣し候飛脚賃并同人親類呼寄候夫賃、夜中松明
代とも
　但（飛脚昼夜壱人ニ付　銀弐匁五分ゟ米弐升五合迄
　　　尤他郡他村道程次第
　　夫賃右同断　米弐升五合ゟ壱升五合迄
　　　尤右同断

罷出候親類自分払并外親類割
一兵三郎親類他郡ゟ罷越弾ヘ相済罷帰候、夜中故賃米、
壱人ニ付米壱升五合ツ、

一川西村割 四郎兵衛欠落ニ付他郡迄尋遣ス百姓并革田賃、一日壱
人ニ付弐匁ツ、
一右同断 兵三郎・四郎兵衛五人組江付置候番革田賃米、一昼夜
一人ニ付米壱升五合ツ、
一右同断 同断五人組之内至而貧窮ニ而給物無之者へ遣ス、一日
米四合ツ、
一郡割 割庄屋出飯米・人足賃共
一両村割 両村庄屋郡元へ呼出ニ付罷出候出飯米
是ゟ御役人被差出御吟味ニ付諸入用之事
一支配銀払 御吟味場入用、紙・筆・墨・灯油・蠟燭代共
一川西村割 同断雇ひ筆者賃、一昼夜一人弐升ツ、
一同断 同断手遣夫賃、一昼夜壱人壱匁宛
一郡割 右同断割庄屋・他村役人共飯米
一川西村割 同断川西村役人出飯米 但、罪人居村
一右同断 同断他国他郡迄四郎兵衛義尋ニ遣ス革田賃、壱人一日
弐匁五分ツ、
但、居村革田不足ニ付、他村革田雇ひ遣ス賃銭も同
様川西村割
一同断 他国ニ而欠落四郎兵衛召捕候故、同所革田雇ひ番付置
候賃銀、一夜ニ付壱人壱匁ツ、、其外手張臨時雇ひ革
田賃も同断、右之節蠟燭・油代共
一川西村割 同所ニ而肝入革田壱人賄代、一日壱匁五分
一同断 同所ニ而罪人賄代、一賄ニ付五分ツ、
一同断 同所ゟ罪人荷物持帰候駄賃
一同断 同所ニ而酒宿賃、一夜壱匁ツ、
一同断 同断之節薪・油代共、一夜壱匁八分ツ、
但、御領泊りも同断
一同断 追手之革田持参之賃銭通用間欠共
一同断 他国村役人江為申談ト差遣候長百姓并革田賃共、一日
一人ニ付弐匁五分ツ、、尤雪中故雪踏夫賃、一日弐匁
五分ゟ三匁迄、道難所亦者遠近次第
一革田自分払 他国ニ而革田煩薬調代物
是ゟ罪人召捕帰候節入用
一川西村割 御吟味方用手遣夫、壱人ニ付一日壱升ツ、
但、夜中迄も詰候得共増遣ス筈
一支配銀払 警固革田賃、壱日ニ付一日壱升五合ツ、
一郡ト川西村割 罪人番革田右同断、昼夜共ニ

一（郡割）拷問道具代（弐匁 三分 八分）（階子 板 菰）（壱挺 壱枚 八枚）
一（郡ト川西村割）罪人幷革田宿賃、敷莚・釘・油代、薪代、右品々取寄
候夫賃共
一（川西村割）御吟味懸り合之者他郡ニ罷在候ニ付、しらへ口上書取
りニ遣候夫賃共、一日弐升ツヽ
一（郡割）罪人入牢之節革田賃米
但、小頭革田壱人壱升五合、下革田壱人ニ付壱升、
人数惣而法則之通
一（川西村割）右之節付添長百姓出飯米定之通
一（郡割）牢番入用莚幷賄用道具代
一罪人牢扶持薪代共兼而法則之通、幷番革田一人ニ付一
昼夜弐升ツヽ、灯油一夜五勺ツヽ、在牢中時々見廻り
之小頭革田、一日壱升ツヽ
一（支配銀払）場所仕構革田、小頭・下革田共ニ一日壱人ニ付米弐升
刑罪ニ付諸入用
ツヽ
一（同断）罪人郡元牢屋ゟ川西村迄引渡候革田弐拾人、壱人ニ付
弐升ツヽ

一（同断）罪人乗せ候馬幷鞍・小道具代共ニ銀四拾三匁、幷首打
刀研賃拾五匁、但、太刀取革田へ遣銀其外綱下代ハ聞
届不相成事
一（同断）獄門木・高札板代幷鉄槌釘代、大工作料共
一（郡割）刑罪場仮小屋幷やらい竹、獄門番小屋用竹・莚・木・
縄代、其外鍬水かけ柄杓共
一（同断）倹使用腰掛三ツ調候板代、作料とも
一（郡ト川西村割）当時出役人昼食壱人三合ツヽ
但（他村役人之分郡割 罪人居村役人之分村割）
一（村割）当日牢屋迄罷出候川西村長百姓壱人出飯米弐升
一（支配銀払）三日之内獄門番革田壱人ニ付一昼夜賃米壱升五合ツヽ
一（郡村割）右之節手遣夫一人ニ付壱升五合ツヽ
一（同断）罪人家内之者へ番付候入用幷家内之者へ給物遣候入用
共
但（男壱人一日米四合ツヽ、女壱人一日米三合ツヽ、煩候節薬代・医師送り迎人夫幷番人薪代共村割、番人百姓・革田共米壱升五合ツヽ、壱人一昼夜ニ而、但、半方ツヽ郡割）
一（川西村割）家内之者御追放之節歩行得不仕候ニ付按駄調候入用
一（郡割）御銀出ニ当候品々代利足

御調郡（御蔵入吉和村 給知方木原村）往来病人送り之儀ニ付双方懸り合有之、吟味屋敷へ安永弐午二月呼出シ吟味諸入用

支配銀払
一御吟味屋敷ニ而湯沸用炭薪代、木原村ゟ半方出候残り

銀

同断
一同所ニ而入用墨・紙・筆代

吉和村割
一吉和村呼出之者下宿ニ付灯油代、一夜八勺ツ、

同断
一同村下走之者呼出候処、貧窮ニ付一賄ニ付米弐合、木銭弐分

御蔵入村々割
一五厘ツ、遣ス

同人自分払
一広島ゟ吉和村江飛脚賃

吉和村庄屋妻呼出候処煩居申、四ツ手駕籠ニ而罷出候夫賃

吉和村割
一右用向手遣夫、一昼夜壱人ニ付弐匁宛

但、此もの不埒之取計兼而有之候

御蔵入村々割
一吉和村庄屋妻幷下走文吉一賄米弐合・木銭弐分五リンツ、

同断
一広島ゟ他村江飛脚賃、但、木原村ゟ半方出候残り

支配銀払
一御吟味場ニ而警固革田賃、壱人ニ付一日分米弐升ツ、

但、木原村ゟ半方出候残り

自分払
一吉和村庄屋懸り合ニ付呼出候ニ付出飯米、村割ニ不相成事

村割ト自分払
一庄屋妻・下走文吉村方江被差戻候節船賃、水主賃共

但、半分宛（村割与自分払ニ）成ル

米

吉和村割
一御吟味用向ニ付吉和村与頭・長百姓・筆者罷出候出飯

郡割
一御銀出ニ当り候品々代利足

御調郡綾目村御年貢米不埒有之、懸合之者共後地村勤番所幷御吟味屋敷へ呼出吟味諸入用

村割
一勤番所ゟ御吟味用向ニ付郡内所々江飛脚賃、壱人ニ付弐匁五分ツ、

但、夜通しも同断

支配銀払
一勤番所ニ而御吟味中湯沸用薪代、一日三分ゟ三分五リン迄時之相場次第

同断
一同断灯油代 但、一夜七勺ツ、

同断
一同断筆・墨・紙代

村割
一御吟味屋敷ニ而揚屋之者賄代
但、一賄ニ付米弐合、木銭弐分五リンツヽ、幷罷出
候節尾道ゟ船中賄同断

支配銀払
一同所ニ而揚屋間ヲ隔入置候故、一ヶ所ニ而灯油一夜ニ
付壱分弐リンツヽ

村割
一同断賄代用手遣宿賃・飯料共、一日壱人ニ付壱匁五分
ツヽ

支配銀払
一同所ニ而警固革田小頭弐人、下革田弐人賃米、小頭壱
人ニ付弐升五合、下革田壱人ニ付弐升宛

御蔵入村々割
一同所ゟ村方江飛脚賃、一日壱人ニ付弐匁ツヽ

郡村割
一懸合之者呼出候ニ付番人広島ニ而雇ひ、壱人一日弐匁
ツヽ

村割
一懸合之者下宿ニ付賄米、一日壱人米六合、木銭弐分五
厘ツヽ
但、数日掛り度々行替、右往来船中日数共同断

郡割
一揚屋番罷出候百姓、一日壱人ニ付賃米昼夜ニ而弐匁ツ
ヽ

郡割
一御咎メ之者御咎味屋敷ニ而村役人江御預ケニ相成、村
方江連レ帰り候節乗船迄番日雇ひ賃、壱人ニ付壱匁五
分ツヽ

村割
一右乗セ戻候小端帆船一艘賃、一日壱匁五分、水主一人
ニ付一日壱匁八分ツヽ

同断
一右之節船中手遣番共幷船元ゟ村方迄罷帰候節手錠者ゆ
へ付人用共、壱人ニ付一日壱匁五分ツヽ

郡村割
一同断夜通し居村江帰候故番革田雇ひ賃、小頭壱人弐
升、下革田壱人ニ付壱升ツヽ、幷蠟燭代共

同断
一同断居村ニ而所蔵へ入置候内番革田弐人宛賃米、一昼
夜ニ而壱人ニ付米弐升ツヽ

村割
一同断上ハ番百姓・手遣夫共、壱人ニ付一昼夜ニ而賃米
弐升ツヽ
但、右片付隙取数月懸り候故手遣夫ハ引セ、革田番
計付置、其節も賃米本文之通革田一昼夜ニ而弐升ツ
ヽ
但、三ツ割ニシテ弐ツ分郡割、壱ツ分村割

支配銀払
一御咎メ者御追放之節村送り革田賃米定之通

郡割
一入牢之時革田賃米定之通リ

村割
一御追放者夜ニ入候ニ付蠟燭代

同断
一出牢者歩行得不仕安駄入用

一（支配銀払）牢番革田賃、同所灯油代、牢舎者扶持・薪代共、兼而
定者法則之通り
一（郡割）御銀出ニ当り候品々代利足

御調郡三郎丸村百姓助左衛門・公領上下村銀口入仕、
就御吟味御吟味屋敷江安永弐巳閏三月ゟ呼出し、翌
午正月迄揚屋ニ被留置候、右ニ付諸入用出方分り

一（村割）助左衛門広島江呼出候節煩罷在、居村ゟ尾道船場迄安
駄ニ乗セ申スニ付、右舁夫并松明持夫共五人
一（同断）助左衛門居村ゟ尾道迄参候内番革田一日ニ弐人宛二日
分賃米、壱人ニ付壱升宛
一（同断）右之節助左衛門賄米一日ニ六合、木銭弐分五リン宛
一（同断）尾道ニ而船借賃・水主賃并船賄共
但（三反帆一日ニ九分ツ、、水主賃一日一人壱匁八分、水主弐人、助左衛門船中賄代一日ニ壱匁宛）
一（同断）助左衛門揚屋ニ而賄一日ニ米六合、木銭弐分五厘ツ、
一（郡村割）同断下番百姓、一昼夜壱人ニ付銀弐匁ツ、
但、数月懸り追々入替候故往来日数共
一（支配銀払）揚屋ニ而灯油代、一夜壱分弐厘ツ、

一（村割）村方ニ而助左衛門妻子貧窮ニ付食物無御座、壱人ニ付
米三合ツ、遣ス
一（同断）助左衛門被差免村方江罷帰候節痛所歩行得不仕、便船
ニ而帰候故乗合船賃尾道迄弐匁五分、船中賄一昼夜ニ
而壱匁宛
一（郡割）御銀出ニ相当り候品々代利足

以上

※⑥

公領ゟ郡方江借銀停止被仰出候事

一公領上下・大森辺之者共ゟ御領村々致借銀候儀者兼而
御法度之処、近来流合ニ相成、猥ニ借用之村々も有之、
既ニ御調郡重井村百姓徳右衛門上下銀借用返済不埒之
由、同所御手代ゟ申来、段々御吟味之上謀書謀判ヲ以
借請候段及白状ニ候ニ付、右徳右衛門儀者獄門、右借
銀口入人尾道町武助・喜兵衛儀者打首申付候、如斯罪
科有之儀者於上ニも甚歎ケ敷儀ニ付、右制禁筋之儀猶
又左之通申付候
一当三月朔日ゟ公領借銀之儀相改、稠敷令停止候、若三

月朔日ゟ已後借用致候者有之、其儀相顕候へ者謀書謀判之分ハ勿論、右徳右衛門同罪ニ可申付候、仮判借ニ而も急度申付方有之候事

但、若借主出奔致候得者、其村々夫役ヲ以尋出セ可申候、仮令公料抔ニ致住居候とても、公儀江御届ケ之上引戻し本文之通可申付候

一是迄心得違公料銀借受居申候ものハ、当午年中いか様共銀主へ断申達払切可申候、左候ハヽ心得違之罪者差免可申候

但、此儀も捨置未年ニ至相顕候得者、前条之通急度可申付方有之候事

此已後公領銀借用致候振り合相見へ候ハヽ、脇ゟ随分与心ヲ付、慥成儀承出候ハヽ、何者ニ而も早速御代官所江訴出可申候、左候ハヽ、弾べ之上壱番ニ申出候者ニ者褒美銀可遣候事

一公領銀者利高ニ借附、若滞候節ハ公儀沙汰も相成候儀故、畢竟損失ニ不相成見込ヲ以当御領之者共公料江銀子差廻貸付候者も有之様相聞候間、若左様之者有之候ハヽ、借主共ゟも随分承合、其段慥相知レ候ハヽ、御代官所江可申出候、しらべ之上其貸銀主御領分之者ニ相極り候得者、不届之仕形ヲ以貸付置候事故、為過料銀主ハ貸損ニ申付、借主ハ借徳ニ可申付候事

午十二月（私記、安永三午年二月、郡御奉行中ゟ諸郡御代官中へ順達ニ而達有之、諸郡へ被触置候事、郡廻り御役方も為心得連名ニ而此趣申来ル）

※⑦

安永三午極月、郡御奉行中ゟ勘定奉行中へ被相渡、郡廻御役江廻達候様ニ与申聞候旨ニ而、御勘定奉行中ゟ同廿六日被差越候御書附写シ、左之通り

別紙之通従公儀被仰出候間、此段可被相触候、已上

十二月

一近年浪人抔与申、村々百姓家へ参、合力ヲ乞、少分之合力銭なと遣候へハ悪口致シ、或者一宿ヲ乞泊り、病気抔与申四五日可致逗留之内ニ者、品ニ寄り難題ヲ申懸、合力銭余慶ねたり取候段粗相聞へ不届之至ニ候、以来右体之者罷越候ハヽ、其辺之穢多非人ニ為召捕、

関八州・伊豆国・甲斐之国者公事方御勘定奉行江召連レ出、其余之国々ハ御領ハ御代官、私領者領主・地頭江召連レ可出候、勿論いか様ニ申候共決而不致止宿、苗字帯刀致候者ハ一銭之合力も致間敷候
一旅僧・修験・瞽女・座頭之類、物貰ひ之者共志し次第報謝ヲ受、相対ニ而宿ヲ借シ可申処、近年押而宿ヲ取、或者ねたりヶ間敷儀ヲ申懸候者共有之段粗相聞候、是以不届之至ニ候、已来右体無法之者者前之ヶ条同様為召捕召連レ可出候、若於相背、其村方可為越度者也
右之趣御領・私領・寺社領等不洩様相触、村々ニ而写シ取らせ、村々入口高札場或者村役人之宅前抔江可張置事
　十月
右之通可相触候

※⑧ 前段此印有同所
課役考　但、郡夫之発ノ知行役目之事
一故老之謂ニ、昔ハ戦国之時諸士郷邑ニ分レ、処シテ共ニ争強、豪傑所々ニ蜂起シ、所領一郷一荘、大ナル者ハ一郡ニ至ル、其主ハ各以所好頼険阻ヲ造営シ居住ス（今村々ニ古城跡ト称ス是也）、其主課人民ヲ経治ス、令下テヨリ荷竹木縄石里民子ノ如ニ来テ謁、其力勿悉スルコト不日ニ成之、成テ後定牧数入テ掃除セシ▲（今民間ノ官役ニ当ル者、郡夫トイフナリ）、於此課役之多キ時キハ薄税シ、少キ時ハ厚税ス、当ニ是時税斂多寡与民、偕ニ決之、至治世可課役之科、収納之法定ル、以故来之地百石以上有役下之課モノナラン

※⑨
百姓跡式相続幷家督分ケ等之儀郡中触形之事
　但、安永六酉四月相極ル
　態与触遣ス　私記、此後安永六酉四月、御代官中ゟ諸郡へ被触置候事
一百姓共跡式相続幷家督分ケ等之儀、親或者其外ニ而も死後ニ至り親類共儀及争論候儀間々有之候、畢竟其者之仕向置流合故者、家督分ケ等仕度者者存生之内其訳書置、調封ニ而村役人共内へ差出置可申候、尤村役人共一通り披見之上之訳合等も得斗相分り候書附ニ候ハ

、、申合聞届封印致し、年寄・割庄屋共方ニ預置、死後親族共呼集候上致披封、書置候趣申聞、聊争論無之様ニ可仕事

付り、兼而差出置候書置之内、跡式相続幷家督分ケ遣候遺書人名之内、死失等も有之候ハヽ、相改申出置候様兼而示置、年々書置改サセ候而成り共、死後聊無之様可被取計候

一右之趣末々小百姓浮過等迄不洩呑込候様申聞、請書印形取置可申候、尤常々役人共不絶心ヲ付可申者也

※⑩

社倉法之儀猶又被仰出候事

但、安永八亥年四月十二日、諸御代官中へ郡御奉行中ゟ左之通書付ニ而被相達、郡廻中へも為心得写し来ル

一社倉法之儀者兼而上ニ茂御給用被遊、既ニ安芸・沼田・三谿三郡ニ被相行、麦穀余程致増長候儀者村々役人共何茂取計筋寄特成ル儀ニ思召候、素ゟ変年等之節者其御仕向被成遣候義ハ勿論之儀ニ候へ共、村々として右之通社倉麦及増長ニ候儀ハ、全悪難ヲ逃一助ニも相成、甚以取計筋寄特千万ニ思召候ニ付、諸郡一統ニ被相行候様ニ近年厚被仰出候得共、今以右之余郡発起之村無之、何卒郡々少々宛ニ而茂被相行候様致度、此儀者全名右厚キ御仁恵之御趣意被相守、自ら社倉被相行候心持ニ而押々及され候ハヽ、其已下ハ自然与響合、発起村々茂可有之歟、此仕形之儀者近年帖面等各江茂相廻し、御承知之儀ニも可有之候へ共、兎角不被相行候故、猶又此度及御熟談候、先達而被仰出候御趣意之通被相行候様ニ御手付幷村役人等へ大意ヲ得斗被及示談、何卒諸郡一同ニ少々宛ニ而も被相行候様被申談方有之間敷哉、右三郡之外十三郡何も被相行試シニ至候ハヽ、最初ゟ多分之儀ハ被行間敷候ニ付、先最初ハ一郡ニ一弐ケ村程ツヽニ而も発起次第ニ被相行可然候ハヽ、矢野村社人将監ゟ神穀少々相渡し遣し可申候、尤社倉仕形之儀者右帖面ニも凡在之候得共、是亦此余取計方之儀者矢野村八幡社ニ相納り、至而宜筋者既ニ三郡ニ被相行候所ニ而相見へ候得者、此上社倉得失之議論有之候而者、又異論相起り区々ニ相成可申候ニ付、

右三郡ニ被相行候処ヲ目当テニ致シ、此三郡之大旨ヲ同郡御同役中ゟ得斗被承合、其趣ニ応し各考弁ヲ以夫々御支配郡一統ニ被相行候様工夫ヲ付被申出候様ニ致度、尚其趣ニ寄り申談方も可有之候間、何分御主意之通追々相弘り候様ニ厚可被申談事

但、右三郡村々役人共并賀茂郡別府村・三上郡高門村村役人共も是迄社倉法取計、追々石数致増長寄特之儀ニ付、此度右村々役人共も誉メ遣シ、褒美等ニ而も遣し候ハヽ、弥相励ミ可申候、左候ハヽ、外村江も響合、自ラ相弘り候様ニも可相成候間、右郡々村役人共取計筋厚薄等早々御しらへ、夫々人名書付御差出可有之候事、以上

四月

（付紙ニ而）本文之通社倉法之儀ハ全変年之手当、村民安心第一之備ニ有之候得共、上ニ御力被入候処、何れも難有奉存、何卒諸郡一統ニ被相行候様ニ厚各御考合之儀専要之儀与存候、尤不申達候通全体之処ニ而ハ飢饉等ニ而村民飢渇ニも及候程之大難ヲ防キ、御手当社倉之根元与相見ヘ候得者、差当村民之難渋ヲ捨置、何分ニも社倉法之成就迄目ヲ付取計候而者、村民之思付気請も不宜儀与相見候得共、差向難渋凌兼候者ヘ者随分勝手次第救ひ貸付等之儀も取計、社倉成就ニ至候迄ハ相応ニ元利取立等之儀も厚被申談、万端押込村孫六取計ひ候趣ヲ以被相行候ハヽ、差向村民之難渋筋も無之、社倉追々諸郡成就之場合ニも至り可申哉与存候、孫六申出候帖面之内ニも在之候通、救ひ計ニ而者捨り多ク、権ヲ以て取計候時者仁愛ヲ失ひ候道理与在之儀至極之存寄与相見候ヘハ、兎角孫六差出候帖面社倉之根元与相見ヘ候ヘハ、此処厚御勘弁有之、下方迄も右等之処厚被申合候儀肝要之儀与存候事

吹寄青枯集　　広島県立文書館資料集　1

平成3年3月30日　発行

発　行　広　島　県　立　文　書　館
〒730　広島市中区千田町三丁目7－47
TEL（082）245－8444

印　刷　柳　盛　社　印　刷　所
〒730　広島市中区東白島町8－23
TEL（082）221－2148